※ポリシーとの関連性　経済発展と環境の視点からアジア経済と環境問題を理解する。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	アジア経済と環境	後期	月３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉　錫畢	２年	メール（sukpil@okiu.ac.jP）で簡略に書いて、送ること。	

学びの準備

ねらい

急速なアジアの経済成長は、環境問題も急速に現れている。しかし、環境問題は一国だけの問題で留まることではない。この講義では、経済が急成長している東アジア、特に日本、韓国、台湾、中国，シンガポール、香港を中心に、経済成長の背景を見た上で、どのような環境問題に直面しているのか。アジアの環境問題を、日本の経験から考えながら、資料やビデオ、写真等を通して考察する。

メッセージ

オンラインやオンデマンドなどの非対面での講義で行う。また、本講義の問題意識は日本の公害経験よりアジア諸国の環境と経済を考えることである。

到達目標

環境及び経済問題に対して日本の経験からアジアを理解する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（特）1週目：アジアの経済成長	世界中のアジアの位置づけを調べる
2	（特）2週目：アジアの環境問題	アジアの環境経済の事例を調べる
3	（特）3週目：中国の社会変化と経済状況	中国について関心ある事情に予習
4	（特）4週目：中国のエネルギー状況	中国について関心ある事情に予習
5	（特）5週目：中国の経済成長と産業公害（大気汚染及び水質汚染）	中国の経済について予習
6	（特）6週目：中国の経済成長と環境問題（環境政策を中心に）	中国の環境問題について調べる
7	（特）7週目：日本の経済成長と環境問題	水俣病について予習
8	（特）8週目：台湾の経済成長と環境問題	中国と台湾の経済と環境問題予習
9	（特）9週目：韓国の経済成長と環境問題1	韓国について関心ある事情を予習
10	（特）10週目：韓国の経済成長と環境問題2	環境の経済につて予習
11	（特）11週目：シンガポールの経済成長と環境問題	シンガポールについて予習
12	（特）12週目：香港の経済成長と環境問題	香港について予習
13	（特）13週目：経済成長におけるアジアの環境問題1	日本の公害からみるアジアを検討1
14	（特）14週目：経済成長におけるアジアの環境問題2	日本の公害からみるアジアを検討2
15	（特）15週目：COP21（パリ協定）とアジアの経済・環境	アジアとパリ協定について予習
16	（特）16週目：総括	総括

テキスト・参考文献・資料など

講義資料を配布する。そして、講義内容と関連する文献をそのつど紹介する。
①井出亜夫編（2004）、『アジアのエネルギー・環境と経済発展』、慶応義塾大学出版社。②『井上 真(編集)，『アジア環境白書』，東洋経済新報社。

学びの手立て

アジアの環境問題に関する本やビデオを通して課題研究を行う。

評価

オンラインやオンデマンドで行うので、授業への出席を重視。また、テーマによって課題を報告してもらう。授業参加度：40%、課題：60%（報告も含めて授業参加を参考にして評価）。

学びの継続

次のステージ・関連科目

地球環境問題をアジアの経験より考える。

※ポリシーとの関連性　実社会において、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献できる人材になるべく、インターンシップで体験的に学ぶ。　[　　／　　]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	インターンシップⅠ	その他	その他	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	学科インターンシップ運営委員	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。

メッセージ

事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える機会にしましょう。

到達目標

①社会人としてのマナーを修得する。
②職業観を養い、自らの適性を見定める。
③組織の構造と機能を理解する。
④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。
⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	第1回オリエンテーション（募集説明会）　※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等）※欠席不可	実習先に関する情報収集
4	事前ガイダンス1　インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
5	事前ガイダンス2　ビジネススキル①	社会人に必要なマナー習得
6	事前ガイダンス3　ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
7	事前ガイダンス4　インターンシップに必要な企業研究	実習先業界の情報収集（新聞等）
8	事前ガイダンス5　インターンシップの目標設定	社会人基礎力ベースの目標設定
9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等）※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学(業種、業界研究)
12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験(接客、事務)
13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ(実習振り返り)
14	事後ガイダンス1　インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
15	事後ガイダンス2　学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り

テキスト・参考文献・資料など

実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て

【応募資格】 ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）　②連続して２週間または３週間のインターンシップを意欲的に行える者　③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】 ①各学科担当教員による面接を受けること　②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可）　③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること）　④報告会を運営・参加すること　⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価

【出席について】出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。【評価方法・割合】①実習先による学生評価調書２０％ ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）６０％ ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度､インターンシップを通して得られたこと等について確認）２０％

学びの継続

次のステージ・関連科目

本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性　実社会において、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献できる人材になるべく、インターンシップで体験的に学ぶ。　[　　／　　]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	インターンシップⅡ	その他	その他	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	学科インターンシップ運営委員	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。
参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。

メッセージ

事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。

到達目標

①社会人としてのマナーを修得する。
②職業観を養い、自らの適性を見定める。
③組織の構造と機能を理解する。
④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。
⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	第1回オリエンテーション（募集説明会）　※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等）※欠席不可	実習先に関する情報収集
4	事前ガイダンス1　インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
5	事前ガイダンス2　ビジネススキル①	社会人に必要なマナー習得
6	事前ガイダンス3　ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
7	事前ガイダンス4　インターンシップに必要な企業研究	実習先業界の情報収集（新聞等）
8	事前ガイダンス5　インターンシップの目標設定	社会人基礎力ベースの目標設定
9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等）※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学(業種、業界研究)
12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験(接客、事務)
13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間）※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ(実習振り返り)
14	事後ガイダンス1　インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
15	事後ガイダンス2　学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り

テキスト・参考文献・資料など

実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て

【応募資格】 ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）　②連続して２週間または３週間のインターンシップを意欲的に行える者　③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】 ①各学科担当教員による面接を受けること　②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可）　③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること）　④報告会を運営・参加すること　⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価

【出席について】出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。　【評価方法・割合】①実習先による学生評価調書２０％ ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）６０％ ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度､インターンシップを通して得られたこと等について確認）２０％

学びの継続

次のステージ・関連科目

本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性　地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すための環境政策への理解を深める環境関連の科目を提供。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 エコビジネス論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水４	2
担当者 島袋伊津子９回、齋藤２回、上江洲薫２回、砂川２回、山川１回	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

環境問題を解決するための、ビジネスによるアプローチに興味・関心を持ち自発的にニュース等をチェックする習慣をつける。

メッセージ

・授業形態は、全回【対面】にて行います。
・6/30-7/28の授業時間で学外でのフィールドワークを3回予定しています。大学バスで一緒に移動・行動します。フィールドワークが遠方になる場合終了時間を1～2時間程延長する可能性があります。
・【実務経験】を活かした授業を展開します。

到達目標

エコビジネスに関するトピックスについて知る。
エコビジネスに関連する用語を理解する。
エコビジネスの最近の動向を知る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス（島袋）4/7	シラバスをよく読む
2	エコビジネスの市場動向①エネルギー、エコプロダクツ・マテリアル(上江洲薫）4/14	授業で配布した資料の復習
3	エコビジネスの市場動向②ソフトサービス系、廃棄物・リサイクル(上江洲薫）4/21	〃
4	地球温暖化問題IPCCレポートを読む(齋藤）4/28	〃
5	一般社団法人沖縄県環境・エネルギー研究開発機構代表理事小山聡宏氏による講演(齋藤）5/12	〃
6	バイオミミクリーについて(砂川）5/19	〃
7	エコビジネスと法規制(砂川）5/26	〃
8	環境調査会社の仕事内容と果たす役割（沖縄県環境科学センター職員（実務家）講演）（山川）6/2	〃
9	環境問題を金融的手法で解決するには？(島袋）6/9	〃
10	試験（島袋）6/16	これまでの授業の復習
11	フィールドワーク（島袋）6/30	現地でとったメモをまとめる
12	フィールドワーク（島袋）7/7	〃
13	フィールドワーク（島袋）7/14	〃
14	フィールドワーク（島袋）7/21	〃
15	フィールドワーク（島袋）7/28	〃
16	最終レポート提出（島袋）8/4　※講義はありません。	フィールドワークの復習、まとめ

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。
参考文献・資料は適宜指導する。

学びの手立て

無断欠席はしないこと。やむを得ず欠席する場合は必ず事前にメールで連絡すること。特にフィールドワークを事前連絡なしで欠席した場合は、大幅減点とする。

評価

平常点（４０％）＋試験（２０％）＋フィールドワークに関するレポート（４０％）

学びの継続

次のステージ・関連科目

「環境経営」「環境会計」　「環境経済学Ⅰ・Ⅱ」

※ポリシーとの関連性　経済学部地域環境政策課の学生として「エネルギーと社会」の関わりについて、国内外、県内の現状と課題を理解する。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 エネルギーと社会	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金１	2
担当者 -玉栄　章宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	電話:090-8412-1064	

学びの準備

ねらい

エネルギーに関する国内外の情況を把握すると共に、将来ますます深刻化してゆく地球環境の変化とエネルギーについて、多角度からその関連性を解説する。化石燃料から非化石燃料へ、さらには化石燃料の高度利用やクリーン化技術など、真に持続可能な社会を実現するための基本的な考え方を身につけ、国内のみならず、国際的にも対応できる種々の知識を習得することを目標とする。

メッセージ

国内外、県内のエネルギーに関する新聞、テレビ、ネット情報などを大いに参考にしてください。

到達目標

現代社会においてエネルギー政策は大変重要である。学んだことを学内で発表したり、新聞投稿などが出来ることを期待する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義説明、講師自己紹介	新聞資料に対しメールで質問下さい
2	世界のエネルギー需要とエネルギー資源	同上
3	太陽光発電①	同上
4	太陽光発電②	同上
5	風力発電①	同上
6	風力発電②	同上
7	水力・地熱発電	同上
8	バイオマスエネルギー	同上
9	燃料電池システム（家庭用、自動車）	同上
10	スマートハウス	同上
11	ヒートポンプとその応用	同上
12	エンジン発電システム・コージェネレーション	同上
13	スマートグリッド	同上
14	カーボン・オフセット	同上
15	将来の低炭素型社会とエネルギー	同上
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。ＤＶＤや各種配布資料など（ファイルに綴じ、毎回持参する）。

学びの手立て

授業でわからないことがあれば、積極的に質問してください。また、授業中はスマホで検索して学びに活かすことは大いに勧めます。但し、試験中はスマホの使用は禁止です。

評価

・期末試験によりに100%評価する。再試験は実施しない。
・欠席日から2週間以上過ぎた欠席届は受け取らないので注意する。
　以下の場合、単位は与えない　・3分の1以上の欠席（欠席理由は考慮しない）。
・出席で代筆が明らかとなった場合、期末試験を受けなかった場合、試験で不正をした場合。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：交通と環境、環境科学Ⅰ・Ⅱ、エコビジネス論、都市環境論
授業で学んだことを卒業論文に取り上げる場合や、受講後にもっと勉強したいこと等があれば、遠慮なく連絡ください。電話:090-8412-1064、e-mail:tamae-ak@amber.plala.or.jpです。

※ポリシーとの関連性　地域経済・沖縄経済に関する基本情報の収集、分析、解析方法を学びます。フィールドワークなどの調査手法を実践で学びます。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅰ	前期	月４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊　博盛	３年	研究室　５号館４０５研究室 hmaedomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。３K経済に加え、新１０K経済の解析を中心に調査分析します。沖縄県が発行する『経済情勢（令和元年度版）』東京商工リサーチ『沖縄企業ランキング』など基本情報を踏まえ、諸課題について事前に整理しておくと、講義・学習の理解が一層深まります。

メッセージ

新型コロナ感染状況をみながら対面から遠隔講義への移行もあります。感染防止対策を徹底しましょう。演習では経済理論の基本書を講読し、さらに沖縄経済に関する基本文献、論文、資料、データを収集し調査研究に必要な基礎研究力を習得していきましょう。

到達目標

１：経済の基本理論を理解し、説明できる基礎学力を習得します。
２：基本理論をもとに、経済データの分析・解析手法を習得します。
３：経済の基本課題の抽出方法を習得します。
４：個別具体的な経済課題を抽出し、解決法を調査・研究できる力を習得します。
５：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ゼミ運営基本方針の説明（ガイタンス）	沖縄経済の基本書通読
2	演習基本調査研究計画の策定（遠隔講義Teams利用によるゼミ運営の周知）	沖縄企業・基地に関する新聞調査
3	沖縄の企業上位１００社ランキングの分析①　米軍基地調査①　沖縄の米軍基地	沖縄企業・基地に関する新聞調査
4	沖縄の企業上位１００社ランキングの分析②　米軍基地調査②　沖縄の米軍基地	沖縄企業・基地に関する新聞調査
5	沖縄の企業上位１００社ランキングの分析③　米軍基地調査③「キャンプキンザー」	沖縄企業・基地に関する新聞調査
6	沖縄の企業上位１００社ランキングの分析④　米軍基地調査④「キャンプキンザー」	フィールドワーク①調査項目整理
7	沖縄の企業上位１００社ランキングの分析⑤　米軍基地調査⑤「「キャンプキンザー」	フィールドワーク②追加調査項目
8	沖縄の企業上位１００社ランキングの分析⑥　米軍基地調査⑥「普天間基地」	インタビュー項目調整
9	企業トップインタビューによる企業分析①　米軍基地調査⑦「普天間基地」	インタビュー項目まとめ
10	企業トップインタビューによる企業分析②　米軍基地調査⑧「普天間基地」	データ分析と報告書作成①
11	企業トップインタビューによる企業分析③　米軍基地調査⑨「普天間基地」	データ分析と報告書作成②
12	企業トップインタビューによる企業分析④　米軍基地調査⑩「嘉手納基地」	図表作成修正
13	企業トップインタビューによる企業分析⑤　米軍基地調査⑪「嘉手納基地」	報告書整理・修正
14	企業トップインタビューによる企業分析⑥　米軍基地調査⑫「嘉手納基地」	報告書総括・印刷
15	前期演習まとめ	PP作成
16	後期演習計画	後期研究計画策定

テキスト・参考文献・資料など

琉球新報、沖縄タイムス、朝日新聞、日本経済新聞、松原隆一郎著『経済学の名著３０』（ちくま新書）前泊博盛著『もっと知りたい！本当の沖縄』（岩波ブックレット）〃『沖縄と米軍基地』（角川新書）資料＝沖縄県企画部『経済情勢』（各年度版）「沖縄の米軍基地」（沖縄県、平成30年版）

学びの手立て

図書館、インターネット、政府・沖縄県など公的資料の収集、分析のための手法を先行研究から学びます。

評価

無断欠席２回で不可。ゼミへの積極的な参加、資料収集、調査分析、研究成果発表の内容を総合的に評価します。評価は平常点（リアクションペーパー）40%、調査リポート発表４０%、期末リポート20%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

調査研究テーマの発見、データの収集方法、調査分析の手法、発表・プレゼンテーションの技術を高め、個別テーマの絞り込みを行い、演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳで強化。卒論テーマを絞り込みます。沖縄経済論Ⅱ、島嶼経済論Ⅱ

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、実体験できる科目を提供。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅰ	前期	水３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	伊藤　拓馬	３年	授業終了後の教室で受け付ける	

学びの準備

ねらい

学生と教員とのコミュニケーションを深め、大学生としての必須となるスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を身に付ける。

メッセージ

演習Ⅰでは、グループに分かれ、課題に取り組む。フィールドワーク、データ処理、レポート作成までを実践する。グループワークのため、休まないようにして欲しい。

到達目標

グループに分かれて自然科学に関するテーマに取り組み、取得したデータをもとにレポートをまとめ、パワーポイントなどを活用し、第三者に分かりやすく伝えることができる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	配布資料の復習
2	課題設定と班分け	配布資料の復習
3	自然科学のレポートの作法	配布資料の復習
4	調査計画の立案	配布資料の復習
5	グループに分かれて調査に取り組む	データの記録・整理
6	グループに分かれて調査に取り組む	データの記録・整理
7	グループに分かれて調査に取り組む	データの記録・整理
8	グループに分かれて調査に取り組む	データの記録・整理
9	進捗報告	配布資料の復習
10	実験とデータ整理	データの解析
11	実験とデータ整理	データの解析
12	実験とデータ整理	データの解析
13	進捗報告	配布資料の復習
14	演習Ⅰで取り組んだ内容のレポート作成	レポート、レジュメの作成
15	演習Ⅰで取り組んだ内容のレポート作成	レポート、レジュメの作成
16	プレゼンテーション	成果発表

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。配布試料はファイルに綴じて、毎回持参すること。

学びの手立て

毎回出席すること。やむを得ず欠席する場合には、必ず事前連絡し、配布資料を研究室まで取りに来ること。2/3以上の出席が無いと不可になる。

評価

課題への取り組み（50%）、レポート、成果発表（50%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：演習Ⅱ

※ポリシーとの関連性　地域経済の抱える問題に関心を持ち，自分達のできる地域社会への参画を考える．

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅰ	前期	月４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地　朝央	３年	メールで問い合わせてください． t.toguchi@ac.jp	

学びの準備

ねらい

社会に出るための準備を主目的に，輪読から地域経済の抱える問題を解決する知識や各自の問題意識を明確にし，データ分析を通して実問題を考える．

メッセージ

今まで学習した座学を基に実社会の問題を解決する方法を学ぶことで，実社会に役立つ知識を蓄えましょう．
今期は状況に応じて対面またはteamsによるオンデマンド形式で授業を行う。

到達目標

・輪読を通して知識を蓄え，知的好奇心を持つ．
・統計データの分析方法の学習とデータの扱いについて学ぶ．
・分析結果をまとめ，発表を行う．

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	授業計画について説明（対）	授業計画を確認する
2	輪読1（対）	配布資料を参照する
3	輪読2（対）	授業内容を復習する
4	輪読3（対）	授業内容を復習する
5	輪読4（対）	授業内容を復習する
6	輪読5（対）	授業内容を復習する
7	輪読6（対）	授業内容を復習する
8	輪読7（対）	授業内容を復習する
9	輪読8（対）	授業内容を復習する
10	統計データの説明1（対）	配布資料を参照
11	統計データの説明2（対）	授業内容を復習する
12	データ作成の準備1（対）	配布資料を参照
13	統計データ作成1（対）	調査手順を確認する
14	統計データ作成2（対）	調査手順を確認する
15	統計データの考察1（対）	調査結果を確認する
16	統計データの報告1（対）	調査内容を確認する

テキスト・参考文献・資料など

・適時，資料を用意して配布します．

学びの手立て

・授業中に輪読する本について図書館を利用することが望ましい．

評価

・授業参加度（3割）とレポート提出（3割），発表内容（3割），調査参加（1割）で評価を行う．

学びの継続

次のステージ・関連科目

・「地域経済学Ⅰ」や「地域経済学Ⅱ」の知識を統計データを通して実証し，より専門的な分野を学習する．

※ポリシーとの関連性　自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得させるための専門科目の提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水２	2
担当者 小川　護	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

(1)経済地理学の調査・研究で必要な地域調査の考え方と手法の把握。(2)調査によって得られたデータを用いて基礎的な地域分析手法を用いて空間的な特性の一端を明らかにする。(3)夏休みを利用して、沖縄本島内の特定地域を選定して地域農業と環境問題をテーマとする地域調査を実施する予定である。

メッセージ

演習ⅠはGISを含めた専門的調査方法、分析を中心とする積み上げ型専門科目です。休まないようにしてください。

到達目標

地域に関する諸課題解決のための調査、分析を行うスキルを身につける。それらを基礎として、卒論執筆のための基礎づくりを行う。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	経済地理学の地域調査の目的と役割	配布プリント・テキストの確認
2	調査の種類について	配布プリント・テキストの確認
3	データの種類と資料の活用方法	配布プリント・テキストの確認
4	仮説の構築と検証	配布プリント・テキストの確認
5	調査票の設計と調査実施方法	配布プリント・テキストの確認
6	ヒアリング調査について	配布プリント・テキストの確認
7	調査データの集計方法の設計と実際①	配布プリント・テキストの確認
8	調査データの集計方法の設計と実際②	配布プリント・テキストの確認
9	基本統計量の説明と算出①	配布プリント・テキストの確認
10	基本統計量の説明と算出②	配布プリント・テキストの確認
11	夏休みの地域調査準備①	調査資料の準備
12	夏休みの地域調査準備②	調査資料の準備
13	夏休みの地域調査準備③	調査資料の準備
14	夏休みにおける地域調査	調査資料の整理と分析
15	夏休みにおける地域調査	調査資料の整理と分析
16	まとめ	報告会にむけての資料作成

テキスト・参考文献・資料など

野間晴雄他「ジオ・パルNEO ―地理学・地域調査便利帖―」第2版、2017年、海青社、定価2625円

学びの手立て

出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習Ⅰでの発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受ける事。

評価

演習Ⅰでの発表・発言などの平常点(50点)、課題提出等(50点)で評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習Ⅱ

※ポリシーとの関連性　離島地域・経済と環境等を主なテーマとし問題意識を持つようにする。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月４	2
担当者 呉　錫畢	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室5508、メールでのアポを取ってくること。	

学びの準備

ねらい
企画能力と討論の基本を身に付ける。

メッセージ
悩む力を鍛える。

到達目標
地域の経済・社会・環境問題で自分と結びつけ、自分の意思を相手にきちんと伝えて討論ができるようにし、問題意識を持つ。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	1週目：ゼミと学問	「知の技法」を配る
2	2週目：ゼミの進め方	「知の技法」を読む
3	3週目：口頭発表の作法と技法	600字で自己紹介文を作成
4	4週目：レジュメの作り方	レジュメの事例を読んでくる
5	5週目：「15の春」の映画鑑賞	「15の春」の本を読む
6	6週目：調査及びボランティア対象地域を選定	「15の春」の本を読む
7	7週目：選定地域について勉強会	選定された地域の情報蒐集
8	8週目：グループ別企画案検討	先方との連絡し情報蒐集
9	9週目：グループ別企画案発表及び討論1	先方との連絡し情報蒐集
10	10週目：グループ別企画案発表及び討論2	先方との連絡し情報蒐集
11	11週目：グループ別企画案発表及び討論3	先方との連絡し情報蒐集
12	12週目：グループ別企画案発表及び討論4	先方との連絡し情報蒐集
13	13週目：グループ別企画案発表及び討論5	先方との連絡し情報蒐集
14	14週目：選定された離島のボランティア活動確認1	企画案の作成をグループで確認
15	15週目：選定された離島のボランティア活動確認2	企画案の作成をグループで確認
16	16週目：総括	役員と各班長と最終案をチェック

テキスト・参考文献・資料など

小林・船曳編（1994）『知の技法』、東京大学出版会。
沖縄タイムス南部総局（2013）『十五の春』、沖縄タイムス社。

学びの手立て

議論が成り立つようにする。

評価

授業参加度50％、積極性：30％、討論精度20％

学びの継続

次のステージ・関連科目

企画の点検とディベート準備・演習Ⅱ

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できないITを活用した科目、演習等の実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
	科目名 演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	水２	2
	担当者 根路銘　もえ子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		３年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本演習では、沖縄の主力産業である観光産業の現状を把握し、今後の発展について議論する。また、観光情報産業において活用されている地理情報システム（GIS）の基本について学習し、GISを利用した演習も行う。これらを通して、観光産業と情報産業の融合について考える。

メッセージ

ゼミでは調査・まとめ・報告・ディスカッションが重要です。自ら積極的に動き、ゼミ内でも活発に交流して下さい。ゼミでわからないことがあれば気軽に相談して下さい。

到達目標

・文書作成およびデータ分析の基本を修得する。
・GISに関する基礎知識を身につける。
・沖縄観光の問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

学習形態としては、沖縄の観光をテーマとするインターネットおよび現地調査を行い、情報の収集、収集データの分析、GIS演習、文献の講読を行う。
また、調査結果、分析結果、GIS演習内容、輪読それぞれにおいて、発表報告会を行う。

（1）観光テーマに関する調査（第1回～5回）
グループ単位でテーマに関する調査および発表

（2）データ収集・分析手法の学習（第6回～10回）
様々なデータに関して、ExcelやRESAS等を用いて分析する。

（3）GIS学習（第11回～15回）
GISの基本的用語や動向を学習する。

テキスト・参考文献・資料など

テキストは講義時に指定する。
参考文献は講義時に紹介する。

学びの手立て

履修の心構え
・ゼミへしっかり出席することで、GISへの理解が深まり、また沖縄観光の課題について明確にすることが可能になります。
学びを深めるために
・新聞記事を読むこと、ゼミ生同士のディスカッションが学びを深める助けになります。

評価

平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）50%、各課題の最終発表50%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（1）関連科目：「観光情報論」は観光情報について学習できます。「地理情報システム論I・II」はGISについて学習できます。
（2）次のステージ：前期「演習I」で学んだことを踏まえて、後期「演習II」へ活かして下さい。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、また実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水２	2
担当者 島袋　伊津子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	授業の前後に問い合わせてください。	

学びの準備

ねらい

受講者が主体的に学び、金融・経済に関して自らの意見を持ち、卒業論文のテーマ、方向性を設定することをねらいとする。

メッセージ

ゼミは学生が作りあげるものだと思います。主体的に、積極的に取り組んで下さい。【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標

金融・経済に関してテーマを設定し、調査し、論文を作成できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

第１回　ガイダンス
第２回～第６回　ＦＰ３級程度の金融知識を学ぶ。（実務家教員による指導）
第７回　各人で興味のあるテーマについて報告する。
第８回～第９回　グループで論文テーマを設定する。
第１０回～第１４回　設定したテーマに関する先行研究をまとめる。
第１５回～第１６回　　グループでゼミ論文の前半部分を完成させる。後期の作業の方向性を決定し、計画を立てる。中間報告。

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。参考文献・資料は適宜紹介する。

学びの手立て

・授業の時間外にも必要に応じて指導します。
・やむをえない事情で遅刻・欠席する場合は必ず事前に連絡すること。

評価

・平常点（５０％）＋　報告点（５０％）

学びの継続

次のステージ・関連科目

「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるための実体験できる科目。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月４	2
担当者 友知　政樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

演習ⅠⅡ（３年次ゼミ）の目的は、琉球（沖縄）の自治・自己決定権（琉球独立）や基地問題とその解決に関連付けた社会調査・研究の全段階を経験的に学習することを通して、社会調査の理論と方法を体得することである。

メッセージ

データを通して実社会と対峙し、問題発見および解決能力の涵養を目指して欲しい。
琉球（沖縄）を良くしたいという熱意のある学生を求む！
一緒に目から血が出るほど勉強しましょう！

到達目標

社会調査の理論と方法を教科書や先行研究より事前に学習した上で、地域環境政策の立案・実施・評価するとの想定のもと、それに必要な社会調査を設計・実施し、収集したデータを分析し、報告書にまとめることである。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

4月～5月　社会調査に関する事前学習
6月～7月　政策ならびに調査テーマの設定
8月～9月　調査準備

テキスト・参考文献・資料など

『社会調査へのアプローチ―論理と方法（第2版）』 大谷信介(著),後藤範章(著),永野武(著),木下栄二(著),小松洋(著). ミネルヴァ書房(2005/02).

学びの手立て

毎回出席すること。

評価

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。原則として、遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。評価は、ゼミにおける発言の内容（50%）やレポート（30%）、プレゼンテーションの内容（20%）により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習Ⅱ

※ポリシーとの関連性　沖縄の自然環境の理解を深めるために、座学およびフィールドワークでより深く学ぶためのゼミ科目　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月４	2
担当者 山川（矢敷）　彩子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	メール：a.yamakawaアットokiu.ac.jp 研究室：9号館505室、実験室：3号館505室	

学びの準備

ねらい

演習Iでは、沖縄のサンゴ礁環境や海岸生物についての理解を深めるために、アクティブラーニング、現地調査、専門書の購読等を実施する。

メッセージ

演習Ⅰは事前の予備登録で許可された学生のみ、登録可とする。

到達目標

・サンゴ礁環境やサンゴ礁生物に関する基礎的な知識を身に付ける。
・干潟調査、イノー調査の野外調査の仕方を身につける。
・データ整理、科学レポートの書き方、レジメの書き方、パワーポイントプレゼンテーションを習得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

演習Iは以下の（1）～（4）からなる。

（1）サンゴ礁と海岸生物に関する講義と実習
サンゴ礁とはなにか、海岸にどのような生物が生息しているか調べ生物の役割や体の構造について、座学授業とフィールド実習から学ぶ。実習は3～4人程度のグループで実施する。

（2）レポート作成・発表
(1)の実習後、グループでデータを共有し、処理・分析し考察を加えレポートとしてまとめる。グループ内でディスカッションして作業を進める。

（3）輪読
自然科学に関する専門書を読み込み、レジメを作成し、パワーポイントでプレゼンテーションする。

スケジュール（予定）は以下の通りである。天候等により変更の可能性がある。
第1～3週　　ガイダンス、自己紹介、オリエンテーションなど
第4～8週　　Coral Reef Studiesの実施（アクティブラーニング）
第9～11週　海岸実習およびレポート作成
第12～16週　専門書の輪読

（4）時間外学習
（1）では、毎回簡単な調べ学習の課題を課して理解を促す。（2）のレポート作成、（3）の輪読発表も準備のために、それなりの時間外学習が必要である。

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しない。適宜紹介する。

学びの手立て

山川ゼミは出席重視です。まずは毎回出席し、課題も提出しましょう。

ゼミの内容を効果的に学習するために、山川が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講してください。

提出されたレポート、レジメは添削して返却し完成度を高めます。

評価

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。
評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。
欠席する場合には、事前に必ず連絡をすること。メールによる連絡を受け付ける。
授業参加度30%、課題の取組姿勢、出来60%、プレゼンテーション10%とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、環境資源論（山川ゼミ必修）、産業と環境（山川ゼミ必修）、生物学I・II、自然科学概論I・II、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、プログラミング演習など。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、実体験できる科目を提供。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木３	2
担当者 上江洲　薫	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室５－６３２ kuezu@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

受講生が社会調査のすべての課程を経験することによって、社会調査の理論と方法を体得すること、また、観光地域・商業地域の活性化と産業界の環境保全の取り組み状況について理解を深めることである。

メッセージ

本演習は、取り組み内容が多く、日程的に忙しく、内容的にも厳しいが、丁寧に指導していくため、前向きに取り組んで欲しい。また、目の前にある課題を少しでも解決できる人材になって欲しい。

到達目標

①観光地や観光産業などにおける地域活性化や地域振興、環境保全に関わる現状や課題を明らかにし、提言を述べることができる。
②聞き取り調査や調査票調査等による現地調査により、社会調査の手法を習得し、実践することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

第1回　ガイダンス
第2～3回　沖縄観光の現状と今後　：意見発表内容作成
第4～11回　観光地経営の取り組み内容の紹介・考察　：参考文献①を基に各自担当箇所を発表
第12～13回　調査の企画、仮説の構成　：離島調査の事前調査、調査内容、仮説をグループでまとめる
第14～16回　調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者の選定：グループで質問項目・調査票の作成
調査対象者のアポ取りを行う。

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：日本交通公社編著（2019）『観光地経営の視点と実践』（第２版）丸善出版。
参考文献：電子書籍①大久保あかね(2019)『観光の地域振興　その実践的応用』中央経済社。
電子書籍②林清編(2015)『観光産業論』原書房。

学びの手立て

履修の心構え：本演習は「社会調査士」の資格科目で、観光地の地域活性化、産業界の環境保全の取り組み、地域環境政策などに関心を持ち、フィールドワークに積極的に取り組む必要がある。
学びを深めるために：日常的に観光地域の問題・課題に関心を持ち、新聞や専門図書等を読む。

評価

演習参加度（80%）：演習中の発表・討論などを評価します。
調査報告書の作成準備（20%）：離島等を調査ための調査概要・仮設設定等の設定内容を評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

次のステージ：「演習Ⅱ」で調査報告書の作成、卒論テーマの決定などを念頭に演習を受けて欲しい。
関連科目：受講必修:「観光経済論」「観光情報論」「沖縄の観光」「社会調査論Ⅰ・Ⅱ」は受講して欲しい。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水４	2
担当者 齋藤　星耕	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付ける。	

学びの準備

ねらい

演習では、研究することを学ぶ。先行研究を読み解く力、研究計画を立てる力、研究を遂行する力、データを適切に解釈する力、科学的に議論できる力を養う。同時に、各人が具体的なテーマに協力して取り組みながら、自らの独自の研究課題に到達する。

メッセージ

三年次から始まる演習では研究する力を養います。研究とは、自らが新しい知識を生み出すということです。これは、「まだ分かっていないこと」を探り当てところから始まります。現代でも、人類にはまだ分かっていないことだらけです。チームに分かれて課題に取り組みながら、研究の作法を学んでいきます。

到達目標

文献を読み解き、提示されているデータの意味を理解できる。
文献の内容や、自分自身の研究成果をプレゼンテーション出来る。科学的な内容について討論することが出来る。
適切な研究計画を立てることができる。計画に基づいて研究を実行できる。自ら取得したデータを分析でき、適切な結論を導ける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

原則として対面授業で実施する。
また適宜、対面・オンライン併用とし、リスクのある履修者がオンライン参加を選択できるようにする。

第1回(対面) オリエンテーション
第2～16回(対面) 生命科学、機械学習、再生可能エネルギーの各課題に、
チームに分かれて取り組む

以下の事業所の協力により校外研修を行う場合がある：
校外研修先（生命科学）： 琉球大学分子生命科学研究施設
校外研修先（再エネ）　： 一般社団法人沖縄県環境・エネルギー研究開発機構

「時間外学習の内容」：チームごとに課題に取り組む

ゼミでは、輪番により、文献紹介、研究計画、研究発表を行う。
また、適宜、ゲスト講師を招いて特別講義を行う。

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。

学びの手立て

ゼミでは、文献紹介、チームでの課題の計画・進捗の報告を行う。チームごとの課題を進めるには、ゼミの時間外での取り組みが必要である。各人の積極的な貢献を期待する。やむを得ない欠席や遅刻の場合は、教員に直接、事前に連絡すること。また研修先での活動においても、遅刻・欠席の場合には先方の受け入れ担当者の方に事前に連絡をとり、失礼のないようにすること。

評価

平常点（ゼミへの参加、発表、小レポート）：60%
チームの課題への取り組み及び学期末の発表：40%

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習II，演習III，演習IV

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水２	2
担当者 砂川　かおり	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawaあっとまぁくokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

環境政策論ゼミ入門として、湿地の価値を伝え、ラムサール条約の重要な柱であるCEPA（コミュニケーション・能力養成・教育・参加・普及啓発）活動を担える知識と技術を身に着ける。

メッセージ

・何事にも積極的に取り組んで、楽しいゼミにしていこう。
・フィールドワークが多いです。土曜日や日曜日にもフィールドに出かけることがありますので、受講生は日程調整をしっかり行ってください。

到達目標

環境政策論ゼミ入門として、湿地の価値を理解し、ラムサール条約の３つの重要な要素、保全、ワイズユース、CEPAについて説明できるようになる。
・沖縄市の泡瀬干潟を事例として、渡り鳥の調査・保全活動、報告書作成・発表が出来るようになる。
・インターシップの準備をする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	授業概要説明、成績・時間割確認、メール設定。コアジサシ、インターンシップ等について（4/7）	泡瀬干潟の生き物について調べる
2	泡瀬鳥獣保護区設定案とコアジサシの保全活動　沖縄県へのヒアリング（予定）IS先案報告（4/14）	ヒアリング報告書①作成
3	野鳥観察会シギ・チドリ類（４/21（水）11時半～15時半、比屋根湿地・人工島潮乃森）（予定）	探鳥会報告書②作成
4	干潟観察（4/29（祝日）　13～16時、泡瀬干潟）（予定）・夏季インターンシップの準備をする	干潟観察報告書③作成
5	コアジサシ調査・保全活動・記録（5/12）・夏季インターンシップの準備をする	コアジサシ調査・保全活動・記録④
6	コアジサシ調査・保全活動・記録（5/19）・夏季インターンシップの準備をする	コアジサシ調査・保全活動・記録④
7	コアジサシ調査・保全活動・記録（5/26）・夏季インターンシップの準備をする	コアジサシ調査・保全活動・記録④
8	コアジサシ探鳥会（6/1（火）　9時～13時、人工島潮乃森）（予定）	探鳥会報告書⑤作成
9	コアジサシ調査・保全活動・記録（6/9）・夏季インターンシップの準備をする	コアジサシ調査・保全活動・記録④
10	コアジサシ調査・保全活動・記録（6/16）・夏季インターンシップの準備をする	コアジサシ調査・保全活動・記録④
11	コアジサシ調査・保全活動・記録（6/30）・夏季インターンシップの準備をする	コアジサシ調査・保全活動・記録④
12	コアジサシ調査・保全活動・記録（7/7）・夏季インターンシップの準備をする	コアジサシ調査・保全活動・記録④
13	コアジサシ調査・保全活動・記録（7/14）・夏季インターンシップの準備をする	コアジサシ調査・保全活動・記録④
14	コアジサシ調査・保全活動・記録（7/21）・夏季インターンシップの準備をする	コアジサシ調査・保全活動・記録④
15	コアジサシ調査・保全活動・記録　（7/28）・夏季インターンシップの準備をする	前期報告書作成⑥
16	前期報告書⑥発表（8/4）・夏季インターンシップの準備をする	夏季インターンシップに参加する

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。随時資料を配布する。
参考文献は、適宜紹介する。

学びの手立て

・講義を受講し、課題がある場合は回答し、提出すること。或いは、実践すること。
・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。
・欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。
・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。

評価

2／3以上の出席、授業や活動の実施、課題等の提出を単位取得の最低条件とする。
評価配分：ヒアリング報告書①：5%、探鳥会報告書②：10%、干潟観察報告書③：10%、
コアジサシ調査・保全活動・記録④：45%、探鳥会報告書⑤10%、
前期報告書⑥：10%、インターンシップの準備：10%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「演習II」、「環境教育論」

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水４	2
担当者 齋藤　星耕	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付ける。	

学びの準備

ねらい

演習では、研究することを学ぶ。先行研究を読み解く力、研究計画を立てる力、研究を遂行する力、データを適切に解釈する力、科学的に議論できる力を養う。同時に、各人が具体的なテーマに協力して取り組みながら、自らの独自の研究課題に到達する。

メッセージ

演習I（前期）に引き続き、研究する力を養います。チームに分かれて課題に取り組みながら、研究の作法を学んでいきます。後期の終わりにはこれまでの成果を論文をまとめ、卒業研究への道筋をつけていきます。

到達目標

文献を読み解き、提示されているデータの意味を理解できる。
文献の内容や、自分自身の研究成果をプレゼンテーション出来る。科学的な内容について討論することが出来る。
適切な研究計画を立てることができる。計画に基づいて研究を実行できる。自ら取得したデータを分析でき、適切な結論を導ける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

原則として対面授業で実施する。
但し、必要に応じて、リスクのある履修者がオンライン参加を選択できるように、対面・オンライン併用とすることがある。

第1回(対面)　オリエンテーション
第2～16回(対面)　生命科学、機械学習、再生可能エネルギーの各課題に、
　　チームに分かれて取り組む

以下の事業所の協力により校外研修を行う場合がある：
　　校外研修先（生命科学）：　琉球大学分子生命科学研究施設
　　校外研修先（再エネ）　：　一般社団法人沖縄県環境・エネルギー研究開発機構

「時間外学習の内容」：チームごとに課題に取り組む

ゼミでは、輪番により、文献紹介、研究計画、研究発表を行う。
また、適宜、ゲスト講師を招いて特別講義を行う。

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。

学びの手立て

ゼミでは、文献紹介、チームでの課題の計画・進捗の報告を行う。チームごとの課題を進めるには、ゼミの時間外での取り組みが必要である。各人の積極的な貢献を期待する。やむを得ない欠席や遅刻の場合は、教員に直接、事前に連絡すること。また研修先での活動においても、遅刻・欠席の場合には先方の受け入れ担当者の方に事前に連絡をとり、失礼のないようにすること。

評価

平常点（ゼミへの参加、発表、小レポート）：60%
チームの課題への取り組み及び学期末の発表：40%

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習III，演習IV

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、実体験できる科目を提供。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅱ	後期	水３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	伊藤　拓馬	３年	授業終了後の教室で受け付ける	

学びの準備

ねらい

学生と教員とのコミュニケーションを深め、大学生としての必須となるスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を身に付ける。

メッセージ

演習Ⅱでは、演習Ⅰに引き続き、グループに分かれて課題に取り組む。フィールドワーク、データ処理、レポート作成までを実践する。グループワークのため、休まないようにして欲しい。

到達目標

グループに分かれて自然科学に関するテーマに取り組み、取得したデータをもとにレポートをまとめ、パワーポイントなどを活用し、第三者に分かりやすく伝えることができる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	演習Ⅱで取り組む内容の確認	配布資料の復習
2	グループに分かれて調査に取り組む	データの記録・整理
3	グループに分かれて調査に取り組む	データの記録・整理
4	グループに分かれて調査に取り組む	データの記録・整理
5	進捗報告	配布資料の復習
6	グループに分かれて調査に取り組む	データの記録・整理
7	グループに分かれて調査に取り組む	データの記録・整理
8	実験とデータ整理	データの解析
9	実験とデータ整理	データの解析
10	進捗報告	配布資料の復習
11	実験とデータ整理	データの解析
12	実験とデータ整理	データの解析
13	演習Ⅱで取り組んだ内容のレポート作成	レポート、レジュメの作成
14	演習Ⅱで取り組んだ内容のレポート作成	レポート、レジュメの作成
15	プレゼンテーション	成果発表
16	プレゼンテーション	成果発表

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。配布試料はファイルに綴じて、毎回持参すること。

学びの手立て

毎回出席すること。やむを得ず欠席する場合には、必ず事前連絡し、配布資料を研究室まで取りに来ること。2/3以上の出席が無いと不可になる。

評価

課題への取り組み（50%）、レポート、成果発表（50%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：演習Ⅲ、演習Ⅳ

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、また実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅱ	後期	水２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋　伊津子	３年	授業の前後に問い合わせてください。	

学びの準備

ねらい

受講者が主体的に学び、金融・経済に関して自らの意見を持ち、卒業論文のテーマ、方向性を設定することをねらいとする。

メッセージ

ゼミは学生が作りあげるものだと思います。主体的に、積極的に取り組んで下さい。【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標

金融・経済に関してテーマを設定し、調査し、論文を作成できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

第１回～第６回　フィールドワーク（ヒアリング調査）の準備及び実施。
第７、８回　フィールドワーク（ヒアリング調査）の結果報告
第９回～第１５回　ゼミ論文作成（ヒアリング調査のまとめ、データ分析）
第１６回　論文完成、最終プレゼンテーション

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。参考文献・資料は適宜紹介する。

学びの手立て

・授業の時間外にも必要に応じて指導します。
・やむをえない事情で遅刻・欠席する場合は必ず事前に連絡すること。

評価

・平常点（５０％）＋　報告点（５０％）

学びの継続

次のステージ・関連科目

「演習Ⅰ」、「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水２	2
担当者 砂川　かおり	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawaあっとまぁくokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

・環境政策論ゼミ入門として、湿地の価値を伝え、ラムサール条約の重要な柱であるCEPA（コミュニケーション・能力養成・教育・参加・普及啓発）活動を担える知識と技術を身に着ける。
・オンラインや対面で、県外や地域の人々と持続可能な地域づくりについて議論し、企画を立て、実践し、自らが情報発信できるようになる。

メッセージ

・何事にも積極的に取り組んで、楽しいゼミにしていこう。

到達目標

①環境政策論ゼミ入門として、湿地の価値を理解し、事例として泡瀬干潟を取り上げ、湿地の保全（渡り鳥の保護を含む）・ワイズユース（環境教育、海辺のまちづくり、国際交流事業等）・CEPAについて調査、企画、実践できるようになる。
②東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ（EAAFP）への申請支援が出来るようになる。
③卒論発表会へ参加し、卒論制作について理解を深める。
④環境ビジネスへの理解を深める。
⑤キャリアセミナーを通して、就活に対する意識も高めていく。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス、成績・時間割確認、キャリアガイダンス等（9/29）	配布資料を読んで復習する。
2	東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ（EAAFP）Online講話①（10/6）	レポート①作成・提出
3	東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ 調査・申請書類②作成（10/13）	申請書類②作成
4	東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ 調査・申請書類②作成（10/20）	申請書類②作成
5	EAAFP調査・申請書類②提出・添削（10/27）	申請書類②作成
6	EAAFP調査・申請書類②修正・提出（11/3）	申請書類②作成
7	東アジア・オーストララシア、シギ・チドリ類渡来地ネットワーク 調査・申請書類②完成（11/10）	配布資料を読んで復習する。
8	エコプロ2021　登録・事前調査、パワーポイント作成説明（11/17）	配布資料を読んで復習する。
9	エコプロ2021調査　12/1　事前準備	エコプロ2021参加準備
10	エコプロ2021調査（東京）　12月8～10日	参加報告資料③作成
11	エコプロ2021の参加報告資料③作成・提出（12/15）	発表練習
12	エコプロ2021の参加報告資料③発表１（12/22）	発表練習
13	エコプロ2021の参加報告資料③発表２（1/5）	配布資料を読んで復習する。
14	EAAFPについて沖縄県・沖縄市と意見交換（1/12）	レポート④作成
15	後期まとめ（1/19）	配布資料を読んで復習する。
16	2020年度　卒論発表会（1月26日予定）参加、卒論ポスターセッション（1月28日（金）予定）見学	卒論テーマ案について考える。

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：指定なし。適宜、資料を配布する。
参考文献：①砂川ゼミの卒論集、②その他、適宜紹介する。

学びの手立て

・講義を受講し、課題がある場合は回答し、提出すること。或いは、実践すること。
・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。
・欠席する場合は必ず、事前にメール等で連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。
・自己管理をしっかりして、就活などで欠席する場合には、個別に指導を受けること。
・以下に該当する学生は、事前に教員に連絡して下さい。①発熱・体調不良のある学生、②家族に発熱者(37.5度以上)がいる学生、③１週間以内に本人や家族が沖縄県外へ渡航履歴のある者

評価

２／３以上の出席、実践、課題の提出が必要です。
その上で、評価の割合は、授業参加度（20%）、Online講話レポート①（10%）・申請書類②（40%）、参加報告資料③（20%）、レポート④（10%）、その他ボーナス課題　とします。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「環境教育論」、「グローカルセミナーⅠ・　II」、「演習I」、「演習III」、「演習ＩＶ」

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できないITを活用した科目また演習等の実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月４	2
担当者 前泊　博盛	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室　５号館４０５研究室　hmaedomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（令和１年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておくと、講義・学習の理解が一層深まります。

メッセージ

前期同様に新型コロナ感染状況に注意しながら対面でのゼミを実施予定。感染状況によって遠隔演習に移行します。沖縄経済に関する基本文献、論文、資料、データを収集し、調査研究の基本的な準備を行い、問題意識を醸成しましょう。遠隔演習にも対応できるようにパソコン、Wi-Fi環境の確保が望ましい。

到達目標

１：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。
２：基本データの分析・解析手法を習得します。
３：課題の抽出方法を習得します。
４：課題解決法を調査・研究する力を習得します。
５：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	後期　演習Ⅱの研究計画とゼミ運営方針の確認・ゼミ調査旅行計画の策定	後期計画の策定と基本資料収集
2	沖縄企業上位１００社研究①「はじめに」　基地調査①「データ整理」沖縄の基地	沖縄経済と基地のデータ収集整理
3	沖縄企業上位１００社研究②「100社の特徴」　基地調査②「データ整理」基地収入・軍用地料	沖縄経済と基地のデータ収集整理
4	沖縄企業上位１００社研究③「100社の特徴②」　基地調査③「データ整理」基地収入・軍用地料	沖縄経済と基地のデータ収集整理
5	沖縄企業上位１００社研究④「データ整理」　基地調査④「データ整理」基地雇用	沖縄経済と基地のデータ収集整理
6	沖縄企業上位１００社研究⑤「業界分析」　基地調査⑤「データ整理」基地雇用	沖縄経済と基地のデータ収集整理
7	沖縄企業上位１００社研究⑥「業界分析」　基地調査⑥「データ整理」軍人消費支出	沖縄経済と基地のデータ収集整理
8	沖縄企業上位１００社研究⑦「業界分析」　基地調査⑦「データ整理」軍人消費支出	沖縄経済と基地のデータ収集整理
9	沖縄企業上位１００社研究⑧「業界分析」　基地調査⑧「データ整理」基地交付金	沖縄経済と基地のデータ収集整理
10	沖縄企業上位１００社研究⑨「業界分析」　基地調査⑨「データ整理」基地交付金	沖縄経済と基地のデータ収集整理
11	京都ゼミ旅行（同志社、京都女子大、神戸大とのゼミ交流・発表）	PP作成と報告リポート作成
12	沖縄企業上位１００社研究⑩「まとめ」　基地調査⑩「データ整理」基地経済の展望	PP作成と報告リポート作成
13	沖縄企業上位１００社研究⑪「まとめ②」　基地調査⑪「データ整理」基地経済の展望	PP発表
14	沖縄企業上位１００社研究⑫「総括」　基地調査⑫「データ整理」基地経済の総括	県外、国外調査の実施計画策定
15	演習Ⅰ・Ⅱの総括	ゼミ活動の総括
16	演習Ⅲ、Ⅳに向けた計画策定	

テキスト・参考文献・資料など

前泊博盛著『沖縄と米軍基地』（角川新書）前泊博盛編著『日米地位協定入門』（創元社）川瀬光義『基地と財政』（自治体研究社）『沖縄21世紀ビジョン基本計画等総点検報告書』（沖縄県）櫻澤誠著『沖縄現代史』（中公新書）小熊英二著『日本社会のしくみ』（講談社現代新書）

学びの手立て

図書館、インターネット、政府・沖縄県など公的資料の収集、分析のための手法を先行研究から学びます。

評価

ゼミへの積極的な参加、資料収集、調査分析、研究成果発表に関する内容によって総合的に評価します。評価は平常点（リアクションペーパー）60%、調査リポート発表20%、期末リポート20%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

データの収集方法、調査分析の手法、発表・プレゼンテーションの技術を高め、4年次ゼミで強化。卒論にまとめます。

※ポリシーとの関連性　自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得させるための専門科目の提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水２	2
担当者 小川　護	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	メールでお願いします。ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

(1)経済地理学の調査・研究で必要な地域調査の考え方と手法の把握。(2)調査によって得られたデータを用いて基礎的な地域分析手法を用いて空間的な特性の一端を明らかにする。(3)夏休みを利用して、沖縄本島内の特定地域を選定して地域農業と環境問題をテーマとする地域調査を実施する予定である。演習Ⅱでは、得られたデータをもとに、分析をおこない、最終的に報告書にまとめる。

メッセージ

演習ⅡではGISを含めた専門的調査方法、分析を中心とする積み上げ型専門科目です。休まないようにしてください。

到達目標

地域に関する諸課題解決のための調査、分析を行うスキルを身につける。それらを基礎として、卒論執筆のための基礎づくりを行う。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	夏休みの地域調査報告会	調査結果の整理
2	空間データの種類と取得	配布プリント、テキストの復習
3	空間データ構造	配布プリント、テキストの復習
4	地図測地系と座標系	配布プリント、テキストの復習
5	レイアーの編集	配布プリント、テキストの復習
6	レイアーの構造	配布プリント、テキストの復習
7	デジタル地図の表示と装飾①	配布プリント、テキストの復習
8	デジタル地図の表示と装飾②	配布プリント、テキストの復習
9	バッファーとティポリゴン	配布プリント、テキストの復習
10	重ね合わせ分析法①	配布プリント、テキストの復習
11	重ね合わせ分析法②	配布プリント、テキストの復習
12	通路ネットワーク分析法①	配布プリント、テキストの復習
13	通路ネットワーク分析法②	配布プリント、テキストの復習
14	三次元表現について、GPSデータ取得とレイヤー作成	配布プリント、テキストの復習
15	経済地理学論文購読	発表論文、レジュメの準備
16	報告書執筆と配布	報告書分担執筆

テキスト・参考文献・資料など

野間晴雄他「ジオ・パルNEO ―地理学・地域調査便利帖―」第2版、2017年、海青社、定価2625円
出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習Ⅱでの発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチ

学びの手立て

出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習Ⅰでの発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受けること。

評価

演習Ⅱでの発表・発言などの平常点(50点)、課題提出等(50点)で評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習Ⅲ、演習Ⅳ

※ポリシーとの関連性　離島地域と環境、経済について考える。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月４	2
担当者 呉　錫畢	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	メールや、アポをとって研究室に来ること。	

学びの準備

ねらい
演習1で鍛えた力を発揮し、書く力を鍛え（卒論執筆）きちんとしたディベートを行う。

メッセージ
討論の力を鍛える。

到達目標
社会でも自分の意思を論理的に説明できるようにする。

学びの実践

学びのヒント
授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	1週目：調査やボランティア活動のグループ別報告1	演習Ⅰから続く活動内容確認
2	2週目：調査やボランティア活動のグループ別報告2	演習Ⅰから続く活動内容確認
3	3週目：離島地域活性化に関する報告書作成1	グループ別で確認
4	4週目：離島地域活性化に関する報告書作成2	グループ別で確認
5	5週目：離島地域活性化に関する報告書作成3	グループ別検討及び報告準備
6	6週目：グループ別活動内容を討論1	グループ別検討及び報告準備
7	7週目：グループ別活動内容を討論2	グループ別検討及び報告準備
8	8週目：グループ別活動内容を討論3	グループ別検討及び報告準備
9	9週目：グループ別活動内容を討論4	知の技法を読んでくる
10	10週目：グループ別プレゼンテーション作成1	知の技法を読んでくる
11	11週目：グループ別プレゼンテーション作成2	プレゼンテーションのリハーサル
12	12週目：グループ別プレゼンテーション作成3	プレゼンテーションのリハーサル
13	13週目：在学生にプレゼンテーションを行う1	プレゼンテーションの手法を読む
14	14週目：在学生にプレゼンテーションを行う2	プレゼンテーションの手法を読む
15	15週目：離島の時事に関するテーマ別討論の成果を検証	離島の振興策案を作成
16	16週目：総括	総括

テキスト・参考文献・資料など
小林・船曳編（1994）『知の技法』、東京大学出版会。

学びの手立て
テレビ討論を真似する。

評価
授業参加度50%、積極性30%、プレゼンテーション能力20%。

学びの継続

次のステージ・関連科目
口頭の表現で芽生えた問題意識を書く力へ継承する・演習Ⅲ

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目や演習等の実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水２	2
担当者 根路銘　もえ子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本演習では、沖縄の主力産業である観光産業の現状を把握し、今後の発展について議論する。また、観光情報産業において活用されている地理情報システム（GIS）の基本について学習し、GISを利用した演習も行う。これらを通して、観光産業と情報産業の融合について考える。

メッセージ

ゼミでは調査・まとめ・報告・ディスカッションが重要です。自ら積極的に動き、ゼミ内でも活発に交流して下さい。ゼミでわからないことがあれば気軽に相談して下さい。

到達目標

・GISの基本操作を修得する。
・沖縄観光の問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。
・卒業論文を執筆するための基本的知識および技術を身につける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

演習形態としては、沖縄の観光をテーマとするインターネットおよび現地調査を行い、情報の収集、収集データの分析、GIS演習、文献の講読を行う。
また、調査結果、分析結果、GIS演習内容、輪読それぞれにおいて、発表報告会を行う。

（1）GIS演習（第1回～5回）
・地図データ：国土数値情報、基盤地図情報等
・使用GIS：MANDARA
・演習内容：空間データの種類、空間データ構造、地図測地系と座標系、レイヤの構造、レイヤの編集、デジタル地図の表示と装飾、重ね合わせ分析法、ジオコーディング、GPSデータ取得とレイヤ構造

（2）観光産業の現状把握（第6回～10回）
「観光要覧」や「観光白書」等の講読

（3）観光テーマに関する調査（第11回～15回）
グループ単位でテーマに関する調査および発表

テキスト・参考文献・資料など

テキストは講義時に指定する。
参考文献は講義時に紹介する。

学びの手立て

履修の心構え
・ゼミへしっかり出席することで、GISへの理解が深まり、また沖縄観光の課題について明確にすることが可能になります。
学びを深めるために
・新聞記事を読むこと、ゼミ生同士のディスカッションが学びを深める助けになります。

評価

平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）50%、各課題の最終発表50%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（1）関連科目：「観光情報論」は観光情報について学習できます。「地理情報システム論I・II」はGISについて学習できます。
（2）次のステージ：3年次ゼミで学んだことを踏まえて、卒業論文へ活かして下さい。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるための実体験できる科目。

[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月４	2
担当者 友知　政樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

演習ⅠⅡ（３年次ゼミ）の目的は、琉球（沖縄）の自治・自己決定権（琉球独立）や基地問題とその解決に関連付けた社会調査・研究の全段階を経験的に学習することを通して、社会調査の理論と方法を体得することである。

メッセージ

データを通して実社会と対峙し、問題発見および解決能力の涵養を目指して欲しい。
琉球（沖縄）を良くしたいという熱意のある学生を求む！
一緒に目から血が出るほど勉強しましょう！

到達目標

社会調査の理論と方法を教科書や先行研究より事前に学習した上で、地域環境政策の立案・実施・評価するとの想定のもと、それに必要な社会調査を設計・実施し、収集したデータを分析し、報告書にまとめることである。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

10月　　第1回目調査の実施と結果の分析
11月　　政策の立案と実施
12月　　第２回目調査の実施と結果の分析
1月～3月　総まとめと報告書作成

テキスト・参考文献・資料など

『社会調査へのアプローチ―論理と方法（第2版）』 大谷信介(著),後藤範章(著),永野武(著),木下栄二(著),小松洋(著). ミネルヴァ書房(2005/02).

学びの手立て

毎回出席すること。

評価

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。原則として、遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。評価は、ゼミにおける発言の内容（20%）やレポート（50%）、プレゼンテーションの内容（30%）により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習Ⅲ

※ポリシーとの関連性　沖縄の自然環境の理解を深めるために、座学およびフィールドワークでより深く学ぶためのゼミ科目　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月４	2
担当者 山川（矢敷）　彩子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	メール：a.yamakawaアットokiu.ac.jp 研究室：9号館505室、　実験室：3号館505室	

学びの準備

ねらい

演習Ⅱでは、沖縄の海岸、河川環境、生物などの自然環境を対象にグループ研究を実施し、実際に自分たちでデータをとることで理解を深める。

メッセージ

演習Ⅱは演習Ⅰ（山川ゼミ）を取得した学生のみ登録可とする。

到達目標

・干潟調査、イノー調査、海岸ゴミ調査、水質調査等の野外調査の仕方を身につける。
・調査で得られた生データを整理し表やグラフにすること、科学レポートの書き方、パワーポイントプレゼンテーションを習得する。
・自分が興味を持って取り組む卒業研究のテーマを決める。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

※ゼミはすべて対面式でおこなう。状況によって、オンラインゼミを行うこともある。

演習Ⅱは主に以下の（1）～（4）からなる。

（1）自然環境や生物に関するグループ研究
サンゴ礁、干潟、河川、タイモ畑、湧水、海岸ゴミなど、沖縄の自然環境やそこに生息する生物に関して、教員の指導の下、3名程度のグループワークで調査研究をおこなう。

（2）レポート作成・発表
(1)で得られたデータを整理し、基本的な表やグラフの作成をおこない、何が読み取れるか考え、自分たちの考察を加えレポートとしてまとめる。レポートとしてまとめた後、レジメとパワーポイントを用いてグループでプレゼンテーションをおこなう。

（3）卒業研究のテーマの決定と予備調査の実施
グループ研究実施後、自ら取り組む卒業研究のテーマを選定し、研究計画をたて、予備調査を実施する。春休みには、フィールドに出て予備調査をおこない、本調査に入れるようにする。

スケジュール（予定）は以下の通りである。
第1週　　オリエンテーション
第2～8週　グループ研究の実施、レジメ報告
第9～11週　グループ研究のレポート作成、プレゼンテーション
第12～16週　卒業研究のテーマ選定、研究計画発表、予備調査の実施

（4）時間外学習
（1）のグループ研究は、基本的に講義外にグループで時間を調整し、調査に行く。（2）のレポート作成も、講義内、講義外両方の時間を用い、グループで協力し、ディスカッションしつつ作業を進める。（3）の卒業研究のテーマ決めについても、予備調査や本調査は講義外および春休みの時間を用いて行っていく。

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しない。適宜紹介する。

学びの手立て

グループ研究や卒業研究では、生きもの相手の調査の場合、とにかく、外へ出ること。億劫がらずに、ダメモトで行動を起こす。そうすると、いずれ結果はついてきます。

野外調査を行う場合は、天候や潮などに左右されます。あまりアルバイトを入れすぎず、少し融通が聞くほうが順調に進みます。

ゼミの内容を効果的に学習するために、山川が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講すること。

評価

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。
評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。
欠席する場合には、事前に必ず連絡をすること。メールによる連絡を受け付ける。
授業参加度30%、課題の取組姿勢、出来60%、プレゼンテーション10%とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習Ⅲ、Ⅳ、環境資源論（山川ゼミ必修）、産業と環境（山川ゼミ必修）、生物学I・II、自然科学概論I・II、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、プログラミング演習など。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅱ	後期	木３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲　薫	３年	研究室５－６３２ kuezu@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

受講生が社会調査のすべての課程を経験することによって、社会調査の理論と方法を体得すること、また、観光地域・商業地域の活性化と産業界の環境保全の取り組み状況について理解を深めることである。

メッセージ

本演習は、取り組み内容が多く、日程的に忙しく、内容的にも厳しいが、丁寧に指導していくため、前向きに取り組んで欲しい。また、目の前にある課題を少しでも解決できる人材になって欲しい。

到達目標

①聞き取り調査や調査票調査等による現地調査により、社会調査の手法を習得し、実践することができる。
②企業や団体を対象に環境保全の取り組み等を聞き取り調査か観光特性の現状とその課題を調べ、報告することができる。
③卒業論文の構想・企画を作成することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

（対）第1回　後期ガイダンス
（対）第2～3回　地域調査結果の集計・分析　：離島調査結果をグループでまとめる。
（対）第4～8回　仮説の検証、調査報告書作成　：結果報告のための仮説を検証し、報告書をまとめる。
（対）第9～11回　観光調査：企業・団体の環境保全の取り組み動向調査か観光特性の現状とその課題についての報告
（対）第12～15回　卒業論文のテーマ･調査項目の作成　：卒論テーマの決定、既存論文の研究
（対）第16回　まとめ

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：特に指定はない。
参考文献：①大谷信介他編著（2005）『社会調査へのアプローチ―論理と方法―』（第２版）ミネルヴァ書房。
②佐々木一成（2008）『観光振興と魅力あるまちづくり』学芸出版社。
電子書籍①井門隆夫(2017)『地域観光事業のススメ方』大学教育出版。

学びの手立て

履修の心構え：本演習は「社会調査士」の資格科目で、観光地の地域活性化、産業界の環境保全の取り組み、地域環境政策などに関心を持ち、フィールドワークに積極的に取り組む必要がある。
学びを深めるために：日常的に観光地域の問題・課題に関心を持ち、新聞や専門図書等を読む。

評価

演習参加度（30%）：演習中の発表・討論などを評価します。
調査報告書の作成（40%）：離島等を調査した内容をグループで報告書の内容を評価します。
企業・団体の調査・観光課題の報告（20%）：報告した内容を評価します。
卒論構想の作成（10%）：卒論の目的やそのテーマの現状、既存の研究動向等をまとめたものを評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

次のステージ：4年次演習で卒論を作成するため、各自の卒論テーマに関連する内容を十分に考察して欲しい。
関連科目：受講必修:「観光経済論」「観光情報論」「沖縄の観光」「社会調査論Ⅰ・Ⅱ」は受講して欲しい

※ポリシーとの関連性　地域の経済や環境の抱える問題を統計データの分析を通して調査・分析を行う.　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅱ	後期	月４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地　朝央	３年	t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

社会に出るための準備を主目的に，地域経済の抱える問題を自ら解決する方法を獲得し，統計データの分析を通して実証する.

メッセージ

今までの学習を基に自ら調査を行い実証分析を行うことで，実社会の問題解決を熟考する.
今期は状況に応じて対面またはteamsによるオンデマンド形式で授業を行う。

到達目標

・これまでの学習から自ら課題を持ち，課題解決の方法を学習する.
・課題解決の方法を計量分析と通して提示する.
・分析結果をまとめ，次年度の研究課題を模索する.

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	授業計画について説明（対）	配布資料を参照
2	統計データの準備計画1（対）	配布資料を参照
3	統計データの準備計画2（対）	統計データの準備計画を確認する
4	分析に向けた参考資料のサーベイ1（対）	参考資料を確認する
5	分析に向けた参考資料のサーベイ2（対）	参考資料を確認する
6	参考資料の輪読1（対）	配布資料を参照
7	参考資料の輪読2（対）	授業内容を復習する
8	参考資料の輪読3（対）	授業内容を復習する
9	参考資料の輪読4（対）	授業内容を復習する
10	統計データの作成1（対）	配布資料を参照
11	統計データの作成2（対）	統計データの準備計画を確認する
12	分析結果の考察（対）	統計データの準備計画を確認する
13	企業研究1（対）	配布資料を参照
14	企業研究2（対）	授業内容を復習する
15	研究課題の作成（対）	課題内容を確認する
16	総括（対）	総括の復習をする

テキスト・参考文献・資料など

・適時，資料を用意して配布します.

学びの手立て

・自身の課題に関連する本や資料について図書館を利用することが望ましい.
・卒業論文に向けて，自らの課題や分析方法について指導教員に報告を行う.

評価

・授業参加度（3割）とレポート提出（3割），発表内容（3割），調査参加（1割）で評価を行う.

学びの継続

次のステージ・関連科目

・統計データ作成を通じて問題を実証し，卒業論文として結果を提示する．実社会でその経験を活かす.

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、実体験できる科目を提供。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 演習Ⅲ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金２	2
担当者 上江洲　薫	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	研究室５－６３２ kuezu@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本演習では、演習Ⅰ・Ⅱで取得した社会調査の手法などを基に、各自が設定したテーマに沿って現地での詳細な調査および考察をを行い、その内容を卒業論文にまとめる。この課程により、 情報収集・分析・プレゼンテーション・企画力の能力をより一層高め、一般社会で適応できる能力を身につける。

メッセージ

本演習は、取り組み内容が多く、日程的に忙しく、内容的にも厳しいが、丁寧に指導していくため、前向きに取り組んで欲しい。また、目の前にある課題を少しでも解決できる人材になって欲しい。

到達目標

①卒業論文の作成にあたり、聞き取り調査や調査票調査、簡易な自然調査、店舗・土地利用調査などを実施し、その一時データの分析・考察ができる。
②卒論の仮提出は年末までに行い、指摘されたことを修正し卒論を完成することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

第1週	ガイダンス、卒論テーマの設定とその選定理由	：2～3月の調査状況の報告準備
第2～3週	卒論テーマに関する論文紹介・現状・課題の把握	：発表準備
第4～5週	調査項目の設定、対象者・対象地域の選定	：発表準備、対象者へのアポ取り
第6～7週	調査の対象者・対象地域における既存データの分析	：既存統計データの分析
第8～10週	質問文・調査票の作成	：作成準備
第11～16週	調査の実施・調査データの分析	：各自調査、調査内容の見直し

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：特に指定しない。
参考文献：①大谷信介他編著(2005)『社会調査へのアプローチー理論と方法ー』(第2版)ミネルヴァ書房。
②佐々木一成(2008)『観光振興と魅力あるまちづくり』学芸出版社。

学びの手立て

履修の心構え：就職活動の事も考え、卒論の調査・作成を計画的に行うように。
学びを深めるために：日常的に観光地等の問題・課題に関心を持ち、新聞や専門図書等を読む。

評価

平常点(30点)：演習中の取り組み内容などを確認します。
卒業論文の作成(70点)：卒業論文の内容、一時データの分析・考察などの取り組みを評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

次のステージ：社会に出ても、ゼミで取得した思考力、計画性、分析力等を発揮できるように頑張って欲しい。
関連科目：「観光経済論」「観光情報論」「沖縄の観光」「社会調査論Ⅰ・Ⅱ」は受講して欲しい。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、また実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅲ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金１	2
担当者 島袋　伊津子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	授業の前後に問い合わせてください。	

学びの準備

ねらい
卒業論文作成を通じて、分析能力、課題発見能力を高める。

メッセージ
大学生活での学習の仕上げとして、卒業論文を作成します。【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標
卒業論文を完成させる。

学びの実践

学びのヒント
授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

第1回　ガイダンス
第2回　卒業論文テーマ設定（１）
第3回　卒業論文テーマ設定（２）
第4回　研究計画策定（１）
第5回　研究計画策定（２）
第6回　研究計画策定（３）
第7回　先行研究収集（１）
第8回　先行研究収集（２）
第9回　先行研究収集（３）
第10回　中間発表（１）
第11回　中間発表（２）
第12回　中間発表（３）
第13回　中間発表（４）
第14回　修正作業
第15回　修正作業
第16回　卒業論文前半部分完成、提出

テキスト・参考文献・資料など
テキストは指定しない。各自のテーマに応じて参考文献を提示する。

学びの手立て
卒業論文の進捗状況の報告を授業時間外にも求めることがあります。

評価
発表点（５０％）＋平常点（５０％）

学びの継続

次のステージ・関連科目
演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できないITを活用した科目、演習等の実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅲ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月３	2
担当者 前泊　博盛	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	研究室　５号館４０５研究室　hmaedomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておくと、講義・学習の理解が一層深まります。

メッセージ

演習は対面で実施します。新型コロナ感染拡大の場合は、遠隔講義に移行します。感染状況と感染防止に十分注意して、演習を充実させていきましょう。沖縄経済に関する基本文献、論文、資料、データを収集し、調査研究の基本的な準備を行い、問題意識を醸成しましょう。

到達目標

１：経済理論を踏まえ、沖縄経済の特徴を分析します。
２：沖縄経済の基本データの分析・解析手法を習得します。
３：経済課題の抽出方法を習得します。
４：経済課題の解決法を調査・研究、整理する力を習得します。
５：調査・分析した結果を卒業論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ゼミ運営基本方針の説明（ガイタンス）	参考文献、基本データの収集
2	遠隔講義に伴うTeams対応について（ソフト導入と起動確認、講義方針再調整）	遠隔講義対応
3	卒論のテーマ選定と確認、指導	遠隔講義対応
4	卒論概要発表①　就活進捗報告	参考文献、基本データの収集
5	卒論概要発表②　就活進捗報告	参考文献、基本データの収集
6	卒論概要発表③「ZOOM」への変更対応	参考文献、基本データの収集
7	卒論概要発表④	参考文献、基本データの収集
8	卒論「はじめに、1章」報告・発表PP①　就活報告	卒論の章立て作成
9	卒論「はじめに、1章」報告・発表PP②　就活報告	卒論の章立て作成
10	卒論「はじめに、1章」報告・発表PP③　就活報告	卒論の章立て作成
11	卒論「はじめに、1章」報告・発表PP④　就活報告	卒論の章立て作成
12	卒論「2章、3章」報告・発表PP①　就活報告	PP作成
13	卒論「2章、3章」報告・発表PP②　就活報告	PP作成
14	卒論「2章、3章」報告・発表PP③　就活報告	PP作成
15	卒論前期総括　卒論進捗状況の報告	後期研究計画策定
16	演習Ⅲ総括	後期論文計画策定

テキスト・参考文献・資料など

卒論の先行研究、卒論関係論文・資料の収集、関係データの収集と整理、分析。

学びの手立て

先行研究論文の整理、課題の設定、論文構成力の向上、専門用語の習得、論点整理、執筆力の向上。

評価

論点整理、論文の完成度、参考文献の整理・活用、独自の視点・争点・論点・分析の熟度で評価.評価は平常点（リアクションペーパー）60%、調査リポート発表20%、期末リポート20%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

沖縄の地域課題を抽出し、沖縄経済の論点を整理し、データで検証・分析する力を身に着ける。データの収集方法など実社会で通用する基礎研究力をブラッシュアップする機会を確保する。大学院進学。沖縄経済特殊講義。

※ポリシーとの関連性　沖縄の自然環境の理解を深めるために、座学およびフィールドワークでより深く学ぶためのゼミ科目　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅲ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月３	2
担当者 山川（矢敷）　彩子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	メール：a.yamakawaアットokiu.ac.jp 研究室：9号館505室、実験室：3号館505室	

学びの準備

ねらい

演習Ⅲでは、沖縄の自然環境や生物、それらの保全に関して、卒業研究を実施する。また卒業研究に関連する先行研究の論文を読み込み、論文発表をおこなう。

メッセージ

演習Ⅰ・Ⅱ（山川ゼミ）を登録した学生のみWeb登録を許可する。

到達目標

・自らの意思で卒業研究を実施し、オリジナルなデータを定期的に収集できるようになる。
・得られたデータを毎月レジメにまとめて報告できるようにする。
・卒業研究を中間発表として、レジメやパワーポイントにまとめプレゼンテーションする。
・ゼミ内メンバーの卒業研究の野外調査に積極的に参加する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

演習Ⅲでは以下の（1）～（3）からなる。

（1）卒業研究

卒業研究のテーマ、内容は自由であるが、できれば沖縄の自然環境や生物およびそれらに関することを中心におこなうことが望ましい。月2回程度の調査をおこない、自分でデータを収集する。

＜過去の卒業研究の例＞
・沖縄の海の危険生物に関する意識調査
・沖縄本島におけるウミガメの産卵場所に関する聞き取り調査
・泡瀬干潟におけるホソバウミジグサの観察
・宇座海岸におけるイノーの生物の動向調査
・金城ダムにおける外来魚ジルティラピアの成長と産卵期推定
・佐敷干潟に生息するミナミコメツキガニの個体群動態
・泡瀬干潟の利用形態に関する聞き取り調査

（2）論文発表

自分の卒業研究のテーマに関連する重要な先行研究の論文を探し、読み込み、レジメにまとめ、パワーポイントで発表する。論文紹介をすることで、基本的な論文の構成、文章の表現を学ぶ。

（3）時間外学習

卒業研究の調査は、基本的に講義外の時間に自分で調整しておこなう。月2回ほど調査に行きデータを収集する。報告のためのレジメ作成、論文発表の準備などは講義外学習となる。

（4）スケジュールの目安

第1回　ガイダンス
第2～15回　卒業研究報告および論文発表
第16回　卒業研究中間発表会

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しない。適宜紹介する。

学びの手立て

生きもの相手の調査の場合、とにかく、外へ出ること。億劫がらずに、ダメモトで行動を起こす。そうすると、いずれ結果はついてきます。

野外調査は天候や潮に左右されます。アルバイトを入れすぎず、余裕があるスケジュール管理をするようにしてください。調査日には必ず予備日を入れること。

ゼミの内容を効果的に学習するために、山川が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講すること。

評価

欠席、遅刻する場合には、事前に必ず連絡すること。メールによる連絡を受け付ける。
単位取得には、3分の2以上の出席、定期的な卒研報告（レジメ）の提出、中間発表の実施、論文発表が必須である。就職活動による公欠は半期2回までである。
評価は平常点（ゼミにおける参加姿勢）30%、卒業研究への取り組み姿勢50%、論文発表20%などを総合し実施する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習Ⅳ、環境資源論（山川ゼミ必修）、産業と環境（山川ゼミ必修）生物学I・II、自然科学概論I・II、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、プログラミング演習など。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅲ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水３	2
担当者 砂川　かおり	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawaあっとまぁくokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

卒業論文作成に必要な、企画力、調査力、分析力、文章表現力等を学ぶ。

メッセージ

・自己管理をしっかりして、就活などで欠席する場合には、個別に指導を受けること。
・何事にも積極的に取り組んで、楽しいゼミにしていこう。
・授業外の課題にも積極的に取り組んでください。

到達目標

演習IIIでは、自らで研究テーマを設定し、先行研究調査、調査企画、調査実施、調査結果分析、論文作成、発表等を行う。
さらに、キャリアセミナーを通して、就活に対する意識も高めていく。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス、成績・時間割確認、年間計画作成・提出、メール設定等、過去の卒論紹介(4/7)	卒論テーマを考える。
2	卒論の進め方説明、卒論のテーマ・目的・調査方法発表、卒論作成計画・提出(4/14)	先行研究文献の収集
3	文献収集と要約方法、引用・参考文献の書き方の説明、各自文献収集(4/21)	先行研究文献の収集・要約
4	文献収集(4/28)	文献収集
5	文献収集(5/12)	文献収集
6	文献収集(5/19)	文献収集
7	調査研究（5/26)	調査研究
8	調査研究（6/2)	調査研究
9	調査研究(6/9)	調査研究
10	調査研究(6/16)	調査研究
11	調査研究(6/30)	調査研究
12	調査研究(7/7)	中間発表　資料作成
13	卒論（中間発表　資料仕上げ）(7/14)	中間発表　資料作成
14	卒論（中間発表　資料仕上げ）(7/21)	中間発表　練習
15	卒論（中間発表）(7/28)	中間発表　練習
16	卒論（中間発表）(8/4)	中間発表からの課題抽出

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：指定なし。適宜、資料を配布する。
参考文献：①砂川ゼミの卒論集、②その他、適宜紹介する。

学びの手立て

・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。
・自己管理をしっかりして、就活などで欠席する場合には、個別に指導を受けること。
・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。
・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。

評価

・単位取得の条件：２／３以上の出席、調査実施、中間発表。
・評価の配分：授業参加度（１５％）、調査（４０％）、中間発表（４５％）。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「演習IV」

※ポリシーとの関連性　地域の経済や環境について分析を通して解決策を模索する.

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅲ	前期	月３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地　朝央	４年	メールでお問い合わせください. t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

社会に出るための準備を目的に，輪読を通して知識を蓄え，統計データの分析によってその実証を行う.

メッセージ

座学による知識を基に実社会の問題を解決する方法を学ぶことで，社会に出た時に役立つ能力を身につける.
今期は状況に応じて対面またはteamsによるオンデマンド形式で授業を行う。

到達目標

・座学を通して知識を蓄え，知的好奇心を持つ.
・統計分析の学習とデータの扱いについて学ぶ.
・分析結果をまとめ，発表を行う.

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	輪読1（対）	授業内容を復習する
2	輪読1（対）	授業内容を復習する
3	輪読1（対）	授業内容を復習する
4	輪読1（対）	授業内容を復習する
5	輪読1（対）	授業内容を復習する
6	輪読2（対）	授業内容を復習する
7	輪読2（対）	授業内容を復習する
8	輪読2（対）	授業内容を復習する
9	輪読2（対）	授業内容を復習する
10	統計データの作成1（対）	統計データの内容を確認する
11	統計データの作成2（対）	統計データの内容を確認する
12	統計データの作成3（対）	分析手順を確認する
13	統計データの扱い1（対）	授業内容を復習する
14	統計データの扱い2（対）	授業内容を復習する
15	統計データの分析1（対）	分析内容を確認する
16	統計データの分析2（対）	分析内容を確認する

テキスト・参考文献・資料など

適時，参考資料を配布する.

学びの手立て

座学で使用する書籍について図書館を利用することが望ましい.

評価

・授業参加度（3割）とレポート提出（3割），発表内容（3割），調査参加（1割）で評価を行う.

学びの継続

次のステージ・関連科目

「地域経済Ⅰ・Ⅱ」の知識を統計データを通して実証し，より専門的な分野を学習する.

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅲ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金２	2
担当者 齋藤　星耕	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付ける。	

学びの準備

ねらい

演習では、研究することを学ぶ。先行研究を読み解く力、研究計画を立てる力、研究を遂行する力、データを適切に解釈する力、科学的に議論できる力を養う。四年次では自らの独自の研究課題に取り組む。

メッセージ

演習III-IV（4年次）では卒業研究を行います。自らの問いに答えるためには、どのような情報が必要か、どうすればそれが得られるか、先行研究と自分のこれまでの知識を動員して考えなければなりません。そして、実験をするにしてもインタビューをするにしても、自分から動いていかねばなりません。そうして得られた情報を総合し、卒業論文に取り組みます。

到達目標

文献を読み解き、提示されているデータの意味を理解できる。
文献の内容や、自分自身の研究成果をプレゼンテーション出来る。科学的な内容について討論することが出来る。
適切な研究計画を立てることができる。計画に基づいて研究を実行できる。自ら取得したデータを分析でき、適切な結論を導ける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

原則として対面授業で実施する。
但し、必要に応じて、リスクのある履修者がオンライン参加を選択できるように、対面・オンライン併用とすることがある。

第1回(対面) オリエンテーション
第2～16回(対面) 卒業研究（生命科学、食品開発、機械学習再生可能エネルギーなどから各自決定）の課題に取り組む*

「時間外学習の内容」：各自が課題に取り組む

＊ 必要に応じて下記に挙げる事業所または各自が開拓した事業所からの協力を得る：
1. 琉球大学分子生命科学研究施設
2. 一般社団法人沖縄県環境・エネルギー研究開発機構

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。

学びの手立て

ゼミでは、文献紹介、自らの課題の計画・進捗の報告を行う。当然ながら、ゼミの時間外での取り組みが必須である。各人の積極的な貢献を期待する。やむを得ない欠席や遅刻の場合は、教員に直接、事前に連絡すること。
また卒業研究における関係先に対しては失礼のないようにすること。

評価

平常点（ゼミへの参加、発表、小レポート）：50%
卒業研究課題への取り組み及び学期末の発表：50%

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習IV

※ポリシーとの関連性　自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得させるための専門科目の提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅲ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水１	2
担当者 小川　護	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	問い合わせはメールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

演習Ⅰ・Ⅱで学んだ経済地理学の調査・研究に必要な地域調査の考え方と手法の把握を基礎として、自らテーマを設定し、先行研究の調査、文献調査、フィールドワーク、調査で得られた資料の分析を行い最終的に卒業論文にまとめることを目標とする。

メッセージ

演習ⅢはGISを含めた専門的調査方法･分析を基礎に､卒業論文作成のための積み上げ型専門科目です。卒論提出(1月末日)を目安に各自で卒論の調査、執筆スケジュールをしっかり立てて、計画的に進めてください。

到達目標

演習Ⅰ・Ⅱで学んだ地域に関する諸課題解決のための調査、分析などのスキルを基礎として、自らテーマ設定、調査、分析を行い、最終的に卒業論文にまとめる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	卒業論文についてのガイダンス	配布プリントの確認
2	卒業論文のテーマ発表	配布プリントの確認
3	先行研究に関する調査・発表①	発表資料の準備
4	先行研究に関する調査・発表②	発表資料の準備
5	先行研究に関する調査・発表③	発表資料の準備
6	各テーマの分析方法と調査計画についての発表①	発表資料の準備
7	各テーマの分析方法と調査計画についての発表②	発表資料の準備
8	各テーマの分析方法と調査計画についての発表③	発表資料の準備
9	各自の調査結果の報告①	発表資料の準備
10	各自の調査結果の報告②	発表資料の準備
11	各自の調査結果の報告③	発表資料の準備
12	各自の調査結果の報告④	発表資料の準備
13	補足調査についてと調査結果の報告①	発表資料の準備
14	補足調査についてと調査結果の報告②	発表資料の準備
15	補足調査についてと調査結果の報告③	発表資料の準備
16	まとめ	配布プリントの確認

テキスト・参考文献・資料など

野間晴雄他「ジオ・パルNEO ―地理学・地域調査便利帖―」第2版、2017年、海青社、定価2700円

学びの手立て

出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習Ⅲでの発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受ける事。卒論のための調査および執筆スケジュールをしっかり立てること。

評価

演習における卒論の中間報告の内容で評価する（100%）。

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習Ⅳ:卒論の完成、提出、卒論集の発行。

※ポリシーとの関連性　沖縄地域における社会問題を大学生として考察する。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅲ	前期	木３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉　錫畢	４年	簡単なものはメールで、詳しく聞く場合にはオフィスアワーを利用（研究室（5508））	

学びの準備

ねらい

演習Ⅰ・Ⅱで習得した知識に基づいて、実際に足を運んで生のデータによって学問を表現する。つまり、文章を持って知（卒業論文）を表現する。

メッセージ

学問と社会との関係を理解する

到達目標

地域社会で自分のできることを理解し、就活と社会貢献についての問題意識を培う。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	1週目：卒業論文とは	学問とは何かについて考える
2	2週目：卒業論文の作法と技法	知の技法を読む
3	3週目：環境・経済の調査の方法1	知の技法を読む
4	4週目：環境・経済の調査の方法2	論文の書き方を整理
5	5週目：参考資料を活用する	論文の書き方を整理
6	6週目：テーマを設定する1	関心がある卒論か報告書を読む
7	7週目：テーマを設定する2	関心がある卒論か報告書を読む
8	8週目：テーマと関連する参考資料作成1	関心がある卒論か報告書を読む
9	9週目：テーマと関連する参考資料作成2	関心がある卒論か報告書を読む
10	10週目：テーマと関連する参考資料の要約発表1	関心がある卒論か報告書を読む
11	11週目：テーマと関連する参考資料の要約発表2	関心がある卒論か報告書を読む
12	12週目：卒論テーマを決め、フローチャート作成1	関心がある卒論か報告書を読む
13	13週目：卒論テーマを決め、フローチャート作成2	論文と関わる資料を整理
14	14週目：卒論テーマを決め、フローチャート作成3	論文と関わる資料を整理
15	15週目：卒論テーマを決め、フローチャート作成4	中間報告の為の準備
16	16週目：総括及び夏の合宿での中間報告準備	中間報告の為の準備

テキスト・参考文献・資料など

参考文献として、
①小林・船曳編（1994）『知の技法』、東京大学出版会。
②植田和弘（1998）『環境経済学への招待』、丸善ライブラリー。
③呉錫畢（2008）『環境・経済と真の豊かさ』、日本経済評論社。

学びの手立て

卒論のテーマの設定、中間報告を行い、自分の主張を討論で行い、ロジックな思考能力を高める。

評価

授業参加度：50%、卒論中間報告：30%、プレゼンテーション：20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

執筆要領を覚え、社会で報告書作成等に役立つようにする。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目や演習等の実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅲ	前期	水１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘　もえ子	４年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本演習では、3年次で各自が設定した観光情報およびGIS利用に関するテーマについて、詳細な調査や実装を行い、調査・実装結果に考察を加え、卒業論文をまとめる。演習の時間は、各自の進捗状況を報告してもらい、調査方法や調査内容について、ゼミ生同士で意見交換や議論する時間とする。

メッセージ

ゼミでは調査・まとめ・報告・ディスカッションが重要です。自ら積極的に動き、ゼミ内でも活発に交流して下さい。ゼミでわからないことがあれば気軽に相談して下さい。

到達目標

・自らが設定したテーマに関して、調査・分析し、それらに関してまとめあげ報告できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

(1) 卒論テーマと計画報告（第1・2回）
(2) テーマに関する情報収集・現地調査（第3～5回，第8～10回）
(3) 研究の進捗状況発表（第6・7回，第11・12回）
(4) 中間報告へ向けた追加調査・まとめ（第13・14回）
(4) 卒業論文の中間報告（第15・16回）

テキスト・参考文献・資料など

テキスト・参考文献は講義時に適宜紹介する。

学びの手立て

履修の心構え
・今後卒業して社会の一員になるという意識を高く持ち、自ら問題を見つけ解決することができるよう頑張りましょう。
学びを深めるために
・新聞記事を読むこと、ゼミ生同士のディスカッションが学びを深める助けになります。

評価

平常点（ゼミ中の取組）20%、卒業論文中間報告80%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

後期の演習Ⅳにおいて、卒業論文を完成させる。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるための実体験できる科目。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 演習Ⅲ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木３	2
担当者 友知　政樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

３年次の演習Ⅰ、Ⅱで行った予備調査を踏まえ、地域環境政策に関する調査研究を行う。調査研究はゼミ生各自が能動的かつ自由に行い、成果を卒業論文としてまとめ、提出する。

メッセージ

琉球（沖縄）を良くしたいという熱意のある学生を求む！一緒に目から血が出るほど勉強しましょう！

到達目標

ねらいの達成。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

(1)イントロ
(2)卒業論文について
(3)卒業論文のテーマについて　1
(4)卒業論文のテーマについて　2
(5)卒業論文の構成について　1
(6)卒業論文の構成について　2
(7)卒業論文の構成について　3
(8)卒業論文の執筆について　1
(9)卒業論文の執筆について　2
(10)卒業論文の執筆について　3
(11)卒業論文の執筆について　4
(12)卒業論文の執筆について　5
(13)卒業論文の執筆について　6
(14)卒業論文の執筆について　7
(15)卒業論文の執筆について　8
(16)前期のまとめ

テキスト・参考文献・資料など

必要に応じて紹介する。

学びの手立て

毎回出席すること。

評価

単位取得には、3分の2以上の出席、卒業論文の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。原則として、遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。評価は、ゼミにおける発言の内容（20%）や卒業論文（50%）、プレゼンテーションの内容（30%）により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習Ⅳ

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるための実体験できる科目。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 演習Ⅳ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木３	2
担当者 友知　政樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年		

学びの準備

ねらい

演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの総まとめとして、卒業論文を作成し、プレゼンし、提出する。

メッセージ

琉球（沖縄）を良くしたいという熱意のある学生を求む！一緒に目から血が出るほど勉強しましょう！

到達目標

ねらいの達成。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

(1)イントロ
(2)卒業論文について
(3)卒業論文の構成(見直し)について　1
(4)卒業論文の構成(見直し)について　2
(5)卒業論文の構成(見直し)について　3
(6)卒業論文の執筆について　1
(7)卒業論文の執筆について　2
(8)卒業論文の執筆について　3
(9)卒業論文の執筆について　4
(10)卒業論文の執筆について　5
(11)卒業論文の執筆について　6
(12)卒業論文の提出とプレゼンについて　1
(13)卒業論文の提出とプレゼンについて　2
(14)卒業論文の提出とプレゼンについて　3
(15)卒業論文の提出とプレゼンについて　4
(16)総まとめ

テキスト・参考文献・資料など

必要に応じて紹介する。

学びの手立て

毎回出席すること。

評価

単位取得には、3分の2以上の出席、卒業論文の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。原則として、遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。評価は、ゼミにおける発言の内容（20%）や卒業論文（50%）、プレゼンテーションの内容（30%）により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

実社会。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、また実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅳ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金１	2
担当者 島袋　伊津子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	授業の前後に直接問い合わせて下さい。	

学びの準備

ねらい
卒業論文執筆を通して、資料をよく読み、自分の考えを根拠を持って提示する力をみにつける。

メッセージ
【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標
卒業論文を完成させる。
卒業論文の条件は、15000字以上、実証的な分析、先行研究のレビューを十分行う等。

学びの実践

学びのヒント
授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

第1回　ガイダンス
第2回～第15回　先行研究を踏まえて、自分のオリジナルな分析をし、結論をまとめ卒業論文を完成させる。
第16回　最終発表会

テキスト・参考文献・資料など
各自の卒業論文のテーマに応じて適宜指定する。

学びの手立て
卒業論文執筆を通じて、論文の書き方の基礎的な力を身につけてほしいので、分からないところは自発的に質問してほしい。

評価
報告点（５０％）＋平常点（５０％）

学びの継続

次のステージ・関連科目
演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目や演習等の実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅳ		期 別	曜日・時限	単 位
		後期	水１	2
担当者 根路銘　もえ子		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		４年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本演習では、演習IIIで各自が設定したテーマについて、詳細な調査や実装を行い、調査・実装結果に考察を加え、卒業論文をまとめる。演習の時間は、各自の進捗状況を報告してもらい、調査方法や調査内容について、ゼミ生同士で意見交換や議論する時間とする。

メッセージ

ゼミでは調査・まとめ・報告・ディスカッションが重要です。自ら積極的に動き、ゼミ内でも活発に交流して下さい。ゼミでわからないことがあれば気軽に相談して下さい。

到達目標

・自らが設定したテーマに関して、調査・分析・まとめ・問題解決の提案ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

(1) 夏休みの調査報告（第1・2回）
(2) 卒論テーマに関する情報収集・調査・卒論制作（第3～5回，第8～10回）
(3) 研究の進捗状況発表（第6・7回，第11・12回）
(4) 発表資料・ポスター作成（第13・14回）
(5) 発表会（第15・16回）

テキスト・参考文献・資料など

テキスト・参考文献は講義時に適宜紹介する。

学びの手立て

履修の心構え
・今後卒業して社会の一員になるという意識を高く持ち、自ら問題を見つけ解決することができるよう頑張りましょう。
学びを深めるために
・新聞記事を読むこと、ゼミ生同士のディスカッションが学びを深める助けになります。

評価

平常点（ゼミ中の取組）20%、卒業論文報告80%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

大学で学んだ事を活かして、社会の一員として活躍して下さい。

※ポリシーとの関連性　自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得させるための専門科目の提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅳ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水１	2
担当者 小川　護	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	問い合わせはメールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

演習Ⅲで進めてきた経済地理学の調査・研究に必要な地域調査の考え方と手法の把握を基礎として、自らテーマを設定し、先行研究の調査、文献調査、フィールドワーク、調査で得られた資料の分析を行い卒業論文の完成を目指す。

メッセージ

演習ⅡはGISを含めた専門的調査方法･分析を基礎に､卒業論文作成のための積み上げ型専門科目です。卒論提出(1月末日)を目安に各自で卒論の調査、執筆スケジュールをしっかり立てて、計画的に進めていってください。
社会に出ても、ゼミで習得した思考力、計画性、分析力等を発揮できるようにがんばって欲しい。

到達目標

演習Ⅲで進めてきた地域に関する諸課題解決のための調査、分析などのスキルを基礎として、自らテーマ設定、調査、分析を行い、最終的に卒業論文にまとめる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	卒論にむけての先行研究の検討と発表①	発表資料の準備
2	卒論にむけての先行研究の検討と発表②	発表資料の準備
3	卒論にむけての先行研究の検討と発表③	発表資料の準備
4	卒論にむけての先行研究の検討と発表④	発表資料の準備
5	卒論にむけての先行研究の検討と発表⑤	発表資料の準備
6	卒論の調査結果の中間報告と検討①	発表資料の準備
7	卒論の調査結果の中間報告と検討②	発表資料の準備
8	卒論の調査結果の中間報告と検討③	発表資料の準備
9	卒論の調査結果の中間報告と検討④	発表資料の準備
10	卒論の調査結果の中間報告と検討⑤	発表資料の準備
11	卒論の執筆・推敲と補足調査①	発表資料の準備
12	卒論の執筆・推敲と補足調査②	発表資料の準備
13	卒論の執筆・推敲と補足調査③	発表資料の準備
14	卒論の執筆・推敲と補足調査④	発表資料の準備
15	ポスターセクションのための発表資料の作成	ポスター作製
16	論文提出および論文集の作成と発行	論文集の印刷・発行

テキスト・参考文献・資料など

野間晴雄他「ジオ・パルNEO ―地理学・地域調査便利帖―」第2版、2016年、海青社、定価2700円

学びの手立て

出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習Ⅳでの発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受ける事。卒論のための調査および執筆スケジュールをしっかり立てること。

評価

卒業論文提出とその内容をもって評価する(100%)。

学びの継続

次のステージ・関連科目

卒業論文をまとめたことを基礎として、社会に出ても、ゼミで習得した思考力、計画性、分析力等を発揮できるようにがんばって欲しい。

※ポリシーとの関連性　社会問題について問題意識を持ち、己と結びつける。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 演習Ⅳ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木３	2
担当者 呉　錫畢	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	簡単な質問はメールで、多い場合にはオフィスアワーを利用すること（研究室5508）	

学びの準備

ねらい
卒業論文を作成することによって報告書の基本を身に付ける。

メッセージ
書く力を鍛える。

到達目標
問題意識を身に付け、引用及び参考文献の活用方法を学び卒業論文を完成する。

学びの実践

学びのヒント
授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	1週目：卒業論文の作成準備	夏休み中の調査を整理
2	2週目：夏休み中の調査内容を中間報告1	テーマ別で報告準備
3	3週目：夏休み中の調査内容を中間報告2	テーマ別で報告準備
4	4週目：夏休み中の調査内容を中間報告3	テーマ別で報告準備
5	5週目：夏休み中の調査内容を中間報告4	テーマ別で報告準備
6	6週目：夏休み中の調査内容を中間報告5	テーマ別で報告準備
7	7週目：卒業論文テーマを決定し討論をさらに深める1	卒業生の論文を読む
8	8週目：卒業論文テーマを決定し討論をさらに深める2	卒業生の論文を読む
9	9週目：卒業論文テーマを決定し討論をさらに深める3	卒業生の論文を読む
10	10週目：役員を中心に卒業論文集の編集1	論文集作成
11	11週目：役員を中心に卒業論文集の編集2	論文集作成
12	12週目：卒論のプレゼンテーション1	卒論発表のリハーサル
13	13週目：卒論のプレゼンテーション2	卒論発表のリハーサル
14	14週目：卒論の編集及び校正1	印刷会社と調整
15	15週目：卒論の編集及び校正2	印刷会社と調整
16	16週目：卒業論文の完成	総括

テキスト・参考文献・資料など

参考文献として
①小林・船曳編（1994）『知の技法』、東京大学出版会。
②植田和弘（1998）『環境経済学への招待』、丸善ライブラリー。
③呉錫畢（2006）『環境・経済と真の豊かさ』、日本経済評論社。

学びの手立て

従来の卒業論文を読み、実際に自分の論文を作成する。

評価

授業参加度：50%、卒論プレゼンテーション：30%、卒論精度：20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

論文とは何か、論文の作法を身に付ける。

※ポリシーとの関連性　沖縄の自然環境の理解を深めるために、座学およびフィールドワークでより深く学ぶためのゼミ科目　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅳ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月３	2
担当者 山川（矢敷）　彩子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	メール：a.yamakawaアットokiu.ac.jp 研究室：9号館505室、実験室：3号館505室	

学びの準備

ねらい

演習Ⅳでは、沖縄の自然環境や生物、それらの保全に関して、卒業研究の実施、卒業論文の作成をおこなう。

メッセージ

演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（山川ゼミ）を登録した学生のみWeb登録を許可する。

到達目標

・自らの意思で卒業研究を実施し、オリジナルなデータを定期的に収集できるようになる。
・得られたデータを毎月レジメにまとめて報告できるようにする。
・卒業論文を所定の様式にそって、作成する。
・ポスターを作成し、卒業研究発表会で発表する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

※基本的にゼミはすべて対面式で実施する。場合によってはオンラインゼミを併用する。

(1) 卒業研究
演習Ⅲに引き続き卒業研究を実施する。月2回程度フィールドに出て調査をおこない、自分でデータを収集する。データはレジメにまとめ、定期的に報告する。

＜過去の卒業研究の例＞
・沖縄の海の危険生物に関する意識調査
・沖縄本島におけるウミガメの産卵場所に関する聞き取り調査
・泡瀬干潟におけるホソバウミジグサの観察
・宇座海岸におけるイノーの生物の動向調査
・金城ダムにおける外来魚ジルティラピアの成長と産卵期推定
・佐敷干潟に生息するミナミコメツキガニの個体群動態
・泡瀬干潟の利用形態に関する聞き取り調査

(2) 卒業論文の執筆
先行研究の整理をおこない、得られた調査データを整理し、図表にまとめ、結果を読み取る。執筆要領をもとに、卒業論文をまとめていく。卒論ポスターを作成し、発表会に参加する。

(3) 時間外学習
卒業研究の調査は、基本的に講義外の時間に自分で調整しておこなう。月2回ほど調査に行きデータを収集する。報告のためのレジメ作成、卒業論文の執筆などは基本的に講義外学習となる。

(4) スケジュールの目安
第1回　ガイダンス
第2～15回　卒業研究報告および卒論作成
第16回　卒業研究データの提出

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しない。適宜、卒業研究に関連する論文を紹介する。

学びの手立て

生きもの相手の調査の場合、とにかく、外へ出ること。億劫がらずに、ダメモトで行動を起こす。そうすると、いずれ結果はついてきます。

野外調査は天候や潮に左右されます。アルバイトを入れすぎず、余裕があるスケジュール管理をするようにしてください。調査日には必ず予備日を入れること。

ゼミの内容を効果的に学習するために、山川が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講すること。

評価

遅刻・欠席する場合には、事前に必ず連絡すること。メールによる連絡を受け付ける。
単位取得には、3分の2以上の出席、定期的な卒研報告（レジメ）の提出、中間発表の実施、論文執筆、ポスター発表参加が必須である。就職活動による公欠は半期2回までである。
評価は平常点（ゼミにおける参加姿勢）20%、卒業研究への取り組み姿勢35%、卒業論文の出来35%、ポスター発表会の取組10%などを総合し実施する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

環境資源論（山川ゼミ必修）、産業と環境（山川ゼミ必修）、生物学I・II、自然科学概論I・II、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、プログラミング演習など。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅳ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水３	2
担当者 砂川　かおり	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawaあっとまぁくokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

卒業論文作成に必要な、企画力、調査力、分析力、文章表現力等を学ぶ。

メッセージ

・自己管理をしっかりして、就活などで欠席する場合には、個別に指導を受けること。
・何事にも積極的に取り組んで、楽しいゼミにしていこう。
・授業外の課題にも積極的に取り組んでください。

到達目標

演習Ⅳでは、自らで研究テーマを設定し、先行研究調査、調査企画、調査実施、調査結果分析、論文作成、発表等を行う。
さらに、キャリアセミナーを通して、就活に対する意識も高めていく。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス、成績・時間割確認、就活・卒業論文制作経過報告（9/29）	調査研究
2	調査研究：ヒアリング、社会調査、環境分析等（10/6）	調査研究
3	調査研究：ヒアリング、社会調査、環境分析等（10/13）	調査研究
4	調査研究：ヒアリング、社会調査、環境分析等（10/20）	調査研究
5	調査研究：ヒアリング、社会調査、環境分析等（10/27）	ポスターセッション原稿骨子作成
6	ポスターセッション原稿①作成・提出（11/3）	ポスターセッション原稿修正
7	ポスターセッション原稿①添削・再提出（11/10）	卒論執筆
8	卒業論文②執筆（11/17）	卒論執筆
9	卒業論文②執筆（12/1）	卒論執筆
10	卒業論文②執筆（12/8）/エコプロ2021調査（東京）　12月8～10日　（希望者のみ）	卒論執筆
11	卒業論文②提出（12/15）	引用・参考文献記載方法の確認
12	卒業論文②添削・再提出（12/22）	卒論修正
13	卒業論文②最終原稿提出（1/5）	ポスターセッション原稿見直し
14	ポスターセッション原稿①完成（1/12）	卒論発表練習
15	ポスターセッション原稿①展示（1/19）	ポスターセッションの練習
16	卒論発表会③・授業評価アンケート記入（1/26予定）・卒論ポスターセッション①（1/28予定）	お世話になった方々へお礼を述べる

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：指定なし。適宜、資料を配布する。
参考文献：①砂川ゼミの卒論集、②その他、適宜紹介する。

学びの手立て

・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。
・自己管理をしっかりして、就活などで欠席する場合には、個別に指導を受けること。
・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。
・以下に該当する学生は、事前に教員に連絡して下さい。①発熱・体調不良のある学生、②家族に発熱者(37.5度以上)がいる学生、③１週間以内に本人や家族が沖縄県外へ渡航履歴のある者

評価

・単位取得の条件：２／３以上の出席、調査実施、卒論作成、卒論発表が必要です。
・その上で、評価の割合は、卒業論文制作②（６０％）、卒論発表会での発表③（２０％）、ポスターセッション①（２０％）とします。

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習III

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できないITを活用した科目、演習等の実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅳ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月３	2
担当者 前泊　博盛	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	研究室　５号館４０５研究室　hmaedomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておくと、講義・学習の理解が一層深まります。

メッセージ

演習は対面で実施します。新型コロナ感染拡大の場合は、遠隔講義に移行します。感染状況と感染防止に十分注意して、演習を充実させていきましょう。沖縄経済に関する基本文献、論文、資料、データを収集し、調査研究の基本的な準備を行い、問題意識を醸成。コロナ感染症対策として遠隔ゼミ実施に必要なパソコン、Wi-Fi環境の確保を。

到達目標

１：経済理論を踏まえ、沖縄経済の特徴を分析します。
２：沖縄経済の基本データの分析・解析手法を習得します。
３：経済課題の抽出方法を習得します。
４：経済課題の解決法を調査・研究、整理する力を習得します。
５：調査・分析した結果を卒業論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	後期　演習Ⅳの研究計画とゼミ運営方針の確認	後期計画の策定
2	卒論「第３章」「第４章」とりまとめ報告①　　就活報告	PP作成
3	卒論「第３章」「第４章」とりまとめ報告②　　就活報告	PP作成
4	卒論「第３章」「第４章」とりまとめ報告③　　就活報告	PP作成
5	卒論「第３章」「第４章」とりまとめ報告④　就活報告	PP作成
6	卒論「第５章」「まとめ」とりまとめ報告①　　就活報告	PP作成
7	卒論「第５章」「まとめ」とりまとめ報告②　　就活報告	PP作成
8	卒論「第５章」「まとめ」とりまとめ報告③　　就活報告	個別指導（研究室）
9	卒論「第５章」「まとめ」とりまとめ報告④　　就活報告	個別指導（研究室）
10	卒論総括①「目次、参考文献、奥付などの整理」　★就活報告	個別指導（研究室）
11	卒論総括②「目次、参考文献、奥付などの整理」　★遠隔ゼミ交流	個別指導（研究室）
12	卒論ポスター作製①PP校正	個別指導（研究室）
13	卒論ポスター作製②PP印刷	個別指導（研究室）
14	ゼミ活動の総括（卒論印刷・ゼミ論集仕上げ）	個別指導（研究室）
15	ゼミ論集の校正、印刷	県外、国外調査の実施計画策定
16	ゼミ活動の総括と反省	ゼミ活動の総括

テキスト・参考文献・資料など

卒論の先行研究、卒論関係論文・資料の収集、関係データの収集と整理、分析。ｖ

学びの手立て

先行研究論文の整理、課題の設定、論文構成力の向上、専門用語の習得、論点整理、執筆力の向上。

評価

論点整理、論文の完成度、参考文献の整理・活用、独自の視点・争点・論点・分析の熟度で評価。評価は平常点（リアクションペーパー）60%、調査リポート発表20%、期末リポート20%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

論点を整理し、データで検証・分析する力を身に着ける。実社会に通用するブラッシュアップの機会を確保する。大学院進学。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境についての調査を基に定量的な分析を行い，地域社会の問題解決を模索する．

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	演習Ⅳ	後期	月３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地　朝央	４年	メールでお問い合わせください． t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

地域の抱える問題を調査し，定量的な分析によって客観的な問題解決の方法を身につける．

メッセージ

座学での勉強を基に調査・分析を行い実社会で役立つ知識を蓄えましょう．
今期、状況に応じて対面またはteamsによるオンデマンド形式で授業を行う。

到達目標

・座学によって知識を蓄え，知的好奇心を持つ．
・統計分析の学習とデータの扱い方について学ぶ．
・分析結果をまとめて発表を行う．

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	授業計画についての説明（対）	授業計画を確認する
2	輪読1（対）	授業内容を復習する
3	輪読1（対）	授業内容を復習する
4	輪読1（対）	授業内容を復習する
5	輪読1（対）	授業内容を復習する
6	輪読2（対）	授業内容を復習する
7	輪読2（対）	授業内容を復習する
8	輪読2（対）	授業内容を復習する
9	輪読2（対）	授業内容を復習する
10	統計データの扱い1（対）	統計データの内容を確認する
11	統計データの扱い2（対）	統計データの内容を確認する
12	統計データの扱い3（対）	統計データの内容を確認する
13	分析手法の学習1（対）	授業内容を復習する
14	分析手法の学習2（対）	授業内容を復習する
15	統計データの分析1（対）	分析内容を確認する
16	統計データの分析2（対）	分析内容を確認する

テキスト・参考文献・資料など

適時，参考資料を配布する．

学びの手立て

授業中に輪読する書籍について図書館を利用することが望ましい．

評価

・授業参加度（3割）とレポート提出（3割），発表内容（3割），統計データ作成（1割）で評価を行う．

学びの継続

次のステージ・関連科目

「地域経済Ⅰ・Ⅱ」の知識を統計データを通して実証し，より専門的な分野を学習する．

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 演習Ⅳ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金２	2
担当者 齋藤　星耕	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付ける。	

学びの準備

ねらい

演習では、研究することを学ぶ。先行研究を読み解く力、研究計画を立てる力、研究を遂行する力、データを適切に解釈する力、科学的に議論できる力を養う。四年次では自らの独自の研究課題に取り組む。

メッセージ

演習III-IV（4年次）では卒業研究を行います。自らの問いに答えるためには、どのような情報が必要か、どうすればそれが得られるか、先行研究と自分のこれまでの知識を動員して考えなければなりません。そして、実験をするにしてもインタビューをするにしても、自分から動いていかねばなりません。そうして得られた情報を総合し、卒業論文に取り組みます。

到達目標

文献を読み解き、提示されているデータの意味を理解できる。
文献の内容や、自分自身の研究成果をプレゼンテーション出来る。科学的な内容について討論することが出来る。
適切な研究計画を立てることができる。計画に基づいて研究を実行できる。自ら取得したデータを分析でき、適切な結論を導ける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

原則として対面授業で実施する。
但し、必要に応じて、リスクのある履修者がオンライン参加を選択できるように、対面・オンライン併用とすることがある。

第1回(対面) オリエンテーション
第2～16回(対面) 卒業研究（生命科学、機械学習、再生可能エネルギーなどから各自決定）の課題に取り組む*

「時間外学習の内容」：各自が課題に取り組む

* 必要に応じて下記に挙げる事業所または各自が開拓した事業所からの協力を得る：
1. 琉球大学分子生命科学研究施設
2. 一般社団法人沖縄県環境・エネルギー研究開発機構

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。

学びの手立て

ゼミでは、文献紹介、自らの課題の計画・進捗の報告を行う。当然ながら、ゼミの時間外での取り組みが必須である。各人の積極的な貢献を期待する。やむを得ない欠席や遅刻の場合は、教員に直接、事前に連絡すること。
また卒業研究における関係先に対しては失礼のないようにすること。

評価

平常点（ゼミへの参加、発表、小レポート）：50%
卒業研究課題への取り組み及び学期末の発表：50%

学びの継続

次のステージ・関連科目

土壌学概論、島嶼環境論、環境科学実験、農業と環境、エコビジネス論

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、実体験できる科目を提供。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 演習Ⅳ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金２	2
担当者 上江洲　薫	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	研究室５－６３２ kuezu@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本演習では、演習Ⅰ・Ⅱで取得した社会調査の手法などを基に、各自が設定したテーマに沿って現地での詳細な調査および考察をを行い、その内容を卒業論文にまとめる。この課程により、情報収集・分析・プレゼンテーション・企画力の能力をより一層高め、一般社会で適応できる能力を身につける。

メッセージ

本演習は、取り組み内容が多く、日程的に忙しく、内容的にも厳しいが、丁寧に指導していくため、前向きに取り組んで欲しい。また、目の前にある課題を少しでも解決できる人材になって欲しい。

到達目標

①卒業論文の作成にあたり、聞き取り調査や調査票調査、簡易な自然調査、店舗・土地利用調査などを実施し、その一時データの　分析・考察ができる。
②卒論の仮提出は年末までに行い、指摘されたことを修正し卒論を完成することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

第1週	後期ガイダンス	：夏休みの取り組み内容の報告準備
第2～8週	考察分の作成・卒論の中間発表	：論文作成、報告準備
第9～15週	卒論の仮提出・添削、卒論の本提出	：仮提出の作成、修正
第16週	卒論報告会	：ポスター発表の準備、卒論完成

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：特に指定しない。
参考文献：①大谷信介他編著(2005)『社会調査へのアプローチー理論と方法ー』(第2版)ミネルヴァ書房。
②佐々木一成(2008)『観光振興と魅力あるまちづくり』学芸出版社。

学びの手立て

履修の心構え：就職活動の事も考え、卒論の調査・作成を計画的に行うように。
学びを深めるために：日常的に観光地等の問題・課題に関心を持ち、新聞や専門図書等を読む。

評価

平常点(30点)：演習中の取り組み内容などを確認します。
卒業論文の作成(70点)：卒業論文の内容、提出期限の厳守、ポスター発表の内容などの取り組みを評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

次のステージ：社会に出ても、ゼミで取得した思考力、計画性、分析力等を発揮できるように頑張って欲しい。
関連科目：「観光経済論」「観光情報論」「沖縄の観光」「社会調査論Ⅰ・Ⅱ」は受講して欲しい。

※ポリシーとの関連性　地域経済・沖縄経済に関する基本情報の収集、分析、解析手法を学びます。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 沖縄経済論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火３	2
担当者 前泊　博盛	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県企画部『経済情勢』沖縄振興開発金融公庫『沖縄経済ハンドブック』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておくと、講義・学習の理解が一層深まります。

メッセージ

※遠隔講義です。（コロナ感染防止のため）。オンラインライブ配信だけでなく、レコーディングしてオンデマンド配信もします。受講後、Googleフォームに毎回回答返信してください。戦後沖縄経済の特徴と強み、有効需要創出のための公共事業の展開がもたらした効果と弊害、基地経済の長短新１０K経済の可能性を検証します。遠隔講義に対応するパソコンとWi-Fi環境の準備が必要です。

到達目標

１：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。
２：基本データの分析・解析手法を習得します。
３：課題の抽出方法を習得します。
４：課題解決法を調査・研究する力を習得します。
５：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（特）講義の概要解説・受講の注意・評価方法の説明	沖縄経済の特徴について整理
2	（特）沖縄県経済の概況	沖縄の人口の特徴
3	（特）沖縄県の人口の推移と経済	少子高齢化の原因と対策を調査分析
4	（特）労働力人口の変動と地域経済（労働力人口の概念と変化）	なぜ沖縄は高失業県になったのか。
5	（特）完全失業率の推移と雇用・失業問題（なぜ沖縄は高失業県か）	沖縄の「格差社会」の要因とは
6	（特）所得分配構造と所得水準(低所得県・沖縄の分析)	所得分配構造分析
7	（特）県外受取と県外支出（「自立経済」論と域外収支バランス分析）	収支バランスの分析
8	（特）農林水産業の現状と課題（キビ経済から健康食品経済へ）	農林水産業の推移と分析手法の習得
9	（特）畜産業の課題と可能性（養豚と肉牛のブランド戦略）	急成長する畜産業の特徴と課題分析
10	（特）産業誘致政策の検証（製造業とモノづくり産業の課題と可能性）	沖縄における「製造業」の特徴分析
11	（特）建設業と公共投資効果分析（ザル経済の構造分析）	ケインズ経済学と沖縄経済の分析
12	（特）沖縄県の商業（大型SCの地域振興効果分析、コロナ禍の国際通り調査分析）	開業率と廃業率にみる商業分析
13	（特）観光経済（観光経済と統計学＝観光入域客数と費額の算定方法と統計の検証）	沖縄観光の高付加価値戦略分析
14	（特）ICT産業の振興戦略（情報通信産業の特徴と展望）	ICTの利点と弱点の分析
15	（特）国際航空貨物ハブ戦略の検証（物流とアジア経済戦略構想）	アジア経済戦略の狙いと実態
16	（特）沖縄経済経済論Ⅰの総括　※ゲスト講師	沖縄経済の課題と展望Report

テキスト・参考文献・資料など

沖縄県企画部『経済情勢』（各年度版）、前泊博盛『もっと知りたい！本当の沖縄』2008年、岩波書店、百瀬恵夫・前泊博盛著『検証沖縄問題』東洋経済新報社、2002年　沖縄県『沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書』2020年3月、沖縄振興開発金融公庫『沖縄経済ハンドブック』2020年版

学びの手立て

講義皆出席を。毎講義時のリアクション・ペーパーは、口述筆記能力と文章力を高め、講義内容の整理に役立ちます。出席確認にもなります（毎回執筆提出）。

評価

毎回提出するリアクション・ペーパーの内容を基に出席点を加点します。期末、中間のリポート提出で、調査・分析能力を評価して、成績に反映させます。4回欠席で不可になります。評価は平常点（リアクションペーパー、ミニ未テスト）60%、中間リポート20%、期末試験20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

「島嶼経済論ⅠⅡ」「琉球・沖縄経済史ⅠⅡ」を並行して受講すると、より理解が深まります。その先の専門教育となる大学院地域産業研究科「沖縄経済特集講義」「沖縄経済特殊研究ⅠⅡ」で、沖縄経済の個別具体的な課題研究と経済理論分析に挑戦してください。

※ポリシーとの関連性　地域経済・沖縄経済に関する基本情報の収集、分析、解析手法を学びます。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 沖縄経済論Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火３	2
担当者 前泊　博盛	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	※遠隔講義。オンラインライブ配信とオンデマンド配信で受講。hmaedomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておくと、講義・学習の理解が一層深まります。

メッセージ

※遠隔講義（コロナ感染防止のため）。オンラインライブ配信とオンデマンド配信で受講。受講後、Googleフォームに毎回回答返信してください。遠隔講義に対応するパソコンとWi-Fi環境の準備が必要です。10年に一度の沖縄経済の総点検＝『沖縄21世紀ビジョン基本計画等（沖縄振興計画）総点検報告書』（沖縄県）＝を読み解きます。

到達目標

１：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。
２：基本データの分析・解析手法を習得します。
３：課題の抽出方法を習得します。
４：課題解決法を調査・研究する力を習得します。
５：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（特）沖縄経済論Ⅱの講義概要ガイタンス（もっと知りたい！本当の沖縄経済）	総論から各論への流れの整理
2	（特）３K依存経済と新１０K経済の課題と展望　（基地、公共事業、キビ依存経済の構築と課題）	後期講義のポイント
3	（特）第1次沖縄振興開発計画の検証①（自立経済、格差是正の罠を解く）	21世紀ビジョンのポイント整理
4	（特）今後の沖縄振興の基本的な考え方　※学外特別講師予定	沖縄振興策とは何か。
5	（特）第2次沖縄振興開発計画の検証②（インフラ整備と経済発展の関連分析）	沖縄振興の課題の整理
6	（特）第3次沖縄振興開発計画の検証③（日本に貢献する地域への転換）	振興策の基本方向を決める要因
7	（特）沖縄振興計画（第4次振計）の検証（ハードからソフトへの転換の検証）	日本経済と沖縄経済の関連
8	（特）沖縄21世紀ビジョン（第5次振計）の検証　※学外特別講師予定	社会基盤の役割
9	（特）次期沖縄振興計画の検証①（モノづくり、ICT戦略）	観光産業の課題と展望
10	（特）次期沖縄振興計画の検証②（格差是正と域内格差是正、貧困問題を解く）	情報通信産業に関する特徴の整理
11	（特）アジア経済戦略構想の検証（アジアの課題と可能性）	新産業の分析
12	（特）米軍基地経済の分析①　（基地依存経済の構築と呪縛）	農林水産・畜産業の特徴を整理
13	（特）米軍基地経済の分析②（脱基地経済の可能性と展望）	基地経済の課題と可能性
14	（特）自衛隊基地経済の分析③　（もう一つの基地経済を検証する）	新１０K経済とは？
15	（特）沖縄「新１０K経済の現状と課題」新振興計画の課題と展望	新１０K経済の課題と展望総括
16	（特）沖縄経済論Ⅱの総括　※学外特別ゲストによる遠隔講義	沖縄経済論ⅠⅡの総括と整理

テキスト・参考文献・資料など

櫻澤誠著『沖縄現代史』（中公新書）小熊英二著『日本社会のしくみ』（講談社現代新書）沖縄県『沖縄21世紀ビジョン基本計画等（沖縄振興計画）総点検報告書』（沖縄県）有識者チーム編『新沖縄発展戦略：新たな新交計画に向けた提言』（沖縄県）沖縄振興開発金融公庫編『沖縄経済ハンドブック』（〃）日本政策投資銀行編『地域ハンドブック』（〃）沖縄県企画部『経済情勢（平成29年度版』2018年8月、前泊博盛『もっと知りたい！本当の沖縄』2008年、岩波書店、百瀬恵夫・前泊博盛著『検証沖縄問題』東洋経済新報社、2002年

学びの手立て

講義皆出席を。毎講義時のリアクション・ペーパーは、口述筆記能力と文章力を高め、講義内容の整理に役立ちます。（毎回執筆提出）。

評価

毎回提出するリアクション・ペーパーの内容を基に出席点を加点します。期末、中間のリポート提出で、調査・分析能力を評価して、成績に反映させます。4回欠席で不可になります。評価は平常点（リアクションペーパー）60%、中間リポート20%、期末試験20%。講義のGoogleフォームは出席確認になるので毎回確実に返信してください。

学びの継続

次のステージ・関連科目

島嶼経済論ⅠⅡ、琉球・沖縄経済史を並行して受講すると、より理解が深まります。その先の専門教育となる大学院地域産業研究科「沖縄経済特集講義」「沖縄経済特殊研究ⅠⅡ」で、沖縄経済の個別具体的な課題研究と経済理論分析に挑戦してください。

※ポリシーとの関連性　日常生活にあふれる情報を鵜呑みにせず、正しい知識と分析により真実を追及する力、社会を考える力を身につける。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	沖縄社会統計セミナー	後期	水４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-安里　長従	２年	Eメールにて受付します toogoo-asato@woody.ocn.ne.jp	

学びの準備

ねらい

「沖縄から貧困がなくならない本当の理由」は本当か？　県民性や社会文化の問題として語られることが多い沖縄の貧困。これらを「疑い」の目を持って、沖縄社会を構造的に考察していく。同時に統計や参与観察研究を利用した「バイアス」を分析しながら、沖縄の貧困・雇用・経済、そして基地問題の解決の道筋を探るとともに、未来の沖縄を形成するための自己決定や社会参加について考える。

メッセージ

バイアスとは、傾向・先入観・偏見をいう。なぜ私たちは物事を見る際にバイアスがかかるのだろうか。沖縄の貧困や経済のこと、そして基地問題など、本来身近であるはずの問題に目を向け、私たちがいかにバイアスがかかった見方をしているのかを確認する。その背景を歴史学、経済学、社会学、政治学などのディシプリン（個別科学）の壁を溶解しながら考えることの重要性が学べる。

到達目標

沖縄の経済問題、貧困問題、基地問題など沖縄社会に現実に起こっていることを知ることから始まり、その存在を認識するだけでなく、その意味を理解する。例えば、貧困問題が深刻な社会問題であることは多くの人びとの共通認識となっているが、日本では貧困が何を意味しているのかをめぐる理解、つまり「貧困観」がバラバラである。これは、「貧困とは何か」という根本的な問いから出発する「貧困理論」ではない「貧困論」ばかりが先行していることが原因である。このようにその意味を真に理解していくための学習（統計の見方その基礎、貧困理論、認知バイアス理論、ポストコロニアル理論、カルチュラルスタディーズ、アイデンティティ、ケイパビリティ、正義論、平和学、民主主義、人権など）を通しその基礎的な知識と社会を多角的に考える能力が習得できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション：貧困を例に概念と定義を理解することの重要性	
2	現状と課題に対する整理―沖縄の経済・貧困・労働・基地問題①	配布資料の復習、テキストの予習
3	現状と課題に対する整理―沖縄の経済・貧困・労働・基地問題②	配布資料の復習、テキストの予習
4	貧困理論―貧困概念の変遷と整理―ケイパビリティ理論①	配布資料の復習、テキストの予習
5	貧困理論―貧困概念の変遷と整理―ケイパビリティ理論②	配布資料の復習、テキストの予習
6	真実を覆い隠す統計等の引用・統計の見方と基礎	配布資料の復習、テキストの予習
7	真実を覆い隠す統計等の引用・フェイクを見抜けるか	配布資料の復習、テキストの予習
8	「沖縄論」と対峙する・認知バイアス理論	配布資料の復習、テキストの予習
9	差別の克服・人権の保障のために世界がしてきたこと	配布資料の復習、テキストの予習
10	「沖縄論」から考えるカルチュラルスタディーズ	配布資料の復習、テキストの予習
11	沖縄の歴史などからポストコロニアル理論を考える	配布資料の復習、テキストの予習
12	アイデンティティとは、その役割―アイデンティティ考える社会問題	配布資料の復習、テキストの予習
13	構造的暴力概念から考える平和学と社会正義	配布資料の復習、テキストの予習
14	民主主義や人権の歴史及びそれが果たす役割	配布資料の復習、テキストの予習
15	まとめ	配布資料の復習、テキストの予習
16	レポート提出	

テキスト・参考文献・資料など

「沖縄発新しい提案―辺野古新基地を止める民主主義の実践（ボーダーインク、2018）」
「福祉再考-実践・政策・運動の現状と可能性（旬報社、2020）」
その他参考になる文献は適宜紹介する。

学びの手立て

沖縄の最新状況を知るために、書籍、新聞記事、インターネット記事等を読むこと、また、これらの根拠となっている文献、データ、統計資料にあたることを薦める。

評価

レポート、講義ごとのリアクションペーパー、出席率などを総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

物事を整理、分析する方策を学び、これから社会人として対峙する様々な問題に対して解決する能力を習得することができる。

※ポリシーとの関連性　「考察力」（経済・社会の問題を論理的に考察する力）の育成。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	沖縄の経済事情Ⅰ	後期	水４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	_沖縄の経済事情Ⅰ教	１年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

沖縄県内の金融業界に関する業界研究・業界分析。

メッセージ

金融業界に興味がある学生・就職希望の学生にお勧めします。
履修登録の対象は、「全学部１～３年生」。ただし定員超過の場合は経済学部3年生・2年生を優先する。
【実務経験】金融系企業１４社の会社員が、勤務経験に基づき自社の特徴・具体的業務内容・業界事情・自身の職歴等について解説する。

到達目標

金融業界における業務の多様性を理解する。金融系企業の特徴を理解した上で、多数の企業に積極的に就職活動を行う。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（対）ガイダンス・銀行業務の基礎知識	基礎知識を理解する
2	（対）銀行１	新聞等から学ぶ。客として会社観察
3	（対）金融業界の基礎知識	新聞等から学ぶ。客として会社観察
4	（対）損害保険会社１	新聞等から学ぶ。客として会社観察
5	（対）銀行２	新聞等から学ぶ。客として会社観察
6	（対）日本銀行	新聞等から学ぶ。客として会社観察
7	（対）銀行系研究所	新聞等から学ぶ。客として会社観察
8	（対）銀行３	新聞等から学ぶ。客として会社観察
9	（対）証券会社・中間レポート提出	新聞等から学ぶ。客として会社観察
10	（対）保証会社	新聞等から学ぶ。客として会社観察
11	（対）損害保険会社２	新聞等から学ぶ。客として会社観察
12	（対）リース会社	新聞等から学ぶ。客として会社観察
13	（対）銀行４	新聞等から学ぶ。客として会社観察
14	（対）損害保険会社３	新聞等から学ぶ。客として会社観察
15	（対）銀行系カード会社	新聞等から学ぶ。客として会社観察
16	（対）期末レポート提出	新聞等から学ぶ。客として会社観察

テキスト・参考文献・資料など

毎回資料を配布する。テキストなし。

学びの手立て

社会人講師による貴重な講義であることを理解し、真剣に取組み、記録すること。
資料や記録は大切に保存し、就職活動時に役立ててほしい。
毎回、小レポートを記述し提出すること。

評価

平常点２０％、提出物（小レポート、中間レポート、期末レポート）８０％。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「金融論Ⅰ・Ⅱ」「金融投資Ⅰ・Ⅱ」

※ポリシーとの関連性　地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すための環境政策への理解を深める環境関連の科目を提供　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 環境アセスメントⅠ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水１	2
担当者 -木村　英彰	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	ptt1212@gmail.com	

学びの準備

ねらい

道路建設、港湾建設、ダム建設等の各種開発事業の実施による環境への影響を事前に予測評価し、その対策を検討することが、良好な環境を保全し、持続可能な開発を行うために必要不可欠となっています。環境アセスメントIでは、このような環境影響評価の実施に関連する法律・条例、現地調査手法、予測評価手法、環境保全措置等について学びます。

メッセージ

環境アセスメントの基礎を解説します。新聞やニュースにおいて頻繁に話題に上る環境アセスメントについて、この授業で学びましょう。授業では、15年以上の環境コンサルタント会社の勤務経験に基づく、環境に関する仕事や業務の取り組み方など、実務的な話題も盛り込んだ内容についても扱います。

到達目標

環境アセスメントについての基礎知識を得ることによって、メディアなどで報じられる環境アセスメントに関する話題を理解し、そのトピックや課題を把握できるようになること。
・関連する法律・条例
・環境アセスメントの手続き
・調査項目の内容、実施方法
・予測評価の方法　など

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（対）第1週：講義ガイダンス	シラバスを精読する
2	（対）第2週：環境アセスメントとは	関連するニュース、新聞を見る
3	（対）第3週：環境アセスメントに関する法律・条例	配布資料を見て講義内容を復習する
4	（対）第4週：環境アセスメントの対象事業	配布資料を見て講義内容を復習する
5	（対）第5週：環境アセスメントに携わる人々（事業者、行政、コンサルタントなど）	配布資料を見て講義内容を復習する
6	（対）第6週：環境アセスメントの手続き（1）概要	配布資料を見て講義内容を復習する
7	（対）第7週：環境アセスメントの手続き（2）配慮書	配布資料を見て講義内容を復習する
8	（対）第8週：環境アセスメントの手続き（3）方法書	配布資料を見て講義内容を復習する
9	（対）第9週：環境アセスメントの手続き（4）準備書・評価書	配布資料を見て講義内容を復習する
10	（対）第10週：環境アセスメントの手続き（5）事後調査報告書	配布資料を見て講義内容を復習する
11	（対）第11週：環境影響評価項目毎の調査及び予測評価手法（1）赤土等による水の濁り	配布資料を見て講義内容を復習する
12	（対）第12週：環境影響評価項目毎の調査及び予測評価手法（2）生態系	配布資料を見て講義内容を復習する
13	（対）第13週：環境影響評価項目毎の調査及び予測評価手法（3）その他	配布資料を見て講義内容を復習する
14	（対）第14週：環境アセスメントの保全対策事例（1）	配布資料を見て講義内容を復習する
15	（対）第15週：環境アセスメントの保全対策事例（2）	配布資料を見て講義内容を復習する
16	（対）期末試験	学んだ内容を整理する。

テキスト・参考文献・資料など

参考資料A：「環境アセスメント制度のあらまし　環境省」
参考資料B：「環境アセスメント（沖縄県環境影響評価条例のあらまし）　沖縄県」
これらの資料は最初の授業で配布、アップロードします。
その他の参考文献は、適宜紹介または配布、アップロードします。

学びの手立て

身近な環境関連の問題などに興味をもって考える習慣を身につけましょう。
日頃から、ニュース、新聞などを読み、開発事業や環境問題に関する情報に触れるようにしましょう。
分からないことは、その場で質問するか、大福帳で質問してください。
質問はできる限り答えますので、積極的にしてください。分からないことを放置しないように。
なお、欠席する場合は必ず欠席届を提出すること。

評価

期末試験と授業参加度を元に評価を行います。
講義に対する質問や感想、ミニテストを毎回、大福帳で提出してもらい、これによって出欠確認を行います。授業に出席したことが分かるような内容を記入してください。これらを元に授業参加度を評価します。
評価の割合は「期末試験:50%」、「授業参加度:50%」とします。
3分の1以上の欠席、試験を欠席した学生には単位を与えません。

学びの継続

次のステージ・関連科目

環境アセスメントⅡ

※ポリシーとの関連性　地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すための環境政策への理解を深める環境関連の科目を提供　[　　／一般講義]

科目基本情報			
科目名 環境アセスメントⅡ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水１	2
担当者 -木村　英彰	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	ptt1212@okiu.au.jp	

学びの準備

ねらい

環境アセスメントIでは、環境影響評価の実施に関連する法律・条例、現地調査手法、予測評価手法、環境保全措置等について講義を行いましたが、環境アセスメントⅡでは環境アセスメントを実施している事業について具体的に紹介し、理解を深めます。 さらに、海外のアセスメント事情や関連する法律の紹介を行います。

メッセージ

環境アセスメントの基礎を解説します。新聞やニュースにおいて頻繁に話題に上る環境アセスメントについて、この授業で学びましょう。授業では、15年以上の環境コンサルタント会社の勤務経験に基づく、環境に関する仕事や業務の取り組み方など、実務的な話題も盛り込んだ内容についても扱います。

到達目標

環境アセスメントの幅広い知識を得ることによって、メディアなどで報じられる環境アセスメントに関する話題をより深く理解し、そのトピックや課題を把握できるようになること。さらに、そこに自分なりの意見を持つことができるようになること。 具体的には、
・県内で行われている環境アセスメントの現状
・県外の環境アセスメントの現状
・海外の環境アセスメントの現状
これらを知ることによって、沖縄で行われている環境アセスメントの課題や問題点を、自分なりに考えられるようになること。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（対）第1週：講義ガイダンス	シラバスを精読する
2	（対）第2週：環境アセスメントの概要	配布資料を見て講義内容を復習する
3	（対）第3週：環境アセスメントにおける「希少な生物」とは	配布資料を見て講義内容を復習する
4	（対）第4週：環境アセスメントにおける「外来生物」とは	配布資料を見て講義内容を復習する
5	（対）第5週：県内の環境アセスメント事例（1）文教施設事業	配布資料を見て講義内容を復習する
6	（対）第6週：県内の環境アセスメント事例（2）南部地域道路事業	配布資料を見て講義内容を復習する
7	（対）第7週：県内の環境アセスメント事例（3）中部地域道路事業	配布資料を見て講義内容を復習する
8	（対）第8週：県外の環境アセスメント事例（1）　北海道	配布資料を見て講義内容を復習する
9	（対）第9週：県外の環境アセスメント事例（2）　神奈川県	配布資料を見て講義内容を復習する
10	（対）第10週：県外の環境アセスメント事例（3）	配布資料を見て講義内容を復習する
11	（対）第11週：海外の環境アセスメントの取り組み（1）　アメリカとの比較	配布資料を見て講義内容を復習する
12	（対）第12週：海外の環境アセスメントの取り組み（2）　アジアでの取り組み	配布資料を見て講義内容を復習する
13	（対）第13週：海外の環境アセスメントの取り組み（3）　台湾での事例	配布資料を見て講義内容を復習する
14	（対）第14週：海外の環境アセスメントの取り組み（4）　その他	配布資料を見て講義内容を復習する
15	（対）第15週：環境アセスメントの仕事に役立つ資格	配布資料を見て講義内容を復習する
16	（対）第16週：期末試験	学んだ内容を整理し試験に備える

テキスト・参考文献・資料など

参考資料A：「環境アセスメント制度のあらまし　環境省」
参考資料B：「環境アセスメント（沖縄県環境影響評価条例のあらまし）　沖縄県」
これらの資料は最初の授業で配布、アップロードします。
その他の参考文献は、適宜紹介または配布、アップロードします。

学びの手立て

「環境アセスメントＩ」を受講していることを前提に講義を行います。
身近な環境関連の問題などに興味をもって考える習慣を身につけましょう。
分からないことは、その場で質問するか、大福帳で質問してください。
質問はできる限り答えますので、積極的にしてください。分からないことを放置しないように。
なお、欠席する場合は必ず欠席届を提出すること。

評価

期末試験と授業参加度を元に評価を行います。
講義に対する質問や感想、ミニテストを毎回、大福帳で提出してもらいます。
これらを元に授業参加度を評価します。
評価の割合は「期末試験:50%」、「授業参加度:50%」とします。
3分の1以上の欠席、試験を欠席した学生には単位を与えません。

学びの継続

次のステージ・関連科目

環境アセスメントＩ

※ポリシーとの関連性　　全講義終了後に企業の環境会計の取組についてレポート提出をしてもらいます。その課程で研究し分析する力を身につけます。　　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 環境会計	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火３	2
担当者 -船越　沙香	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	e-ｍａｉｌにて受付致します。	

学びの準備

ねらい

近年、企業が環境保全への取組を環境会計として表現することにより、利害関係者が企業等の姿勢や取組を正しく理解し、評価、支援することが社会的責任になっています。そこで本講義では環境会計の概要等を学び、企業がどのような環境会計への取組を行っているかを学習します。

メッセージ

企業活動が自然資源に重要な影響を与えており、自然環境を保護し持続可能な開発を推進することが、企業の長期的存続の基礎となる。環境会計について興味を持って参加して下さい。
※GoogleClassroomを使用することがあります！
授業の登録が確定した生徒に招待コードを送るので登録をお願いします！

到達目標

環境会計についての基礎的知識と企業の社会的責任について、様々な視点から理解することが可能となる。また企業の環境会計に対する取り組みを理解する。環境会計の大切さがわかってもらえたら嬉しい。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスをよく読む
2	環境会計ガイドラインの概要①	授業時に配布する文献を読む
3	環境会計ガイドラインの概要②	授業時に配布する文献を読む
4	環境会計のガイドラインの概要③	授業時に配布する文献を読む
5	環境会計のガイドラインの概要④	授業時に配布する文献を読む
6	環境会計のガイドラインの概要⑤	授業時に配布する文献を読む
7	環境会計のガイドラインの概要⑥	授業時に配布する文献を読む
8	環境会計のガイドラインの概要⑦	授業時に配布する文献を読む
9	環境会計のガイドラインの概要⑧	授業時に配布する文献を読む
10	実際の企業の環境会計の取り組みを見ていきましょう！	授業時に配布する文献を読む
11	実際の企業の環境会計の取り組みを見ていきましょう！	授業時に配布する文献を読む
12	世界の環境会計	授業時に配布する文献を読む
13	企業が行っている環境への取り組み①	授業時に配布する文献を読む
14	企業が行っている環境への取り組み②	授業時に配布する文献を読む
15	まとめ	総合的な復習①
16	予備日	総合的な復習②

テキスト・参考文献・資料など

環境省の資料および特定企業のＣＳＲ・環境会計報告書等を活用するため用意するものはありません。

※念のため、Google　Classroomの環境を整えてください。

学びの手立て

授業の進め方はほとんど毎回、資料を配ります、そして講義の復習として確認問題を毎時間出すので提出してください！

この確認問題の提出にて出席とします！

※提出がない場合は欠席扱いになりますので注意してください！
２／３以上の出席がない場合は不可とします。提出が出来ないやむを得ない理由がある場合は私のメールへなるべく早めに連絡ください！

評価

平常点：50点、レポート：50点

学びの継続

次のステージ・関連科目

環境経営の履修をすることが望ましい。

※ポリシーとの関連性　地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すための環境政策への理解を深める環境関連の科目を提供。　[　　／実験実習]

科目基本情報				
科目名 環境科学実験	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火３・火４	2
担当者 齋藤　星耕	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付ける。	

学びの準備

ねらい

環境科学の履修過程において環境の現況把握に必要な現況観測は必要不可欠な事項だと考えられる。環境科学実験においては環境要素の中で最も基本的な項目である水質、騒音についての測定方法を習得するとともに、結果の取りまとめ方法を学ぶ。今後の環境問題とその対策を考える上で重要な、再生可能エネルギーに関連する実験を行う。

メッセージ

実験を行うことによって環境科学がより深く理解できるようになります。
本講義は実験室において履修者が実際に実験を行う実習講義です。
授業形式は対面授業で行います。

到達目標

環境科学に関連した実験について理解し実施することが出来るようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	配布資料を読む
2	水質分析(1)：水素イオン指数(pH) (1) 座学、パックテスト	配布資料を読む、 レポート作成
3	水質分析(2)：水素イオン指数(pH) (2) 電位差法	配布資料を読む、 レポート作成
4	実験レポートの書き方	配布資料を読む、 レポート作成
5	水質分析(3)：溶存酸素量(DO) (1) 座学、パックテスト、隔膜電極法	配布資料を読む、 レポート作成
6	水質分析(4)：溶存酸素量(DO) (2) ウィンクラー法	配布資料を読む、 レポート作成
7	水質分析(5)：化学的酸素要求量(COD) (1) 座学、パックテスト	配布資料を読む、 レポート作成
8	水質分析(6)：化学的酸素要求量(COD) (2) 過マンガン酸カリウム法	配布資料を読む、 レポート作成
9	水質分析(7)：浮遊物質(1) 浮遊物質(SS)	配布資料を読む、 レポート作成
10	水質分析(8)：浮遊物質(2) 底質中懸濁物質含量(SPSS)	配布資料を読む、 レポート作成
11	再生可能エネルギー： 座学、太陽光発電、燃料電池	配布資料を読む、 レポート作成
12	騒音測定：座学、校内の騒音測定	配布資料を読む、 レポート作成
13	校外調査(1)：騒音測定または水質調査	配布資料を読む、 レポート作成
14	校外調査(2)：騒音測定または水質調査	配布資料を読む、 レポート作成
15	校外調査(3)：騒音測定または水質調査	配布資料を読む、 レポート作成
16	総括	配布資料を読む、 レポート作成

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。
参考資料は適宜配布する。また参考文献は適宜紹介する。

学びの手立て

授業形式は対面授業で行う。
実験は実際に行うことが重要である。欠席は極力避けること。また、万が一欠席した場合においても他の学生の実験データを使って考察し、レポート作成を行うこと。

評価

実験への参加・貢献：40%
レポート：60%

学びの継続

次のステージ・関連科目

環境科学 Ⅰ & Ⅱ、環境アセスメント Ⅰ & Ⅱ

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 環境教育論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火２	2
担当者 砂川　かおり	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawaあっとまーくokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

湿地の価値を伝え、ラムサール条約の重要な柱であるCEPA（コミュニケーション・能力養成・教育・参加・普及啓発）活動を担える知識と技術を身に着ける。

メッセージ

フィールドワークが多いです。土曜日や日曜日にもフィールドに出かけますので、受講希望者は日程調整をしっかり行ってください。

到達目標

・湿地の価値を理解し、ラムサール条約の３つの重要な要素、保全、ワイズユース、CEPAについて説明できるようになる。
・沖縄市の泡瀬干潟を事例として、湿地の機能、環境や生物相の概要を説明できるようになる。
・実際に、室内や野外での授業を計画し、実施できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	授業概要説明・湿地の役割について（4/13）	シラバスをよく読む
2	野鳥観察会シギ・チドリ類（４/21（水）11時半～15時半、比屋根湿地・人工島潮乃森）（予定）	レポート①作成・提出
3	干潟観察（4/29　13～16時、泡瀬干潟）（予定）	レポート②作成・提出
4	漫湖水鳥・湿地センター　見学（5/11　予定）	レポート③作成・提出
5	授業担当のグループ分け、説明、授業計画・役割分担・模擬授業準備（１）（5/18）	模擬授業①の準備
6	干潟観察会（模擬授業）①　（5/25　9時30分～13時30分）	レポート④作成・提出
7	コアジサシ探鳥会（6/1　9時～13時、人工島潮乃森）（予定）	レポート⑤作成・提出
8	各グループで練習　模擬授業（２）の準備（6/8）	模擬授業②の準備
9	模擬授業②（6/15）	教室での授業③準備
10	授業③：小学生３年生向けの座学（6/22予定）	レポート⑥作成・提出
11	各グループで練習　授業の準備（３）（6/29）	模擬授業④の準備
12	模擬野外授業④（7/6）	野外授業⑤準備
13	小学生３年生向けの野外授業⑤（7/13　予定）	野外授業⑤準備
14	小学生３年生向けの野外授業⑤（7/13　予定）	レポート⑦作成・提出
15	自己評価・ふりかえり（7/20）	全講義のふりかえりをする
16	まとめ・授業評価アンケート（7/27）	関連科目について調べる

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。随時資料を配布する。
参考文献は、適宜紹介する。

学びの手立て

・講義を受講し、課題がある場合は回答し、提出すること。或いは、実践すること。
・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。
・欠席する場合は必ず、欠席届を提出すること。
・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。

評価

1/3以上欠席の者は不可。
評価配分：レポート①～⑦：３５％、模擬授業①：１０％、模擬授業②、④：１５％、授業③、⑤：４０％。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「演習I(砂川ゼミ)」

※ポリシーとの関連性　全講義終了後に自分の好きな企業の環境経営の取組みについてレポート提出してもらいその課程で研究し分析する力を身につけます。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 環境経営	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火４	2
担当者 -船越　沙香	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	e-ｍａｉｌにて受付致します。	

学びの準備

ねらい

環境経営の概要等を学び、企業が環境経営への取組をどのように行っているか、どのように社会的責任を果たしているかを学習します。

メッセージ

企業活動が自然資源に重要な影響を与えており、自然環境を保護し持続可能な開発を推進することが、企業の長期的存続の基礎となる。環境経営について興味を持って参加して下さい。
※GoogleClassroomを使用することがあります！
授業の登録が確定した生徒に招待コードを送るので登録をお願いします！

到達目標

環境経営についての基礎的知識と企業の社会的責任について、様々な視点から理解することが可能となる、そして企業の環境経営に対する取り組みを理解する。環境経営の大切さがわかってもらえたら嬉しい。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスをよく読む
2	環境報告の位置づけと環境省のガイドライン	授業時に配布する文献を読む
3	環境報告の概要①	授業時に配布する文献を読む
4	環境報告の概要②	授業時に配布する文献を読む
5	環境報告の概要③	授業時に配布する文献を読む
6	環境報告の概要④	授業時に配布する文献を読む
7	環境報告の概要⑤	授業時に配布する文献を読む
8	環境報告の概要⑥	授業時に配布する文献を読む
9	環境報告の概要⑦	授業時に配布する文献を読む
10	環境報告の概要⑧	授業時に配布する文献を読む
11	実際の企業の環境報告書を見てみよう！	授業時に配布する文献を読む
12	実際の企業の環境報告書を見てみよう！	授業時に配布する文献を読む
13	企業が行っている環境への取り組み①	授業時に配布する文献を読む
14	企業が行っている環境への取り組み②	授業時に配布する文献を読む
15	まとめ	総合的な復習①
16	予備日	総合的な復習②

テキスト・参考文献・資料など

環境省の資料および特定企業のＣＳＲ・環境報告書等を活用するため用意するものはありません。
念のため、Google　Classroomの環境を整えてください。

学びの手立て

授業の進め方はほとんど毎回、資料を配ります、そして講義の復習として確認問題を毎時間出すので提出してください！
この確認問題の提出にて出席とします！

※提出がない場合は欠席扱いになりますので注意してください！
２／３以上の出席がない場合は不可とします。
提出が出来ないやむを得ない理由がある場合は私のメールへなるべく早めに連絡ください！

評価

出席：５０点、レポート：５０点

学びの継続

次のステージ・関連科目

環境会計の履修をすることが望ましい。

※ポリシーとの関連性　地域経済と環境との関連性を理解する。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	環境経済学Ⅰ	前期	月１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉　錫畢	２年	メール（sukpil@okiu.ac.jp)にて問い合わせ。	

学びの準備

ねらい

地球温暖化の問題がかつてなく大きくクローズアップされている今日である。何が地球環境問題をもたらしたのか。経済要因なきには語れない環境問題であるが、経済成長への優先は環境の犠牲をもたらす。環境を重視すれば経済成長の停滞を感受しなければならない。つまり経済成長と環境保全は効率と公正との緊張関係にある。このような問題意識に基づいて、環境経済学を理解する。

メッセージ

環境と経済！　豊かさの観点より悩んでみる。

到達目標

①環境問題はなぜ起こっているのか、疑問を持つ。
②環境問題と経済との関わりを地域から探る。
③環境と経済のメカニズムを理解する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	1週目：環境と経済の話1	第三の波の本を読む
2	2週目：環境と経済の話2	第三の波の本を読む
3	3週目：沖縄経済と地域発展	資料を配り読んでくる
4	4週目：環境破壊の経済的メカニズム	資料を配り読んでくる
5	5週目：市場と外部経済1	資料を配り読んでくる
6	6週目：市場と外部経済2	資料を配り読んでくる
7	7週目：環境の経済価値の概念	サンゴ礁の価値を考えてもらう
8	8週目：環境の価値評価の手段1	サンゴ礁の価値を考えてもらう
9	9週目：環境の価値評価の手段2	環境の価値対象を探す
10	10週目：開発と社会的共通資本1	環境の価値対象を探す
11	11週目：開発と社会的共通資本2	赤土汚染地域を調べるレポート
12	12週目：環境政策の手段	赤土汚染地域を調べるレポート
13	13週目：赤土汚染から見る沖縄の地域振興と開発	赤土汚染地域を調べるレポート
14	14週目：赤土汚染による生態系破壊	赤土汚染地域を調べるレポート
15	15週目：赤土汚染の損害評価と環境政策	赤土汚染地域を調べるレポート
16	16週目：総括	総括

テキスト・参考文献・資料など

(1) 呉錫畢（2008）『環境・経済と真の豊かさ』、日本経済評論社。
(2)植田和弘（1997）『環境経済学』、岩波新書。
(3)その他、テーマに添って随時に資料を配布する。

学びの手立て

地域社会における環境と経済との関連性に関するレポートを作成。

評価

期末テスト（40%）、課題（40%）、授業参加度（20%）を中心に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

環境経済学Ⅱを理解するための環境経済学の基礎を磨く。

※ポリシーとの関連性　地域経済と環境との関連性を理解する。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	環境経済学Ⅰ	前期	木１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉　錫畢	２年	メール（sukpil@okiu.ac.jp）で送ること。	

学びの準備

ねらい

地球温暖化の問題がかつてなく大きくクローズアップされている今日である。何が地球環境問題をもたらしたのか。経済要因なきには語れない環境問題であるが、経済成長への優先は環境の犠牲をもたらす。環境を重視すれば経済成長の停滞を感受しなければならない。つまり経済成長と環境保全は効率と公正との緊張関係にある。このような問題意識に基づいて、環境経済学を理解する。

メッセージ

環境と経済！　豊かさの観点より悩んでみる。

到達目標

①環境問題はなぜ起こっているのか、疑問を持つ。
②環境問題と経済との関わりを地域から探る。
③環境と経済のメカニズムを理解する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	1週目：環境と経済の話１	第三の波の本を読む
2	2週目：環境と経済の話２	第三の波の本を読む
3	3週目：沖縄経済と地域発展	資料を配り読んでもらう
4	4週目：環境破壊の経済的メカニズム	資料を配り読んでくる
5	5週目：市場と外部経済１	資料を配り読んでくる
6	6週目：市場と外部経済２	資料を配り読んでくる
7	7週目：環境の経済的価値の概念	サンゴ礁の価値を考えてもらう
8	8週目：環境の価値評価の手段１	サンゴ礁の価値を考えてもらう
9	9週目：環境の価値評価の手段２	環境の価値対象を探す
10	10週目：開発と社会的共通資本１	環境の価値対象を探す
11	11週目：開発と社会的共通資本２	赤土汚染地域を調べるレポート
12	12週目：環境政策の手段	赤土汚染地域を調べるレポート
13	13週目：赤土汚染から見る沖縄の地域振興と開発	赤土汚染地域を調べるレポート
14	14週目：赤土汚染による生態系破壊	赤土汚染地域を調べるレポート
15	15週目：赤土汚染の損害評価と環境政策	赤土汚染地域を調べるレポート
16	16週目：総括	総括

テキスト・参考文献・資料など

呉錫畢（2008）『環境・経済と真の豊かさ―テーゲー経済学序説―』、日本経済評論社。
(1) 呉錫畢（1999）『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
(2)植田和弘（1997）『環境経済学』、岩波新書。
(3)その他、テーマに添って随時に資料を配布する。

学びの手立て

地域社会における環境と経済との関連性に関するレポートを作成。

評価

期末テスト（40%）、課題（40%）、授業参加度（20%）を中心に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

環境経済学Ⅱを理解するための環境経済学の基礎を磨く。

※ポリシーとの関連性　環境と経済のメカニズムが地域発展にどう影響するのかを理解する。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	環境経済学Ⅱ	後期	木１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉　錫畢	２年	メール（sukpil@okiu.ac.jp）で送ること。	

学びの準備

ねらい

本講義は、沖縄のサンゴ礁の持つ生態系や景観のような自由財の非利用価値を測り、地域経済の発展や豊かさの観点より環境経済学の視点より概説する。自然の尊さを沖縄サンゴ礁の貨幣評価で表現し、沖縄観光経済の現在と将来を診断するとともに、さらに沖縄文化でもあるテーゲーの経済学化を試み、真の豊かさとは何かについて考察する。

メッセージ

豊かさとは何か、環境と経済から考えてみる。

到達目標

環境と地域経済との関係から課題を発見し、その解決策を探る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	1週目：環境はいくらか	環境と経済のメカニズム復習
2	2週目：CVM(仮想市場評価法)	環境の価値対象を探す
3	3週目：沖縄におけるサンゴ礁の現状	環境の価値対象を探す
4	4週目：サンゴ礁の生態系及び景観の経済評価	環境の経済評価事例を読む
5	5週目：サンゴ礁と環境経済	サンゴ礁の一般的な知識を読む
6	6週目：サンゴ礁と沖縄地域経済	サンゴ礁の一般的な知識を読む
7	7週目：竹富島とピノキオ観光	竹富島の観光と地域経済を考える
8	8週目：アイルランド・済州島の環境・観光と沖縄	離島の環境と経済の事例を紹介
9	9週目：環境経済学からみる沖縄の環境１（コモンズとして白保）	離島のエネルギー事情を読む
10	10週目：環境経済学からみる沖縄の環境２（宮古島の再生可能エネルギー）	離島のエネルギー事情を読む
11	11週目：環境経済学からみる沖縄の環境３（奄美群島の再生可能エネルギー）	離島のエネルギー事情を読む
12	12週目：沖縄の再生可能エネルギーとCOP21（パリ協定）	京都議定書の概念を読む
13	13週目：内発的発展による沖縄経済と環境	パリ協定の概念を読む
14	14週目：環境・経済・沖縄	パリ協定と日本を考える
15	15週目：真の豊かさとテーゲー経済学	パリ協定と沖縄を考える
16	16週目：テスト	テスト

テキスト・参考文献・資料など

呉錫畢（2008）『環境・経済と真の豊かさ―テーゲー経済学序説―』、日本経済評論社。
(1) 呉錫畢（1999）『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
(2)植田和弘（1997）『環境経済学』、岩波新書。
(3)その他、テーマに添って随時に資料を配布する。

学びの手立て

環境と地域発展に関するレポートを作成。

評価

期末テスト（40%）、課題（40%）、授業参加度（20%）で評価。

学びの継続

次のステージ・関連科目

地域からアジア経済と環境問題、また地球環境問題を考える。環境政策論、アジア経済と環境。

※ポリシーとの関連性　環境と経済のメカニズムが地域発展にどう影響するのかを理解する。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	環境経済学Ⅱ	後期	月１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉　錫畢	２年	メール（sukpil@okiu.ac.jp）で送ること。	

学びの準備

ねらい

本講義は、沖縄のサンゴ礁の持つ生態系や景観のような自由財の非利用価値を測り、地域経済の発展や豊かさの観点より環境経済学の視点より概説する。自然の尊さを沖縄サンゴ礁の貨幣評価で表現し、沖縄観光経済の現在と将来を診断するとともに、さらに沖縄文化でもあるテーゲーの経済学化を試み、真の豊かさとは何かについて考察する。

メッセージ

豊かさとは何か、環境と経済から考えてみる。

到達目標

環境と地域経済との関係から課題を発見し、その解決策を探る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	1週目：環境はいくらか	環境と経済のメカニズム復習
2	2週目：CVM(仮想市場評価法)	環境の価値対象地を探す
3	3週目：沖縄におけるサンゴ礁の現状	環境の価値対象地を探す
4	4週目：サンゴ礁の生態系及び景観の経済評価	環境の経済評価事例を読む
5	5週目：サンゴ礁と環境経済	サンゴ礁の一般的な知識を読む
6	6週目：サンゴ礁と沖縄地域経済	サンゴ礁の一般的な知識を読む
7	7週目：竹富島とピノキオ観光	竹富島の観光と地域経済を考える
8	8週目：アイルランド・済州島の環境・観光と沖縄	離島の環境と経済の事例を紹介
9	9週目：環境経済学からみる沖縄の環境１（コモンズとして白保）	離島のエネルギー事情を読む
10	10週目：環境経済学からみる沖縄の環境２（宮古島の再生可能エネルギー）	離島のエネルギー事情を読む
11	11週目：環境経済学からみる沖縄の環境３（奄美群島の再生可能エネルギー）	離島のエネルギー事情を読む
12	12週目：沖縄の再生可能エネルギーとCOP21（パリ協定）	京都議定書の概念を読む
13	13週目：内発的発展による沖縄経済と環境	パリ協定の概念を読む
14	14週目：環境・経済・沖縄	パリ協定と日本を考える
15	15週目：真の豊かさとテーゲー経済学	パリ協定と沖縄を考える
16	16週目：テスト	テスト

テキスト・参考文献・資料など

呉錫畢（2008）『環境・経済と真の豊かさ―テーゲー経済学序説―』、日本経済評論社。
(1) 呉錫畢（1999）『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
(2)植田和弘（1997）『環境経済学』、岩波新書。
(3)その他、テーマに添って随時に資料を配布する。

学びの手立て

環境と地域発展に関するレポートを作成。

評価

期末テスト（40%）、課題（40%）、授業参加度（20%）で評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

地域からアジア経済と環境問題、また地球環境問題を考える。環境政策論、アジア経済と環境。

※ポリシーとの関連性　地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すための環境政策への理解を深める環境関連の科目。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 環境資源論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水１	2
担当者 山川（矢敷）　彩子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	メール：　a.yamakawaアットokiu.ac.jp 研究室：　9号館505室	

学びの準備

ねらい

受講生が琉球列島における自然的環境資源について理解を深めることを目的として、サンゴ礁、海草藻場、干潟、砂浜などにおける環境資源について学ぶ。最終的には、環境資源の有効利用の仕方および環境保全について考える。

メッセージ

本講義は最終年次においても追試および再試験は実施しないので、4年次は登録の際注意する。
【実務経験】環境調査会社で勤務した経験をいかし、海岸開発の現状についても説明する。

到達目標

・自分たちの住む琉球列島の成り立ちを理解する。
・海岸にはさまざまな環境があり、それぞれ多様な役割を有していることを理解する。
・環境資源の有効利用について、自分なりの考えを持つ。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義ガイダンス	シラバスを熟読する。
2	環境資源とは	関連するTV、ニュースを見る。
3	琉球列島の自然環境	関連するTV、ニュースを見る。
4	日本および琉球列島の成り立ち	関連するTV、ニュースを見る。
5	日本および琉球列島の成り立ち	関連するTV、ニュースを見る。
6	海の危険生物	関連するTV、ニュースを見る。
7	砂浜環境と資源	関連するTV、ニュースを見る。
8	海岸浸食と防災	関連するTV、ニュースを見る。
9	砂浜環境とウミガメ	関連するTV、ニュースを見る。
10	干潟環境と資源	関連するTV、ニュースを見る。
11	海草藻場環境と資源	関連するTV、ニュースを見る。
12	【フィールド実習】沖縄島のイノー観察・漫湖水鳥センター見学など	実際にフィールドに行ってみる。
13	サンゴ礁の資源・磯の恵み	実習レポートを作成する。
14	サンゴ礁とは	関連するTV、ニュースを見る。
15	サンゴ礁をめぐる問題（サンゴの白化＆オニヒトデの大量発生）	関連するTV、ニュースを見る。
16	期末試験	試験対策をする。

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。
必要に応じて紹介する。

学びの手立て

海の環境や生物に関するテレビ番組を試しに見てみる。それらのインターネットニュースをクリックしてみる、など日常生活の中で情報に触れ合っておくと、より講義が身近なものに感じるはずです。
また、実際にさまざまな海に行ってみるのもオススメです。

評価

講義の際に毎回記入するフィードバックシート（意見、感想、質問）の内容、試験およびレポートの内容により総合的に評価する。3分の1以上の欠席（5～6回）、課題の未提出、試験を欠席した学生には単位を与えない。

評価の割合は、平常点（意見、感想、質問）55%、レポート10%、持ち込み資料5%、試験30%とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

産業と環境、生物学I・II、自然科学概論I・II、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、土壌学概論、演習Ⅰ＆Ⅱ（山川ゼミ）など。

※ポリシーとの関連性　「環境の保全と資源の利用やあり方について理解を深める」ために、環境保全に資する基礎知識とその手法を学ぶ。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	環境政策特別講義Ⅰ（開発と環境）	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-原　美登里	３年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

身近な環境保全について考えるために、水環境を取り上げる。その際、自然地理学の基本的な見方・考え方を理解するとともに、「水」を取り巻く自然環境や社会・経済的環境における諸問題を通して、水の現状を把握・理解し、今後われわれが水環境や水問題にどう対処して行くかを考える契機とする。さらに、水にまつわる文化についても、考える一助となることを目指す。

メッセージ

水環境を中心に講義を進めます。みなさんもぜひ水環境を含めた地球・地域の環境問題に興味を持ち、積極的に情報収集を行いましょう。まずは、身近な水環境へ赴いてみてください。
本講義はアクティブラーニングを実践します。自ら考え、行動することを望みます。

到達目標

本講義の到達目標は以下の通りである。1.身近な水環境についての基礎知識を身につけることができる。2.気象に関する基礎知識を身につけることが出来る。3.水環境を通した環境保全について理解することができる。4.身近な地域の水環境について、自ら調べることができる。これらはレポートや試験から到達度をみる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス・水文学とは	講義で提示された参考書を閲覧する
2	水の惑星＝地球（水の総量・分布）	講義に提示された図表を理解する
3	気象の基礎知識	注意報・警報について調べる
4	気象に関する注意報・警報に関するディスカッション	地域の注意報・警報を理解する
5	気象のメカニズム	現住地のハザードマップを準備する
6	ハザードマップに関するグループディスカッション	災害時の行動計画をたてる
7	大気大循環を理解する	大気大循環を理解する
8	水収支を学ぶ	水収支を理解する
9	水循環を学ぶ	水循環を理解する
10	水道に関する基礎知識	沖縄県の水道について調べる
11	日本における水道システム	本州の水道について調べる
12	流域変更と水移動（身近な水と生活用水）	身近な水道について調べる
13	現住地・出身地における水道に関するグループディスカッション	身近な水辺景観の写真を準備する
14	水辺景観を知る	身近な水環境を理解する
15	沖縄の水と文化	
16	テスト	

テキスト・参考文献・資料など

①テキストは使用せず、パワーポイントを中心に、必要に応じてプリントや写真を用いて授業を進めます。
②できるだけ、日本の島々の位置や大きさが把握できる地図を持参して下さい(中学や高等学校で使った地図帳も可)。
③各自で準備する資料をもとに、授業を進めます。

学びの手立て

①集中講義ですので、一日休むと話が理解できなくなります。欠席しないようにしてください。
②疑問点は必ずメモしておき、講義の際に積極的に質問・意見を述べてください。
③グループディスカッションや作業を伴う授業を実施することがあります。積極的に参加してください。
④授業開始時に作業の説明等を実施しますので、遅刻はしないようにしてください。
⑤現住地および地元における身近な水（湧水・井戸・水路・河川）について、写真を準備し、歴史や概要などについて調べておいてください。
⑥講義で学んだことについて、地元での状況等を確認しましょう。

評価

講義中の作業・ディスカッション内容等20%、レポート40%、試験40%

学びの継続

次のステージ・関連科目

次のステージ
本講義を受講して、身近な水資源・水利用・水辺景観などに興味を持って、調べてみましょう。

※ポリシーとの関連性　沖縄アジェンダ21は、地球環境保全にために、沖縄県として、市民、企業、行政が主体的に取り組む方向性を考えるものである。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	環境政策論Ⅰ	前期	月３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高平　兼司	２年	講義終了後に教室で受け付けます。 個人:takahira@koeikyo.com	

学びの準備

ねらい

アジェンダ21とは、1992年6月にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミット（環境と開発に関する国連会議）で採択された取り決めであり、持続可能な開発を実現するために各国、地域で実行すべき行動要領である。本県においても適宜行動目標を設定しているが、その目標とは何か、これまでにどこまで達成できたか、今後どうすればよいかを考える機会とする。

メッセージ

2015年9月には国連においてSDGs（持続可能な開発目標：2030アジェンダ）が採択され、環境問題のみならず福祉なども含めたグローバルな取り組みの行動指針が示された。本講義ではこれらの目標に中から、地球温暖化問題や生物多様性などのテーマを紹介し、グローバルな目標に立った上で、「足もとからの行動」を意識付けし、できるところから行動を起こしてもらいたい。

到達目標

まずは知ること。いま、危機的状況にある、あるいはカタストロフィーに向かいつつある地球環境、なかでも地球温暖化問題やこれらに関連する生物多様性の問題やごみ問題などにおいてどんな課題があるのか、などの情報を収集し知ることを第1の目標とする。続いて、持続可能な開発とはどのようなものであるのか、議論し考えることを第2の目標とする。そして、地球の一員としてどのように行動すればよいか、どのように生きればよいかを考え、人間社会の方向性を意識することを第3の目標とする。
環境問題の解決は、行動・実践にある。評価においては、課題への意識、情報収集の方法と取捨選択について、そして課題対応への方向性とその意識（必ずしも正解・方向性はは一つではない）をどのように展開したか、考えたか確認する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	沖縄の環境問題とアジェンダ21：レポートあり	ガイダンスと次回講義の資料を配布
2	地球温暖化問題　その原因と影響：　〃	配布資料を必読のこと
3	地球温暖化で起こりうる影響：　〃	配布資料を必読のこと
4	地球温暖化に対する各主体の取り組み：　〃	配布資料を必読のこと
5	エネルギー問題について：　〃	配布資料を必読のこと
6	地球温暖化対策の緩和策と適応策：　〃	配布資料を必読のこと
7	市民でできる地球温暖化対策・意識啓発：　〃	配布資料を必読のこと
8	ＳＤＧｓについて：グループディスカッション	配布資料を必読のこと
9	生物多様性と外来種問題：　〃	配布資料を必読のこと
10	危険生物とハブ対策：　〃	配布資料を必読のこと
11	世界の水問題と沖縄の水事情：　〃	配布資料を必読のこと
12	沖縄の河川・地下水の保全：　〃	配布資料を必読のこと
13	ごみ問題や食物残渣問題と４Ｒ：　〃	配布資料を必読のこと
14	プラスチックごみについて：　〃	配布資料を必読のこと
15	環境問題と人口問題：グループディスカッション	配布資料を必読のこと
16	テスト	配布資料を必読のこと

テキスト・参考文献・資料など

事前配布プリント（初回は事前配布なし、2回目テキストは1回目で配布）で講義する。
関連参考資料：・アル・ゴア：著、枝廣淳子：訳、「不都合な真実」、ランダムハウス講談社、本体定価2,800円
・N.チェバンス・C.シモンズ・M.ワケナゲル：著、五頭美知：訳、「エコロジカル・フットプリントの活用」、合同出版、本体価格2,200円
・他、関連文献等　※ただし、いずれも、必読ではない。

学びの手立て

本講義の趣旨は、地球レベルの課題から捉えて、沖縄ではどうすればよいか、会社・企業・団体を含めた地域社会として、そして個人としてどのように行動すればよいかを考え、実践に結びつけるものである。したがって、例えば生物学を学んだものとか、地球科学を学んだものとかの前提は必要ない。社会人としての意識があれば十分である。
ただし、事前に予習（テーマに沿った内容の情報収集や事前学習）を推奨するが、知識より考え方、課題に対する対応の仕方などを自己学習し、その結果を地域社会とともに共用・展開することに重きおいている。
したがって、状況に応じて、30分程度の少人数でのグループディスカッションを実施する場合もある。

評価

１）講義で扱ったトピックスやキーワードについて正しく理解しているかを問うレポート（200～400字程度）を毎回ごとに課す（計14回：70%）
２）最後に、グループディスカッション等を含めた全体を通しての理解度、課題対応への意見、今後の行動・展開の目標等をレポートとして課す。評価は、自らの意見と社会課題がどの程度一致しているか、実践する場合の現実性を捉えているかを評価基準とする（1回：30%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

環境保全への取り組みは、人類客員が保全意識を持ち、個人レベル、地域社会・企業レベル、国・行政レベルでの実践・行動が伴わなければ、決して改善できない。
したがって、今後どう行動するかがポイントとなるが、受講後まずは、個人レベルでの（いくつかの行動目標を立てて）取り組みにつなげたい。その意識を持ってほしい。

※ポリシーとの関連性　地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すための環境政策への理解を深める環境関連の科目を提供。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	環境政策論Ⅱ	後期	火４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	砂川　かおり	２年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawaあっとまぁくokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すために
必要な環境政策の基礎的な考え方について理解を深める。

メッセージ

本講義では、環境法政策の基礎を学びつつ、沖縄県における環境問題に係る政策の現状、課題、そして解決のためのヒントについて考えてきます。環境政策について積極的に学びたい学生さんに向いています。

到達目標

本講義では、環境法政策の目的、原則、環境問題の性質に応じた解決のためのアプローチ、手法、ポリシーミックスのあり方について理解を深める。その上で、それらの知識を基に、沖縄県における環境問題に係る政策を批判的かつ建設的に検証し、より良い政策提言ができる力を身につけることを目的としている。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス、環境政策の意義について（9/21）	復習し、演習課題をする。
2	環境法政策の基本的考え方の体系の概要、目的(1)「調和条項」から「持続可能な発展」へ(10/5)	復習し、演習課題をする。
3	環境法政策の目的（２）　環境権・環境公益（10/12）	復習し、演習課題をする。
4	環境法政策の基本的考え方（１）環境責任のあり方　－汚染者負担原則（10/19）	復習し、演習課題をする。
5	環境法政策の基本的考え方（１）環境責任のあり方　－拡大生産者責任（10/26）	復習し、演習課題をする。
6	環境法政策の基本的考え方(2)環境リスク管理のあり方－未然防止的・予防的アプローチ(11/2)	復習し、演習課題をする。
7	環境法政策の基本的考え方（２）環境リスク管理のあり方　－環境比例原則　等（11/9）	復習し、演習課題をする。
8	環境法政策の基本的考え方（３）環境ガバナンスのあり方 －国と自治体の役割分担（11/16）	復習し、演習課題をする。
9	環境法政策の基本的考え方（３）環境ガバナンスのあり方 －議会と審議会、市民参加（11/23）	復習し、演習課題をする。
10	環境規制の法的アプローチ（11/30）	復習し、演習課題をする。
11	環境政策の手法、その活用と組合せ～ポリシーミックス、規制範囲決定に係る考慮事項（12/7）	復習し、演習課題をする。
12	赤土等流出問題等への効果的なポリシーミックスとは何か？（１）（12/14）	復習し、演習課題をする。
13	赤土等流出問題等への効果的なポリシーミックスとは何か？（２）（12/21）	復習し、演習課題をする。
14	環境問題の解決策を何に求めるか（1/11）	復習し、演習課題をする。
15	まとめ・授業評価アンケート（1/18）	期末試験に備えて、復習する。
16	期末試験（1/25）	試験内容を振り返り、復習する。

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。随時資料を配布する。
参考文献：①北村喜宣（2013）『現代環境法の諸相　改訂版』（財団法人　放送大学教育振興会）、②北村喜宣（2020）『環境法』（弘文堂）、③大塚直・北村喜宣　編（2018）『環境法判例百選 第3版〔別冊ジュリストNo.240〕』（有斐閣）、④大塚直他編（2020）『九訂 ベーシック環境六法 』（第一法規）、その他 適宜案内する。

学びの手立て

・授業に毎回出席し、講義を聞きながら、配布プリントを完成させること。・毎回、課題は提出すること。
・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。
・欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。
・新型コロナの流行などにより、授業形態や授業内容を受講生と相談の上、変更することがあります。
・尚、以下に該当する学生は、事前に教員に連絡して下さい。
１．発熱・体調不良のある学生、２．家族に発熱者(37.5度以上)がいる学生、３．１週間以内に本人や家族が沖縄県外へ渡航履歴のある者

評価

2／3以上の出席と課題提出、期末試験の受験を単位取得の最低条件とする。
評価配分：リアクションペーパー（15%）、課題（15%）、期末試験（70%）により評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「環境法」

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前の基礎科目。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	環境統計学Ⅰ	前期	火１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	友知　政樹	１年	mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義の目的は、様々な統計指標やグラフ、さらには基本的統計量などの読み方や算出方法などについて学ぶことである。具体的には、経済学部・地域環境政策学科で学んでいく際に重要な統計指標の理解を含め、記述統計学の基礎概念を全般的に学ぶ。

メッセージ

統計学は必要不可欠な学問です。

到達目標

記述統計学をマスターすること。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

01 講義ガイダンス
02 様々な統計指標とグラフ（１）
03 様々な統計指標とグラフ（２）
04 様々な統計指標とグラフ（３）
05 基本統計量（１）代表値①（平均値、中央値、最頻値）
06 基本統計量（２）代表値②（平均値、中央値、最頻値）
07 基本統計量（３）分散、標準偏差、変動係数
08 基本統計量（４）分散、標準偏差、変動係数
09 基本統計量（５）度数分布表、ヒストグラム
10 基本統計量（６）度数分布表、ヒストグラム
11 基本統計量（７）相関関係と因果関係、相関係数、擬似相関
12 基本統計量（８）相関関係と因果関係、相関係数、擬似相関
13 基本統計量（９）クロス集計
14 総まとめ①
15 総まとめ②
16 最終試験

テキスト・参考文献・資料など

講義時に随時資料を配布する。
・統計学の基礎、河野光雄・友知政樹共著、牧野書店（¥1,900＋税）
・統計でウソをつく法（数式を使わない統計学入門）ダレル・ハフ著、高木秀玄訳、講談社（￥880+税）

学びの手立て

毎回出席すること。

評価

講義毎の課題提出(50%)、最終試験(50%)により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

環境統計学Ⅱ

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前の基礎科目。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 環境統計学Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火１	2
担当者 友知　政樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義の目的は、統計的データの分析に必要な確率論の基礎や、推定・検定統計学、さらには相関係数や単回帰分析の手法の基本的概念を習得することである。

メッセージ

統計学は必要不可欠な学問です。

到達目標

推計統計学の基礎をマスターすること。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

01 講義ガイダンス
02 記述統計学の復習（１）
03 記述統計学の復習（２）
04 確率論の基礎（１）
05 確率論の基礎（２）
06 標本調査と中心極限定理（１）
07 標本調査と中心極限定理（２）
08 データの標準化と標準正規分布
09 点推定と区間推定（１）
10 点推定と区間推定（２）
11 統計的仮説の検定（１）
12 統計的仮説の検定（２）
13 相関係数、単回帰分析
14 単回帰分析、回帰係数の検定
15 総まとめ
16 最終試験

テキスト・参考文献・資料など

講義時に随時資料を配布する。
・統計学の基礎、河野光雄・友知政樹共著、牧野書店（¥1,900＋税）
・統計でウソをつく法（数式を使わない統計学入門）ダレル・ハフ著、高木秀玄訳、講談社（￥880+税）

学びの手立て

毎回出席すること。

評価

小テスト(30%)、最終試験(70%)により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

統計情報処理Ⅰ，計量経済学Ⅰ

※ポリシーとの関連性　地域の環境問題を分析する方法を学ぶ.

[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	環境評価実践論	後期	木１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地　朝央	３年	t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

環境問題を解決する上で，環境に対する便益や費用を適正に評価することが求められています.
授業では環境評価の主要な分析方法を重回帰分析から共分散構造分析まで，計量ソフトAMOSを使いながら実践的に学びます.

メッセージ

統計学の基礎から復習を行い，計量ソフトの使い方を中心に学習していきます．卒業論文などでの分析に役立ててください.
今期、状況に応じて対面またはteamsによるオンデマンド形式で授業を行う。

到達目標

・初歩の計量分析をEXCELで実行できるようになる.
・アンケート等の質的データを分析できるようになる.
・計量ソフトAMOSを使用できるようになる.

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	統計学の復習（基本統計量について）（対）	統計学の復習
2	統計学の復習（回帰分析について）（対）	授業内容を復習する
3	統計学の復習（重回帰分析について）（対）	授業内容を復習する
4	データの扱いと注意点（対）	「授業共有ファイル」参照
5	重回帰分析の実践（対）	授業内容を復習す
6	アンケートデータ（質的データ）の扱いと注意点（対）	授業内容を復習する
7	尺度データの扱いについて（対）	授業内容を復習する
8	主成分分析の実践（対）	授業内容を復習する
9	因子分析の実践（対）	授業内容を復習する
10	計量ソフトAMOSでの分析方法（対）	SPSS[AMOS]の操作ガイド参照
11	分析モデルの作成方法（対）	「授業共有ファイル」参照
12	多重指標モデルについて（対）	授業内容を復習する
13	アンケートを用いた心的評価の方法（対）	授業内容を復習する
14	共分散構造分析の仕組み（対）	授業内容を復習する
15	共分散構造分析の実践（対）	授業内容を復習する
16	共分散構造分析の応用（対）	授業内容を復習する

テキスト・参考文献・資料など

参考文献：栗山浩一『環境の価値と評価方法』，豊田秀樹『共分散構造分析[入門編]』

学びの手立て

・授業毎にEXCELファイルを用意しているので，大学ポータルの「授業共有ファイル」からダウンロードして受講してもらう.
・「授業共有ファイル」にあるEXCELファイルを保存できるUSBやクラウドがあることが望ましい.
・授業毎に完結した授業構成にしているが，計量分析は積み重ねなので続けて受講することが望ましい.

評価

・テスト欠席者はレポート提出（8割）で評価を行う.
・テスト（8割）内容はEXCELや計量ソフトAMOSを使用して計量分析を行う.
・授業参加度は2割とする.

学びの継続

次のステージ・関連科目

・授業は計量分析のテクニカルな部分が中心であることから，理論となる「経済学」や「環境経済学」を理解して実証分析に役立てて欲しい.

※ポリシーとの関連性　地域の環境問題を分析する手法を学ぶ.

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	環境評価入門	前期	木１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地　朝央	３年	t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

私たちは身の回りに存在する様々な自然環境を享受していますが，経済活動の拡大とともに環境問題も発生しています．環境問題を抑制ために一定の費用を計上する必要が出てきています．授業では環境対策の考え方と環境評価に必要な基礎統計を中心に説明していきます.

メッセージ

統計学の基礎から復習を行い，EXCELの分析ツールや計量ソフトの使い方を含めて学習していきます.
今期、状況に応じて対面またはteamsによるオンデマンド形式で授業を行う。

到達目標

・環境問題と環境評価の扱いについて学ぶ.
・初歩の計量分析をEXCELで実行できるようになる.
・計量ソフトの使い方を学べる.

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	環境問題と環境コスト（対）	「授業共有ファイル」参照
2	環境問題と外部不経済（対）	授業内容を復習する
3	環境対策と環境政策，その費用対効果について（対）	授業内容を復習する
4	環境政策と環境評価の方法（対）	授業内容を復習する
5	統計学の復習（対）	授業内容を復習する
6	環境測地値の扱い（度数分布）（対）	授業内容を復習する
7	環境測定値の扱い（正規分布）（対）	授業内容を復習する
8	環境測定値の扱い（対数分布）（対）	授業内容を復習する
9	環境測定値の扱い（相関分析）（対）	授業内容を復習する
10	環境統計（回帰分析）（対）	授業内容を復習する
11	環境統計(重回帰分析）（対）	授業内容を復習する
12	環境統計（多重共線性について）（対）	授業内容を復習する
13	環境コストの負担問題（共有地問題）（対）	授業内容を復習する
14	環境コストの負担問題（ゲーム戦略）（対）	授業内容を復習する
15	環境コストの意思決定モデル（対）	授業内容を復習する
16	前期期末試験（対）	授業内容を復習する

テキスト・参考文献・資料など

参考文献：鷲田豊明『環境評価入門』

学びの手立て

・授業毎にEXCELファイルを用意しているので，大学ポータルの「授業共有ファイル」からダウンロードして受講してもらう.
・「授業共有ファイル」にあるEXCELファイルを保存できるUSBやクラウドがあることが望ましい.
・授業毎に完結した授業構成にしているが，統計学は積み重ねなので続けて受講することが望ましい.

評価

・テスト（8割）内容はEXCELとAMOSを使用して計量分析を行う.
・テスト欠席者はレポート（8割）提出で評価を行う.
・授業参加度は2割とする.

学びの継続

次のステージ・関連科目

・授業は環境経済学の知識を学習したのち，環境評価に必要な統計学と初歩の計量分析が中心になります．そのため，「ミクロ経済学」や「統計学」の復習も併せて行って欲しい.

※ポリシーとの関連性　地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すための環境政策への理解を深める環境関連の科目を提供。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 環境法	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火４	2
担当者 砂川　かおり	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawaあっとまぁくokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すために
必要な環境法の基礎的な考え方について理解を深める。

メッセージ

環境法について基本的な考え方を学びながら、授業では時事問題も取り上げるため、新聞等のニュースも確認してください。

到達目標

本講義では、環境法の目的、基本的な考え方や法制度について、
これまでの理論的蓄積やアプローチ、判例等を基に学んでいく。
また、環境問題を解決する一つの手法として、環境訴訟の要件や判例等への理解を深めることで、
環境に係る法的問題点の抽出、解決方法等について考え、分析できる能力を身に付けることを目的としている。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス/環境法の意義について（4/13）	復習し、演習課題をする。
2	環境法における「環境」、現代環境法が対応すべき事象、環境法の存在形態等（4/20）	復習し、演習課題をする。
3	環境問題への民事法的・行政法的対応、三極関係としての環境法関係等（4/27）	復習し、演習課題をする。
4	環境法の基本的考え方の体系の概要、環境法の目的（１）等（5/11）	復習し、演習課題をする。
5	環境法の目的（２）：環境権・環境公益（5/18）	復習し、演習課題をする。
6	環境法の基本的考え方（１）環境責任のあり方　－汚染者負担原則（5/25）	復習し、演習課題をする。
7	環境法の基本的考え方（１）環境責任のあり方　－拡大生産者責任（6/1）	復習し、演習課題をする。
8	環境法の基本的考え方（２）環境リスク管理のあり方　未然防止的・予防的アプローチ（6/8）	復習し、演習課題をする。
9	環境法の基本的考え方（２）環境比例原則　等（6/15）	復習し、演習課題をする。
10	環境法の基本的考え方（３）環境ガバナンスのあり方/環境民主主義について（6/22）	復習し、演習課題をする。
11	公害と企業の責任、環境汚染防止のための法システム、環境法の執行の実際（6/29）	復習し、演習課題をする。
12	環境公害訴訟（１）民事訴訟（7/6）	復習し、演習課題をする。
13	環境公害訴訟（２）行政訴訟（7/13）	復習し、演習課題をする。
14	沖縄県の環境問題と法政策（7/20）	復習し、演習課題をする。
15	まとめ・授業評価アンケート（7/27）	期末試験に備えて、復習する。
16	期末試験（8/3）	試験内容を振り返り、復習する。

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。随時資料を配布する。
参考文献：①北村喜宣（2013）『現代環境法の諸相　改訂版』（財団法人　放送大学教育振興会）、②北村喜宣（2020）『環境法』（弘文堂）、③大塚直・北村喜宣　編（2018）『環境法判例百選 第3版〔別冊ジュリストNo.240〕』（有斐閣）、④大塚直他編（2020）『九訂 ベーシック環境六法 』（第一法規）、その他 適宜案内する。

学びの手立て

・授業に毎回出席し、講義を聞きながら、配布プリントを完成させること。
・毎回、課題は提出すること。
・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。
・欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。

評価

2／3以上の出席と課題提出、期末試験の受験を単位取得の最低条件とする。
評価配分：リアクションペーパー（15%）、課題（15%）、期末試験（70%）により評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「環境政策論II」

※ポリシーとの関連性　地域経済の問題解決に必要な経済学関連の科目を提供

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	観光経済論	前期	木４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲　薫	３年	研究室５－６３２ kuezu@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

観光経済学は、観光事象の経済的側面に関する理解や分析の為に経済学または経済学の分析道具を適用しようとする応用経済学の一分野である。本講義では観光客の行動や観光地開発などによる経済効果の現状を理解するとともに、観光による地域活性化の取り組みやその課題などについて考える。

メッセージ

観光産業や地域振興などに興味がある学生を広く歓迎します。観光地や観光産業における課題を解決するための意見を歓迎しますので、積極的に講義に参加して下さい。

到達目標

①観光による経済効果や地域活性化、観光商品、観光価格、観光投資などに関する専門知識を事例を挙げながら説明できる。
②観光地の取り組み事例等に自分自身の意見を述べることができる。
③観光地活性化策の提案するすることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義説明	観光関連用語を調べる
2	観光の現状と経済効果①：国際観光と国内観光の現状、観光の経済効果の概要など	参考文献：①と④を読む
3	観光の現状と経済効果②：経済効果の事例、討論「他産業より観光振興を推進すべきか」	討論の意見をまとめ、提出準備
4	観光地の活性化①：観光による活性化の特徴、地域資源の活用	参考文献：⑥を読む
5	観光地の活性化②：着地型観光の特徴と取り組み事例	同上
6	観光地の活性化③：コミュニティビジネスによる地域振興	企画発表の準備
7	観光によるコミュニティビジネスの企画・立案・発表（各自）	企画の修正
8	観光地の活性化④：地域ブランディングによる地域振興	参考文献：⑥を読む
9	観光と自然環境：エコツアーの効果と影響、環境収容能力、討論「どのガイドを優先すべきか」	討論の意見をまとめ、提出準備
10	観光商品の特徴と需要関係：観光商品の概念・特徴・構成要素、観光需要の法則と弾力性	参考文献：⑦を読む
11	観光価格①：観光価格の概要・決定メカニズム・設定目標、観光商品の価格戦略	同上
12	観光価格②：観光価格の具体的設定法、観光商品の差別価格戦略	同上
13	観光投資①：観光投資の概要・投資基準、観光費用の分析	同上
14	観光投資②：観光投資リスクと投資決定、観光投資案件の評価法	同上
15	観光課税：種類と特徴、導入理由、討論「観光税の導入は必要か」	討論の意見をまとめ、提出準備
16	試験	講義内容を復習する

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：特に指定はない。適宜レジュメを配布する。
参考文献：①ジェームズ・マック（2005）『観光経済学入門』日本評論社。②角本伸晃（2011）『観光による地域活性化の経済分析』成文堂。③中崎　茂(2002)『観光の経済学入門－観光・環境・交通と経済の関わり』古今書院。④マーティン・オッパーマンほか(1999)『途上国開発論』学文社。⑤アラン・ウイリアムスほか(1992)『観光と経済開発』成山堂書店。⑥敷田麻実ほか(2009)『観光の地域ブランディング』学芸出版社。⑦河村誠治(2000)『観光経済学の基礎』九州大学出版会。

学びの手立て

履修の心構え：本講義は観光地の紹介や楽しみ方を説明しないため、そのことを理解した上で受講して下さい。
途中退室や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。
学びを深めるために：観光に関する新聞を読んだり、観光庁http：//www.mlit.go.jp/kankocho/のWebサイトをみること推奨する。

評価

テスト（40%）：上記の到達目標の①を評価します。
平常点（30%）：講義やDVD視聴の感想、講義への参加姿勢を評価します。
課題・レポート（30%）：コミュニティビジネスの企画・立案・発表、授業内容の討論内容の意見を評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

次のステージ：観光を視点に地域活性化や経済効果など学んでいるため、観光以外でも地域的課題を解決できるようにして欲しい。
関連科目：「観光入門」「観光情報論」「沖縄の観光」は受講して欲しい。

※ポリシーとの関連性　沖縄経済を支える観光産業へのIT活用を理解することによって、沖縄経済についても深く考える力を身につける。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	観光情報論	後期	月３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘　もえ子	３年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義は、観光情報メディアとしてのインターネット、観光情報収集・観光情報提供システムについて学習することによって、今後、観光情報をどのように収集し、提供すれば良いかを考える。仮登録者数が上限を超えた場合「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。

メッセージ

沖縄経済を支える観光産業において、どのようにITを活用できるかを考えていきましょう。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。
今年度の講義は、オンラインライブ配信です。ライブ配信授業を受講できない場合は、受講日当日の状況をメールで連絡した上で、レコーディングしたオンデマンド配信を受講して下さい。

到達目標

・観光産業におけるIT活用動向について理解できる。
・IT活用方法について自ら調べ、わかりやすく説明できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（特）講義ガイダンス	観光情報に関する調べ学習
2	（特）観光情報とは（1）	観光情報に関する調べ学習
3	（特）観光情報とは（2）	観光情報に関する調べ学習
4	（特）観光空間情報とは（1）	観光空間情報に関する調べ学習
5	（特）観光空間情報とは（2）	観光空間情報に関する調べ学習
6	（特）観光情報産業	観光情報産業に関する調べ学習
7	（特）観光情報とインターネット	インターネット学習
8	（特）インターネットによる情報提供（1）	旅行会社の取組に関する調べ学習
9	（特）インターネットによる情報提供（2）	旅行サイトの取組に関する調べ学習
10	（特）旅行プランの作成（1）	旅行プラン作成課題
11	（特）旅行プランの作成（2）	旅行プラン作成課題
12	（特）Google Maps	Google Maps 演習
13	（特）観光情報提供システム（1）	ARに関する調べ学習
14	（特）観光情報提供システム（2）	APIに関する調べ学習
15	（特）期末試験	試験の振り返り
16	（特）まとめ	講義全体の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】
テキストは使用しません。講義中にレジメを配布する。
【参考文献】
観光学入門，岡本伸之編，有斐閣アルマ，2001．Google Maps Hacks，ギブソン リッチ，アール スカイラー著，オーム社，2007．ARのすべて，日経コミュニケーション編，日経BP，2009．他講義時に紹介する。

学びの手立て

履修の心構え
・講義内容および課題は各回毎に異なるため、毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。
学びを深めるために
・業界の動き等も紹介するため、新聞記事を読むことも講義の学びを深める助けになる。

評価

平常点（講義への取組）10%、課題点（課題の内容、課題の提出）30%、期末試験60%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（1）関連科目：共通科目の「沖縄の観光」、専門選択科目の「観光経済論」を履修すると、より沖縄の観光業界について理解が深まる事でしょう。
（2）次のステージ：講義で学んだことを踏まえて、卒業研究および社会へ活かして下さい。

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前に、大学生として身につけるべき読解力、表現力等の演習を行う基礎科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木２	2
担当者 齋藤　星耕	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備

ねらい

基礎演習では、新入生相互または教員との間でコミュニケーションを深めながら、大学とはどのような場所であるかを知り、学生生活に必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を習得する。また、将来に目を向ける機会とする。

メッセージ

大学での学び方を学ぶセミナーです。また、新入生同士が協力しながら課題をこなす中で、お互いを知る機会ともなるでしょう。ぜひ欠席しないで、このセミナーを大学生活のスタートアップの場として活用していきましょう。また大学生活にかかわる様々な疑問についても気軽に教員に相談してください。

到達目標

グループで共同して調べたり、議論して集約することが出来る
グループで調べた/議論したことに基づいてレジュメを作成することが出来る
調べたこと/考えたことをレポートにまとめることが出来る

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	時間割の検討
2	回転自己紹介	ゼミメンバーを良く知る
3	スカベンジャーハント	学内の各施設について調べる
4	フレッシュマンテスト	高校までの学習内容を振り返る
5	図書館オリエンテーション	課題レポート
6	キャリアガイダンス	内容の整理・振り返り
7	ワークショップ(1)　(ゲスト講師)	内容の整理・振り返り
8	グループディスカッション	議論の進め方について振り返る
9	プレゼンのやりかた：他者紹介	プレゼンについて振り返る
10	レジュメのつくり方	レジュメ作成、プレゼン練習
11	レジュメを用いたプレゼン	レジュメ作成、プレゼン練習
12	ワークショップ(2)　(ゲスト講師)	内容の整理・振り返り
13	レポート作成(1) 資料の探し方	レポート作成
14	レポート作成(2) 作成	レポート作成
15	レポート作成(3) 修正作業	レポート作成
16	個人面談	今後の学生生活の展望をまとめる

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。

学びの手立て

毎回出席し、やむを得ず欠席の場合には事前に連絡すること。無断欠席はグループでの作業・発表で他のメンバーに迷惑をかけることになります。

（授業形式について）
原則として対面授業で実施する。
但し、必要に応じて、リスクのある履修者がオンライン参加を選択できるように、対面・オンライン併用とすることがある。

評価

出席状況、発表、レポートなどを総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目: 基礎演習 II、地域セミナー Ⅰ & II、演習 Ⅰ & II

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前の基礎科目。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	基礎演習Ⅰ	前期	木２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	友知　政樹	１年	メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

基礎演習のねらいは、新入生と教員がコミュニケーションを深めながら、大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を養うことである。最終的には、個人でレポートを作成し、レジュメを作成した上、プレゼンテーションをすることを目指す。

メッセージ

一緒に目から血が出るほど勉強しましょう！

到達目標

ねらいの達成。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

第０１回：ガイダンスと自己紹介
第０２回：キャンパスライフシートの作成とメールのレッスン
第０３回：スカベンジャー・グループ
第０４回：他者紹介
第０５回：図書館オリエンテーション
第０６回：レジュメのレッスン・グループ（１）
第０７回：レジュメのレッスン・グループ（２）
第０８回：留学セミナー（１）
第０９回：ノートテイクのレッスン
第１０回：学外活動
第１１回：書評のレッスン基礎編（１）
第１２回：書評のレッスン基礎編（２）
第１３回：書評のレッスン基礎編（３）
第１４回：書評のレッスン基礎編（４）
第１５回：キャリアセミナー（１）
第１６回：キャリアセミナー（２）

テキスト・参考文献・資料など

必要に応じて資料を配布する。

学びの手立て

毎回出席すること。

評価

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。原則として、遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。評価は、ゼミにおける発言の内容（50%）やレポート（30%）、プレゼンテーションの内容（20%）により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

基礎演習Ⅱ

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前には、統計学、経済学入門、環境科学、および大学生として身につけるべき基礎科目を提供。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木２	2
担当者 上江洲　律子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	オフィス・アワー（木曜４校時）に、５号館４３６研究室で対応します。	

学びの準備

ねらい

さまざまな価値観との出会いの始まりとして、学生同士だけではなく学生と教員がコミュニケーションを行える場となることを目的とします。

メッセージ

知らないもの、慣れていないもの、変わったものに触れるのは不安なことです。でも、そこに触れることで初めて、新しい世界への窓が開かれるものです。一緒に、まだ見ぬ世界を見に行きましょう。

到達目標

「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」は大学生にとって必要な５つの力です。基礎演習Ⅰでは、まず、個人でこの力を身につけることを目標とします。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンスと自己紹介	復習
2	他者紹介とメールのレッスン	復習
3	フレッシュマンテストの実施①	復習
4	フレッシュマンテストの実施②	復習
5	キャンパスライフシートの作成と発表	復習
6	学外見学	復習
7	ノートテイクのレッスン（１）ガイダンス	復習
8	ノートテイクのレッスン（２）学外講師の講演会	復習
9	図書館オリエンテーション（１）見学	復習
10	図書館オリエンテーション（２）サイトの紹介	復習
11	書評のレッスン（１）ガイダンスと作成準備	課題の作成
12	書評のレッスン（２）作成①	課題の作成
13	書評のレッスン（３）作成②	課題の作成
14	書評のレッスン（４）作成③と提出	復習
15	書評のレッスン（５）講評会	復習
16	まとめ	復習

テキスト・参考文献・資料など

授業内で必要に応じてプリントを配付します。
※参考文献についても授業内で必要に応じて紹介します。

学びの手立て

読書や映画鑑賞、スポーツや旅行、人や人が表現したものであれば、どういったものでも構いません。大学以外の場で、さまざまな感性に触れる機会を意識的に作るようにしてください。そして、その際に自分の内に生まれた心や思考の動きを言葉にして表すようにしてみてください。ささやかでも日々のそうした心掛けが、コミュニケーションの力のゆるぎない礎となります。

評価

平常点（４０％）と課題となる書評の得点（６０％）で評価します。
※ただし、単位修得のためには授業における３分の２以上の出席を義務づけます。

学びの継続

次のステージ・関連科目

基礎演習Ⅱでは基礎演習Ⅰで身に付けた力をさらに深めます。基礎演習ⅠとⅡを通して、大学生としてのコミュニケーション力の基礎を育みますので、基礎演習Ⅰに引き続いて基礎演習Ⅱを受講して下さい。

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前に大学生として身につけるべき読解力、表現力等の演習を行う基礎科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名	期 別	曜日・時限	単 位
基礎演習Ⅰ	前期	木２	2
担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
伊藤　拓馬	１年	授業終了後の教室で受け付ける	

学びの準備

ねらい

学生と教員とのコミュニケーションを深め、大学生としての必須となるスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を身に付ける。

メッセージ

基礎演習で学ぶことを今後の大学生活での学習に活かして欲しい。

到達目標

・グループで情報収集した内容を、レジュメやパワーポイントなどを活用し、第三者に分かりやすく伝えることができる
・調べたことや考えたことをレポートとしてまとめることができる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスを熟読する
2	自己紹介	ゼミメンバーとの親交を図る
3	ポータル、メールの使い方	配布資料の復習
4	メールの書き方	配布資料の復習
5	インターネットや図書館利用	配布資料の復習
6	レジメ作成方法	配布資料の復習
7	フィールドワーク	内容の復習
8	フィールドワークの内容の整理	内容の復習
9	グループワークの課題配布、プレゼン資料作成方法	プレゼン資料の作成
10	グループワークの成果発表準備	プレゼン資料の作成
11	グループワークの成果発表準備	プレゼン資料の作成
12	グループワークの成果発表	成果発表のふりかえり
13	グループワークの成果発表	成果発表のふりかえり
14	グループワークの成果発表	成果発表のふりかえり
15	グループワークの成果発表	成果発表のふりかえり
16	まとめ	これまでの内容のまとめ

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。配布試料はファイルに綴じて、毎回持参すること。

学びの手立て

毎回出席すること。やむを得ず欠席する場合には、必ず事前連絡し、配布資料を研究室まで取りに来ること。2/3以上の出席が無いと不可になる。

評価

平常点（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）で評価

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：基礎演習Ⅱ

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前には、統計学、経済学入門、環境科学、および大学生として身につけるべき基礎科目を提供　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木２	2
担当者 島袋　伊津子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	ituko アットマーク okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

大学生活に適応させる。学生、教員間のコミュニケーションを深める。

メッセージ

基礎演習で学んだことを今後の大学生活での学習で活かしてください。【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標

・レポートを書く上でのルールを身につける。
・プレゼンテーションの基本を身につける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスをよく読む
2	学内オリエンテーリング	学生便覧をよく読む
3	フレッシュマンテスト	高校の数学、国語の復習
4	図書館オリエンテーション	図書館のパンフレットをよく読む
5	海外留学セミナー	海外留学の制度について調べる
6	レポート作成（1）	レポート作成する
7	レポート作成（2）	〃
8	レポート作成（3）	〃
9	プレゼンテーション-レジュメ作成-	グループワーク（プレゼン打合せ）
10	プレゼンテーション-レジュメ作成-	〃
11	プレゼンテーション-グループワーク-	〃
12	キャリアセミナー	自身の卒業後のキャリアを考える
13	フィールドワーク	現地でのメモを復習する
14	フィールドワーク	〃
15	個人面談	大学生活を振り返る
16	個人面談	〃

テキスト・参考文献・資料など

適宜指示します。
入学式の際に配布される「キャリアデザインガイドブック」は最初の課題に使用します。

学びの手立て

やむを得ない事情で欠席する場合は必ず事前にメールしてください。
この授業の担当教員がアカデミックアドバイザーになりますので、大学生活に関する疑問などがあれば、相談してください。

評価

・レポート（40%）、発表（20%）、平常点（40%）
2/3以上の出席がなければ不可になります。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「基礎演習Ⅱ」「地域セミナーⅠⅡ」「演習ⅠⅡ」「演習ⅢⅣ」

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前の大学生として身につけるべき学びの技術（PCリテラシー等）を習得するための基礎科目。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木２	2
担当者 山川（矢敷）　彩子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	メール：　a.yamakawaアットokiu.ac.jp 研究室：　9号館505室	

学びの準備

ねらい

基礎演習のねらいは、新入生と教員がコミュニケーションを深めながら、大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を養うことである。最終的には、個人でレポートを作成し、レジュメを作成した上、コンピュータプレゼンテーションをすることを目指す。二年次以降の学生が登録を希望する場合は、事前に相談すること。

メッセージ

大学生活を有意義に過ごすためには、最初が大事です。学業面だけでなく、大学生活について疑問に思ったこと、わからないことは気軽に質問してください。

到達目標

・基礎的な専門書を読み込み、自分なりに理解しレジメにまとめる事ができる。
・基本的なレポートの書き方のルールを理解し身に付ける。
・レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。
・大学生活のルールや学生支援の内容を理解し、４年間の計画および卒業後の目標を立てる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス・自己紹介等	「履修ガイド」を熟読する。
2	オンライン・オンデマンド授業の受講方法	オンライン講義を受講する。
3	ノートテイキング、他己紹介	フィードバックを提出する。
4	フレッシュマンテスト	フィードバックを提出する。
5	輪読開始（沖縄の自然を知る）	レジメ作成する。
6	レジメ作成	レジメ作成する。
7	レジメ提出	発表練習する。
8	輪読発表（5グループ）	発表練習する。
9	フィールドワーク(宜野湾市内)	フィードバックを提出する。
10	フィールドワーク(宜野湾市立博物館)	フィードバックを提出する。
11	私の地元紹介（レジメ作成）	レジメ作成する。
12	私の地元紹介（レジメ提出）	レジメ作成する。
13	私の地元紹介（PPT作成）	PPT作成する。
14	私の地元紹介発表①	PPT作成する。
15	私の地元紹介発表②	発表練習する。
16	個人面談	面談資料を作成する。

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。
資料は講義内で配布し、参考文献は必要に応じて紹介する。

学びの手立て

履修の心構え
・基礎演習は一年次必修の科目なので必ず出席すること。
・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。
・欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。
※無断欠席はグループ作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、グループメンバーに多大な迷惑をかけることになる。

評価

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。評価は、ゼミにおける発言の内容や課題、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する

授業参加度35%、課題の取組姿勢、出来45%、プレゼンテーション15%、その他5%とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

専門必修科目：「地域セミナーⅠ・II」、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前には、統計学、経済学入門、環境科学、
および大学生として身につけるべき基礎科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ｉ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木２	2
担当者 砂川　かおり	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawaあっとまぁくokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。読む力、考える力、書く力、プレゼンテーション能力を高める。

メッセージ

・指定されたクラスに登録すること。
・第1回目の授業では、授業概要を説明し、履修仮登録の内容を確認するので、必ず参加すること。
・メンバーシップ・トレーニング（ＭＴ）には全員参加すること。

到達目標

大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。
ノートテイク、要約・レジュメ・レポート作成、発表ができるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス、時間割確認、メールの設定、課題①の説明等(4/8)	復習と課題①をする。
2	大学生活とは？（１）―講義・ノートテイク実践― 要約の作り方説明・要約作成(4/15)	復習と課題①をする。
3	スカベンジャーハント(4/22)	課題①の発表練習をする。
4	大学生活とは？（２）（個人で課題①発表　各3分、「キャリア入門ガイドブック」を持参）(5/6)	配布資料を読んで、復習する。
5	図書館ガイダンス（45分）・ＭＴ振り返り（予定）（5/13)	配布資料を読んで、復習する。
6	フレッシュマンテスト実施（5/20)	配布資料を読んで、復習する。
7	レジュメの書き方（１）：レジュメの作成説明、資料読み込み、レジュメ（課題②）作成（5/27)	レジュメ（課題②）作成
8	レジュメの書き方（２）：レジュメ（課題②）の発表・評価（6/3)	配布資料を読んで、復習する。
9	ボーリング大会（予定）（6/10)	慰霊の日について調べる。
10	慰霊の日に考えること（１）：戦前の教育と日本国憲法（6/17)	配布資料を読んで、復習する。
11	慰霊の日に考えること（２）：祖父母への戦争体験聞き取り（6月23日：課題)	聞き取りレポート③作成
12	慰霊の日に考えること（３）：聞き取りの分かち合い（7/1)	配布資料を読んで、復習する。
13	論点・争点・持論の書き方、演習（課題④）（7/8)	配布資料を読んで、復習する。
14	レポートの書き方説明、巡検：沖縄県立博物(7/15)	巡検レポート⑤作成
15	巡検レポート添削・再提出（7/22)	巡検レポートの発表練習
16	巡検レポート発表・評価、授業評価アンケート、夏季休暇中の課題発表（7/29)	夏期休暇中の計画を立て、実行。

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献は、適宜紹介する。

学びの手立て

・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。後日、欠席届を提出すること。
・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。

評価

欠席が６回以上の場合は「不可」。
評価の配分：授業参加度（３０％）、課題①、②、④（３０％）、慰霊の日に関する演習③（２５％）、
巡検レポート⑤（１５％）

学びの継続

次のステージ・関連科目

「基礎演習II」

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前に、大学生として身につけるべき読解力、表現力等の演習を行う基礎科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 齋藤　星耕	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備

ねらい

基礎演習では、新入生相互または教員との間でコミュニケーションを深めながら、大学とはどのような場所であるかを知り、学生生活に必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を習得する。また、将来に目を向ける機会とする。

メッセージ

大学での学び方を学ぶセミナーです。後期は、より実践的に、小論文やディベート、スライドを用いた発表に取り組みます。

到達目標

新聞記事などについて自分の考察・意見を小論文としてまとめることが出来る。
意見の異なる相手と論理的・対話的な討論が出来る。
スライドを用いたプレゼンテーションの作成・発表が出来る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス　履修指導、e-mailの書き方	時間割の検討
2	人権・公民権（1）振り返りワークショップ	内容の整理・復習
3	キャリアセミナー	内容の整理・復習
4	人権・公民権（2）選挙・被選挙権、デモンストレーション	内容の整理・復習
5	人権・公民権（3）被雇用者の権利	内容の整理・復習
6	ワークショップ（ゲスト講師）	内容の整理・復習
7	レクリエーション	レクリエーションの反省
8	人権・公民権（4）両性の平等	内容の整理・復習
9	人権・公民権（5）性的マイノリティ	内容の整理・復習
10	人権・公民権（6）民族	内容の整理・復習
11	発表スライド作成（1）パワーポイントの使い方、資料の探し方	スライド、レジュメ、読み原稿作成
12	発表スライド作成（2）パワーポイントによるスライド作成	スライド、レジュメ、読み原稿作成
13	発表スライド作成（3）レジュメ、読み原稿の準備	スライド、レジュメ、読み原稿作成
14	スライド発表（1）	発表練習
15	スライド発表（2）	発表練習
16	個人面談、まとめ	一年の振り返り、今後の展望

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。

学びの手立て

毎回出席し、やむを得ず欠席の場合には事前に連絡すること。

（授業形式について）
原則として対面授業で実施する。
但し、必要に応じて、リスクのある履修者がオンライン参加を選択できるように、対面・オンライン併用とすることがある。

評価

出席状況、レポート、発表などを総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目： 地域セミナー Ⅰ＆Ⅱ、演習 Ⅰ＆Ⅱ

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前には、統計学、経済学入門、環境科学、
および大学生として身につけるべき基礎科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 砂川　かおり	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawaあっとまぁくokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。読む力、考える力、書く力、プレゼンテーション能力を高める。

メッセージ

・指定されたクラスに登録すること。

到達目標

大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。
レポート、パワーポイント資料等の作成方法を習得し、表現力・プレゼンテーション力を高める。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス、成績・時間割確認(9/30)	配布資料を読んで復習する。
2	浦添西海岸の開発と生物観察（予定：10/7）	レポート①作成
3	レポート①添削・再提出（10/14）	レポート①発表練習
4	レポート①発表（10/21）	本選び
5	書評（１）本選び（10/28）	本を読む、書評②の骨子を考える。
6	書評（２）書評②作成・提出(11/4)	配布資料を読んで復習する。
7	書評（３）書評②についての意見交換会(11/11)	配布資料を読んで復習する。
8	エコプロ2021　登録・事前調査、パワーポイント作成説明(11/18)	配布資料を読んで復習する。
9	エコプロ2021　0nine調査　12月8～10日	エコプロ2021　0nine調査
10	エコプロ2021　0nine調査　12月8～10日	参加報告資料③作成
11	エコプロ2021　0nineの参加報告資料③作成・提出（12/16）	発表練習
12	エコプロ2021　0nineの参加報告資料③発表１（12/23）、地域環境政策入門レポート提出（予定）	発表練習
13	エコプロ2021　0nineの参加報告資料③発表２（1/6）	地環政策入門レポート修正
14	地域環境政策入門レポート添削（１）（1/13）	地環政策入門レポート修正
15	地域環境政策入門レポート添削（２）（1/20）	後期の授業の振り返り
16	まとめ・授業評価アンケート（1/27）、地域環境政策入門レポート最終提出（予定）	春季休暇中の計画を立て、実行。

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献は、適宜紹介する。

学びの手立て

・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。
・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。
・以下に該当する学生は、事前に教員に連絡して下さい。①発熱・体調不良のある学生、②家族に発熱者(37.5度以上)がいる学生、③１週間以内に本人や家族が沖縄県外へ渡航履歴のある者

評価

欠席が６回以上の場合は「不可」。
評価配分：授業参加度（20%）、巡検レポート①（20%）、書評②作成・発表（20%）、
エコプロ20210nine参加報告PPT③作成（30%）、ＰＰＴ③発表（10%）。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「地域セミナーI」・「地域セミナーＩＩ」

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前には、統計学、経済学入門、環境科学、および大学生として身につけるべき基礎科目を提供　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 島袋　伊津子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい
今後の大学生活でどう学ぶかを計画的に考えることをねらいとします。

メッセージ
大学生活という貴重な時間を大事に過ごしてください。【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標
小論文を書くことができる。基本的なプレゼンテーションができる。ディスカッションができる。

学びの実践

学びのヒント
授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスをよく読む
2	プレゼンテーションの基礎	授業の復習
3	新聞を使ったプレゼンテーション（1）	新聞を読む
4	新聞を使ったプレゼンテーション（2）	〃
5	国際交流セミナー	留学制度等に関する情報収集
6	小論文の書き方（1）	小論文を修正
7	小論文の書き方（2）	〃
8	小論文の書き方（3）	〃
9	キャリアセミナー	自身の卒業後のキャリアを考える
10	フィールドワーク	現地メモの復習
11	フィールドワーク	〃
12	グループディスカッション（1）	授業の復習
13	グループディスカッション（2）	〃
14	ディベート（1）	グループワーク（打合せ）
15	ディベート（2）	〃
16	ディベート（3）	〃

テキスト・参考文献・資料など
教科書は指定しません。適宜授業の中で指導します。

学びの手立て
やむをえない事情で欠席する場合は必ず事前にメールをしてください。

評価
レポート課題（30%）、発表（20%）、平常点（50%）
2/3以上の出席がなければ不可となります。

学びの継続

次のステージ・関連科目
「基礎演習Ⅰ」「地域セミナーⅠⅡ」「演習ⅠⅡ」「演習ⅢⅣ」

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前の基礎科目。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 友知　政樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	メールアドレス mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

基礎演習のねらいは、新入生と教員がコミュニケーションを深めながら、大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を養うことである。最終的には、個人でレポートを作成し、レジュメを作成した上、プレゼンテーションをすることを目指す。

メッセージ

一緒に目から血が出るほど勉強しましょう！

到達目標

ねらいの達成。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

第０１回：ガイダンスと自己アピール
第０２回：書評のレッスン応用編（１）
第０３回：書評のレッスン応用編（２）
第０４回：書評のレッスン応用編（３）
第０５回：書評のレッスン応用編（４）
第０６回：書評のレッスン応用編（５）
第０７回：文化活動
第０８回：ＰＰＴプレゼン・グループ（１）
第０９回：ＰＰＴプレゼン・グループ（２）
第１０回：ＰＰＴプレゼン・グループ（３）
第１１回：ＰＰＴプレゼン・グループ（４）
第１２回：ＰＰＴプレゼン・グループ（５）
第１３回：留学・キャリアセミナー（２）
第１４回：面談・個人（１）
第１５回：面談・個人（２）
第１６回：面談・個人（３）

テキスト・参考文献・資料など

必要に応じて資料を配布する。

学びの手立て

毎回出席すること。

評価

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。原則として、遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。評価は、ゼミにおける発言の内容（50%）やレポート（30%）、プレゼンテーションの内容（20%）により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

地域セミナーⅠ

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前の大学生として身につけるべき学びの技術（PCリテラシー等）を習得するための基礎科目。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 山川（矢敷）　彩子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	メール：　a.yamakawaアットokiu.ac.jp 研究室：　9号館505室	

学びの準備

ねらい

基礎演習のねらいは、新入生と教員がコミュニケーションを深めながら、大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を養うことである。最終的には、個人でレポートを作成し、レジュメを作成した上、コンピュータプレゼンテーションをすることを目指す。基礎演習IIは基礎演習I（山川）を登録許可した学生のみ登録すること。

メッセージ

大学生活を有意義に過ごすためには、最初が大事です。学業面だけでなく、大学生活について疑問に思ったこと、わからないことは気軽に質問してください。

到達目標

・簡単な専門書を読み込み、自分なりに理解しレジメにまとめる事ができる。
・基本的な論文・レポートの書き方のルールを理解し身に付ける。
・レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。
・大学生活のルールや学生支援の内容を理解し、４年間の計画および卒業後の目標を立てることが出来る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスを熟読する。
2	沖縄県立博物館見学	発表準備をする。
3	グループ発表	発表準備をする。
4	レポート作成①	レポート用の資料収集をする。
5	レポート作成②	レポート用の資料収集をする。
6	レポート作成③	レポート作成をする。
7	レポート修正	レポート作成をする。
8	レジメ作成①	レジメ作成とレポート修正をする。
9	レジメ作成②	レジメ作成とレポート修正をする。
10	パワーポイント作成①	PPTスライド作成をする。
11	パワーポイント作成②・地環入門課題提出	PPT作成と地環入門の課題作成。
12	地環入門課題修正	PPT作成と地環入門の課題修正。
13	パワーポイント発表①	PPT作成と地環入門の課題修正。
14	パワーポイント発表②	PPT作成と発表練習をする。
15	パワーポイント発表③	PPT作成と発表練習をする。
16	パワーポイント発表④	PPT作成と発表練習をする。

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。
資料は講義内で配布し、参考文献は必要に応じて紹介する。

学びの手立て

履修の心構え
・基礎演習は一年次必修の科目なので必ず出席すること。
・やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。
・欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。
※無断欠席はグループ作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、グループメンバーに多大な迷惑をかけることになる。

評価

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。評価は、ゼミにおける発言の内容や課題、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する

授業参加度35%、課題の取組姿勢、出来45%、プレゼンテーション15%、その他5%とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

専門必修科目：「地域セミナーI・II」、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前には、統計学、経済学入門、環境科学、および大学生として身につけるべき基礎科目を提供。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 上江洲　律子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	オフィス・アワー（木曜４校時）に、５号館４３６研究室で対応します。	

学びの準備

ねらい

メディアを通して伝えられるさまざまな価値観を受容し、それに関する自分の考え方を構築し、それを自ら発信できる力を身につけることを目的とします。

メッセージ

大学生にとって必要な５つの力「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」は社会を生き抜く力でもあります。大学時代にその力を培えるよう、相談しながら一緒に歩んでいきましょう。

到達目標

基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰを通して育んだ「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」という５つの力が、他者とのコミュニケーションを前提とするグループ活動においても発揮されるようになることを目標とします。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンスと夏休みの報告会	復習
2	映画についてのディスカッション（１）映画の紹介	復習
3	映画についてのディスカッション（２）映画の鑑賞①	復習
4	映画についてのディスカッション（３）映画の鑑賞②	復習
5	地元の紹介（１）ガイダンス	課題の作成
6	地元の紹介（２）発表の準備①	課題の作成
7	地元の紹介（３）発表の準備②	課題の作成
8	地元の紹介（４）発表	復習
9	地元の紹介（５）講評会	復習
10	学外見学	復習
11	グループ・プレゼンテーション（１）ガイダンス	課題の作成
12	グループ・プレゼンテーション（２）発表の準備①	課題の作成
13	グループ・プレゼンテーション（３）発表の準備②	課題の作成
14	グループ・プレゼンテーション（４）発表	復習
15	グループ・プレゼンテーション（５）講評会	復習
16	まとめ	復習

テキスト・参考文献・資料など

授業内で必要に応じてプリントを配付します。
※参考文献についても、授業内で必要に応じて紹介します。

学びの手立て

どんな場合でも、前もって考えておくことはとても重要です。少しずつで構わないので、自分が発表する時は勿論、他の人の発表を聞く際にも、先に自分の考えをまとめておく習慣をつけるようにしてみて下さい。そうすることで、伝えられることへの理解が一層深まっていくと思います。

評価

平常点（４０％）と課題となるプレゼンテーション（２回）の平均得点（６０％）で評価します。
※ただし、単位修得のためには授業における３分の２以上の出席を義務づけます。

学びの継続

次のステージ・関連科目

1年生で基礎演習ⅠとⅡを終えた後、2年生で受講するのがフィールドワークを中心とした地域セミナーⅠとⅡとなります。基礎演習ⅠとⅡを通して身につけた大学生として必要な５つの力を、地域セミナーⅠとⅡで発揮してください。

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前に大学生として身につけるべき読解力、表現力等の演習を行う基礎科目を提供。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 伊藤　拓馬	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	授業終了後の教室で受け付ける	

学びの準備

ねらい

学生と教員とのコミュニケーションを深め、大学生としての必須となるスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を身に付ける

メッセージ

基礎演習で学ぶことを今後の大学生活での学習に活かして欲しい。

到達目標

・個人で課題に取り組み、レジメやプレゼン資料などを活用し、第三者に分かりやすく伝えることができる
・個人で調べたことや考えたことをレポートとしてまとめることができる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスを熟読する
2	プレゼンテーションの基礎	配布資料の復習
3	情報収集の基礎	配布資料の復習
4	個人課題の配布	課題を読む
5	レジュメ作成	レジュメを作成する
6	レジュメ作成の添削、修正	レポートを作成する
7	レジュメ作成の添削、修正	レポートを作成する
8	フィールドワーク	レポートを作成する
9	プレゼン資料作成	プレゼン資料を作成する
10	プレゼン資料作成の添削、修正	プレゼン資料を作成する
11	プレゼン資料作成の添削、修正	プレゼン資料を作成する
12	成果発表（1）	プレゼン資料を作成する
13	成果発表（2）	発表練習をする
14	成果発表（3）	発表練習をする
15	成果発表（4）	発表練習をする
16	まとめ	これまでの内容のまとめ

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。配布試料はファイルに綴じて、毎回持参すること。

学びの手立て

毎回出席すること。やむを得ず欠席する場合には、必ず事前連絡し、配布資料を研究室まで取りに来ること。2/3以上の出席が無いと不可になる。

評価

平常点（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）で評価

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：基礎演習Ⅰ、地域セミナーⅠ、Ⅱ、演習　Ⅰ、Ⅱ

※ポリシーとの関連性　企業からのミッションを解決することを通じて、自らの意見を明確に筋道立てて説明できる能力を向上させる。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	キャリアデザイン論	後期	木２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座　元一	２年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

企業から与えられたミッション（課題）に対して、グループに分かれて作業を分担し、主に学生同士の質疑応答で授業は進行する。したがって、プレゼン力、コミュニケーション力が養われ、本格的な就職活動に向けて、自分に相応しい職業や進路を見い出すきっかけとなることができる。社会人基礎力を最初の講義、中間、最後の3回測るので、自分の成長が目に見えて分かり、自信につながる。

メッセージ

この講義は PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）形式の講義である。PBLとは、「課題解決型授業 」のことで、通常の座学中心の講義とは 一線を画するものである。時間外に会社訪問や打ち合わせ等あり、大変ではあるが、企業の方も学生への課題解決のため協力してくれる。講義を通して社会人との交流が深まる。もっと積極的になり、大学生活を充実させ、就活にも活かしたい人向

到達目標

自ら課題を見つけ、解決するための行動を起こすことができる。
仲間と一緒に考えたり、自分の意見を言うなどのコミュニケーション力がつく。
自らの言葉で発表することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	社会人に求められる力を考える
2	チームづくりと1シート企画	企画提案のしかたを調べる
3	企業からのミッション	ミッションに対する解決法を考える
4	チームワークとコミュニケーション	チームメンバーをよく知る
5	課題解決（1）　～企業ミッションと課題を探る～	ミッションに対する解決法の検討
6	課題解決（2）　～課題解決のアプローチ方法～	企業訪問・インタビューなど、打ち
7	課題解決（3）　～ユニーク発想法～	合わせや情報収集を行う
8	課題解決（4）　～提案の事業プランの作り方～	同上
9	中間プレゼンテーション	同上
10	プレゼンテーション技術基礎　～プレゼン本番に向けた企画書のブラッシュアップ～	チームで企画書を作成する
11	課題解決（5）	同上
12	課題解決（6）	同上
13	プレゼン本番前リハーサル	発表の事前練習を行う
14	プレゼン本番	本番に向けた準備と練習を行う
15	各チーム企画提案書の振り返り	提案に対する事後評価を行う
16	自身の学びの振り返り	自身の行動指針を立てる

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特にない
講義時にプリント等を配る。

学びの手立て

出席を重視する。
講義のねらいをしっかりと自覚し、積極的に発言、チーム活動に参加すること。
チームとしての活動が中心になるので、チームリーダー及びメンバーの役割分担が重要になる。
社会人との交流もあるので、社会人としてのマナーを守ることを心がけること。
企業の人も課題を出し、最終プレゼンで評価するだけでなく、講義の間もアドバイス等を行う。

評価

受講態度、グループワークの進め方、プレゼンの結果を総合的に勘案して評価する。
毎回提出するリアクションペーパー（80点）
プレゼン結果（20点）

学びの継続

次のステージ・関連科目

自らの行動力や課題解決力が高まっているので、目的を持って専門科目等をとることができる。また、学外活動も積極的に行う。
就職活動に対しても積極的に取り組むことができる。

※ポリシーとの関連性　地域経済の問題解決に必要な経済学関連の科目を提供。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 金融論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水３	2
担当者 島袋　伊津子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	ituko アットマーク okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

金融の基礎的な知識を定着させることをねらいとする。

メッセージ

【Teamsによるオンラインライブ授業】です。
金融、経済に興味がある学生にお勧めします。
【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標

金融の基礎的な用語を理解できる。時事問題についてわかりやすく説明できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（特）ガイダンス	シラバスをよく読む
2	（特）金融とは何か	授業の復習、参考文献を読む
3	（特）企業の金融行動	〃
4	（特）家計の金融行動	〃
5	（特）政府の金融行動	〃
6	（特）金融機関・金融市場	〃
7	（特）わが国の金融制度（１）	〃
8	（特）わが国の金融制度（２）	〃
9	（特）金融のミクロ理論（１）	〃
10	（特）金融のミクロ理論（２）	〃
11	（特）金融政策（１）	〃
12	（特）金融政策（２）	〃
13	（特）グループによるプレゼンテーション	グループワーク（プレゼン打合せ）
14	（特）グループによるプレゼンテーション	〃
15	（特）グループによるプレゼンテーション	〃
16	（特）グループによるプレゼンテーション	〃

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しない。参考文献としては、下記。
「入門金融」吉野直行・高月昭年(編著) 有斐閣
「エコノミクス入門金融」池尾和人（編著）ダイヤモンド社

学びの手立て

授業では新聞記事などを引用し時事問題を理解できるように指導します。普段から自ら進んで時事問題に関心をもってもらいたいと思います。

評価

評価:小テスト50点+ グループ報告50点 = 100点
・小テスト: 講義の最後にほぼ毎回行う。
上記に加え、ディスカッションや発言等授業への参加状況を勘案して加点します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「マクロ経済学ⅠⅡ」「ミクロ経済学ⅠⅡ」「ファイナンシャルプランニングⅠⅡ」「国際経済論ⅠⅡ」「金融投資ⅠⅡ」「沖縄の経済事情ⅠⅡ(寄付講座）」

※ポリシーとの関連性　地域経済の問題解決に必要な経済学関連の科目を提供。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 金融論Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水３	2
担当者 島袋　伊津子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	ituko アットマーク okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい
金融の発展的・実際的な知識を定着させることをねらいとする

メッセージ
全回【対面】で行います。金融・経済に興味のある学生にお勧めします。【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標
金融の基本的な用語を理解する。金融に関する時事問題をわかりやすく説明できる。

学びの実践

学びのヒント
授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスを読む
2	国民所得勘定、国際収支	授業の復習、参考文献を読む
3	外国為替の仕組み、外国為替レート	〃
4	為替リスクヘッジの手法１	〃
5	為替リスクヘッジの手法２	〃
6	金融危機１	〃
7	金融危機２	〃
8	金融危機３	〃
9	国際貿易１	〃
10	国際貿易２	〃
11	為替制度	〃
12	ヨーロッパの通貨統合	〃
13	開発金融	〃
14	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備
15	プレゼンテーション	〃
16	プレゼンテーション	〃

テキスト・参考文献・資料など
テキスト：指定なし。参考文献は、必要に応じて指導します。

学びの手立て
授業では新聞記事などを引用し時事問題を理解できるように指導します。普段から自ら進んで時事問題に関心をもってもらいたいと思います。

評価
評価:小テスト50点+ プレゼンテーション50点 = 100点
・小テスト: 講義の最後にほぼ毎回行う。
・プレゼンテーション:グループ（３，４名）で講義に関連する新聞記事を各自で用意してその解説を行う。
上記に加え、ディスカッションや発言等授業への参加状況を勘案して加点します。

学びの継続

次のステージ・関連科目
専門科目「マクロ経済学ⅠⅡ」「ファイナンシャルプランニングⅠⅡ」「国際経済論ⅠⅡ」「金融投資ⅠⅡ」「沖縄の経済事情ⅠⅡ(寄付講座）」
共通科目「国際経済」

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前には、大学生として身につけるべき語学などの基礎科目を提供。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 グローカルセミナーＩ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月２	2
担当者 砂川　かおり	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawaあっとまぁくokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

グローバル化が進行する中で、経済活動も環境協力も国際的な視野が求められます。他国の情報を収集するグローバル適応力と共に、自らを主張できる国際人として、まずは自らの足元、ローカルな情報についても学び、表現力も高めていきます。

メッセージ

外国に興味がある学生の皆さんや、留学の準備をしたい学生の皆さんのためのセミナーです。校外に出かけたり、実践的な指導を行うため、受講者数には定員があります。受講希望者が多い場合は、条件に則って抽選します。詳しくは、授業で説明しますので、初回の授業には必ず参加して下さい。

到達目標

海外に出掛ける時や留学時に必要な情報を収集する力を習得する。
また、海外で自らや出身地を紹介できる知識と表現力を身につける。
受講生のレベルに合わせて、到達目標を設定し、可能な範囲で
外国語での自己紹介、沖縄の紹介（経済分野・環境分野を含む）が
できるようになることを目標とする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	授業概要説明、受講生自己紹介、興味のある国・留学希望先報告（４/12）	留学制度等について調べる
2	英会話、海外インターンシップ・留学制度の紹介（本学内外の制度について）（４/19）	海外渡航の目的等について整理する
3	海外渡航の目的・準備すること等について各自発表（日本語・外国語も可、4/26）	訪問希望先の国について調べる
4	英会話、興味のある国・留学希望先について（経済分野・環境分野含む）ＰＰＴを作成（5/10）	パワーポイント①発表練習
5	興味のある国・留学希望先について　ＰＰＴ発表①（１）（5/17）	パワーポイント①発表練習
6	興味のある国・留学希望先についてＰＰＴ発表①（２）（5/24）	巡検先について予習する
7	沖縄県立博物館　各自で訪問・巡検レポート②作成（5/25～6/6）	沖縄の自然や歴史のレポート②作成
8	首里城　訪問・訪問レポート③作成（6/7）	首里城の紹介文（概要）③を作成
9	那覇市久米・天尊廟地　蔡温具志頭親方文若頌徳碑等訪問・レポート④作成（6/14）	レポート④作成
10	平和の礎・沖縄県平和祈念資料館を各自で訪問⑤（6月23日）	レポート⑤作成
11	課題の振り返り・まとめ（6/28）	PPT⑥作成
12	沖縄についての発表資料作成・添削（日本語又は、外国語）（１）（7/5）	PPT⑥作成
13	沖縄についての発表資料作成・添削（日本語又は、外国語）（２）（7/12）	⑥発表練習
14	沖縄の歴史・文化、経済、環境、時事問題についての発表⑥(1)（日本語又は外国語）（7/19）	⑥発表練習
15	沖縄の歴史・文化、経済、環境、時事問題についての発表⑥(2)（日本語又は外国語）（7/26）	前期に学習したことの振り返り
16	沖縄の歴史・文化、経済、環境、時事問題についての発表⑥(3)・授業評価記入（8/2）	語学力向上の目標を立てて実践する

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。随時資料を配布する。
参考文献：Profile of Okinawa : 100 questions and answers / 沖縄の素顔 : 100 Q&A

学びの手立て

・講義を受講し、課題がある場合は回答し、提出すること。
・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。
・欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。
・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。
・授業では、主な外国語として英語を使用します。「沖縄についての発表」等でその他の言語を使用したい場合には、初回の授業で担当教員に相談の上、受講について判断して下さい。

評価

2／3以上の出席、授業や巡検への参加、課題等の提出を単位取得の最低条件とする。
評価配分：授業参加度（15%）＋興味のある国に関する発表①（10%＋5%）
＋巡検レポート②～⑤（40%）＋沖縄に関する発表⑥（25%＋5%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

グローカルセミナーＩＩ

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前には、大学生として身につけるべき語学などの基礎科目を提供。

［　　／演習］

科目基本情報			
科目名 グローカルセミナーⅡ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月２	2
担当者 砂川　かおり	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawaあっとまぁくokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

グローバル化が進行する中で、経済活動も環境協力も国際的な視野が求められます。他国に関する情報収集能力、外国籍の人々とコミュニケーションできるグローバル適応力と共に、自らを主張できる国際人としての表現力も高めていきます。

メッセージ

外国に興味がある学生、留学に関心のある学生のためのセミナーです。オンラインを利用した県内外の外国籍の方との交流、学外での実習なども取り入れるため、ランチタイムや週末に授業が行われることもあります。

到達目標

海外旅行や留学時に必要な情報を収集する力を習得する。
また、外国籍の方とコミュニケーションする力も身につける。
国外における自らの興味を、沖縄の事例と比較しながら、説明できる能力や表現力も身に付ける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	授業概要説明　受講生自己紹介、三線の演奏曲選定、グループ分け（9/20）	ウチナーグチと英語で歌と三線練習
2	ウチナーグチと英語で三線　練習（10/4）講師：安里政弘先生	ウチナーグチと英語で歌と三線練習
3	ウチナーグチと英語で三線　練習（10/11）	ウチナーグチと英語で歌と三線練習
4	ウチナーグチと英語で三線　練習（10/18）	ウチナーグチと英語で歌と三線練習
5	三線の演奏・実演、レポート①作成（10/25）（予定）	レポート①作成
6	三線の演奏・実演、レポート①振り返り・発表（11/1）	フェスティバル参加準備
7	おきなわ国際協力・交流フェスティバル2021（11月13日又は、14日　予定）	発表資料②作成準備
8	おきなわ国際協力・交流フェスティバル2021　発表資料②作成（11/15）	発表資料②作成
9	国際協力・交流を行う沖縄県内の団体等による活動についての調査・発表資料③作成（11/22）	発表準備
10	おきなわ国際協力・交流フェスティバル2021関連　調査発表②、③（12/6）	沖縄空手について調べる
11	新型コロナ対策と留学・旅行について（１）行ってみたい国・地域の調査　（12/13）	PPT④作成
12	新型コロナ対策と留学・旅行について（２）PPT④作成・提出（12/20）	発表練習
13	新型コロナ対策と留学・旅行について（３）PPT④発表（12/27）	沖縄空手について外国語で調べる
14	沖縄空手会館見学⑤（1/17）	レポート⑤作成
15	空手体験⑥（予定：1/24　20時～21時15分）	レポート⑥作成・提出
16	まとめ・授業評価アンケート記入（2/7）	語学力向上の目標を立てて実践する

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。随時資料を配布する。
参考文献：Profile of Okinawa ： 100 questions and answers / 沖縄の素顔 ： 100 Q&A

学びの手立て

・講義を受講し、課題がある場合は回答し、提出、又は実践すること。
・欠席する場合は必ず、欠席届を提出すること。
・授業では、主な外国語として英語を使用します。発表等でその他の言語を使用したい場合には、初回の授業で担当教員に相談の上、受講について判断して下さい。
・以下に該当する学生は、事前に教員に連絡して下さい。①発熱・体調不良のある学生、②家族に発熱者(37.5度以上)がいる学生、③１週間以内に本人や家族が沖縄県外へ渡航履歴のある者

評価

2／3以上の出席、授業や課外活動への参加、課題等の提出・実践を単位取得の最低条件とする。
評価配分：三線と歌　①（30%）＋おきなわ国際協力・交流フェスティバル2021等への参加と課題、発表②、③（30%）＋新型コロナ対策と留学・旅行についてPPT④作成・発表（30%）＋沖縄空手会館レポート⑤（10%）と空手体験レポート⑥（10%）。

学びの継続

次のステージ・関連科目

グローカルセミナーⅠ

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前には、統計学、経済学入門、環境科学、および大学生として身につけるべき基礎科目を提供。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 経済学入門Ｉ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水１	2
担当者 島袋　伊津子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	ituko アットマーク okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

入門的な経済学を学び、専門科目、応用科目をよりスムースに理解するために、必要な基礎知識を定着させることをねらいとする。

メッセージ

この講義を受講して、私たちの身近な問題が経済と深くつながり、皆さんの将来にも大きく影響することを理解して欲しい。また、経済学的な思考・視点を身につけ自らの生活に活かしてもらいたい。【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標

基礎的なミクロ経済学の用語の意味を理解する。現実の経済について学んだ知識を使って理解しプレゼンテーションできる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスを読む
2	教科書 第１章１，２　＊課題提出開始	事前にテキストを読み課題作成
3	教科書 第１章３	〃
4	教科書 第２章１	〃
5	教科書 第２章２	〃
6	教科書 第３章１，２	〃
7	教科書 第３章３	〃
8	教科書 第４章１	〃
9	教科書 第４章２	〃
10	教科書 第４章３	〃
11	教科書 第５章１	〃
12	教科書 第５章２	〃
13	教科書 第５章３	〃
14	教科書 第６章１	〃
15	教科書 第６章２＊課題提出最終	〃
16	グループによるプレゼンテーション	グループワーク（プレゼン打合せ）

テキスト・参考文献・資料など

「最新版 アメリカの高校生が学ぶ経済学」ゲーリー・Ｅ・クレイトン（著）2014年、WAVE出版、2592円。

学びの手立て

講義で学んだ内容を日々の経済ニュースと関連させて考えましょう。

評価

小テスト（30%）、課題（40%）、プレゼンテーション（30%）、平常点を加点。２／３以上出席を単位修得の必要条件とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「ミクロ経済学ＩＩ」「労働経済学ＩＩ」「公共経済学ＩＩ」「地域経済学ＩＩ」「環境経済学ＩＩ」

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前には、統計学、経済学入門、環境科学、および大学生として身につけるべき基礎科目を提供。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 経済学入門Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水１	2
担当者 島袋　伊津子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	ituko アットマーク okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

入門的な経済学を学び、専門科目、応用科目をよりスムースに理解するために、必要な基礎知識を定着させることをねらいとする。

メッセージ

この講義を受講して、私たちの身近な問題が経済と深くつながり、皆さんの将来にも大きく影響することを理解して欲しい。また、経済学的な思考・視点を身につけ自らの生活に活かしてもらいたい。【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標

基礎的なマクロ経済学の用語の意味を理解する。現実の経済について学んだ知識を使って理解しプレゼンテーションできる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスをよく読む
2	テキスト第7章　※課題提出開始	事前にテキストを読み課題作成。
3	テキスト第8章	〃
4	テキスト第9章	〃
5	テキスト第10章	〃
6	テキスト第11章	〃
7	テキスト第12章	〃
8	テキスト第13章	〃
9	テキスト第14章	〃
10	テキスト第15章	〃
11	テキスト第16章　※課題提出最終	〃
12	グループによるプレゼンテーション	グループワーク（プレゼン打合せ）
13	グループによるプレゼンテーション	〃
14	グループによるプレゼンテーション	〃
15	グループによるプレゼンテーション	〃
16	グループによるプレゼンテーション	〃

テキスト・参考文献・資料など

「最新版 アメリカの高校生が学ぶ経済学」ゲーリー・Ｅ・クレイトン（著）2014年、WAVE出版、2592円。

学びの手立て

講義で学んだ内容を日々の経済ニュースと関連させて考えましょう。

評価

小テスト（30%）、課題（40%）、プレゼンテーション（30%）、平常点を加点。２／３以上出席を単位修得の必要条件とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「マクロ経済学ＩⅡ」「労働経済学ＩⅡ」「公共経済学ＩⅡ」「地域経済学ＩⅡ」「環境経済学ＩⅡ」

※ポリシーとの関連性　経済学を学ぶ上で必要な知識としての「数学」を学習する。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	経済数学Ｉ	前期	水３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘　もえ子	１年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、経済学で使われる数学を初歩の基本的課題から応用分野までを解説する。練習問題を解くことにより、経済学に必要な数学の知識を身につける。　「経済数学I」では、行列や行列式等の線形代数について学習する。

メッセージ

経済学を学ぶ上では、「数学」の知識はとても大切です。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。

到達目標

・行列の基本的な計算ができる。
・行列を利用して経済学の問題が解ける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義ガイダンス	行列の基本学習
2	行列とは・いろいろな行列・行列の計算（1）加法・減法	行列の基本学習
3	行列の計算（2）積	行列の基本学習
4	行列の計算（3）逆行列・連立方程式の解法（1）	行列の基本学習
5	集合	集合の基本学習
6	線形空間（1）	線形空間の基本学習
7	線形空間（2）	線形空間の基本学習
8	線形空間（3）	線形空間の基本学習
9	行列式（1）	行列式の基本学習
10	行列式（2）	行列式の基本学習
11	掃き出し法（1）	掃き出し法の学習
12	掃き出し法（2）	掃き出し法の学習
13	連立方程式の解法（2）	連立方程式の解法の学習
14	経済学への応用（1）	応用学習
15	経済学への応用（2）	応用学習
16	期末試験	試験の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：テキストは使用しません。レジメを配布し、講義中に板書を行う。また、練習問題を配布する。
参考文献：「初歩からの経済数学（第2版）」，三土修平，日本評論社，1996．「経済数学」，藤田渉，勁草書房．他講義時に紹介する。

学びの手立て

履修の心構え
・数学は、毎回の講義の積み重ねがとても重要です。毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。
学びを深めるために
・行列計算の基本については、高校の教科書や参考書が学びの助けになります。

評価

平常点（講義への取組）10%、期末試験90%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（1）関連科目：「経済数学II」は、「経済数学I」とは異なる手法を学びます。経済学の問題を解く手法を学ぶためには、履修すると良いでしょう。
（2）次のステージ：「産業連関論」等の経済系科目において、講義で学んだことを活かして新たな講義の理解を深めることができます。

※ポリシーとの関連性　経済学を学ぶ上で必要な知識としての「数学」を学習する。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	経済数学Ⅱ	後期	水３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘　もえ子	１年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、経済学で使われる数学を初歩の基本的課題から応用分野までを解説する。練習問題を解くことにより、経済学に必要な数学の知識を身につける。「経済数学II」では、経済学で扱われる関数について学び、微分法の基礎を習得する。

メッセージ

経済学を学ぶ上では、「数学」の知識はとても大切です。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。

到達目標

・微分法の基本的な計算ができる。
・微分法を利用して経済学の問題が解ける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義ガイダンス・微分とは	関数の種類学習
2	いろいろな関数と逆関数	関数の種類学習
3	指数関数と対数関数	関数の種類学習
4	極限値	極限値の学習
5	導関数	導関数の学習
6	微分法(1)	微分法の基本学習
7	微分法(2)	微分法の基本学習
8	微分法(3)	微分法の基本学習
9	関数の増減	微分法の基本学習
10	経済学への応用(1)	経済学への応用解法
11	経済学への応用(2)	経済学への応用解法
12	偏微分	偏微分の基本学習
13	高階偏導関数	偏微分の基本学習
14	経済学への応用(3)	経済学への応用解法
15	ラグランジュ乗数法	ラグランジュ乗数法の学習
16	期末試験	試験の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：テキストは使用しません。レジュメを配布し、講義中に板書を行う。また、練習問題を配布する。
参考文献：「初歩からの経済数学」，三土修平，日本評論社，1996．「経済数学」，藤田渉，勁草書房．他講義時に紹介する。

学びの手立て

履修の心構え
・数学は、毎回の講義の積み重ねがとても重要です。毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。
学びを深めるために
・微分法の基本については、高校の教科書や参考書が学びの助けになります。

評価

平常点（講義への取組）10%、期末試験90%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

(1) 関連科目：「経済数学I」では、「経済数学II」とは異なる手法を学びます。経済学の問題を解く手法を学ぶためには、履修すると良いでしょう。
(2) 次のステージ：「ミクロ経済学」等の経済系科目において、講義で学んだことを活かして新たな講義の理解を深めることができます。

※ポリシーとの関連性　地域経済の問題解決に必要な経済学関連の科目を提供。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	経済地理Ⅰ	前期	水３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川　護	１年	メールでお問い合わせください。 mail:ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

経済地理学の課題、方法、視角について概観したあと、日本および沖縄、そして世界の農業地域の形成と構造および農業立地論について考察していく予定である。適宜、関連資料の配付、視聴覚教材も利用する。

メッセージ

日頃、ニュースなどでわからない場所がでてきたら、地図で確認する習慣をつけてください。

到達目標

日常、新聞やテレビのニュースでみる農業関係の事柄について理解できるようにする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	経済地理学の課題・方法・視角(1)	資料地理の研究、プリントの復習
2	経済地理学の課題・方法・視角(2)	資料地理の研究、プリントの復習
3	日本の農業(1)	資料地理の研究、プリントの復習
4	日本の農業(2)	資料地理の研究、プリントの復習
5	沖縄の農業	資料地理の研究、プリントの復習
6	世界の農業地域(1)	資料地理の研究、プリントの復習
7	世界の農業地域(2)	資料地理の研究、プリントの復習
8	世界の農業地域(3)	資料地理の研究、プリントの復習
9	世界の農業地域(4)	資料地理の研究、プリントの復習
10	農業立地論	資料地理の研究、プリントの復習
11	世界の地域開発	資料地理の研究、プリントの復習
12	日本の地域開発	資料地理の研究、プリントの復習
13	農業と食糧問題(1)	資料地理の研究、プリントの復習
14	農業と食糧問題(2)	資料地理の研究、プリントの復習
15	農業と食糧問題(3)	資料地理の研究、プリントの復習
16	まとめ	資料地理の研究、プリントの復習

テキスト・参考文献・資料など

帝国書院「資料地理の研究」、「新詳高等地図」
講義の中で適宜紹介する。

学びの手立て

1. 板書事項、口頭で説明したことを必ずノートに記述すること。
2. 配布プリントは必ずファイルに綴り、復習すること。

評価

成績は、レポートで評価する(100%)。

学びの継続

次のステージ・関連科目

1. 日本や世界の食料問題、人口問題について関心をもってもらう。→人口食糧論
2. 日本や世界の鉱工業、商業活動に関心をもってもらう。→経済地理Ⅱ

※ポリシーとの関連性　地域経済の問題解決に必要な経済学関連の科目を提供。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	経済地理Ⅱ	後期	水３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川　護	１年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

経済地理Ⅱでは、日本と世界の工業地域について学習する。とくに、工業の立地変動、ついても講義する予定である。さらに、都市地理学、商業地理学についても触れて行きたいと思っている。
適宜、関連資料の配付、ビデオ教材等の視聴覚教材も利用する。

メッセージ

日頃、ニュースなどでわからない場所がでてきたら、地図で確認する習慣をつけてください。

到達目標

日常、新聞やテレビのニュースでみる工業関係の事柄について理解できるようにする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスを熟読すること
2	経済地理学の見方、考え方(1)	プリント、テキストの復習
3	経済地理学の見方、考え方(2)	プリント、テキストの復習
4	工業の分類と統計	プリント、テキストの復習
5	工業の発達と経済	プリント、テキストの復習
6	わが国の工業地域(1)	プリント、テキストの復習
7	わが国の工業地域(2)	プリント、テキストの復習
8	わが国の工業地域(3)	プリント、テキストの復習
9	世界の工業地域(1)	プリント、テキストの復習
10	世界の工業地域(2)	プリント、テキストの復習
11	世界の工業地域(3)	プリント、テキストの復習
12	世界の工業地域(4)	プリント、テキストの復習
13	都市の概念	プリント、テキストの復習
14	小売業の立地と中心地)	プリント、テキストの復習
15	中枢管理機能の立地と都市システム	プリント、テキストの復習
16	まとめ	

テキスト・参考文献・資料など

『新詳高等地図』、帝国書院、1500円、『新詳　資料地理の研究』、帝国書院、　定価980円

学びの手立て

1. 板書事項、口頭で説明したことを必ずノートに記述すること。
2. 配布プリントは必ずファイルに綴ること。

評価

成績は、レポートで評価する(100%)。

学びの継続

次のステージ・関連科目

工業、都市、商業などの地理的事情について、地域的把握、分布論や立地論の視点から理解できるようにする。
関連科目:経済地理Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ、沖縄の地理

※ポリシーとの関連性　経済学関連ならびにITを活用した科目。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	計量経済学Ⅰ	前期	月３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	友知　政樹	３年	mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義の目的は、多変量解析法のひとつである回帰分析を基軸に計量経済学の基礎を学ぶことである。具体的には、計量経済学の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら統計処理し、その方法ならびに結果の解釈についての理解を深めいく。

メッセージ

計量経済学は楽しいかつパワフルな学問です。

到達目標

ねらいの達成。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

01 ガイダンス
02 基本統計量とエクセル（１）
03 基本統計量とエクセル（２）
04 基本統計量とエクセル（３）
05 単回帰モデル（１）
06 単回帰モデル（２）
07 重回帰モデル（１）
08 重回帰モデル（２）
09 重回帰モデル（３）
10 回帰モデルの仮説検定（１）
11 回帰モデルの仮説検定（２）
12 回帰モデルの仮説検定（３）
13 ダミー変数（１）
14 ダミー変数（２）
15 総まとめ
16 最終試験

テキスト・参考文献・資料など

［例題で学ぶ］初歩からの計量経済学、白砂堤津耶（著）、日本評論社（¥2,800＋税）。

学びの手立て

毎回出席すること。

評価

講義毎の課題提出(50%)、最終試験(50%)により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

計量経済学Ⅱ

※ポリシーとの関連性　経済学関連ならびにITを活用した科目。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	計量経済学Ⅱ	後期	月３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	友知　政樹	３年	mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義の目的は、多変量解析法のひとつである回帰分析を基軸に計量経済学の基礎を学ぶことである。具体的には、回帰分析における多重共線性や系列相関の問題の理解を深め、さらに連立方程式モデルや産業連関分析についても学ぶ。その際、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら理解を深めていく。

メッセージ

計量経済学は楽しいかつパワフルな学問です。

到達目標

ねらいの達成。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

基本的に（対面）での講義であるが、状況に応じてZOOMによる（特別）遠隔講義を織り交ぜながら進める。
その場合は前もって連絡する。
（対）01 ガイダンス
（対）02 回帰モデルの復習（１）単回帰モデル
（対）03 回帰モデルの復習（２）重回帰モデル
（対）04 回帰モデルの復習（３）ダミー変数
（対）05 多重共線性（１）
（対）06 多重共線性（２）
（対）07 系列相関（１）
（対）08 系列相関（２）
（対）09 系列相関（３）
（対）10 連立方程式モデル（１）
（対）11 連立方程式モデル（２）
（対）12 連立方程式モデル（３）
（対）13 産業連関分析（１）
（対）14 産業連関分析（２）
（対）15 総まとめ
（対）16 最終試験

テキスト・参考文献・資料など

［例題で学ぶ］初歩からの計量経済学、白砂堤津耶（著）、日本評論社（¥2,800＋税）。

学びの手立て

毎回出席すること。

評価

講義毎の課題提出(50%)、最終試験(50%)により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

産業連関論の基礎

※ポリシーとの関連性　経済学部地域環境政策課の学生として、「国内外の公害の歴史」を学び、今後の社会にあり方について考える。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 公害概論	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火１	2
担当者 -玉栄　章宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	電話：090-8412-1064	

学びの準備

ねらい

本講義では、世界における公害問題の歴史、日本の戦前の公害、戦後の高度経済成長期の公害問題、国による法整備、産業界の努力による公害の克服について紹介する。

メッセージ

国内外、県内の公害に関する新聞、テレビ、ネット情報などを大いに参考にしてください。

到達目標

過去の国内外の公害の歴史を学ぶことは重要である。学んだことを学内で発表、新聞投稿を行うことなどを期待します。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義ガイダンス、公害とは	新聞資料に対しメールで質問下さい
2	海外における公害の歴史	同上
3	日本における公害の歴史	同上
4	戦後の4大公害（イタイイタイ病、他）	同上
5	戦後の4大公害（イタイイタイ病・DVD）	同上
6	戦後の4大公害（水俣病・新潟水俣病・DVD）	同上
7	戦後の4大公害（四日市ぜんそく）	同上
8	先進国から輸出された公害	同上
9	公害と法規制の歴史（公害対策基本法、公害国会、他）	同上
10	生活環境問題への移行	同上
11	水質汚濁	同上
12	騒音・振動・悪臭	同上
13	土壌汚染、地盤沈下	同上
14	沖縄県の環境問題①（沖縄県環境基本計画、他）	同上
15	沖縄県の環境問題②	同上
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。ＤＶＤや各種配布資料など（ファイルに綴じ、毎回持参する）。

学びの手立て

授業でわからないことがあれば、積極的に質問してください。また、授業中はスマホで検索して学びに活かすことは大いに勧めます。但し、試験中はスマホの使用は禁止です。

評価

・期末試験により100％評価する。再試験は実施しない。
・欠席日から2週間以上過ぎた欠席届は受け取らないので注意する。
　以下の場合、単位は与えない　・3分の1以上の欠席（欠席理由は考慮しない）。
・出席で代筆が明らかとなった場合、期末試験を受けなかった場合、試験で不正をした場合。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：廃棄物論、エコビジネス論、環境法、環境科学Ⅰ・Ⅱ
授業で学んだことを卒業論文に取り上げる場合や、受講後にもっと勉強したいこと等があれば、遠慮なく連絡ください。電話:090-8412-1064、e-mail:tamae-ak@amber.plala.or.jpです。

※ポリシーとの関連性　経済学部地域環境政策課の学生として、「交通と環境」の関わりを学び、今後の社会にあり方について考える。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	交通と環境	後期	金１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-玉栄　章宏	２年	電話：090-8412-1064	

学びの準備

ねらい

本講では、はじめに交通による環境への影響、大気汚染や二酸化炭素排出量、騒音を取り上げる。次に交通業界や観光業界、流通業界など交通と関連する業界の現状、特徴、環境保全の取組などを概説する。また、交通環境政策について交通需要ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄやﾓﾋﾞﾘﾃｨ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ、環境対策を中心とした都市交通計画、環境政策統合（EPI）からみた交通政策について考える。

メッセージ

国内外、県内の交通に関する新聞、テレビ、ネット情報などを大いに参考にしてください。

到達目標

ここ最近の「交通と環境」の関わりを学ぶことは大変重要である。学んだことを学内で発表、新聞投稿が出来ることなどを期待する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義説明	新聞資料に対しメールで質問下さい
2	公共交通と社会	同上
3	交通と大気汚染①	同上
4	交通と大気汚染②	同上
5	交通と大気汚染③	同上
6	交通と二酸化炭素排出量	同上
7	交通需要マネジメント①自家用車１）	同上
8	交通需要マネジメント①自家用車２）	同上
9	交通需要マネジメント②業務用	同上
10	交通需要マネジメント③物流	同上
11	モビリティ・マネジメント①海外：ソフト事業	同上
12	モビリティ・マネジメント②海外：ロードプライジング	同上
13	モビリティ・マネジメント③日本	同上
14	モビリティ・マネジメント④提言・グループ活動：沖国大編	同上
15	業界の環境保全対策：運輸業の環境保全対策	同上
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。ＤＶＤや各種配布資料など（ファイルに綴じ、毎回持参する）。

学びの手立て

授業でわからないことがあれば、積極的に質問してください。また、授業中はスマホで検索して学びに活かすことは大いに勧めます。但し、試験中はスマホの使用は禁止です。

評価

・期末試験により100%評価する。再試験は実施しない。
・欠席日から2週間以上過ぎた欠席届は受け取らないので注意する。
以下の場合、単位は与えない　・3分の1以上の欠席（欠席理由は考慮しない）。
・出席で代筆が明らかとなった場合、期末試験を受けなかった場合、試験で不正をした場合。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：エネルギーと社会、エコビジネス論、環境法、都市環境論
授業で学んだことを卒業論文に取り上げる場合や、受講後にもっと勉強したいこと等があれば、遠慮なく連絡ください。電話:090-8412-1064、e-mail:tamae-ak@amber.plala.or.jpです。

※ポリシーとの関連性　国際的な経済の動向について、経済学的に分析し、状況を把握できる力を養成する。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	国際経済論Ⅰ	前期	水４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鹿毛　理恵	３年	授業後に受け付けます	

学びの準備

ねらい

国際貿易に関する理論と政策を中心に学ぶ。国際貿易の発生要因とメカニズム、貿易の効果、関税などの貿易政策が国内外の経済にもたらす影響について分析できる力を身につける。

メッセージ

ポイントをおさえながら、わかりやすい授業を心がけます。

到達目標

国際貿易の理論と政策について理解する。国際的な商品・サービスの流れ、労働移動について国際経済の現象を理解し、論理的に考察する力を獲得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンスと世界貿易の概観	シラバスを読む
2	需要と供給の貿易理論	Chapter 2の復習
3	なぜ貿易を行うのか：比較優位説	Chapter 3の復習
4	貿易：要素の利用可能性と要素比率	Chapter 4の復習
5	貿易の便益と損失	Chapter 5の復習
6	規模の経済と不完全競争の貿易	Chapter 6の復習
7	成長と貿易	Chapter 7の復習
8	関税	Chapter 8の復習
9	非関税障壁と輸入	Chapter 9の復習
10	保護政策に対する賛否の議論	Chapter 10の復習
11	輸出促進策：ダンピングと補助金	Chapter 11の復習
12	貿易ブロックと貿易同盟	Chapter 12の復習
13	貿易と環境	Chapter 13の復習
14	発展途上国と移行経済圏の貿易政策	Chapter 14の復習
15	多国籍企業と労働移動：国際的な要素移動	Chapter 15の復習
16	期末の試験または課題	テスト範囲の復習

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：適宜、資料を配布する（授業の流れと内容は参考文献①にそって進める）
参考文献：①Pugel,　T.A.（2018）International Economics,　17th edition,　McGraw Hill
②石川城太・椋寛・菊池徹『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣
③大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』新生社
④大川良文『入門国際経済学』中央経済社
⑤クルーグマンPRほか『国際経済学　理論と政策（上・下）』丸善出版

学びの手立て

予習と復習をしてください。

評価

平常点２０％、中間・期末の試験または課題（２つ）８０％

学びの継続

次のステージ・関連科目

国際経済、国際経済論Ⅱ、アジア経済論Ⅰ・Ⅱ

※ポリシーとの関連性　国際的な経済の動向について、経済学的に分析し、状況を理解する力を養成する。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	国際経済論Ⅱ	後期	水４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鹿毛　理恵	３年	授業後に受け付けます	

学びの準備

ねらい

国際金融論の理論的枠組みと政策について学ぶ。国際収支、為替相場、資本取引、経済危機の背景などを理論的に理解できる力を養成する。国際経済が直面する課題について理解を深める。

メッセージ

わかりやすい授業を心がけます。一緒に国際経済について学びましょう。

到達目標

国際金融論に関する基本的・専門的知識を身につける。政策的背景について理解する。国際的な資本取引、経済危機の背景、開放経済下の金融政策や財政政策について理解する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスを読む
2	国家間の取引：国際収支	Chapter 16の復習
3	外国為替市場	Chapter 17の復習
4	先物為替と国際金融投資	Chapter 18の復習
5	外国為替レートの決定要因	Chapter 19の復習
6	外国為替市場介入① 政策の特徴	Chapter 20の復習
7	外国為替市場介入②　政策の変遷	Chapter 20の復習
8	国際金融と通貨危機の変遷	Chapter 21の復習
9	国際金融と通貨危機の課題	Chapter 21の復習
10	開放下のマクロ経済分析	Chapter 22の復習
11	固定相場制：国内均衡と対外均衡①　金融政策と財政政策	Chapter 23の復習
12	固定相場制：国内均衡と対外均衡②　経済への影響と対策	Chapter 23の復習
13	変動相場制と国内均衡	Chapter 24の復習
14	変動相場制とその代替策の選択の課題と事例①　影響と対策	Chapter 25の復習
15	変動相場制とその代替策の選択の課題と事例②　ディスカッション	Chapter 25の復習
16	期末テストまたは期末課題	テスト範囲の復習

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：適宜、資料を配布する（授業の流れと内容は参考文献①にそって進める）
参考文献：①Pugel,　T.A.（2018）International Economics,　17th edition,　McGraw Hill
②橋本優子・小川英治・熊本方雄『国際金融論をつかむ』有斐閣
③大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』新生社
④藤井英次『入門国際金融論』中央経済社
⑤クルーグマンPRほか『国際経済学　理論と政策（上・下）』丸善出版

学びの手立て

予習と復習を心がけてください。

評価

平常点２０％、中間・期末の試験または課題（２つ）８０％

学びの継続

次のステージ・関連科目

国際経済、アジア経済論Ⅰ・Ⅱ、金融論Ⅰ・Ⅱ、国際金融論Ⅰ・Ⅱ

※ポリシーとの関連性　地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すための環境政策への理解を深める環境関連の科目。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	産業と環境	後期	水１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山川（矢敷）　彩子	２年	メールの場合： a.yamakawaアokiu.ac.jp 研究室：　9号館505室	

学びの準備

ねらい

沖縄県は四方を海に囲まれた海洋島嶼県であり、サービス産業などの第３次産業とともに、農林水産業の第１次産業も盛んである。本講義では、産業の中でも特に水産業と環境に関して学んでいくこととする。具体的には、沖縄の海岸環境、沖縄の水産業の歴史、サンゴ礁漁業と環境への負荷などについて、座学と巡検（糸満海人工房資料館見学）により理解を深める。

メッセージ

抽選から漏れた場合、登録調整期間中に教員に直接申し出れば、追加登録を認める。本講義は最終年次においても追試および再試験は実施しないので、4年次は登録の際注意する。
【実務経験】環境調査会社で勤務した経験を活かし、海岸環境の埋め立て、開発に関して講義をする。

到達目標

・沖縄の海岸の開発状況、埋立状況を理解する。
・沖縄のサンゴ礁漁業の歴史を知る。
・沖縄の現在の水産業の様子を実際に直売所に行って実感する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義ガイダンス	シラバスを熟読する。
2	沖縄の海岸開発・埋め立て	関連するTV、ニュースを見る。
3	沖縄の海岸開発・海砂採取	関連するTV、ニュースを見る。
4	沖縄のサンゴ礁漁業の歴史（1）（貝類利用の歴史）	関連するTV、ニュースを見る。
5	沖縄のサンゴ礁漁業の歴史（2）（DVD鑑賞）	関連するTV、ニュースを見る。
6	沖縄のサンゴ礁漁業の歴史（3）（糸満売り～本土復帰）	関連するTV、ニュースを見る。
7	沖縄の伝統漁業	関連するTV、ニュースを見る。
8	学外巡検（糸満海人工房・資料館）	レポート作成する。
9	日本の水産業（全般）	関連するTV、ニュースを見る。
10	沖縄の水産業（1）（獲る漁業）	関連するTV、ニュースを見る。
11	沖縄の水産業（2）（獲る漁業）	関連するTV、ニュースを見る。
12	沖縄の水産業（3）（養殖漁業）	関連するTV、ニュースを見る。
13	学外巡検（泊いゆまちor泡瀬パヤオ直売店or糸満漁協「お魚センター」の見学）	レポート作成する。
14	海外のサンゴ礁漁業と環境への負荷(1)	関連するTV、ニュースを見る。
15	海外のサンゴ礁漁業と環境への負荷(2)	関連するTV、ニュースを見る。
16	期末試験	試験対策をする。

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。
必要に応じて紹介する。

学びの手立て

水産業や海の生物に関するテレビ番組を試しに見てみる。それらのインターネットニュースをクリックしてみる、など日常生活の中で情報に触れ合っておくと、より講義が身近なものに感じるはずです。
また、実際にさまざまな漁港に行って実際に食べてみるのもオススメです。

評価

講義の際に毎回記入するフィードバックシート（意見、感想、質問）の内容、試験および2つの巡検のレポートの内容により総合的に評価する。3分の1以上の欠席（5～6回）、レポート課題の未提出、試験を欠席した学生には単位を与えない。

評価の割合は、平常点（意見、感想、質問）50%、レポート30%、試験20%とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

環境資源論、生物学I・II、自然科学概論I・II、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、土壌学概論、演習I&Ⅱ（山川ゼミ）など。

※ポリシーとの関連性　地域の経済について，経済学を通して仕組みを理解する．

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	産業連関論の応用	後期	月２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地　朝央	３年	t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

財やサービスといった各産業の経済の流れを表す産業連関表について，産業連関表の基となる産業や企業の行動を併せて説明していきます．
授業の目的は，以下の2点が主体となります．
①産業連関表の中身である企業行動について
②各産業の企業行動に伴う産業連関の意味について

メッセージ

産業連関表の仕組みを，より詳細に理解することで実経済や企業行動を理解することに役立ちます．
今期、状況に応じてteamsによるオンデマンド形式で授業を行う。

到達目標

・産業連関表の仕組みをより詳細に理解する．
・経済学を基とする企業行動を理解する．
・企業行動と産業連関の意味を理解する．

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	産業連関表とマクロ経済学（特）	授業ノートを参照
2	産業連関表と産業構造（特）	授業内容を復習する
3	産業組織と企業行動の関係（特）	授業内容を復習する
4	産業組織論の基礎（特）	授業内容を復習する
5	産業均衡と多角化行動（特）	授業内容を復習する
6	企業と付加価値について（特）	授業内容を復習する
7	企業による市場の独占及び寡占に伴う産業連関の意味（特）	授業内容を復習する
8	公共事業の扱いについて（特）	授業内容を復習する
9	企業競争と価格差別（特）	授業内容を復習する
10	企業行動と厚生損失について（特）	授業内容を復習する
11	産業連関にみる企業行動の影響（特）	配布資料を参照
12	企業合併に伴う産業連関の変化（特）	授業内容を復習する
13	企業の市場参入と退出の条件（特）	授業内容を復習する
14	地域における産業組織の行動変化（特）	授業内容を復習する
15	産業連関分析と将来予測（得）	授業内容を復習する
16	試験（特）	授業内容を復習する

テキスト・参考文献・資料など

・適時，資料を用意して配布します．

学びの手立て

・必要なときに授業内容を振り返れるよう，授業ノートを作ることが望ましい．

評価

・中間テスト（4割）と期末テスト（4割）の2回のテストを持って評価する．
・テスト欠席者はレポート（8割）提出で評価を行う．
・授業参加度は2割とする．

学びの継続

次のステージ・関連科目

・産業連関から実経済の企業行動について学ぶことから，「マクロ経済学」や「地域経済学」の理解に役立てて欲しい．

※ポリシーとの関連性　マクロ経済による経済の仕組みを統計的に理解する.

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 産業連関論の基礎	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月２	2
担当者 渡久地　朝央	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

財やサービスといった各産業の経済の流れを表す産業連関表について，見方や考え方について説明していきます．授業では基礎となる行列から復習し，Excelを用いた産業連関表による経済波及効果の算出方法から，公務員試験範囲にある産業連関の解き方まで広く学びます.

メッセージ

産業連関表の仕組みを理解することで実経済や企業行動を理解することに役立ちます.
今期、状況に応じて対面またはteamsによるオンデマンド形式で授業を行う。

到達目標

・産業連関表の仕組みを理解する.
・Excelで経済波及効果を算出できるようなる.
・公務員試験範囲の産業連関の問題を解けるようになる.

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	産業連関表について（対）	授業ノートを参照
2	産業連関表の意義（対）	授業内容を復習する
3	国内の産業連関表の役割について（対）	授業内容を復習する
4	海外の産業連関表について（対）	授業内容を復習する
5	産業連関分析のための準備－産業連関表の仕組み（対）	配布資料を参照
6	産業連関分析のための準備－行列式について（対）	授業内容を復習する
7	競争輸入型産業連関表と非競争輸入型産業連関表（対）	授業内容を復習する
8	レオンチェフ逆行列について1（対）	授業内容を復習する
9	レオンチェフ逆行列について2（対）	授業内容を復習する
10	逆行列と波及効果の計算方法1（対）	配布資料を参照
11	逆行列と波及効果の計算方法2（対）	授業内容を復習する
12	最終需要と波及効果について（対）	授業内容を復習する
13	産業連関分析の事例1（対）	授業内容を復習する
14	産業連関分析の事例2（対）	授業内容を復習する
15	付加価値波及効果について（対）	授業内容を復習する
16	試験（対）	授業内容を復習する

テキスト・参考文献・資料など

・適時，資料を用意して配布します.

学びの手立て

・必要なときに授業内容を振り返れるよう，授業ノートを作ることが望ましい.
・産業連関分析を行う際にEXCELファイルを保存できるUSBやクラウドがあることが望ましい.

評価

・中間テスト（4割）と期末テスト（4割）の2回のテストを持って評価する.
・テスト欠席者はレポート（8割）で評価する.
・授業参加度は2割とする.

学びの継続

次のステージ・関連科目

・後期にある「産業連関論の応用」を続けて受講すると，より詳細な産業連関表の役割と実経済の企業行動が理解できると思います.
・公務員志望の学生は「マクロ経済学」を併せて受講することで経済の試験範囲をカバーできると思います.

※ポリシーとの関連性　専門職業人として活動するのに役立つ資格科目の提供

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	社会調査演習	通年	木１	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川　護	３年	研究室5-510 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本演習の目的は、受講生が社会調査のすべての段階を経験することによって、社会調査の理論と方法を体得することである。具体的には、沖縄の消費・観光行動と地域社会を主要テーマに、少人数の単位のグループごとに詳細調査テーマを決定し、学内の学生や学外の事業社や地域住民などを対象に、量的調査や質的調査を実施し、収集したデータを分析した後に報告書を作成する。

メッセージ

本演習は「社会調査士」の資格科目である。社会の意識やニーズを把握する手法として、社会人になっても大いに役立つため、積極的に受講して欲しい。

到達目標

社会調査の全段階（詳細な調査テーマの決定、調査計画、調査票や質問項目の作成、調査実施、集計・分析、報告書作成）を主体的に実施することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	グループごとにおける調査テーマの検討①4月	テーマに関連する資料収集
2	グループごとにおける調査テーマの検討②4月	テーマに関連する資料収集
3	グループごとにおける調査テーマの検討③4月	テーマに関連する資料収集
4	調査テーマに関する現状と課題調査① 5月	資料収集・レジュメ作成
5	調査テーマに関する現状と課題調査② 5月	資料収集・レジュメ作成
6	調査テーマに関する現状と課題調査③ 5月	資料収集・レジュメ作成
7	調査テーマに関する現状と課題調査④ 5月	資料収集・レジュメ作成
8	調査テーマに関する既存の資料・データの分析① 6月	資料収集・レジュメ作成
9	調査テーマに関する既存の資料・データの分析② 6月	資料収集・レジュメ作成
10	調査テーマに関する既存の資料・データの分析③ 6月	資料収集・レジュメ作成
11	調査テーマに関する既存の資料・データの分析④ 6月	資料収集・レジュメ作成
12	調査テーマに関する既存の資料・データの分析⑤ 7月	資料収集・レジュメ作成
13	調査テーマに関する既存の資料・データの分析⑥ 7月	資料収集・レジュメ作成
14	調査企画書（対象者・対象地域等）の作成①7月	調査企画書の執筆
15	調査企画書（対象者・対象地域等）の作成②7月	調査企画書の執筆
16	調査票の作成とサンプリングの実施①9月	調査票の作成と予備調査
17	調査票の作成とサンプリングの実施②9月	調査票の作成と予備調査
18	調査票の作成とサンプリングの実施③9月	調査票の作成と予備調査
19	調査の実施①10月	調査票の配布と収集
20	調査の実施②10月	調査票の配布と収集
21	調査の実施③10月	調査票の配布と収集
22	調査の実施④10月	調査票の配布と収集
23	調査の実施⑤11月	調査票の配布と収集
24	調査の実施⑥11月	調査票の配布と収集
25	調査データの集計と分析、原稿作成 PASWの活用① 11月	データの集計と分析、原稿執筆
26	調査データの集計と分析、原稿作成 PASWの活用②12月	データの集計と分析　原稿執筆
27	調査データの集計と分析、原稿作成 PASWの活用③12月	データの集計と分析　原稿執筆
28	調査データの集計と分析、原稿作成 PASWの活用④12月	データの集計と分析　原稿執筆
29	調査報告書の作成①1月	原稿の推敲
30	調査報告書の作成②1月	原稿の推敲
31	調査報告書の発行と報告会1月	報告会準備

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：特に指定はない。 参考文献：①大谷信介他編著（ 2013）『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法―』ミネルヴァ書房。③盛山和夫（ 2004）『社会調査法入門』有斐閣。 ④島崎哲彦編（ 2000）『社会調査の実際－統計調査の方法とデータの分析』学文社。⑤社会調査の基礎（2010)『社会調査の基礎－社会調査士 A・ B・ C・ D科目対応』弘文堂。⑥小木曽道夫(2006)『 SPSSによるやさしいアンケート分析』オーム社。
	学びの手立て 履修の心構え：グループで社会調査の全工程を実施するため、欠席しないようにする。 途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。 学びを深めるために：社会調査士の資格取得希望者は、出来るだけ 3年次で単位を取得して欲しい。 「社会調査論Ⅰ」と「社会調査論Ⅱ」の単位を取得した後に、本演習を受講することを推奨する。 なお、社会調査協会 http://jasr.or.jp/の Webページで「社会調査士」の取得科目を確認して下さい。 経済学科と地域環境政策学科で、「社会調査士」で指定された資格科目は異なります。
	評価 グループ報告（ 30%）：グループの調査結果の報告内容を評価します。 報告書（ 40%）：グループの報告書の水準を評価します。 平常点（ 30%）：グループ活動における各自の貢献度を評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：社会に出ても本演習で習得した思考力、計画性、分析力等を発揮できるように頑張って欲しい。 関連科目：「社会調査論Ⅰ」「社会調査論Ⅱ」「統計学Ⅰ・Ⅱ」「環境統計学Ⅰ・Ⅱ」「統計情報処理Ⅰ・Ⅱ」 「計量経済学Ⅰ・Ⅱ」「経済統計処理Ⅱ」は受講して欲しい。

※ポリシーとの関連性　専門職業人として活動するのに役立つ資格科目の提供

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	社会調査論Ⅰ	前期	土３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-千住　直広	２年	授業終了後に教室で受け付けます。 ptt514@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

社会に対するさまざまな問題を調べ、明らかにしていく社会調査は、現代社会を読み解く中で必要な力となります。また、実際、社会に出たとき、自らの仕事として向かい合うことも出てきます。本講義では、卒論及び研究時の社会調査のノウハウを学ぶだけではなく、実社会に出てからも社会を読み解くノウハウとして、社会調査の意義と方法など一連の基本的事項を実例を交えながら学びます。

メッセージ

リサーチリテラシーを高めたいなど、現代社会を読み解く術としての学びの機会ともなります。

到達目標

社会調査の理解、また、社会調査を活用できるよう手段としてのノウハウを身につけられるようにしたいと思います。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介）	シラバスをよく読むこと
2	社会調査とは（あるれる社会調査、社会調査の意義、用途）	レジュメをよく読むこと
3	社会調査史（社会調査の変遷）	同上
4	さまざまな社会調査法（社会調査の種類）	同上
5	社会調査の実例	同上
6	社会調査をやるにあたって（調査上の倫理、注意事項）	同上
7	社会調査の全体像（調査設計から公表まで）	同上
8	情報収集の方法（1）（官公庁、図書館等の活用）	同上
9	情報収集の方法（2）（インターネットの活用）	同上
10	既存の統計データの収集・分析（官公統計の種類と特徴）	同上
11	量的調査の実際（量的調査の目的・内容）	同上
12	質的調査の実際（質的調査の目的・内容）	同上
13	質的調査（1）（聞き取り）	同上
14	質的調査（2）（参与観察）	同上
15	質的調査（3）（ドキュメント分析）	同上
16	テスト（ふりかえりとまとめ）	

テキスト・参考文献・資料など

大谷信介他編著「社会調査へのアプローチ-論理と方法-」ミネルヴァ書房
その都度、レジュメ・資料等を配布します。

学びの手立て

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。
病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。
講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。

評価

レポート及びテスト（50%）、平常点（50%）を総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目として、「統計学」、「計量経済学」などがある。

※ポリシーとの関連性　専門職業人として活動するのに役立つ資格科目の提供

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	社会調査論Ⅱ	後期	土３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-千住　直広	２年	授業終了後に教室で受け付けます。 ptt514@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

社会調査の基本的事項を踏まえた上で、より実践的なノウハウを習得するために、主に量的調査に重点をおいて、収集した資料やデータを整理し、分析するための具体的な調査企画・設計、サンプリング、調査の実施、データの整理・集計・分析等を学びます。実際に、グループ毎にテーマを設定し、調査票を作成後、調査を実施し、調査結果を発表してもらいます。

メッセージ

リサーチリテラシーを高めたいなど、現代社会を読み解く術としての学びの機会ともなります。
講義方法が状況により変更があり得ます。都度、メール等でお知らせしますので十分注意して下さい。

到達目標

社会調査の理解、また、社会調査を活用できるよう手段としてのノウハウを身につけられるようにしたいと思います。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介）	シラバスをよく読むこと
2	社会について考える（テーマ設定のための情報収集）	レジュメをよく読むこと
3	概念の活用（定義の重要性、操作概念の活用）	同上
4	仮説構成の方法（独立変数と従属変数）	同上
5	調査の設計、企画（調査企画）	同上
6	調査票の作成（質問文の作成とその注意点）	同上
7	調査票の作成（調査票全体構成とその注意点）	同上
8	調査票作成の実践（グループ学習）	同上
9	サンプル数の決定法（算出法）と標本誤差	同上
10	調査の実施方法（量的調査・調査票の配布及び回収法等）	同上
11	調査の実施方法（質的調査・調査対象者へのアプローチ等）	同上
12	調査票調査の実施（グループによる配布・回収）	同上
13	データの整理・集計の実際（コーディング・データクリーニング等）	同上
14	データ分析、報告の方法（グループ学習）	同上
15	グループによるアンケート調査の結果報告	同上
16	グループ発表	

テキスト・参考文献・資料など

大谷信介他編著「社会調査へのアプローチ-論理と方法-」ミネルヴァ書房
その都度、レジュメ・資料等を配布します。

学びの手立て

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。
病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。
講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。

評価

レポート及びテスト（50%）、平常点（50%）を総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目として、「統計学」、「計量経済学」などがある。

※ポリシーとの関連性　沖縄村落の特性に関する基本的な知識・技能を身に付けるために、景観と社会空間の構造分析から学修します。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 集落地理論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木５	2
担当者 崎浜　靖	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

集落地理論Ⅰでは、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定です。とくに絵図資料や地図資料の読解方法、空中写真を用いた景観分析の方法、さらにフィールドワークの方法に重点を置きます。また映像資料、民俗学・地域史などの研究成果を盛り込みながら、沖縄村落の社会構造についてもふれる予定です。

メッセージ

本講義では、主に沖縄の集落について検討するため、沖縄関連の文献を渉猟していることが望ましい。

到達目標

・村落の立地・景観と社会構造の特性を関連づける。
・沖縄村落の地理的・歴史的特性を説明できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスをよく読む
2	村落地理学の研究史	配布資料の精読
3	歴史地理学の方法を用いた村落研究	配布資料の精読
4	村落と地図①－地形図の基礎－	配布資料の精読
5	村落と地図②－地形図の利用方法－	配布資料の精読
6	村落と地図③－空中写真の判読方法－	配布資料の精読
7	村落と地図④－空中写真活用の事例－	配布資料の精読
8	村落と地図⑤－宜野湾市の村落景観－	配布資料の精読
9	村落の景観①－景観概念－	配布資料の精読
10	村落の景観②－沖縄の村落－	配布資料の精読
11	村落の景観③－景観研究の事例－	配布資料の精読
12	村落の景観④－景観調査の方法－	配布資料の精読
13	村落の景観⑤－渡名喜島の村落景観－	配布資料の精読
14	村落の社会構造①－沖縄村落の歴史地理－	配布資料の精読
15	村落の社会構造②－村落空間と祭祀構造－	配布資料の精読
16	期末課題	講義全体の復習

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】
・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。
【参考文献】
・仲松弥秀著『神と村』 梟社
・田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社

学びの手立て

・講義中に提示された課題を整理し、レポートにまとめること。

評価

・講義中の課題を含む平常点（50%）、レポート（50%）により評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・「村落」と「都市」との関係性について理解を深める。
・現代社会の中で、どのような地域政策が必要かを考える契機になります。

※ポリシーとの関連性　地域経済の問題解決に必要な人文地理学関連の科目。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 集落地理論Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木５	2
担当者 -濱里　正史	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

今後の地域と地域住民には自らの力で地域づくりをしていく力を養うことが求められる。そのための基礎は地域を知ることである。本講義では、集落地理のみならず人文・社会科学全般において重要な研究対象の１つである都市について、地理学的視点を重視しつつ身近な地域である「沖縄の集落と都市」を事例に学ぶことで、「地域づくりの力」の涵養に資することを目的とする。

メッセージ

地域づくりの力は、皆さんが社会に出て後、１市民としてあるいは職業人として必ず求められる力です。この力をどれだけ多くの人が習得できるかに、今後の沖縄社会、ひいては日本社会の行く末がかかっているといっても過言ではありません。こうした分野に興味を持ち積極的に参加したいという学生は、学年、学科を問わず、広く受け入れますので、ともに学びましょう。

到達目標

地域づくりの力の基礎は、①その地域が形成された過程とそのことに起因する現在の問題・課題を理解する、②それだけでなく、日々変化する地域の問題・課題についてアンテナを張り情報収集する習慣を身に付ける、の２点が重要である。本講義では、我々にとって最も身近な地域である沖縄本島中南部地域を事例に、その歴史と形成過程、その延長としての現在の問題・課題を学ぶだけでなく、新聞情報を活用して、現在進行形の問題・課題やその解決に向けたまちづくり・地域の取り組みを紹介する。そのことを通して、地域を見る目を養い、問題・課題を発見し、論理的に考え、解決策を立案する能力、いわゆる「地域づくりの力」の習得を目指す。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス及び集落地理・都市地理とは？	シラバスを読む
2	戦前における沖縄の集落と都市１（自然条件から見た沖縄の集落と都市）	第2～10週：下記の通り
3	戦前における沖縄の集落と都市２（歴史過程から見た沖縄の集落と都市）	予習：配布資料を事前に読み込む
4	沖縄本島中南部地域における戦後の都市形成１（基地と都市）	復習：紹介図書群を用いた発展学習
5	沖縄本島中南部地域における戦後の都市形成２（沖縄コナベーション）	予習：配布資料を事前に読み込む
6	戦後の都市形成過程から生じる沖縄本島中南部地域の問題・課題の整理	復習：紹介図書群を用いた発展学習
7	戦後那覇市の都市形成と構造１（問題と課題）	予習：配布資料を事前に読み込む
8	戦後那覇市の都市形成と構造２（問題・課題の解決に向けて）	復習：紹介図書群を用いた発展学習
9	北谷町のまちづくり	予習：配布資料を事前に読み込む
10	読谷村のむらづくり	復習：紹介図書群を用いた発展学習
11	まちづくりと地域振興の先進事例１（県内外）	第11～13週：下記の通り
12	まちづくりと地域振興の先進事例２（県内外）	最新情報を用いるため復習中心
13	沖縄におけるまちづくりと地域振興の展望	復習：自ら新聞等で先進事例を探す
14	都市国家・国際都市・海洋都市（シンガポール・香港・韓国済州島）	予習：配布資料を事前に読み込む
15	国際都市としての沖縄の未来	復習：紹介図書群を用いた発展学習
16		

テキスト・参考文献・資料など

授業は配布資料を基に行う。

学びの手立て

〈履修の心構え等〉：前期、「集落地理論Ⅰ」を履修していることが望ましい。私語や携帯電話・スマホなど他人の迷惑、授業の妨害になるような行為は禁止（場合によっては退室、受講停止を命じる）。
〈学びを深めるために〉
「地域づくりの力」は短期間で涵養できるものではない。①本講義で紹介する発展学習のための参考図書での学習、②新聞やインターネットなどによる最新情報キャッチの日常習慣化、③実際の地域観察、④様々な人に地域の話を聞き・意見交換する習慣の獲得などについて、本講義をキッカケに、講義期間中から可能な範囲で実践・継続することが学びを深める。

評価

〈評価方法・割合〉：平常点30点満点（2点×15回）及びレポート70点満点。
〈評価基準〉：平常点は、単純に出席したか否かではなく、授業内容のまとめやコメント・感想・意見・質問を書く形式。内容によって評価する（０～2点）。名前・学籍番号のみで授業内容のまとめやコメント・感想・意見・質問がないものは０点とするので注意すること。レポートは、①情報収集、②情報の整理、③収集した情報に基づく分析、④自分なりの意見・見解の有無、⑤プレゼン資料としての説得力などの点について評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

〈次のステージ〉「地域づくりの力」には広範な知識、現場に関する見聞・経験が求められる。したがって、①本講義で紹介する発展学習のための参考図書での学習、②新聞やインターネットなどによる最新情報キャッチの日常習慣化、③関連する科目の受講、④実際の地域観察、⑤様々な人に地域の話を聞き・意見交換する習慣の獲得などについて、可能な範囲で実践・継続することを望む。

※ポリシーとの関連性　産業の一つとしての情報産業を学習することで、地域経済についても深く考える力を身につける。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	情報産業論	後期	金１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘　もえ子	３年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義は、情報産業への発展過程をはじめ、コンピュータ産業の現状、コンテンツ産業、メディア産業、インターネットビジネス、移動体通信および情報ビジネスについて学ぶことにより、今後の情報産業の動向や情報産業の発展が現代社会にどのような変化をもたらすのかを考察する。仮登録者数が上限を超えた場合「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。

メッセージ

IT・ICTは今や我々が社会で生きていく中で欠かせない技術の一つです。それらに関連した産業を学び、IT・ICTを活用して下さい。講義でわからないことがあれば相談して下さい。
今年度の講義は、オンラインライブ配信です。ライブ配信授業を受講できない場合は、受講日当日の状況をメールで連絡した上で、レコーディングしたオンデマンド配信を受講して下さい。

到達目標

・ITおよびICT産業の動向について理解できる。
・ITおよびICTの時事問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。
・情報産業に関する広い視野を養い、情報産業の将来を展望する能力を身につける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（特）講義ガイダンス・情報産業とは	情報産業についての調べ学習
2	（特）産業の流れ	情報産業についての調べ学習
3	（特）産業の変化	産業の変化に関する調べ学習
4	（特）インターネットとIP電話	電話ビジネスに関する調べ学習
5	（特）携帯電話	携帯電話に関する調べ学習
6	（特）IoT社会	IoT社会に関する調べ学習
7	（特）スマートハウス	スマートハウスに関する調べ学習
8	（特）電子商取引	電子商取引に関する調べ学習
9	（特）電子出版	電子出版に関する調べ学習
10	（特）金融業界	金融業界に関する調べ学習
11	（特）仮想通貨	仮想通貨に関する調べ学習
12	（特）広告業界	広告業界に関する調べ学習
13	（特）ARグラスの可能性	ARの応用事例学習
14	（特）情報犯罪とセキュリティ	セキュリティに関する調べ学習
15	（特）期末試験	試験の振り返り
16	（特）まとめ	講義全体の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

講義中にレジュメを配布する。
参考文献は講義時に紹介する。

学びの手立て

履修の心構え
・講義内容および課題は各回毎に異なるため、毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。
学びを深めるために
・業界の動き等も紹介するため、新聞記事を読むことも講義の学びを深める助けになる。

評価

平常点（講義への取組）10%、課題点（課題の内容、課題の提出）30%、期末試験60%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

(1) 関連科目
「情報社会論」は情報社会について学習する講義であるため、履修すると良いでしょう。
(2) 次のステージ
講義で学んだことを踏まえて、卒業研究および社会へ活かして下さい。

※ポリシーとの関連性　情報化社会を学習することで、地域経済についても深く考える力を身につける。

[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 情報社会論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金１	2
担当者 根路銘　もえ子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義は、情報と社会の関係を学習することによって、情報社会について理解することを目的とする。特に、インターネットの仕組みや情報システムについて学習する。情報化が果たしてきた役割を理解することによって、社会、生活、企業、経済などに与える影響について考察する。仮登録者数が上限を超えた場合「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。

メッセージ

高度情報化社会の現在、情報社会の仕組みを理解することが、我々の生活を豊かにする一助となります。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。
今年度の講義は、オンラインライブ配信です。ライブ配信授業を受講できない場合は、受講日当日の状況をメールで連絡した上で、レコーディングしたオンデマンド配信を受講して下さい。

到達目標

・情報社会に関連するキーワードを正しく理解できる。
・情報社会の時事問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（特）講義ガイダンス・情報社会とは	情報社会に関する調べ学習
2	（特）情報社会・情報と人間の関わり	情報社会に関する調べ学習
3	（特）コミュニケーションの概念	コミュニケーション事例学習
4	（特）コミュニケーションモデル	コミュニケーションモデル事例学習
5	（特）クラウドサービス	クラウドサービス事例学習
6	（特）ユーザインタフェース（1）	ユーザインタフェースに関する学習
7	（特）ユーザインタフェース（2）	ユーザインタフェースに関する学習
8	（特）コンピュータビジョンインタラクション	インタラクション事例学習
9	（特）3D技術	3D技術の応用事例学習
10	（特）VRと触覚テクノロジー	VR・触覚テクノロジーに関する学習
11	（特）情報伝達	情報伝達事例学習
12	（特）IT・ICT・ウェアラブルデバイス	IT・ICTに関する学習
13	（特）IoTによる変化	社会におけるIoTに関する学習
14	（特）情報社会におけるセキュリティ	セキュリティに関する調べ学習
15	（特）期末試験	試験の振り返り
16	（特）まとめ	講義全体の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

講義中にレジュメを配布する。
情報化白書（最新版）．情報通信白書（最新版）．他講義時に紹介する。

学びの手立て

履修の心構え
・講義内容および課題は各回毎に異なるため、毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。
学びを深めるために
・世の中の動き等も紹介するため、新聞記事を読むことも講義の学びを深める助けになる。

評価

平常点（講義への取組）10%、課題点（課題の内容、課題の提出）30%、期末試験60%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

(1) 関連科目
「情報産業論」は情報産業について学習する講義であるため、履修すると良いでしょう。
(2) 次のステージ
講義で学んだことを踏まえて、卒業研究および社会へ活かして下さい。

※ポリシーとの関連性　自らが情報化社会をより深く理解し、主体性と協調性をもって課題を発見し、広い専門的知識を備える。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 情報処理概論	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木１	2
担当者 大城　絢子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	a.ohshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい
情報化社会にて必要とされる情報リテラシー力を身につけるために、ITパスポート試験の内容を中心に学び、情報処理技術の基礎知識を修得することをねらいとします。

メッセージ
板書・ITパスポート試験の過去問題を中心に学びます。

到達目標
情報処理技術の基礎・プログラミングの概念の修得

学びの実践

学びのヒント
授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	導入-情報とは・コンピュータの歴史-	課題の作成
2	ハードウェア	課題の作成
3	ハードウェア	課題の作成
4	ハードウェア	課題の作成
5	ソフトウェアとマルチメディア	課題の作成
6	ソフトウェアとマルチメディア	課題の作成
7	ソフトウェアとマルチメディア	課題の作成
8	第1回-第7回のふりかえり	課題の作成
9	ネットワーク	課題の作成
10	ネットワーク	課題の作成
11	セキュリティ	課題の作成
12	データベース	課題の作成
13	データベース	課題の作成
14	アルゴリズムとデータ構造	課題の作成
15	アルゴリズムとデータ構造	課題の作成
16	総括・期末レポートの説明	課題の作成

テキスト・参考文献・資料など
参考文献
・栢木厚「栢木先生のITパスポート教室」技術評論社
資料
・板書したノートはテキスト代わりになります。テキストは特に指定せず必要に応じて講義時に資料を配布します。

学びの手立て
板書を自分なりに解釈しノートにまとめることで理解を深めます。各分野毎にITパスポート試験の過去問題を解説します

評価
毎回の課題提出(64%)+最終レポート(36%)

学びの継続

次のステージ・関連科目
関連科目:情報リテラシー演習・情報科学・情報と社会・コンピュータ概論

※ポリシーとの関連性　各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的なコンピュータ利用スキルを習得する。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 情報リテラシー演習	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月１	2
担当者 -赤嶺　有平	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	講義終了後の教室かメールにてお問合せ下さい。	

学びの準備

ねらい

本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用方法、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェア、さらにはプレゼンテーションソフトウェアによる発表資料作成について学習する。

メッセージ

高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められています。コンピュータ利用スキルを身につけることで、様々な面で活かす事が可能になります。SAも講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談して下さい。

到達目標

① コンピュータを操作するために必要な基本知識と基本技術の習得
② ワープロソフトによる文書作成技能を習得し、大学生活におけるレポート作成やレジュメ作成等へ活かす事ができる。
③ 表計算ソフト操作とビジネスデータ加工の習得により、2年次以降のデータ分析等へ活かす事ができる。
④ プレゼンテーションソフト操作と実践を学ぶ事により、今後の調査発表へ研究発表へ活かす事ができる。
⑤ インターネットの活用を学習することにより、調査等へ活かす事ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション：ポータルの使い方・Teamsの使い方	ポータルとTeamsの操作
2	ワープロソフトの基本操作（1）：文書レイアウト・フォント装飾等	案内文書作成
3	ワープロソフトの基本操作（2）：表作成・画像挿入・箇条書き等	案内文書作成
4	ワープロソフトの基本操作（3）：段落設定・脚注等の設定	レジュメ作成
5	インターネットの活用・画像データ処理：情報検索の仕組・著作権等の学習	検索課題
6	発表資料ソフトの基本操作（1）：文字入力・図形挿入・レイアウト・表等	発表資料作成
7	発表資料ソフトの基本操作（2）：画像挿入・アニメーション・スライドショー等	発表資料作成
8	表計算ソフトの基本操作（1）：セルを使った計算・関数の利用等	表の作成および計算処理
9	表計算ソフトの基本操作（2）：セルの参照方法・グラフ作成等	各種セル参照演習
10	表計算ソフトの基本操作（3）：統計処理関数の利用等	統計関数による計算処理
11	表計算ソフトの基本操作（4）：相関係数の計算等	統計処理演習
12	表計算ソフトの応用操作（1）：IF関数・条件付き書式設定等	条件処理演習
13	表計算ソフトの応用操作（2）：シート操作・データの並べ替え・絞り込み等	データ処理演習
14	文書の統合：表計算ソフトで作成した表やグラフをワープロソフトへ統合	統合文書作成
15	最終課題：各ソフトウェアの基本操作に関する課題	最終課題の振り返り
16	まとめ	講義全体の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

・テキスト：使用しません。講義にてプリントを配付する。

学びの手立て

・履修の心構え
　学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。
　日本語入力の練習は講義では行わないため、日本語入力が苦手な学生は、各自で入力の練習をすること。
・学びを深めるために
　毎回の講義における課題を行う事で、理解度が確認できます。したがって、毎回の課題にしっかり取り組みましょう。

評価

平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）90%、最終課題10%。
各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

(1) 関連科目
　引き続きExcelの応用を学びたい学生は、後期の「プログラミング演習」を履修すると良いでしょう。
(2) 次のステージ
　上級情報処理士の資格取得を目指す学生は、後期の「情報処理概論」も履修すると良いでしょう。

※ポリシーとの関連性　各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的なコンピュータ利用スキルを習得する。　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	情報リテラシー演習	前期	月２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘　もえ子	１年	メールにてお問い合わせ下さい。 nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用方法、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェア、さらにはプレゼンテーションソフトウェアによる発表資料作成について学習する。

メッセージ

高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められています。コンピュータ利用スキルを身につけることで、様々な面で活かす事が可能になります。皆さんの先輩もSAとして、講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談して下さい。

到達目標

① コンピュータを操作するために必要な基本知識と基本技術の習得
② ワープロソフトによる文書作成技能を習得し、大学生活におけるレポート作成やレジュメ作成等へ活かす事ができる。
③ 表計算ソフト操作とビジネスデータ加工の習得により、2年次以降のデータ分析等へ活かす事ができる。
④ プレゼンテーションソフト操作と実践を学ぶ事により、今後の調査発表へ研究発表へ活かす事ができる。
⑤ インターネットの活用を学習することにより、調査等へ活かす事ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション：ポータルの使い方・Teamsの使い方	ポータルとTeamsの操作
2	ワープロソフトの基本操作（1）：文書レイアウト・フォント装飾等	案内文書作成
3	ワープロソフトの基本操作（2）：表作成・画像挿入・箇条書き等	案内文書作成
4	ワープロソフトの基本操作（3）：段落設定・脚注等の設定	レジュメ作成
5	インターネットの活用・画像データ処理：情報検索の仕組・著作権等の学習	検索課題
6	発表資料ソフトの基本操作（1）：文字入力・図形挿入・レイアウト・表等	発表資料作成
7	発表資料ソフトの基本操作（2）：画像挿入・アニメーション・スライドショー等	発表資料作成
8	表計算ソフトの基本操作（1）：セルを使った計算・関数の利用等	表の作成および計算処理
9	表計算ソフトの基本操作（2）：セルの参照方法・グラフ作成等	各種セル参照演習
10	表計算ソフトの基本操作（3）：統計処理関数の利用等	統計関数による計算処理
11	表計算ソフトの基本操作（4）：相関係数の計算等	統計処理演習
12	表計算ソフトの応用操作（1）：IF関数・条件付き書式設定等	条件処理演習
13	表計算ソフトの応用操作（2）：シート操作・データの並べ替え・絞り込み等	データ処理演習
14	文書の統合：表計算ソフトで作成した表やグラフをワープロソフトへ統合	統合文書作成
15	最終課題：各ソフトウェアの基本操作に関する課題	最終課題の振り返り
16	まとめ	講義全体の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

・テキスト：使用しません。講義にてプリントを配付する。

学びの手立て

・履修の心構え
　学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。
　日本語入力の練習は講義では行わないため、日本語入力が苦手な学生は、各自で入力の練習をすること。
・学びを深めるために
　毎回の講義における課題を行う事で、理解度が確認できます。したがって、毎回の課題にしっかり取り組みましょう。

評価

平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）90%、最終課題10%。
各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

(1) 関連科目
　引き続きExcelの応用を学びたい学生は、後期の「プログラミング演習」を履修すると良いでしょう。
(2) 次のステージ
　上級情報処理士の資格取得を目指す学生は、後期の「情報処理概論」も履修すると良いでしょう。

※ポリシーとの関連性　各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的なコンピュータ利用スキルを習得する。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	情報リテラシー演習	前期	月１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘　もえ子	１年	メールにてお問い合わせ下さい。 nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用方法、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェア、さらにはプレゼンテーションソフトウェアによる発表資料作成について学習する。

メッセージ

高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められています。コンピュータ利用スキルを身につけることで、様々な面で活かす事が可能になります。皆さんの先輩もSAとして、講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談して下さい。

到達目標

① コンピュータを操作するために必要な基本知識と基本技術の習得
② ワープロソフトによる文書作成技能を習得し、大学生活におけるレポート作成やレジュメ作成等へ活かす事ができる。
③ 表計算ソフト操作とビジネスデータ加工の習得により、2年次以降のデータ分析等へ活かす事ができる。
④ プレゼンテーションソフト操作と実践を学ぶ事により、今後の調査発表へ研究発表へ活かす事ができる。
⑤ インターネットの活用を学習することにより、調査等へ活かす事ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション：ポータルの使い方・Teamsの使い方	ポータルとTeamsの操作
2	ワープロソフトの基本操作（1）：文書レイアウト・フォント装飾等	案内文書作成
3	ワープロソフトの基本操作（2）：表作成・画像挿入・箇条書き等	案内文書作成
4	ワープロソフトの基本操作（3）：段落設定・脚注等の設定	レジュメ作成
5	インターネットの活用・画像データ処理：情報検索の仕組・著作権等の学習	検索課題
6	発表資料ソフトの基本操作（1）：文字入力・図形挿入・レイアウト・表等	発表資料作成
7	発表資料ソフトの基本操作（2）：画像挿入・アニメーション・スライドショー等	発表資料作成
8	表計算ソフトの基本操作（1）：セルを使った計算・関数の利用等	表の作成および計算処理
9	表計算ソフトの基本操作（2）：セルの参照方法・グラフ作成等	各種セル参照演習
10	表計算ソフトの基本操作（3）：統計処理関数の利用等	統計関数による計算処理
11	表計算ソフトの基本操作（4）：相関係数の計算等	統計処理演習
12	表計算ソフトの応用操作（1）：IF関数・条件付き書式設定等	条件処理演習
13	表計算ソフトの応用操作（2）：シート操作・データの並べ替え・絞り込み等	データ処理演習
14	文書の統合：表計算ソフトで作成した表やグラフをワープロソフトへ統合	統合文書作成
15	最終課題：各ソフトウェアの基本操作に関する課題	最終課題の振り返り
16	まとめ	講義全体の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

・テキスト：使用しません。講義にてプリントを配付する。

学びの手立て

・履修の心構え
　学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。
　日本語入力の練習は講義では行わないため、日本語入力が苦手な学生は、各自で入力の練習をすること。
・学びを深めるために
　毎回の講義における課題を行う事で、理解度が確認できます。したがって、毎回の課題にしっかり取り組みましょう。

評価

平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）90%、最終課題10%。
各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

(1) 関連科目
　引き続きExcelの応用を学びたい学生は、後期の「プログラミング演習」を履修すると良いでしょう。
(2) 次のステージ
　上級情報処理士の資格取得を目指す学生は、後期の「情報処理概論」も履修すると良いでしょう。

※ポリシーとの関連性　各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的なコンピュータ利用スキルを習得する。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 情報リテラシー演習	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月２	2
担当者 -赤嶺　有平	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	講義終了後の教室かメールにてお問合せ下さい。	

学びの準備

ねらい

本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用方法、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェア、さらにはプレゼンテーションソフトウェアによる発表資料作成について学習する。

メッセージ

高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められています。コンピュータ利用スキルを身につけることで、様々な面で活かす事が可能になります。SAも講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談して下さい。

到達目標

① コンピュータを操作するために必要な基本知識と基本技術の習得
② ワープロソフトによる文書作成技能を習得し、大学生活におけるレポート作成やレジュメ作成等へ活かす事ができる。
③ 表計算ソフト操作とビジネスデータ加工の習得により、2年次以降のデータ分析等へ活かす事ができる。
④ プレゼンテーションソフト操作と実践を学ぶ事により、今後の調査発表へ研究発表へ活かす事ができる。
⑤ インターネットの活用を学習することにより、調査等へ活かす事ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション：ポータルの使い方・Teamsの使い方	ポータルとTeamsの操作
2	ワープロソフトの基本操作（1）：文書レイアウト・フォント装飾等	案内文書作成
3	ワープロソフトの基本操作（2）：表作成・画像挿入・箇条書き等	案内文書作成
4	ワープロソフトの基本操作（3）：段落設定・脚注等の設定	レジュメ作成
5	インターネットの活用・画像データ処理：情報検索の仕組・著作権等の学習	検索課題
6	発表資料ソフトの基本操作（1）：文字入力・図形挿入・レイアウト・表等	発表資料作成
7	発表資料ソフトの基本操作（2）：画像挿入・アニメーション・スライドショー等	発表資料作成
8	表計算ソフトの基本操作（1）：セルを使った計算・関数の利用等	表の作成および計算処理
9	表計算ソフトの基本操作（2）：セルの参照方法・グラフ作成等	各種セル参照演習
10	表計算ソフトの基本操作（3）：統計処理関数の利用等	統計関数による計算処理
11	表計算ソフトの基本操作（4）：相関係数の計算等	統計処理演習
12	表計算ソフトの応用操作（1）：IF関数・条件付き書式設定等	条件処理演習
13	表計算ソフトの応用操作（2）：シート操作・データの並べ替え・絞り込み等	データ処理演習
14	文書の統合：表計算ソフトで作成した表やグラフをワープロソフトへ統合	統合文書作成
15	最終課題：各ソフトウェアの基本操作に関する課題	最終課題の振り返り
16	まとめ	講義全体の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

・テキスト：使用しません。講義にてプリントを配付する。

学びの手立て

・履修の心構え
　学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。
　日本語入力の練習は講義では行わないため、日本語入力が苦手な学生は、各自で入力の練習をすること。
・学びを深めるために
　毎回の講義における課題を行う事で、理解度が確認できます。したがって、毎回の課題にしっかり取り組みましょう。

評価

平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）90%、最終課題10%。
各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

(1) 関連科目
　引き続きExcelの応用を学びたい学生は、後期の「プログラミング演習」を履修すると良いでしょう。
(2) 次のステージ
　上級情報処理士の資格取得を目指す学生は、後期の「情報処理概論」も履修すると良いでしょう。

※ポリシーとの関連性　地域経済の問題解決に必要な経済学関連の科目を提供。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	人口食糧論	後期	月２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川　護	２年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

世界の諸地域をみると、人口の急激に増加しているアジアやアフリカ、ラテンアメリカなどの発展途上国の地域、逆に人口増加の停滞あるいは現象がみられるわが国をはじめアングロアメリカ、ヨーロッパなどの地域があげられる。同時に発展途上国では食糧問題が発生し、先進国では少子高齢化の問題などを抱えている。この授業では、これらの諸問題について考えていきたい。

メッセージ

日頃、新聞やネットのニュースを通じて、人口問題、食料問題に関心を持ってもらいたい。

到達目標

人口問題、環境問題についての基本的な問題点について理解できるようにする。さらには、それらの課題解決について少しでも、どのように取り組んだらいいか関心をもつようにする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	この授業の開始にあたって(オリエンテーション))	資料地理の研究、プリントの復習
2	人の分布と変化を考える	資料地理の研究、プリントの復習
3	人口の動体と構成	資料地理の研究、プリントの復習
4	人口の構成	資料地理の研究、プリントの復習
5	発展途上国の人口問題	資料地理の研究、プリントの復習
6	先進地域の人口問題	資料地理の研究、プリントの復習
7	日本の人口問題	資料地理の研究、プリントの復習
8	食糧問題と農産物貿易問題	資料地理の研究、プリントの復習
9	土地制度と農地改革	資料地理の研究、プリントの復習
10	世界の農業-1-	資料地理の研究、プリントの復習
11	世界の農業-2-	資料地理の研究、プリントの復習
12	日本の農業	資料地理の研究、プリントの復習
13	沖縄の農業	資料地理の研究、プリントの復習
14	これからの人口問題と食糧問題を考える①	資料地理の研究、プリントの復習
15	これからの人口問題と食糧問題を考える②	資料地理の研究、プリントの復習
16	まとめ	資料地理の研究、プリントの復習

テキスト・参考文献・資料など

『新詳高等地図』、帝国書院、1,500円、『新詳　資料地理の研究』、帝国書院、980円
毎回プリントを配布する。
授業の中で適宜紹介する

学びの手立て

①日頃から新聞、ネットのニュースをみて、人口問題、食糧問題、農業問題について関心を持つこと。
②授業で学んだ内容について、配布プリントやテキストである「資料地理の研究」を通じて復習する。

評価

成績は、レポートで評価する(100%)。

学びの継続

次のステージ・関連科目

経済地理Ⅰ、経済地理Ⅱ

※ポリシーとの関連性　地域経済の問題解決に必要な経済学関連の科目を提供。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	政策金融論	後期	火４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	酒巻　浩	３年	授業中もしくは終了後にオンラインにて受け付けます。	

学びの準備

ねらい

産業の振興や中小企業の育成等、政府が特定の政策目的を達成するために、政策金融機関を通じて財政資金の供給を行う「政策金融」の機能を理解し、沖縄振興における政策課題に対応した「政策金融」の役割について学ぶ。

メッセージ

沖縄公庫の現役金融マンが講義を担当します。
沖縄の実体経済や金融に関する最近の動向についても、トピックスとして適宜解説します。

到達目標

・財政投融資及び政策金融の機能を理解できる。
・沖縄の実体経済・金融構造を把握できる。
・沖縄振興策における政策金融の役割を理解できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
2	市場経済と政府の役割	授業で配布した資料を復習
3	財政投融資の仕組みと特徴	参考資料①
4	財政投融資の規模の変遷と財投改革	同上
5	沖縄の実体経済	参考資料②
6	沖縄の金融構造	同上
7	沖縄公庫の設立経緯と総合政策金融機能	参考資料③
8	沖縄振興政策の課題の変化と公庫の対応	参考資料③④
9	観光産業振興と沖縄公庫	参考資料③
10	創業・ベンチャー支援と沖縄公庫	同上
11	離島振興・地域活性化と沖縄公庫	同上
12	駐留軍用地跡地利用と沖縄公庫	同上
13	政策金融評価の概要	同上
14	政策金融改革と沖縄公庫	同上
15	まとめ	授業で配布した資料を復習
16	レポート提出	授業で配布した資料を復習

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは使用せず、毎回講師が作成したレジュメを配布する。
・参考資料（講義時に以下の資料を配布）
　①「財政投融資の概要2020」（財務省刊）
　②「沖縄経済ハンドブック2019年度版」（沖縄公庫刊）
　③「Report2020」（沖縄公庫ディスクロージャー誌）
　④「沖縄21世紀ビジョン 基本計画と実施計画」（沖縄県刊）

学びの手立て

・履修の心構え
　日頃からメディアの金融・経済関連情報に意識を向けて接してもらいたい。

評価

平常点40%（出席状況に質問やリアクションペーパー等を適宜加点します）
レポート60%

学びの継続

次のステージ・関連科目

「関連科目」金融論ＩＩ、財政学ＩＩ、沖縄経済論ＩＩ、経済政策総論ＩＩ

※ポリシーとの関連性　地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すための環境政策へ理解を深める環境関連の科目。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 生態学概論	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木３	2
担当者 -佐藤　寛之	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業前後口頭で受け付ける	

学びの準備

ねらい
生態学の基本的な考え方を紹介する。近年叫ばれている環境の劣化，生物の減少といった問題に対するアプローチにも触れる

メッセージ
ネットでも参考書でもいいので自分で調べてみること。

遠隔になった場合にはteamsを用いる予定である
チームコード（n82kw0w）

到達目標
生物の振る舞いについて考えが至る人材になることを目指す

学びの実践

学びのヒント
授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスを参照
2	生態学とは何か	授業内容を良く復習すること
3	進化の生態学	授業内容を良く復習すること
4	遺伝子の生態学	授業内容を良く復習すること
5	個体の生態学１	授業内容を良く復習すること
6	個体の生態学２	授業内容を良く復習すること
7	同種間の関係	授業内容を良く復習すること
8	異種間の関係	授業内容を良く復習すること
9	繁殖の生態学１　オスとメス	授業内容を良く復習すること
10	繁殖の生態学２	授業内容を良く復習すること
11	繁殖の生態学３	授業内容を良く復習すること
12	個体群の生態学１	授業内容を良く復習すること
13	個体群の生態学２	授業内容を良く復習すること
14	生物保全の生態学１	授業内容を良く復習すること
15	生物保全の生態学２	授業内容を良く復習すること
16	テスト	

テキスト・参考文献・資料など
テキストは特に指定しない　プリントを配布する

学びの手立て
気になる事柄については自身で調べること

評価
テスト100%

学びの継続

次のステージ・関連科目
興味関心を持った分野があれば個別にお勧めする
生物学Ⅰ・Ⅱ、自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、島嶼環境論、環境資源論など

※ポリシーとの関連性　本講義では、沖縄が直面する地域開発に関する課題を解決するために、戦後日本及び沖縄の地域開発の歴史を学ぶことを目標とする。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域開発論	前期	月２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-藤原　昌樹	３年	授業終了後に教室で受け付け、もしくはメール(ptt746@okiu.ac.jp)にて受け付けます。	

学びの準備

ねらい

本講義では、戦後の日本及び沖縄における地域開発の歴史を概観することを通して、現在の沖縄の地域開発が抱える問題点について考察することを目的とする。

メッセージ

現在および将来の課題を解決するためには、歴史から学ぶことが必要不可欠です。戦後日本及び沖縄の地域開発の歴史を学ぶことを通して、これからの「沖縄のあるべき姿」について考察をしていきましょう。

到達目標

戦後における日本と沖縄の地域開発の課題について学ぶことを通して、これからの沖縄の地域開発が抱える問題点について理解を深めることを目標とする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	
2	地域開発とは？	講義のレジュメを事前に読むこと
3	地域開発政策とは？	講義のレジュメを事前に読むこと
4	戦後日本の開発計画（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
5	戦後日本の開発計画（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
6	戦後日本の開発計画（3）	講義のレジュメを事前に読むこと
7	戦後沖縄の振興開発（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
8	戦後沖縄の振興開発（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
9	戦後沖縄の振興開発（3）	講義のレジュメを事前に読むこと
10	戦後沖縄の振興開発（4）	講義のレジュメを事前に読むこと
11	戦後沖縄の振興開発（5）	講義のレジュメを事前に読むこと
12	沖縄における地域開発の課題（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
13	沖縄における地域開発の課題（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
14	沖縄における地域開発の課題（3）	講義のレジュメを事前に読むこと
15	沖縄における地域開発の課題（4）	講義のレジュメを事前に読むこと
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

講義はレジュメを用いて行い、特にテキストは指定しない。
講義を進める過程で、参考文献や資料などを紹介する。

学びの手立て

講義において、戦後日本の経済開発に歴史に関する書籍や映像作品（映画等）を紹介する。
講義を受講することに加えて、これらの書籍や映像作品に触れることで、より理解を深めることが期待できる。
講義で学ぶ内容について、自宅学習用課題（全10回程度）を課すことを予定している。
課題に取り組むことにより、より理解を深めることができるものと期待する。
本講義ではMoodleを用いて資料及び課題の配布、提出物の回収を行うこととするので、受講者は必ずMoodleに登録することとする。

評価

学期末試験及び自宅学習用課題（全10回程度）の提出状況とその得点をもとに成績評価を行なうこととする。
但し、諸般の事情により学期末試験を実施できない場合は、自宅学習用課題の提出状況及びその得点のみをもとに成績評価を行なうこととする。
※　学期末試験を実施する場合（学期末試験40%　自宅学習用課題60%）
　　学期末試験を実施しない場合（自宅学習用課題100%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：「ミクロ経済学」及び「農業と経済」
「ミクロ経済学」：地域開発を論ずる際の理論的な基礎となる「ミクロ経済学」について学ぶことができる。
「農業と経済」：戦後日本の地域開発の歴史の中で、特に農業に特化して論じている。

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前には、統計学、経済学入門、環境科学、および大学生として身につけるべき基礎科目を提供。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 地域環境政策入門	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水４	2
担当者 島袋伊津子、他専任教員	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	ituko アットマーク okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい
・学科で計画的に学ぶことを意識させる。
・学科教員の研究内容に興味を持たせる。

メッセージ
地域環境政策学科に入学して半年が経ち、大学生活にも慣れてきたころだと思います。この講義を受講することで本学科で何をどう学ぶかを深く考え、今後の学習計画の参考にしてほしいと思います。【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標
・学科で学ぶことができる内容を詳しく認識し学習計画を立てる。
・学科教員の研究・教育内容を知る。
・学科で学んだことが卒業後どう生かされるかを知る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス、地域経済および環境政策において金融が果たす役割（担当：島袋伊津子）9/29	シラバスをよく読む
2	沖縄における海岸ゴミの現状と課題（担当：山川彩子）10/6	配付資料をよく読み復習する。
3	土の中の小さな生き物の世界-土壌生態学への招待（担当：齊藤星耕）10/13	〃
4	ＧＩＳ入門（担当：小川護）10/20	〃
5	環境問題を経済学の視点より考える（担当：呉錫畢）10/27	〃
6	観光と情報技術（担当：根路銘もえ子）11/3	〃
7	環境文化論～自然と調和した生き方や社会を考える～（担当：砂川かおり）11/10	〃
8	環境と歴史が培う産業～フランスのワインを視点として～（担当：上江洲律子）11/17	〃
9	環境問題を地学の視点より考える（担当：伊藤拓馬）12/1	〃
10	地域経済と環境保全について（担当：渡久地朝央）12/8	〃
11	環境と観光～エコツーリズムとホテルの環境保全～（担当：上江洲薫）12/15	〃
12	沖縄からすべての基地がなくなったらどうなるか？（担当：友知政樹）12/22	〃
13	沖縄経済の課題と展望（担当：前泊博盛）1/5	〃
14	学科の卒業生（実務家）による講演（担当：島袋伊津子）1/12	〃
15	試験（担当：島袋伊津子）1/19	これまでの授業内容を整理する。
16	レポート提出（担当：島袋伊津子）1/26	〃

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。
参考文献は
「地域と環境ありんくりん」沖縄国際大学公開講座委員会、1500円＋税。
「変わる沖縄―地域環境政策学の視点から―」沖縄国際大学公開講座委員会、1500円＋税。
他の参考文献は各回の担当教員が必要に応じて指導する。

学びの手立て

・やむを得ず欠席する場合は必ず事前にメールすること。
・この授業で学ぶ内容は、各自の今後の学科での学習計画を立てるうえで重要なことなので、このことを意識しながら受講しましょう。
・教員の日程調整の都合上、担当の順番が変更になることがあります。

評価

レポート（40%）＋試験（10%）＋平常点（50%）　1/3以上欠席の者は不可。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「基礎演習ＩＩ」、「地域セミナーＩＩ」、「演習ＩＩ」、「演習ⅢⅣ」

※ポリシーとの関連性　地域の経済の在り方を経済学を通して理解する.

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域経済学Ⅰ	前期	火３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地　朝央	２年	t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

地域経済学は地域における様々な現象について経済学を基に解明していく学問です．経済発展を目的に地域企業を対象とする産業組織論としての見方や，地域の経済格差などを分析する公共経済学としての見方，地域環境を評価する環境経済学としての見方など横断的な分野でもあります．授業では身近な事例を交えながら，経済学を背景とした地域経済の基礎理論を中心に学びます．

メッセージ

地域経済学を理解することで経済学に基づく地域や都市の意味を理解することに役立ちます.
今期、状況に応じて対面またはteams及びYouTubeによるオンデマンド形式の授業を行う。

到達目標

・経済学を通して地域や都市の成り立ちや意味を理解する.
・産業と地域や都市の経済発展を理解する.
・地域の産業構造と地域間格差を考える.

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	地域の概念とその定義（対）	授業ノートを参照
2	産業立地論（チューネン，ウェーバー）（対）	授業内容を復習する
3	空間的分業（マッシィ）（対）	授業内容を復習する
4	多国籍企業の立地と地域の企業立地（対）	授業内容を復習する
5	地域経済モデル（対）	配布資料を参照
6	地域の経済発展と企業の生産要因（対）	授業内容を復習する
7	地域の成長モデル（カルドア）（対）	授業内容を復習する
8	地域の成長モデル（サールウォール）（対）	授業内容を復習する
9	地域の成長モデル（ウェーバー）（対）	授業内容を復習する
10	地域経済と人口移動（対）	授業内容を復習する
11	人口移動と重力モデル（対）	授業内容を復習する
12	技術発展に伴う地域経済の市場規模の変化（対）	授業内容を復習する
13	地域的分業と産業構造変化（対）	授業内容を復習する
14	地域間格差と失業率（対）	授業内容を復習する
15	地域政策と6次産業化の取り組み事例（対）	授業内容を復習する
16	試験（対）	授業内容を復習する

テキスト・参考文献・資料など

H.アームストロング，J.テイラー『地域経済学と地域政策』，流通経済大学出版，1998.
M.E.ポーター『競争優位の戦略』，ダイヤモンド社，1985.
M.E.ポーター『競争の戦略』，ダイヤモンド社，1982.

学びの手立て

・必要なときに授業内容を振り返れるよう，授業ノートを作ることが望ましい.
・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい.

評価

・中間テスト（4割）と期末テスト（4割）の2回のテストを持って評価する.
・テスト欠席者はレポート（8割）提出で評価を行う.
・授業参加度は2割とする.

学びの継続

次のステージ・関連科目

・地域経済から地域や都市，産業について学び，「ミクロ経済学」，「マクロ経済学」や「地域経済学Ⅱ」の理解に役立て，自分たちが住む場所について考えて欲しい.

※ポリシーとの関連性　地域の経済の在り方を経済学を通して理解する.

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域経済学Ⅱ	後期	火３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地　朝央	２年	t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

地域経済学は地域における様々な現象について経済学を基に解明していく学問です.
本授業は地域経済学Ⅰ（前期）の続きにあたります．より詳細に地域と都市，その発展要因を学び，地域経済の意味を考える.

メッセージ

地域経済学を理解することで経済学に基づく地域や都市のあり方を考え，将来の沖縄が進むよりよい方向を考えていきましょう.
今期、状況に応じて対面またはteams及びYouTubeによるオンデマンド形式で授業を行う。

到達目標

・経済学を通して地域の産業の発展要因を考える.
・地域の経済成長と地域特性について考える.
・自分たちの生活する地域の在り方を考える.

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	地域経済と労働格差（対）	授業ノートを参照
2	地域経済と教育格差（対）	授業内容を復習する
3	地域間の人口移動と配分利得（対）	授業内容を復習する
4	地域間の範囲経済（対）	授業内容を復習する
5	地域の産業集積と新産業空間（対）	授業内容を復習する
6	都市と地域の関係（対）	授業内容を復習する
7	地域経済における都市空間論（対）	授業内容を復習する
8	地域における基盤産業と非基盤産業の捉え方（対）	配布資料を参照
9	空間経済学による地域経済の視点（対）	授業内容を復習する
10	都市規模による産業構造の変化（対）	授業内容を復習する
11	都市規模による企業行動の変化（対）	授業内容を復習する
12	集積の経済と集積の不経済（対）	授業内容を復習する
13	新経済地理学による地域経済の視点（対）	授業内容を復習する
14	地域の経済成長と知識の集積（対）	授業内容を復習する
15	知識の集積に伴う地域特性の変化（対）	授業内容を復習する
16	試験（対）	授業内容を復習する

テキスト・参考文献・資料など

高橋孝明『都市経済学』，有斐閣ブックス，2012.
松原宏『経済地理学－立地・地域・都市の理論』，東京大学出版，2006.
藤田昌久『空間経済学』，東洋経済新報社，2000.

学びの手立て

・必要なときに授業内容を振り返れるよう，授業ノートを作ることが望ましい.
・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい.

評価

・中間テスト（4割）と期末テスト（4割）の2回のテストを持って評価する.
・テスト欠席者はレポート（8割）提出で評価を行う.
・授業参加度は2割とする.

学びの継続

次のステージ・関連科目

・経済を通して地域や都市，産業について学び，自分たちが住む場所について考え，より専門的な分野を学ぶ糧にして欲しい.

※ポリシーとの関連性　地域の経済に関心を持ち、主体的な解決をもって地域社会に貢献できる知識を知る。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域経済書講読Ⅰ	前期	木２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地　朝央	２年	t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

地域経済の課題でもある様々な格差問題について考えていく．授業では所得格差や地域間格差，教育格差などについて参考文献に掲載される論文を取り上げながら社会的厚生についても勉強していく．

メッセージ

論文を読みながら，関連する文献を紹介します．自身の興味のある文献をみつけ，読む習慣をつけてください．
今年度は状況に応じてteamsなどのオンデマンド授業でおこなう．

到達目標

・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい．
・社会に対して自らの問題意識を持つ．

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	地域経済と格差問題について（対）	
2	雇用格差（対）	
3	所得格差1（全国）（対）	
4	所得格差2（沖縄）（対）	
5	教育格差1（全国）（対）	配布資料を参照
6	教育格差2（沖縄）（対）	
7	地方と都市の格差（対）	
8	社会的厚生について（対）	図書館利用
9	独占と資源配分（対）	
10	社会的厚生と社会的便益（対）	
11	厚生経済学の考え方（対）	
12	厚生経済学と社会選択論の文献紹介（対）	配布資料を参照
13	中間テスト（対）	
14	新厚生経済学の考え方について（対）	
15	厚生経済学と新厚生経済学（対）	
16	期末テスト（対）	

テキスト・参考文献・資料など

伊藤元重『格差を考える』

学びの手立て

・必要なときに授業内容を振り返れるよう，授業ノートを作ることが望ましい．
・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい．

評価

・中間テスト(50点)と期末テスト（50点）の2回のテストを持って100点満点で評価する．
・テスト欠席者はレポート提出（40点）の計2回で評価を行う．

学びの継続

次のステージ・関連科目

・本や資料を読み，自分の興味を持った分野の本を読む機会となって欲しい．

※ポリシーとの関連性　地域の経済に関心を持ち、主体的な解決をもって地域社会に貢献できる知識を知る。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域経済書講読Ⅱ	後期	木２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地　朝央	２年	t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

地域経済の課題でもある社会的厚生について考えていく．授業では社会や地域，環境問題などについてに配布資料の論文を基に公共経済についても勉強していく．

メッセージ

論文を読みながら，関連する文献を紹介します．自身の興味のある文献をみつけ，図書館利用や読む習慣をつけてください．
今年度は状況に応じて、対面またはteamsなどによるオンデマンド授業をおこなう．

到達目標

・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい．
・社会に対して自らの問題意識を持つ．

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	社会厚生について（対）	
2	地域の抱える問題と社会的厚生について1（対）	配布資料を参照
3	地域の抱える問題と社会的厚生について2（対）	
4	市場と財について1（対）	図書館利用
5	市場と財について2（対）	
6	外部経済（対）	
7	不確実性と情報（対）	
8	公共経済学について1（対）	配布資料を参照
9	公共経済学について2（対）	
10	社会保障について（対）	
11	地域の公共選択１（対）	
12	中間試験（対）	
13	社会保障について（対）	
14	地域の環境問題（対）	配布資料を参照
15	地域の価値評価（対）	
16	期末試験（対）	

テキスト・参考文献・資料など

・適時，資料を用意して配布します．
参考文献　馬奈木俊介『豊かさの価値評価』中央経済社2017、331.86/Ma-43

学びの手立て

・必要なときに授業内容を振り返れるよう，授業ノートを作ることが望ましい．
・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい．

評価

・中間テスト（50点）と期末テスト（50点）の2回のテスト（計100点）を持って評価する．
・テスト欠席者はレポート提出（40点）で評価を行う．

学びの継続

次のステージ・関連科目

・本や資料を読み，自分の興味を持った分野の本を読む機会となって欲しい．

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、実体験できる科目を提供。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅠ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金２	2
担当者 伊藤　拓馬	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後の教室で受け付ける	

学びの準備

ねらい

本セミナーは、グループワークとして自然環境調査、データ整理、プレゼンテーションを実践する。調査計画の立案、データ処理、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

メッセージ

地域セミナーⅠでは、フィールドワークを実践し、自然をより深く理解することを目的とする。グループワークのため、休まないようにして欲しい。

到達目標

・グループで調査した内容を、レジュメやパワーポイントなどを活用し、第三者に分かりやすく伝えることができる
・調べたことや考えたことをレポートとしてまとめることができる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスを熟読する
2	事前学習（1）	配布資料の復習
3	事前学習（2）	配布資料の復習
4	事前学習（3）	配布資料の復習
5	フィールドワーク（1）	データの記録・整理
6	フィールドワーク（2）	データの記録・整理
7	フィールドワーク（3）	データの記録・整理
8	データ整理（1）	データの解析
9	データ整理（2）	データの解析
10	データ整理（3）	データの解析
11	プレゼン資料の作成（1）	プレゼン資料の作成
12	プレゼン資料の作成（2）	プレゼン資料の作成
13	プレゼン資料の作成（3）	プレゼン資料の作成
14	グループワークの成果発表（1）	成果発表のふりかえり
15	グループワークの成果発表（2）	成果発表のふりかえり
16	まとめ	これまでの内容のまとめ

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。配布試料はファイルに綴じて、毎回持参すること。

学びの手立て

毎回出席すること。やむを得ず欠席する場合には、必ず事前連絡し、配布資料を研究室まで取りに来ること。2/3以上の出席が無いと不可になる。

評価

平常点（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：環境科学Ⅰ・Ⅱ、地学Ⅰ・Ⅱ、環境科学実験、演習Ⅰ・Ⅱ

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるための実体験できる科目。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅠ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木４	2
担当者 友知　政樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい
地域を総合的に理解すること。

メッセージ
地域に対する理解を空間軸と時間軸の両観点から理解するように努めましょう。

到達目標
セミナーの際に紹介する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

(1)イントロ、自己紹介
(2)地域とは（様々なレベルから考える「地域」）
(3)地域の歴史について　1
(4)地域の歴史について　2
(5)地域の歴史について　3
(6)地域の歴史について　4
(7)地域の歴史について　5
(8)地域の現在について　1
(9)地域の現在について　2
(10)地域の現在について　3
(11)地域の現在について　4
(12)地域の現在について　5
(13)地域の未来について　1
(14)地域の未来について　2
(15)地域の未来について　3
(16)まとめ

テキスト・参考文献・資料など
セミナーの際に紹介する。

学びの手立て
セミナーの際に紹介する。

評価
単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。原則として、遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。評価は、ゼミにおける発言の内容（50%）やレポート（30%）、プレゼンテーションの内容（20%）により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目
地域セミナーⅡ

※ポリシーとの関連性　地域の資源と経済を理解する。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域セミナーⅠ	前期	木４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉　錫畢	２年	メール（sukpil@okiu.ac.jp)で送ること、また必要に応じて研究室で対応する。	

学びの準備

ねらい

この授業では、沖縄地域の自然環境及び社会環境に関する諸問題を検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、各自の発表テーマに沿いながら議論する。また、野外学習やデータ分析を行いながら、地域とかかわる諸問題に対して考察し、社会における問題意識が培われることを目標とする。

メッセージ

地球環境問題は地域から始まる。

到達目標

地域の発展のために地域を理解する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	1週目：地域セミナーのオリエンテーション	地域とは何かを考える
2	2週目：地域とは何かについて発表（自分の地域を中心に）1	自分の地域を調べる
3	3週目：地域とは何かについて発表（自分の地域を中心に）2	自分の地域を調べる
4	4週目：北部地域の経済・環境・観光・基地・社会及び文化・歴史（グループ化する）	北部地域を調査
5	5週目：北部地域の経済・環境についてグループで発表1	北部地域を調査
6	6週目：北部地域の経済・環境についてグループで発表2	北部地域を調査
7	7週目：北部地域の観光・基地についてグループで発表1	北部地域を調査
8	8週目：北部地域の観光・基地についてグループで発表2	北部地域を調査
9	9週目：北部地域の社会及び文化・歴史についてグループで発表1	北部地域を調査
10	10週目：北部地域の社会及び文化・歴史についてグループで発表2	北部地域を調査
11	11週目：基地からみる辺野古経済を資す	北部巡見
12	12週目：海洋博からみる沖縄経済と備瀬フクギ並木の環境価値	北部巡見
13	13週目：国頭村安波からみる観光経済の未来を探る	北部巡見
14	14週目：北部巡見1	北部巡見
15	15週目：北部巡見2	北部巡見
16	16週目：地域発展の視点より総括	総括

テキスト・参考文献・資料など

必要に応じて資料を配付する。
講義の中で適宜紹介する。

学びの手立て

地域のことについて調べ、地域の巡見を通して肌で感じてもらう。

評価

授業参加度：50%、積極性：30%、ディベート能力：20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

演習Ⅰ・Ⅱを深めるための基礎を磨く。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、実体験できる科目を提供。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅠ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金２	2
担当者 根路銘　もえ子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

実際に地域経済のフィールドに出かけ、現場の空気を肌で感じることで、座学だけでは得られない知見を広めることを目標とする。この講義をきっかけに、受講者が地域経済に興味関心を持つことをねらいとする。

メッセージ

本講義は事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面談を実施するので、研究室（9-613）に相談に来ること。

到達目標

・基本的な論文・レポートの書き方のルールを理解し身に付ける。
・レジュメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。
・フィールドワークを通して課題を見つけ、自分の言葉で説明することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスをよく読む
2	巡検対象等決定・情報収集	テーマに関する事前学習
3	事前調査	テーマに関する事前学習
4	事前調査	テーマに関する事前学習
5	フィールドワーク	フィールドワーク先の調査
6	まとめ・提案　資料作成	振り返りとプレゼン資料作成
7	まとめ・提案　資料作成	振り返りとプレゼン資料作成
8	発表	前半巡検の振り返り
9	巡検対象等決定・情報収集	テーマに関する事前学習
10	事前調査	テーマに関する事前学習
11	事前調査	テーマに関する事前学習
12	フィールドワーク	フィールドワーク先の調査
13	フィールドワーク	フィールドワーク先の調査
14	まとめ・提案　資料作成	振り返りとプレゼン資料作成
15	まとめ・提案　資料作成	振り返りとプレゼン資料作成
16	発表	後半巡検の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

テキスト・参考文献は講義時に適宜紹介する。

学びの手立て

・地域セミナーIは2年次必修の科目なので必ず出席すること。
・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。
・欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。
※無断欠席は作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、メンバーに多大な迷惑をかけることになる

評価

講義への取組等平常点20%、事前学習課題等（レポート）の内容50%、各課題の最終発表30%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

後期：地域セミナーII
次年度：演習I・演習II

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅠ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金２	2
担当者 島袋　伊津子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

受講者が実際に地域経済のフィールドに出かけ、現場の空気を肌で感じることで、座学だけでは得られない知見を広めること、さらに、この講義をきっかけに地域経済に興味関心を持つことをねらいとする。

メッセージ

フィールドワークをメインとする授業です。地域経済の現場を対象とします。【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標

フィールドワークを行い、その成果を発表できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスをよく読む
2	事前学習	テーマに関する情報収集
3	事前学習	〃
4	事前学習	〃
5	事前学習報告会	プレゼン資料を作成する
6	フィールドワーク	アポを取る、現地調査する
7	フィールドワーク	〃
8	フィールドワーク	〃
9	フィールドワーク結果報告会	プレゼン資料を作成する
10	フィールドワークの結果に基づく学習	テーマに関する情報収集
11	フィールドワークの結果に基づく学習	〃
12	フィールドワーク	アポを取る、現地調査する
13	フィールドワーク	〃
14	フィールドワーク	〃
15	フィールドワーク	〃
16	最終報告会	プレゼン資料を作成する

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しない。
各グループが設定したテーマに応じて適宜教える。

学びの手立て

やむを得ない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールしてください。特に、フィールドワークや発表会を無断欠席する場合は不可となります。

評価

・単位取得の条件は、２／３以上の出席、フィールドワーク、報告会の参加である。
・評価の配分は、事前学習報告（３０％）、フィールドワーク結果報告（３０％）、最終報告（３０％）、レポート（１０％）

学びの継続

次のステージ・関連科目

「基礎演習ⅠⅡ」「地域セミナーⅡ」「演習ⅠⅡ」「演習ⅢⅣ」

※ポリシーとの関連性　沖縄の自然環境の理解を深めるために、座学およびフィールドワークでより深く学ぶためのゼミ科目　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅠ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金２	2
担当者 山川（矢敷）　彩子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	メール：　a.yamakawaアットokiu.ac.jp 研究室：　9号館505室	

学びの準備

ねらい

地域セミナーは、沖縄県の地域経済や自然環境について、実際にフィールド（現地）に行って体験学習する。また野外で学んだことについて、書籍やインターネットで情報を収集し、自分なりに整理してレポートにまとめる。

メッセージ

本講義は事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面談を実施するので、メールでアポをとり9-505に相談に来ること。
【実務経験】エコツーリズムをおこなっている社会人特別講師を招聘する。

到達目標

・基本的なレポート、メールの書き方のルールを理解し身に付ける。
・レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。
・大学生活のルールや学生支援の内容を理解し、４年間の計画および卒業後の目標を立てる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

沖縄島の成り立ち（地史）、地質や土壌、自然環境（植物）について学ぶ。実習地としては、浦添城跡周辺があげられる。巡検後、調べ学習し考察を加えレポートとしてまとめる。

第1週　ガイダンス
第2週　メールの書き方
第3～4週　事前学習
第5～6週　フィールドワーク（教員、社会人特別講師の引率）
第7～9週　レポート作成
第10～14週　自分の地元紹介（レジメ作成＆PPTプレゼンテーション）
第15週　まとめ

＜時間外学習＞
レポート作成、修正、および調べ発表の情報収集やレジメ作成の時間は、講義外の時間を用いて作業する。

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しない。講義中適宜紹介する。

学びの手立て

・地域セミナーI・IIは二年次必修の科目なので必ず出席すること。
・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。
・欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。
※無断欠席は作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、メンバーに多大な迷惑をかけることになる

評価

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出が必須である。評価は、演習における発言の内容やレポートの内容により総合的に評価する。
授業参加度30%、課題（レポート・レジメ）の取組姿勢、出来55%、プレゼンテーション15%とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

地域セミナーII、演習I・II（山川ゼミ）、島嶼環境論、環境資源論、生態学概論、生物学I・II、自然科学概論I・IIなど。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できないITを活用した科目また演習等の実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅠ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金２	2
担当者 前泊　博盛	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	対面演習です。質問は講義終了後に教室で受け付けます。hmaedomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

地域経済を支える経済インフラの基礎調査を通して、調査手法とフィールワークのスキル習得を図ります。経済インフラの建設・整備費用の調査と「費用対効果」分析の手法を体得します。

メッセージ

米軍基地のフィールドワーク調査をはじめ、沖縄経済に関する基本データを収集しましす。PPで表現するための基本スキルを1年次に身に着け、２年次では実際にフィールドワークで調査した内容をパワーポイントで報告できるようにトレーニングを行います。新型コロナ感染拡大の場合は、遠隔講義・演習に移行。パソコンとWi-Fi環境の整備を。

到達目標

１：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。
２：基本データの分析・解析手法を習得します。
３：課題の抽出方法を習得します。
４：課題解決法を調査・研究する力を習得します。
５：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	地域セミナーの概要説明（ガイタンス）　PP作成の基本と発表モデルの確認　（ゼミ役員選出）	経済インフラとは
2	沖縄経済を支える「経済インフラ」とは（総論「インフラ整備と沖縄経済」）	沖縄経済の概要とインフラの関係
3	経済インフラの調査割り振り	調査項目の整理とデータの収集
4	インフラ調査報告①「インフラとは（総論）」	調査項目の整理とデータの収集
5	インフラ調査報告②「空港（那覇空港、離島空港）」	フィールドワーク調査とPP作成
6	インフラ調査報告③「港湾（クルーズ船バース・ターミナル等）」	フィールドワーク調査とPP作成
7	インフラ調査報告④「道路（高速道路、国道・県道・市町村道）」	フィールドワーク調査とPP作成
8	インフラ調査報告⑤「橋梁（橋）」	フィールドワーク調査とPP作成
9	インフラ調査報告⑥「橋梁（離島架橋）」	フィールドワーク調査とPP作成
10	インフラ調査報告⑦「ダム（水資源開発・確保）、浄水場、下水道」	フィールドワーク調査とPP作成
11	インフラ調査報告⑧「観光施設（美ら海水族館、首里城公園等）」	フィールドワーク調査とPP作成
12	インフラ調査報告⑨「公共施設（MICE,コンベンションセンター等）	フィールドワーク調査とPP作成
13	インフラ調査報告⑩「交通（モノレール等）」	フィールドワーク調査とPP作成
14	インフラ調査報告⑪「米軍基地」	フィールドワーク調査とPP作成
15	※全体フィールドワーク（米軍基地、空港、美術館・博物館）※コロナ対策で中止＝遠隔ゲスト講義	調査の実施
16	地域セミナーの総括	セミナーの学びの総括

テキスト・参考文献・資料など

沖縄県『沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等　総点検報告書』2020年3月、経済インフラに関する論文、文献、データに関する資料の収集、新聞資料の活用

学びの手立て

データをもとに関係団体、企業、専門家へのヒアリング調査の準備と実施、調査結果のPP作成、発表準備、報告

評価

課題の調査実施とヒアリング、データの収集と分析、PPの完成度、発表の精度、確度など総合的に評価。評価は平常点（リアクションペーパー）60%、調査リポート発表20%、期末リポート20%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

日々の新聞・テレビのニュースをチェックし、経済インフラ整備による地域経済発展の効果分析など、B/C（費用対効果分析）に注目したい。沖縄経済論ⅠⅡ、島嶼経済論ⅠⅡ、琉球・沖縄経済史ⅠⅡ

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅠ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木４	2
担当者 齋藤　星耕	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付ける。	

学びの準備

ねらい

本セミナーでは、自然に親しみ、生物相の調査を行う。得られた生物相データを統計処理することで、環境条件との因果関係や地点間の類似性を考察する。この過程を通じてデータ整理や、スライド作成、プレゼンテーションなどのスキルを向上させる。

メッセージ

自然の生物相は、適切な計画・方法に基づいて調査することによって、はじめて、科学的な議論の俎上にのせることができます。自然調査における考え方を学ぶことで、皆さんの社会や実生活での物の見え方も変わってくるかもしれません。

到達目標

生物相の調査法の考え方が理解できる。
グループで役割分担して調査を実施できる。
データの整理が出来る。
調査の結果をまとめ、プレゼンテーションできる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	時間割の検討
2	事前学習(1)	資料の見直し
3	事前学習(2)	資料の見直し
4	事前学習(3)	資料の見直し
5	事前学習(4)	資料の見直し
6	フィールドワーク(1)	手順の確認、記録の整理
7	フィールドワーク(2)	手順の確認、記録の整理
8	フィールドワーク(3)	手順の確認、記録の整理
9	データ整理(1)	データ処理、結果の解釈
10	データ整理(2)	データ処理、結果の解釈
11	データ整理(3)	データ処理、結果の解釈
12	発表スライド作成(1)	スライド作成
13	発表スライド作成(2)	スライド作成
14	発表スライド作成(3)	発表練習
15	スライド発表	発表練習
16	まとめ	半期の振り返り、今後の展望

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。

学びの手立て

毎回出席し、やむを得ず欠席の場合には事前に連絡すること。

（授業形式について）
原則として対面授業で実施する。
但し、必要に応じて、リスクのある履修者がオンライン参加を選択できるように、対面・オンライン併用とすることがある。

評価

平常点（ゼミへの参加・貢献、小レポート）：60%
グループ課題への取り組み及びグループ発表：40%

学びの継続

次のステージ・関連科目

土壌学概論、島嶼環境論、環境と農業、環境科学実験、演習

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅡ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木４	2
担当者 齋藤　星耕	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付ける。	

学びの準備

ねらい

本セミナーでは、自然に親しみ、生物相の調査を行う。得られた生物相データを統計処理することで、環境条件との因果関係や地点間の類似性を考察する。この過程を通じてデータ整理や、スライド作成、プレゼンテーションなどのスキルを向上させる。

メッセージ

自然の生物相は、適切な計画・方法に基づいて調査することによって、はじめて、科学的な議論の俎上にのせることができます。自然調査における考え方を学ぶことで、皆さんの社会や実生活での物の見え方も変わってくるかもしれません。

到達目標

生物相の調査法の考え方が理解できる。
グループで役割分担して調査を実施できる。
データの整理が出来る。
調査の結果をまとめ、プレゼンテーションできる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスを精読する
2	事前学習(1)	資料の見直し
3	事前学習(2)	資料の見直し
4	事前学習(3)	資料の見直し
5	事前学習(4)	資料の見直し
6	フィールドワーク(1)	手順の確認、記録の整理
7	フィールドワーク(2)	手順の確認、記録の整理
8	フィールドワーク(3)	手順の確認、記録の整理
9	データ整理(1)	データ処理、結果の解釈
10	データ整理(2)	データ処理、結果の解釈
11	データ整理(3)	データ処理、結果の解釈
12	発表スライド作成(1)	スライド作成
13	発表スライド作成(2)	スライド作成
14	発表スライド作成(3)	発表練習
15	スライド発表	発表練習
16	まとめ	ゼミ活動の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。

学びの手立て

毎回出席し、やむを得ず欠席の場合には事前に連絡すること。

（授業形式について）
原則として対面授業で実施する。
但し、必要に応じて、リスクのある履修者がオンライン参加を選択できるように、対面・オンライン併用とすることがある。

評価

平常点（ゼミへの参加・貢献、小レポート）：60%
グループ課題への取り組み及びグループ発表：40%

学びの継続

次のステージ・関連科目

土壌学概論、島嶼環境論、環境と農業、環境科学実験、演習

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるための実体験できる科目。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅡ		期 別	曜日・時限	単 位
		後期	木４	2
担当者 友知　政樹		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		２年	mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい
地域を総合的に理解すること。

メッセージ
地域に対する理解を空間軸と時間軸の両観点から理解するように努めましょう。

到達目標
セミナーの際に紹介する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

(1)イントロ、自己紹介
(2)地域とは（様々なレベルから考える「地域」）
(3)地域の歴史について　1
(4)地域の歴史について　2
(5)地域の歴史について　3
(6)地域の歴史について　4
(7)地域の歴史について　5
(8)地域の現在について　1
(9)地域の現在について　2
(10)地域の現在について　3
(11)地域の現在について　4
(12)地域の現在について　5
(13)地域の未来について　1
(14)地域の未来について　2
(15)地域の未来について　3
(16)まとめ

テキスト・参考文献・資料など
セミナーの際に紹介する。

学びの手立て
セミナーの際に紹介する。

評価
単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。原則として、遅刻3回で欠席1回の扱いとなる。評価は、ゼミにおける発言の内容（50%）やレポート（30%）、プレゼンテーションの内容（20%）により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目
演習Ⅰ

※ポリシーとの関連性　専門科目を受講する前には、統計学、経済学入門、環境科学、
および大学生として身につけるべき基礎科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅡ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金２	2
担当者 砂川　かおり	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawaあっとまぁくokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

受講者が実際に地域の経済や環境に関係するフィールドに出かけ、現場で見聞き、調査することで、座学だけでは得られない知見を広めること、さらに、本講義をきっかけに地域の経済や環境への興味や関心をさらに深めることをねらいとする。

メッセージ

・指定されたクラスに登録してください。
・何事にも積極的に取り組んで、楽しいゼミにしていきましょう。

到達目標

・フィールドワークを行い、その成果を発表できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス、成績・時間割確認、自己紹介、講義概要説明（10/1）	配布資料を読んで、復習する。
2	泡瀬鳥獣保護区（県案）について沖縄県自然保護課へヒアリング（10/8）（予定）	レポート①作成・提出
3	潮乃森の野鳥園建設について　沖縄県港湾課へヒアリング（10/15）（予定）	レポート②作成・提出
4	泡瀬干潟にて野鳥観察会（10/22）（予定）	レポート③作成・提出
5	荒尾漁業協同組合へのヒアリングOnline（10/29）（予定）	レポート④作成・提出
6	中城湾魅力づくりプロジェクト へのヒアリング（11/5）（予定）	レポート⑤作成・提出
7	あわせはまや里海漁業協議会へのヒアリング（11/12）（予定）	レポート⑥作成・提出
8	エコプロ2021　登録・事前調査、パワーポイント作成説明（11/19）	配布資料を読んで、復習する。
9	エコプロ2021 Onine調査　12月8～10日	参加報告資料⑦作成
10	エコプロ2021 Onineの参加報告資料⑦作成・提出（12/17）	発表練習
11	エコプロ2021 Onineの参加報告資料⑦発表１（12/24）	発表練習
12	エコプロ2021 Onineの参加報告資料⑦発表2（1/7）	配布資料を読んで、復習する。
13	北中城漁協へのヒアリング（1/14）（予定）	レポート⑧作成・提出
14	ディベート⑨　泡瀬鳥獣保護区を設定すべきかどうか」準備（1/21）	ディベート準備
15	ディベート⑨「泡瀬鳥獣保護区を設定すべきかどうか」(1)（１/28）	ディベート準備
16	ディベート⑨「泡瀬鳥獣保護区を設定すべきかどうか」(2)/まとめ・授業評価アンケート記入（2/4	所属希望ゼミの活動について調べる

テキスト・参考文献・資料など

・参考文献は適宜案内する。

学びの手立て

・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。後日、欠席届を提出すること。
　特に、フィールドワークやディベートなどを無断欠席する場合は不可となります。
・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。
・以下に該当する学生は、事前に教員に連絡して下さい。①発熱・体調不良のある学生、②家族に発熱者(37.5度以上)がいる学生、③１週間以内に本人や家族が沖縄県外へ渡航履歴のある者

評価

・単位取得の条件は、２／３以上の出席、フィールドワーク、発表である。
・評価の配分：レポート①～⑥、⑧（70%）、エコプロ2021 Online参加報告書⑦（20%）、デベート（10%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅡ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木４	2
担当者 小川　護	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

この授業では、沖縄の自然環境及び社会環境に関する諸問題を地理情報システム(GIS)を使いながら検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、課題にそって、GISを活用しながら主題図を作成し提出してもらう。また、野外学習（フィールドワーク）を行いながら、「現場」において地域発展の視点から環境問題や基地問題などの実態を考察する。

メッセージ

GIS(地理情報システム)を中心とする内容で積み上げ式に授業を展開していきます。休まないようにしてください。

到達目標

GISの基礎的な操作方法について取得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	はじめの一歩(ガイダンス)	プリントによる復習
2	GIS地図についての知識	プリントによる復習
3	地図太郎を使う	プリントによる復習
4	背景地図の表示	プリントによる復習
5	住所データを緯度経度データに変換	プリントによる復習
6	データの表示	プリントによる復習
7	統計データの簡単な表示	プリントによる復習
8	国勢調査データの表示	プリントによる復習
9	グローバルマッピングの利用	プリントによる復習
10	Web地図サービスの利用	プリントによる復習
11	計測機能と検索機能	プリントによる復習
12	公開されている各種データの利用	プリントによる復習
13	情報ウィンドウの表示	プリントによる復習
14	巡検(エクスカーション)①	調査事項、説明事項の整理
15	巡検(エクスカーション)②	調査事項、説明事項の整理
16	まとめ	レポート作成

テキスト・参考文献・資料など

毎回、プリントを配布する。
浮田典良『ジオ・パルNEO 地理学便利帳』海青社、2017年。谷　謙二『フリーGISソフト　MANDARA10入門』古今書院　2018年、服部兼敏『地域支援のためのコンパクトGIS 地図太郎入門』2古今書院、2013年。
授業の中でその都度紹介する。

学びの手立て

積み上げ式で授業を進めていくので、休まないようにしてください。また、授業で扱ったGIS操作方法は次の時間の授業までに、パソコン上で必ず復習してください。

評価

成績は、レポート【100点】で評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

GIS学術士資格取得を目指す。→ 演習Ⅰ、地理情報システム論Ⅰ・Ⅱ。

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅡ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金２	2
担当者 根路銘　もえ子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

実際に地域経済のフィールドに出かけ、現場の空気を肌で感じることで、座学だけでは得られない知見を広めることを目標とする。この講義をきっかけに、受講者が地域経済に興味関心を持つことをねらいとする。

メッセージ

本講義は事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面談を実施するので、研究室（9-613）に相談に来ること。

到達目標

・基本的な論文・レポートの書き方のルールを理解し身に付ける。
・レジュメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。
・フィールドワークを通して課題を見つけ、自分の言葉で説明することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスをよく読む
2	PBL（PBLについて説明、チームビルディング）	グループで打ち合わせ
3	PBL（課題説明、質疑応答、課題の把握）	グループで打ち合わせ
4	PBL（グループディスカッション）	グループで打ち合わせ
5	PBL（グループディスカッション）	グループで打ち合わせ
6	PBL（グループディスカッション）	グループで打ち合わせ
7	PBL（中間発表）	プレゼン資料作成
8	PBL（グループディスカッション、ヒアリング調査等）	打ち合わせ、ヒアリング
9	PBL（グループディスカッション、ヒアリング調査等）	打ち合わせ、ヒアリング
10	PBL（報告資料仕上げ）	プレゼン資料作成
11	PBL（リハーサル）	プレゼン資料作成
12	PBL（最終報告）	プレゼン資料作成
13	事前調査	グループで打ち合わせ
14	フィールドワーク	グループで打ち合わせ
15	フィールドワーク	グループで打ち合わせ
16	最終報告会	プレゼン資料作成

テキスト・参考文献・資料など

テキスト・参考文献は講義時に適宜紹介する。

学びの手立て

・地域セミナーIIは2年次必修の科目なので必ず出席すること。
・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。
・欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。
※無断欠席は作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、メンバーに多大な迷惑をかけることになる

評価

講義への取組等平常点20%、事前学習課題等（レポート）の内容50%、各課題の最終発表30%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

次年度：演習I・演習II

※ポリシーとの関連性　地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅡ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金２	2
担当者 島袋　伊津子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	ituko アットマーク okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

受講者が実際に地域経済のフィールドに出かけ、現場の空気を肌で感じることで、座学だけでは得られない知見を広めること、さらに、この講義をきっかけに地域経済に興味関心を持つことをねらいとする。

メッセージ

全講義１６回のうち、１２回は、Project Based Learning(PBL)を行います。【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標

フィールドワークを行い、その成果を発表できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスをよく読む
2	ＰＢＬ（ＰＢＬについて説明、チームビルディング）	グループで打ち合わせ
3	ＰＢＬ（観光協会からの課題説明、質疑応答、課題の把握）	〃
4	ＰＢＬ（グループディスカッション）	〃
5	ＰＢＬ（グループディスカッション）	〃
6	ＰＢＬ（グループディスカッション）	〃
7	ＰＢＬ（中間発表）	プレゼン資料作成
8	ＰＢＬ（グループディスカッション、ヒアリング調査等）	打ち合せ、ヒアリング調査
9	ＰＢＬ（グループディスカッション、ヒアリング調査等）	〃
10	ＰＢＬ（報告資料仕上げ）	〃
11	ＰＢＬ（リハーサル）	プレゼン資料作成
12	ＰＢＬ（最終報告）	〃
13	事前調査	グループで打ち合わせ
14	フィールドワーク	〃
15	フィールドワーク	〃
16	報告会	プレゼン資料作成

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しない。
各グループが設定したテーマに応じて適宜教える。

学びの手立て

やむを得ない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールしてください。特に、フィールドワークや発表会を無断欠席する場合は不可となります。

評価

・単位取得の条件は、２／３以上の出席、フィールドワーク、報告会の参加である。
・評価の配分は、事前学習報告（３０％）、フィールドワーク結果報告（３０％）、最終報告（３０％）、レポート（１０％）

学びの継続

次のステージ・関連科目

「基礎演習ⅠⅡ」「地域セミナーⅠ」「演習ⅠⅡ」「演習ⅢⅣ」

※ポリシーとの関連性　沖縄の自然環境の理解を深めるために、座学およびフィールドワークでより深く学ぶためのゼミ科目　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 地域セミナーⅡ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金２	2
担当者 山川（矢敷）　彩子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	メール：　a.yamakawaアットokiu.ac.jp 研究室：　9号館505室	

学びの準備

ねらい

地域セミナーは、沖縄県の地域経済や自然環境について、実際にフィールド（現地）に行って体験学習することが目的である。

メッセージ

本講義は地域セミナーⅡで事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面談を実施するので、メールでアポをとり研究室（9-505）に相談に来ること。

到達目標

・基本的な論文・レポートの書き方のルールを理解し身に付ける。
・レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。
・大学生活のルールや学生支援の内容を理解し、４年間の計画および卒業後の目標を立てる

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

地域セミナーⅡは、以下を行う予定である。

（1）沖縄島の成り立ち（地史）、地質や土壌、自然環境（植物）について学ぶ。
実習地としては、浦添城跡周辺があげられる。巡検後、調べ学習し考察を加えレポートとしてまとめる。
第1週　　ガイダンス
第2～3週　事前学習
第4～6週　フィールドワーク（教員引率）
第7～9週　レポート作成
第10～14週 沖縄の危険生物・外来生物についての調べ発表
第15週　　まとめ

（2）時間外学習
レポート作成、プレゼン準備などは、講義外の時間を用いて実施する。

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しない。講義中適宜紹介する。

学びの手立て

・地域セミナーI・IIはニ年次必修の科目なので必ず出席すること。
・やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。
・欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。

評価

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出が必須である。評価は、演習における発言の内容やレポートの内容により総合的に評価する。
授業参加度30%、課題（レポート・レジメ）の取組姿勢、出来55%、プレゼンテーション15%とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

地域セミナーI、演習I・II（山川ゼミ）、島嶼環境論、環境資源論、生態学概論、生物学I・II、自然科学概論I・IIなど。

※ポリシーとの関連性　地域経済について勉強し，レポートやレジュメを作成する．

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域セミナーⅡ	後期	金２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地　朝央	２年	メールでお問い合わせください． t.toguchi.ac.jp	

学びの準備

ねらい

・座学を通して知識を身につける．
・次年度の演習に備えて資料作成の方法を学ぶ．
・資料調査の結果をまとめて発表資料の作成が出来るようにする．

メッセージ

座学による知識をもとに資料調査で得た結果をまとめて資料に仕上げる方法を学びましょう．
今期、状況に応じて対面またはteamsによるオンデマンド形式で授業を行う。

到達目標

次年度の専門的な演習に備え，レポートや資料の作成が出来るようになる．

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	授業計画についての説明（対）	授業計画を確認する
2	輪読1（対）	授業内容を復習する
3	輪読1（対）	授業内容を復習する
4	輪読1（対）	授業内容を復習する
5	輪読1（対）	授業内容を復習する
6	レポート作成について1（対）	レポート内容を確認する
7	レポート作成について2（対）	レポート内容を確認する
8	レポート作成について3（対）	レポート内容を確認する
9	発表資料の作成について1（対）	授業内容を復習する
10	発表資料の作成について2（対）	授業内容を復習する
11	発表資料の作成について3（対）	授業内容を復習する
12	資料調査1（対）	資料調査の内容を確認する
13	資料調査2（対）	資料調査の内容を確認する
14	資料調査をもとにした発表資料の作成1（対）	発表資料の内容を確認する
15	資料調査をもとにした発表資料の作成2（対）	発表資料の内容を確認する
16	資料調査をもとにした発表資料の作成3（対）	発表資料の内容を確認する

テキスト・参考文献・資料など

適時，参考資料を配布する．

学びの手立て

授業で紹介した書籍について図書館を利用することが望ましい．

評価

・レポート提出（4割），発表内容（4割）で評価を行う．
・授業参加度は2割とする．

学びの継続

次のステージ・関連科目

次年度の演習に望み，専門的な書籍や資料を読めるようにする．

※ポリシーとの関連性　地域分析のための重要ツールとして活用をはかる.

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 地理情報システム論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月２	2
担当者 -渡邊　康志	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	授業終了後教室にて受け付けます.	

学びの準備

ねらい

地理情報システムの基本概念等を学ぶとともに，GISソフトの基本操作を習得する。本講義では，先ず地理情報システム（GIS）基本概念の学習を行い，さらにGISソフトを使った基本データ処理演習を行う。基本概念の学習では，地図投影法，GISデータの種類と特徴，データ処理法などの基本概念を解説するとともに実際のGIS利用例なども紹介する。

メッセージ

地域分析のための重要ツールとして地理情報システムの基本概念等を学び，研究に活用しよう.

到達目標

地理情報システムの基本概念等を学ぶとともに，GISソフトの基本操作を習得し，基本的事項を理解操作できるようにする．成績評価の方法は，講義単元ごとのレポート等の課題提出などの内容を総合して判断する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明)	シラバスをよく読むこと
2	地理情報システム概要，GIS利用例	講義１での配布資料の予習
3	地理情報システムと地図投影法	テキスト１章Lesson１
4	GISデータの種類と特徴	１章Lessonn２
5	ベクトルデータ処理法	１章Lessonn３
6	GISにおけるレイヤーコントロール	１章Lessonn４
7	個別値主題図作成とマップ	１章Lessonn５
8	属性値の編集	１章Lessonn６
9	数値データを使った主題図	１章Lessonn７
10	各種マップの調整とその利用	１章Lessonn８
11	地図投影法	２章－１
12	公開されているGISデータの利用	２章－２，３
13	DEM（標高データ）の利用	10章－１，２
14	公開されているDEMの利用	10章－３
15	衛星画像の利用	５章
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキストはpdfで配布.
参考文献　『GIS自習室』SuperMapExpressを使い倒す　古今書院
"Geographic Information Systems and Science"　JOHN WILEY & SONS,LTD
張長平著『空間データ分析』　古今書院
地理情報システム学会編『地理情報科学事典』　朝倉書店

学びの手立て

実習で作成したデータや関連した課題を5回程度提出してもらう．本講義は初歩よりデータや操作を積み重ねていくので，欠席することなく講義に参加すること．止むを得ず欠席した場合は教科書等で講義内容を自習，補ってから次の講義を受けること.

評価

成績評価の方法は，事業終了時単元ごとに実習で作成したデータや関連した課題などを提出してもらう．その内容を総合して判断する。提出データ20点満点×5回。

学びの継続

次のステージ・関連科目

上位科目，地理情報システム論Ⅱ

※ポリシーとの関連性　地域分析のための重要ツールとして活用をはかる.

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 地理情報システム論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月３	2
担当者 -渡邊　康志	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	授業終了後教室にて受け付けます.	

学びの準備

ねらい

地理情報システムの基本概念等を学ぶとともに，GISソフトの基本操作を習得する。本講義では，先ず地理情報システム（GIS）基本概念の学習を行い，さらにGISソフトを使った基本データ処理演習を行う。基本概念の学習では，地図投影法，GISデータの種類と特徴，データ処理法などの基本概念を解説するとともに実際のGIS利用例なども紹介する。

メッセージ

地域分析のための重要ツールとして地理情報システムの基本概念等を学び，研究に活用しよう.

到達目標

地理情報システムの基本概念等を学ぶとともに，GISソフトの基本操作を習得し，基本的事項を理解操作できるようにする．成績評価の方法は，講義単元ごとのレポート等の課題提出などの内容を総合して判断する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明)	シラバスをよく読むこと
2	地理情報システム概要，GIS利用例	講義１での配布資料の予習
3	地理情報システムと地図投影法	テキスト１章Lesson１
4	GISデータの種類と特徴	１章Lessonn２
5	ベクトルデータ処理法	１章Lessonn３
6	GISにおけるレイヤーコントロール	１章Lessonn４
7	個別値主題図作成とマップ	１章Lessonn５
8	属性値の編集	１章Lessonn６
9	数値データを使った主題図	１章Lessonn７
10	各種マップの調整とその利用	１章Lessonn８
11	地図投影法	２章－１
12	公開されているGISデータの利用	２章－２，３
13	DEM（標高データ）の利用	10章－１，２
14	公開されているDEMの利用	10章－３
15	衛星画像の利用	５章
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキストはpdfで配布.
参考文献　『GIS自習室』SuperMapExpressを使い倒す　古今書院
"Geographic Information Systems and Science"　JOHN WILEY & SONS,LTD
張長平著『空間データ分析』　古今書院
地理情報システム学会編『地理情報科学事典』　朝倉書店

学びの手立て

実習で作成したデータや関連した課題を5回程度提出してもらう．本講義は初歩よりデータや操作を積み重ねていくので，欠席することなく講義に参加すること．止むを得ず欠席した場合は教科書等で行為内容を自習，補ってから次の講義を受けること.

評価

成績評価の方法は，事業終了時単元ごとに実習で作成したデータや関連した課題などを提出してもらう．その内容を総合して判断する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

上位科目，地理情報システム論Ⅱ

※ポリシーとの関連性　履修の条件は『地理情報システムＩ』を履修済みであること．地域分析のための重要ツールとして活用をはかる．　［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 地理情報システム論Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月２	2
担当者 -渡邊　康志	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	授業終了後教室にて受け付けます．	

学びの準備

ねらい

地理情報システムIで学んだ基本事項をもとに，本講義ではGISデータを自分で作成する方法を学び，さらには属性検索，空間検索等をくしし，空間分析方法の基礎を学ぶ．

メッセージ

履修条件は『地理情報システムＩ』を履修済みであること．
地域分析のための重要ツールとして地理情報システムを研究に活用する，実践方法を学びましょう．

到達目標

地理情報システムの基本概念・操作方法等を使って，GISデータの作成方法学ぶとともに，GISソフトを使った解析手法の基礎を学び，研究に空間分析が利用できるようにする．

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明)	シラバスをよく読むこと
2	ラスターデータのジオリファレンス	テキスト４章－１，２
3	ラスターデータのジオリファレンス（２）	４章－３，４
4	ベクトルデータセットの作成，ポイントデータ	３章－１，２
5	ベクトルデータセットの作成，ラインデータ	３章－４，５
6	ベクトルデータセットの作成，ポリゴンデータ	３章－６，７
7	ベクトルデータセットの作成，テキストデータ	３章－４
8	GISデータの投影変換	６章－４，５
9	GISデータの座標系変換	６章－６
10	属性検索と検索結果の保存	７章－１
11	属性表を使った演算と属性情報の生成	７章－２
12	空間検索	８章－１
13	オブジェクト位置関係を使った空間検索	８章－２
14	空間操作(バッファとボロノイ)	８章－６，７
15	オーバーレイによる空間解析	９章
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキストはpdfで配布．
参考文献　『GIS自習室』SuperMapExpressを使い倒す　古今書院
"Geographic Information Systems and Science"　JOHN WILEY & SONS,LTD
張長平著『空間データ分析』　古今書院
地理情報システム学会編『地理情報科学事典』　朝倉書店

学びの手立て

『地理情報システムＩ』を履修済みであること．実習で作成したデータや関連した課題を5回程度提出してもらう．本講義は初歩よりデータや操作を積み重ねていくので，欠席することなく講義に参加すること．止むを得ず欠席した場合は教科書等で講義内容を自習，補ってから次の講義を受けること．

評価

実習で作成したデータや関連した課題を5回程度提出してもらう．本講義は初歩よりデータや操作を積み重ねていくので，欠席することなく講義に参加すること．止むを得ず欠席した場合は教科書等で行為内容を自習，補ってから次の講義を受けること．提出データ20点満点×5回。

学びの継続

次のステージ・関連科目

卒論等の研究に利用してほしい．

※ポリシーとの関連性　経済学関連ならびにITを活用した科目。

[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 統計情報処理Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水２	2
担当者 友知　政樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、回帰分析を基軸に基礎的な多変量解析法について学ぶことを目的とする。具体的には、多変量解析法の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら統計処理し、その方法ならびに結果の解釈について学ぶ。

メッセージ

統計学＋コンピュータを学びます。

到達目標

ねらいの達成。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

01 講義ガイダンス
02 基本統計量とエクセル（１）
03 基本統計量とエクセル（２）
04 基本統計量とエクセル（３）
05 相関分析（１）
06 相関分析（２）
07 単回帰分析（１）
08 単回帰分析（２）
09 重回帰分析（１）
10 重回帰分析（２）
11 重回帰分析（３）
12 回帰モデルの仮説検定と予測（１）
13 回帰モデルの仮説検定と予測（２）
14 ダミー変数（１）
15 ダミー変数（２）
16 最終試験

テキスト・参考文献・資料など

講義時に紹介する。

学びの手立て

毎回出席すること。

評価

講義毎の課題提出(50%)、最終試験(50%)により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

統計情報処理Ⅱ

※ポリシーとの関連性　経済学関連ならびにITを活用した科目。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	統計情報処理Ⅱ	後期	水２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	友知　政樹	２年	mtomochi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、回帰分析の習得を前提に、多変量解析法について発展的に学ぶことを目的とする。具体的には、多変量解析法の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら統計処理し、その方法ならびに結果の解釈について学ぶ。

メッセージ

統計学＋コンピュータを学びます。

到達目標

ねらいの達成。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

基本的に（対面）での講義であるが、状況に応じてZOOMによる（特別）遠隔講義を織り交ぜながら進める。
その場合は前もって連絡する。
（対）01 講義ガイダンス
（対）02 回帰分析の復習（１）
（対）03 回帰分析の復習（２）
（対）04 回帰分析の復習（３）
（対）05 時系列重回帰分析（１）
（対）06 時系列重回帰分析（２）
（対）07 時系列重回帰分析（３）
（対）08 主成分分析（１）
（対）09 主成分分析（２）
（対）10 主成分分析（３）
（対）11 コンジョイント分析（１）
（対）12 コンジョイント分析（１）
（対）13 コンジョイント分析（２）
（対）14 コンジョイント分析（３）
（対）15 総まとめ
（対）16 最終試験

テキスト・参考文献・資料など

講義時に紹介する。

学びの手立て

毎回出席すること。

評価

講義毎の課題提出(50%)、最終試験(50%)により総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

計量経済学Ⅰ

※ポリシーとの関連性　地域経済・沖縄経済に関する基本情報の収集、分析、島嶼経済の理論について学びます。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 島嶼経済論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火４	2
担当者 -玉城　優希	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

島嶼県沖縄の魅力と課題、将来ビジョンを通して島嶼経済に関する理論や基本データの収集、分析を行います。嘉数啓『島嶼学』や沖縄県が発行する『離島関係資料』、『沖縄県市町村概要』等から、沖縄県経済や島嶼地域の基本情報を整理しておくと、講義・学習の理解が深まります。

メッセージ

国内外、沖縄県など島嶼地域に興味を持ち、文献や新聞、ニュースなどをチェックしてください。

到達目標

・島嶼について興味を持つ。
・島嶼経済論の理論を理解する。
・情報収集能力を身に着ける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	島嶼経済論Ⅰの概要（ガイダンス）	島とは何か
2	島嶼県沖縄の現状と課題（沖縄の島々）	沖縄の島々の概要
3	島嶼経済研究のまとめ、島嶼の定義	島嶼関係文献の整理
4	島嶼の分類	島嶼経済理論の整理
5	島嶼経済の特性①	島嶼地域の経済特性
6	島嶼経済の特性②	島嶼地域の経済特性
7	離島の定住条件①（生活、医療、教育）	島嶼地域の医療、教育
8	離島の定住条件②（産業、所得、交通）	島嶼地域の産業
9	島嶼社会経済ネットワーク	島嶼地域間ネットワーク理論
10	離島の産業振興（農業、漁業、畜産業、製造業、建設業）	沖縄の現状分析
11	離島の産業振興（観光産業）	沖縄の現状分析
12	島嶼の政治経済学	グローバリゼーションと島嶼経済
13	離島振興の基本方向	離島経済の課題克服
14	離島架橋の経済学	架橋後の離島経済
15	島嶼経済論Ⅰの総括	島嶼経済の総括
16		

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】嘉数啓『島嶼学』古今書院、2019年
【参考文献】
・松島泰勝『沖縄島嶼経済史』藤原書店、2002年
・沖縄県「沖縄県市町村概要（令和2年3月版）」、「離島関係資料（令和2年3月）」

学びの手立て

【履修の心得】
・私語やスマホ等、他人の迷惑、授業の妨害になるような行為は禁止。
【学びを深めるために】
・日頃から新聞、ニュースを見て、島嶼経済について関心を持つ。

評価

評価は平常点60%、中間テスト20%、期末リポート20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

島嶼経済論Ⅰ・Ⅱを通年で受講することが望ましいです。
関連科目：「沖縄経済論Ⅰ」、「沖縄経済論Ⅱ」

※ポリシーとの関連性　地域経済・沖縄経済に関する基本情報の収集、分析、島嶼経済の理論について学びます。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	島嶼経済論Ⅱ	後期	火４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-玉城　優希	３年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

島嶼県沖縄の魅力と課題、将来ビジョンなど島嶼経済に関する基本データの収集、分析を行います。沖縄県が発行する『離島関係資料』、『沖縄県市町村概要』等から、沖縄県経済や島嶼地域の基本情報を整理しておくと、講義・学習の理解が深まります。

メッセージ

国内外、沖縄県など島嶼地域に興味を持ち、文献や新聞、ニュースなどをチェックしてください。

到達目標

・島嶼地域について興味を持つ。
・島嶼経済の特徴を理解し、課題解決法を調査・研究する力を習得する。
・情報収集能力を身に着ける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	島嶼経済論Ⅱの概要（ガイダンス）	島嶼経済の特徴
2	『沖縄21世紀ビジョン離島振興計画』の離島分析①	21世紀ビジョン
3	『沖縄21世紀ビジョン離島振興計画』の離島分析②	21世紀ビジョン
4	離島の振興	第5次沖縄振興計画
5	島嶼地域の交通①陸上交通	島嶼地域の交通課題
6	島嶼地域の交通②航空・物流戦略	島の交通戦略
7	島嶼地域の交通③海運	島の交通戦略
8	ケーススタディ①「島嶼観光」の比較研究	島嶼間格差の分析
9	ケーススタディ②伊江島の振興策	伊江島の経済展望調査
10	グループワーク（島嶼地域の振興策）	島嶼の経済展望調査
11	海外島嶼地域研究：シンガポール	シンガポールの振興政策
12	海外島嶼地域研究：台湾	台湾と沖縄の比較研究
13	海外島嶼地域研究：フィリピン	フィリピンの振興政策
14	海外島嶼地域研究：ハワイ	沖縄とハワイの比較研究
15	島嶼経済論Ⅱの総括	島嶼地域の課題と展望を整理
16		

テキスト・参考文献・資料など

・沖縄県「住みよく魅力ある島づくり計画－沖縄２１世紀ビジョン離島振興計画－（平成25年3月）」
・沖縄県「沖縄県市町村概要（令和2年3月版）」、「離島関係資料（令和2年3月）」
・嘉数啓『島嶼学』古今書院、2019年
・松島泰勝『沖縄島嶼経済史』藤原書店、2002年

学びの手立て

【履修の心得】
・私語やスマホ等、他人の迷惑、授業の妨害になるような行為は禁止。
【学びを深めるために】
・日頃から新聞、ニュースを見て、島嶼経済について関心を持つ。

評価

評価は平常点60%、中間テスト20%、期末リポート20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

島嶼経済論Ⅰ・Ⅱを通年で受講することが望ましいです。
関連科目：「沖縄経済論Ⅰ」、「沖縄経済論Ⅱ」

※ポリシーとの関連性　地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すための環境政策への理解を深める環境関連の科目を提供。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 島嶼環境論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水３	2
担当者 齋藤　星耕	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付ける。	

学びの準備

ねらい

島嶼は、他の陸地から海により隔てられた陸地である。この結果、陸上の生物相は独自性を持つが、島の歴史から紐解けばその成立を理解できる。また、亜熱帯に位置する琉球弧では、島の周囲にマングローブ林やサンゴ礁が形成され豊かな生物相を形成している。さらに、生物としての人類の島々への伝播も扱う。これらの内容を通じて島の自然環境への理解を深める。

メッセージ

沖縄の島々は、陸上も海の中も生命に溢れています。生物相は島々によって異なり個性があります。その理由を探っていくと、島相互の地理的な位置関係や、島が形成されてきた歴史に行き当たります。その中で沖縄（や世界）の島々の間の共通性や違いにも気が付くかもしれません。皆さんにとって本講義が、足元の島から世界を理解する一助となることを期待します。

到達目標

① 島の形成過程について地球科学の視点から理解できる
② 島の陸上生物の分布と島の歴史の関係を理解できる
③ マングローブ林やサンゴ礁な熱帯・亜熱帯の島々に特徴的な生態系について理解できる
④ 生物としての人類の島への到達・定住の歴史を理解できる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション　島嶼とは	シラバスを精読する
2	島の形成（1）海と陸がある理由： プレートテクトニクス	授業内容の見直し
3	島の形成（2）海洋島の形成	授業内容の見直し
4	島の形成（3）日本列島・琉球弧の形成	授業内容の見直し
5	島と気候変動（1）氷期と間氷期の周期変動と島	授業内容の見直し
6	島と気候変動（2）地球温暖化と島	授業内容の見直し
7	島の陸上生物相（1）海洋島の陸上生物相	授業内容の見直し
8	島の陸上生物相（2）島の生物学の諸法則	授業内容の見直し
9	島の陸上生物相（3）琉球弧の来歴と生物多様性	授業内容の見直し
10	マングローブの生物相（1）耐塩性をもつ木本植物	授業内容の見直し
11	マングローブの生物相（2）マングローブの生態系機能	授業内容の見直し
12	サンゴ礁の生物相（1）サンゴと褐虫藻の共生	授業内容の見直し
13	サンゴ礁の生物相（2）サンゴ礁がもたらす生物多様性	授業内容の見直し
14	島の人類史（1）海を渡った人々	授業内容の見直し
15	島の人類史（2）現代の沖縄人はどこからきたのか	授業内容の見直し
16	定期試験	授業内容の見直し

テキスト・参考文献・資料など

テキストは定めない。必要に応じて資料を配布する。

参考文献
琉球大学理学部編（2015）琉球列島の自然講座，ボーダーインク；
鈴木款ほか編（2011）サンゴ礁学，東海大学出版会
小滝一夫（1997）マングローブの生態，信山社.

学びの手立て

履修の心構え：
・毎回、講義の最後に小テストを実施する。注意深く講義の内容を聞きノートをとること。
・毎回出欠確認を行う。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に必ずメールにて連絡すること。

（授業形式について）
原則として対面授業で実施する。
但し、必要に応じて、リスクのある履修者がオンライン参加を選択できるように、対面・オンライン併用とすることがある。

評価

期末試験（60%）と、毎回の授業の小テスト(40%)により評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：「土壌学概論」、「農業と環境」

※ポリシーとの関連性　地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すための環境政策への理科を深める環境関連の核を提供。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名	期 別	曜日・時限	単 位
都市環境論	後期	木４	2
担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
上江洲　薫	２年	研究室５－６３２ kuezu@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では、都市において発生する環境問題を概観する。このような環境問題には、水環境、大気環境、エネルギー、廃棄物などの問題が含まれる。講義では、これらの問題を駒別の取り上げるだけでなく、問題相互の関連性を検討し、都市環境のマネジメントを考える。

メッセージ

都市を中心に、様々な環境問題やその政策について事例を挙げながら考えていきたい。コロナ渦の状況にもよるが、都市河川の巡検（野外実習）も予定しているので、現場で実際に触れて感じて、考えて欲しい。

到達目標

①都市の水・大気・エネルギー消費と二酸化炭素・省エネ・廃棄物などに関する専門知識を事例を挙げながら説明できる。
②都市での環境保全の取り組みなどについて、自分自身の意見を述べることができる。
③都市での環境政策などについて提案することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義概要の説明	世界の都市問題を考える
2	都市と水環境①－都市の水収支	参考文献：①②④を読む
3	都市と水環境②－水の供給と保全	同上
4	都市と水環境③－那覇市街地の都市河川	都市河川を調べる
5	都市の大気環境と夏環境①－大気汚染の変遷と特徴	参考文献：①②を読む
6	都市の大気汚染と熱環境②－大気汚染物質との対策１	同上
7	都市の大気汚染と熱環境③－大気汚染物質との対策２	同上
8	都市の大気環境と熱環境④－ヒートアイランド現象の特徴	参考文献：①②⑤を読む
9	都市の大気環境と熱環境⑤－ヒートアイランド現象の対策	同上
10	都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出①－日本の都市	参考文献：①②を読む
11	都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出②－二酸化炭素の削減対策	同上
12	都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出③－都市への集中と交通	同上
13	都市の省エネと環境保全：スマートシティ	参考文献：⑥を読む
14	物質の循環と廃棄物①－循環型社会	参考文献：①②を読む
15	物質の循環と廃棄物②－廃棄物の問題と活用	同上
16	試験	試験問題を振り返る

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：特に指定しない。毎回レジュメを配布する。
参考文献：①花木啓祐(1994)『都市環境論』岩波書店。②福岡義隆編著(1995)『都市の風水土　都市環境学入門』朝倉書店。③都市環境学教材編集委員会編(2003)『都市環境学』森北出版。④吉越昭久編(2001)『人間生活と環境変化』古今書院。⑤森山正和編(2004)『ヒートアイランドの対策と技術』学芸出版社。⑥岡村久和(2011)『スマートシティ』ｱｽｷｰ･ﾒﾃﾞｨｱﾜｰｸｽ。

学びの手立て

履修の心構え：講義を毎回視聴し内容を理解していない限り課題や試験は書けません。
途中退室や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。
学びを深めるために：環境に関する新聞記事を読んだり、環境省https://www.env.go.jp/のWebサイトを見ることを推奨します。

評価

テスト（40点）：上記の目標達成の①を評価します。
平常点（30点）：講義やDVD視聴の感想、講義への参加姿勢を評価します。
課題・レポート（30点）：授業で取り上げた内容に対する意見や提案内容を評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

次のステージ：多くの人口や産業が集まる都市を中心に、地域環境や環境政策などを学んでいるため、それらの課題を解決できる手法や取り組みを考えて欲しい。
関連科目：「交通と環境」「環境政策論」「エコビジネス論」は受講して欲しい。

※ポリシーとの関連性　地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すための環境政策への理解を深める環境関連の科目を提供。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 土壌学概論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火４	2
担当者 齋藤　星耕	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付ける。	

学びの準備

ねらい

土壌は、陸上生態系の生産者である植物の生育に必要な養分を供給し、人類を含む他の陸上生物を支えている。また土壌は、動植物遺体や排泄物など有機物の分解の場であり、再度植物が利用可能な養分に戻している。土壌は、気象の作用と、生態系との相互作用を通じて、長い時間をかけて岩石が変化して生成されたものである。本講義では陸上生態系の基盤である土壌への理解を深める。

メッセージ

皆さんの日常の中で、土に触れる機会は殆どないかもしれません。しかし、土は人間を含めて、陸上に生きる生物にとって欠くことの出来ないものです。土を考えることを通じて、生態系の仕組みを知り、またその歴史に触れることで、人間という生物の立ち位置が理解できます。そのなかから、環境を保全しなくてはならない理由が見えてくるはずです。

到達目標

① 土壌と生物との関わりが理解できる
② 土壌が持つ生態系機能について理解できる
③ 土壌形成に影響を及ぼす因子について理解できる
④ 土壌をめぐる環境問題について理解できる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	はじめに 土壌とは	シラバスを精読する
2	土壌と生物(1)：生態系	授業内容の見直し
3	土壌の生物(2)：植物と養分	授業内容の見直し
4	土壌の生物(3)：生分解作用と微生物	授業内容の見直し
5	土壌の生物(4)：土壌動物	授業内容の見直し
6	土壌の発達(1)：土壌の誕生	授業内容の見直し
7	土壌の発達(2)：土壌生成作用	授業内容の見直し
8	土壌の発達(3)：層位の分化、微細構造	授業内容の見直し
9	土壌の機能(1)：養分の保持	授業内容の見直し
10	土壌の機能(2)：水分、地温	授業内容の見直し
11	土壌の種類と分布(1)：土壌の種類	授業内容の見直し
12	土壌の種類と分布(2)：気候帯の影響と、生態系の遷移	授業内容の見直し
13	土壌をめぐる環境問題(1)：土壌浸食	授業内容の見直し
14	土壌をめぐる環境問題(2)：塩類集積、土壌汚染	授業内容の見直し
15	沖縄の土壌	授業内容の見直し
16	定期試験	授業内容の見直し

テキスト・参考文献・資料など

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。
参考文献：　松中照夫「土壌学の基礎」（2003，農文協）

学びの手立て

履修の心構え：
・毎回、講義の最後に小テストを実施する。注意深く講義の内容を聞きノートをとること。
・毎回出欠確認を行う。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に必ずメールにて連絡すること。

（授業形式について）
原則として対面授業で実施する。
但し、必要に応じて、リスクのある履修者がオンライン参加を選択できるように、対面・オンライン併用とすることがある。

評価

期末試験（60%）と、小テスト及びレポート(40%)により評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：「農業と環境」、「島嶼環境論」

※ポリシーとの関連性　地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すための環境政策への理解を深める環境関連の科目を提供。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 農業と環境	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水３	2
担当者 齋藤　星耕	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付ける。	

学びの準備

ねらい

人類は食料の大部分を農業に依存している。農業は、人類にとって有益な生物を育てるために環境を改変する行為であり、環境への影響を避けることができない。本講義では、農業の歴史、人類が直面する環境と食料の問題、農業が生態系に与える影響とその過程を扱う。また、持続可能な農業への取り組みも紹介する。これらにより農業と環境の関係に対する理解を深める。

メッセージ

特に農業は、自然に積極的に働きかけることで食料などの生産物を得る人類の営為です。しかし、歴史的には農業が環境破壊を引き起こし、衰退した地域がいくつもあります。また現代は歴史上かつてない規模に増加した人口を養う必要に直面しています。持続的な農業、ひいては社会を実現するためにはどうすれば良いのか、本講義を通じて各自が考えていく機会となればと思います。

到達目標

①食料問題を農業と環境の観点から理解できる。
②農業が環境に影響を与える過程を具体的に理解できる。
③持続性的な農業への取り組みを知る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション: 他の生物を育てて食べる生物	シラバスを精読する
2	人類の食料調達の歴史	授業内容の見直し
3	農業の起源(1) 人類が農業を始めた理由	授業内容の見直し
4	農業の起源(2) 作物と家畜はどこから来たのか	授業内容の見直し
5	古代文明の衰退と環境破壊(1) イースター島	授業内容の見直し
6	古代文明の衰退と環境破壊(2) マヤ文明・シュメール文明	授業内容の見直し
7	食料と人口問題	授業内容の見直し
8	食料の輸出入	授業内容の見直し
9	緑の革命	授業内容の見直し
10	土壌の劣化(1) 農地の物質収支と土壌侵食	授業内容の見直し
11	土壌の劣化(2) 塩害と砂漠化	授業内容の見直し
12	農薬学(1) 農薬と農業	授業内容の見直し
13	農薬学(2) 農薬と環境	授業内容の見直し
14	農業を考える(1) 現代農業の特徴	授業内容の見直し
15	農業を考える(2) 農業の持続可能性	授業内容の見直し
16	試験	授業内容の見直し

テキスト・参考文献・資料など

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

学びの手立て

履修の心構え：
・毎回、講義の最後に小テストを実施する。注意深く講義の内容を聞きノートをとること。
・毎回出欠確認を行う。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に必ずメールにて連絡すること。

（授業形式について）
原則として対面授業で実施する。
但し、必要に応じて、リスクのある履修者がオンライン参加を選択できるように、対面・オンライン併用とすることがある。

評価

期末試験及びレポート（60%）と小テスト(40%)により評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目: 「土壌学概論」、「島嶼環境論」

※ポリシーとの関連性　地域経済で重要な位置を占める農業が直面する課題や食料問題等について理論的に学ぶことを目標とする。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 農業と経済	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月４	2
担当者 -藤原　昌樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に教室で受付け、もしくはメール（ptt746@okiu.ac.jp）にて受付けます。	

学びの準備

ねらい

本講義では、農業と食料をめぐる経済的現象を解明する学問である農業経済学の基礎を学ぶことを目的とする。

メッセージ

レジュメを元に講義を行ないます。講義の予習・復習にレジュメを活用するようにしてください。また、講義に関連する書籍や論文等を随時紹介するので、これらの書籍や論文等にも目を通すことを推奨します。

到達目標

農業と食料に関する（具体的な）諸問題について考察する際にバックボーンとなる農業経済学の理論の基礎を学ぶことを目標とする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	経済発展と農業（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
2	経済発展と農業（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
3	経済発展と農業（3）	講義のレジュメを事前に読むこと
4	食料の需要と供給（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
5	食料の需要と供給（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
6	食料の需要と供給（3）	講義のレジュメを事前に読むこと
7	農産物貿易と農業保護政策（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
8	農産物貿易と農業保護政策（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
9	世界の人口と食料（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
10	世界の人口と食料（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
11	資源・環境と農業（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
12	資源・環境と農業（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
13	日本及び沖縄の農業と食料（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
14	日本及び沖縄の農業と食料（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
15	日本及び沖縄の農業と食料（3）	講義のレジュメを事前に読むこと
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

講義はレジュメを用いて行ない、特にテキストの指定はしない。但し、比較的入手しやすい参考書として、下記の５冊を推薦する。
・荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学　第４版』（岩波テキストブックス）岩波書店　2015年・速水佑次郎・神門善久『農業経済論　新版』岩波書店　2002年・時子山ひろみ・荏開津典生『フードシステムの経済学　第4版』医歯薬出版株式会社　2008年・西村和雄『ミクロ経済学』岩波書店　1996年・原洋之介『北の大地・南の列島の「農」』書籍工房早山　2007年

学びの手立て

講義において、農業や食料について論じている書籍や農業や食料の問題を描いている文学作品や映像作品（映画やドキュメンタリー等）等を紹介する。
講義を受講することに加えて、これらの作品に触れることで、より理解を深めることが期待できる。
講義で学ぶ内容について、自宅学習用課題（全10回程度）を課すことを予定している。
課題に取り組むことにより、より理解を深めることができるものと期待する。
本講義ではMoodleを用いて資料及び課題の配布、提出物の回収を行うこととするので、受講者は必ずMoodleに登録することとする。

評価

学期末試験及び自宅学習用課題（全10回程度）の提出状況とその得点をもとに成績評価を行なうこととする。
但し、諸般の事情により学期末試験を実施できない場合は、自宅学習用課題の提出状況及びその得点のみをもとに成績評価を行なうこととする。
※　学期末試験を実施する場合（学期末試験40%　自宅学習用課題60%）
　　学期末試験を実施しない場合（自宅学習用課題100%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：「ミクロ経済学Ⅰ」及び「ミクロ経済学Ⅱ」
　本講義で学ぶ農業経済学の理論的な基礎となるミクロ経済学を学ぶことができる。

※ポリシーとの関連性　経済学部地域環境政策課の学生として廃棄物について、国内外、県内の現状と課題を理解する。

[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 廃棄物論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火１	2
担当者 -玉栄　章宏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	電話：090-8412-1064	

学びの準備

ねらい

本講義では、日本における廃棄物に関する歴史、現状、循環利用の現状、海外における廃棄物問題、沖縄における廃棄物の現状と廃棄物事業（静脈産業）の順に学んでいく。講義を通して日本および世界、沖縄の廃棄物の概要を理解できるようにする。

メッセージ

国内外、県内の廃棄物に関する新聞、テレビ、ネット情報などを大いに参考にしてください。

到達目標

産業は動脈産業（自動車、家電製品製造業など）と静脈産業（廃棄物処理業、リサクル業など）で成り立っている。その中で沖縄の静脈産業についても学びます。学んだことを学内で発表、新聞投稿が出来ることなどを期待する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義ガイダンス、講師自己紹介、沖縄の一般廃棄物の概要	新聞資料に対しメールで質問下さい
2	日本における廃棄物処理の歴史（1）	同上
3	日本における廃棄物処理の歴史（2）	同上
4	日本の物質フロー	同上
5	廃棄物とは（一般廃棄物と産業廃棄物）	同上
6	循環的な利用の現状（１）（法制度と３Ｒ政策）・DVD（資源有効利用促進法）	同上
7	循環的な利用の現状（２）（バーゼル条約・バーゼル法、廃棄物処理法）	同上
8	循環的な利用の現状（３）（容器包装リサイクル法、家電・自動車リサイクル法）	同上
9	循環的な利用の現状（４）（建設・食品リサイクル法、グリーン購入法）	同上
10	廃棄物関連情報（最終処分場・不法投棄）	同上
11	廃棄物関連情報（１）（ダイオキシン等　ＤＶＤ　なぜゴミを燃やしてはいけないの？19分）	同上
12	廃棄物関連情報（２）（アスベスト等　DVD　健康被害と保障33分）	同上
13	廃棄物関連情報（３）（越境移動、DVD　危害の輸出23分）	同上
14	廃棄物関連情報（４）　（海洋漂流廃棄物、人口の海10分orゴミ箱になった海15分）	同上
15	沖縄における廃棄物の現状と廃棄物事業（静脈産業）	同上
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しない。ＤＶＤや各種配布資料など（ファイルに綴じ、毎回持参する）。

学びの手立て

授業でわからないことがあれば、積極的に質問してください。また、授業中はスマホで検索して学びに活かすことは大いに勧めます。但し、試験中はスマホの使用は禁止です。

評価

・期末試験等により100%評価する。再試験は実施しない。
・欠席日から2週間以上過ぎた欠席届は受け取らないので注意する。
　以下の場合、単位は与えない・3分の1以上の欠席（欠席理由は考慮しない）。
・出席で代筆が明らかとなった場合、期末試験を受けなかった場合、試験で不正をした場合。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：公害概論、エコビジネス論、環境法、環境科学Ⅰ・Ⅱ
授業で学んだことを卒業論文に取り上げる場合や、受講後にもっと勉強したいこと等があれば、遠慮なく連絡ください。電話:090-8412-1064、e-mail:tamae-ak@amber.plala.or.jpです。

※ポリシーとの関連性　社会人として諸問題を解決するために求められる基本的な資質である「知識」「考察力」「表現力」を身につけることができます。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	ファイナンシャル・プランニングⅠ	前期	木２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城　佳枝	１年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

金融や保険、不動産、税金など社会人として身につけるべきお金に関する知識を学び、「豊かな人生」の実現のために、現状を把握し課題を分析、金銭的問題解決ができることを目的としています。特に金融機関においては、FPの知識を活かして、お客様に総合的アドバイスができます。

メッセージ

金融機関において、FPの知識が必須ですが、皆さん自身の「豊かな人生」の実現のためにも有効です。ファイナンシャルプランニングを学ぶことで、個人とお金、社会とお金との関わりを考え、広い視野・選択肢を広げ、適切な判断ができることと思います。

到達目標

ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱを学習することで、ＦＰ技能士３級合格を目指します。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション・登録	シラバスを熟読する
2	ライフプランニングと資金計画（1）	テキストの復習・練習問題を解く
3	ライフプランニングと資金計画（2）	テキストの復習・練習問題を解く
4	社会保険制度	テキストの復習・練習問題を解く
5	公的年金（老齢給付）	テキストの復習・練習問題を解く
6	公的年金（障害年金と遺族年金）	テキストの復習・練習問題を解く
7	公的年金(その他)	テキストの復習・練習問題を解く
8	タックスプランニング（1）	テキストの復習・練習問題を解く
9	タックスプランニング（2）	テキストの復習・練習問題を解く
10	タックスプランニング（3）	テキストの復習・練習問題を解く
11	保険の基礎知識	テキストの復習・練習問題を解く
12	生命保険	テキストの復習・練習問題を解く
13	損害保険	テキストの復習・練習問題を解く
14	第三分野の保険・保険証券の見方	テキストの復習・練習問題を解く
15	まとめ	試験対策をおこなう
16	期末テスト	

テキスト・参考文献・資料など

『うかる！ＦＰ3級速攻テキスト』2020-2021年版　日本経済新聞出版社

学びの手立て

新聞やテレビ、ネットなどで、金融経済に関する記事やニュースに毎日目を通しましょう。

評価

毎講義内の課題テスト50%、期末テスト50%で評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

ＦＰ３級の内容の後半部分は、ファイナンシャルプランニングⅡで学習します。後期に履修下さい。

※ポリシーとの関連性　社会人として諸問題を解決するために求められる基本的な資質である「知識」「考察力」「表現力」を身につけることができます。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 ファイナンシャル・プランニングⅡ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 -名城　佳枝	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

金融や保険、不動産、税金など社会人として身につけるべきお金に関する知識を学び、「豊かな人生」の実現のために、現状を把握し課題を分析、金銭的問題解決ができることを目的としています。特に金融機関においては、FPの知識を活かして、お客様に総合的アドバイスができます。

メッセージ

金融機関において、FPの知識が必須ですが、皆さん自身の「豊かな人生」の実現のためにも有効です。ファイナンシャルプランニングを学ぶことで、個人とお金、社会とお金との関わりを考え、広い視野・選択肢を広げ、適切な判断ができることと思います。

到達目標

ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱを学習することで、ＦＰ技能士３級合格を目指します。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	シラバスを熟読する
2	経済・金融の基礎・銀行等の貯蓄型金融商品	テキストの復習・練習問題を解く
3	債券・株式・投資信託	テキストの復習・練習問題を解く
4	その他金融商品と有価証券の税金等	テキストの復習・練習問題を解く
5	ポートフォリオ運用とデリバティブ	テキストの復習・練習問題を解く
6	贈与税	テキストの復習・練習問題を解く
7	相続税の基礎	テキストの復習・練習問題を解く
8	相続税の仕組み	テキストの復習・練習問題を解く
9	相続財産の評価	テキストの復習・練習問題を解く
10	不動産の基礎と登記	テキストの復習・練習問題を解く
11	不動産の取引	テキストの復習・練習問題を解く
12	不動産に関する法律	テキストの復習・練習問題を解く
13	不動産の税金	テキストの復習・練習問題を解く
14	実技試験対策	テキストの復習・練習問題を解く
15	まとめ問題	テキストの復習・練習問題を解く
16	(特)期末テスト	

テキスト・参考文献・資料など

『うかる！ＦＰ3級速攻テキスト2020-2021年度』日本経済新聞出版社

学びの手立て

新聞やテレビ、ネットなどで、金融経済に関する記事やニュースに毎日目を通しましょう。

評価

毎講義内で行う課題テスト50%、期末テスト50%で評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

自分自身のライフプランを立ててみましょう。

※ポリシーとの関連性　不動産鑑定士を志す方の養成と銀行等の企業に就職した際の資産管理のスキルを目指します。

[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	不動産評価論	前期	木４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-玉那覇　兼雄	３年	E-mail　ktamanaha@solute.co.jp	

学びの準備

ねらい

「不動産鑑定評価基準」の解説を中心に、不動産と人、そして街づくりとの関わりについて、理論と実践を学習します。

メッセージ

不動産のみならず物全般の価値がどのように決定づけられるかの理論を身につけることができます。

到達目標

物の価値を判定する際に、市場性、費用性及び収益性の三つの観点からアプローチし、算定することが出来るように指導します。また、不動産をどのように利用することが最も効率的であるか及び社会的に有用であるかを理解出来るようにつとめます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	プロローグ　－用語の定義、鑑定評価制度	不動産鑑定士とは何か事前に調べる
2	民法、建築基準法、土地区画整理法及び農地法の基礎知識	特になし
3	不動産の鑑定評価に関する基本的考察（1）	テキスト第1章を事前に読む
4	不動産の鑑定評価に関する基本的考察（2）	〃第1章を事前に読む
5	不動産の種別及び類型、不動産の価格を形成する要因	〃第2章、第3章を事前に読む
6	不動産の価格に関する諸原則（1）	〃第4章を事前に読む
7	不動産の価格に関する諸原則（2）	〃第4章を事前に読む
8	鑑定評価の基本的事項	〃第5章を事前に読む
9	地域分析及び個別分析	〃第6章を事前に読む
10	鑑定評価の方式（1）取引事例比較法、原価法	〃第7章第1節を事前に読む
11	鑑定評価の方式（2）収益還元法	〃第7章第1節を事前に読む
12	鑑定評価の方式（3）賃料の評価手法	〃第7章第2節を事前に読む
13	鑑定評価の手順	〃第8章第1節～第4節事前に読む
14	鑑定評価報告書	〃第8章5節～10節を事前に読む
15	沖縄の土地問題（試験）	試験準備
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：「不動産鑑定評価基準」(2回目の講義で配布)
参考書：鑑定評価理論研究会編著「要説 不動産鑑定評価基準」（住宅新報社）

学びの手立て

①「履修の心構え」私語を厳に慎むこと。場合によっては退室を命じます。
②「学びを深めるために」土地問題（基地、開発等）に関する新聞、テレビ等のメディアに注視してもらいます
。

評価

出席(100点満点のうち40点)を重視し、最終試験（100点満点のうち60点）により評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（１）関連科目
　　民法、経済学、会計学
（２）次のステージ
　　不動産鑑定士、宅地建物取引士等の国家試験へのチャレンジ

※ポリシーとの関連性　各専門分野において必要となる「情報を分析する手法」について学習する。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 プログラミング演習	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月２	2
担当者 根路銘　もえ子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

必要な情報を的確に収集し、それを活用する能力を身につける。本講義では、情報リテラシー演習で学んだ基礎知識に続き、データ分析に必要な表計算ソフトウェアのプログラミングについて学習する。また、収集したデータの見せ方や画像処理の方法、情報提供の場としてWebページの制作やJavaScriptに関して学習する。

メッセージ

プログラミングに関して学習することがはじめての方が多いと思いますが、焦らず取り組めばできることが広がる講義だと思います。大量のデータの処理やその自動化の方法、分析の方法は今後も求められる能力です。質問や講義への取り組み含め、積極的な参加を期待します。皆さんの先輩もSAとして、講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談してください。

到達目標

・表計算ソフトの習得とビジネスデータ加工ができる。
・プログラミングやマクロの機能を活用して作業の効率化ができる。
・画像データ加工処理操作の習得。
・情報の種類やニーズに合わせた適切な情報公開ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義ガイダンス・表計算ソフトウェアの復習	表計算ソフトの復習
2	表計算ソフトの応用（1）：マクロの基本	マクロの記録と実行
3	表計算ソフトの応用（2）：マクロの基本・データ管理	マクロの記録と実行・データ管理
4	表計算ソフトの応用（3）：VBAプログラミングの基本	繰り返し処理
5	表計算ソフトの応用（4）：VBAプログラミングの基本	デバッグ処理
6	表計算ソフトの応用（5）：VBAプログラミングの基本	データ処理演習
7	表計算ソフトの応用（6）：VBAプログラミングの応用	条件処理
8	表計算ソフトの応用（7）：VBAプログラミングの応用（データ処理）	データ処理演習
9	HTMLの基本（1）：基本ルールの学習、タイトル・文字・リンク等	Webページ制作
10	HTMLの基本（2）：画像の貼り付け・レイアウト・表組・背景等	Webページ制作
11	JavaScript：JavaScriptによる条件表示等	Webページ制作
12	画像処理（1）	画像データ処理
13	画像処理（2）	画像制作
14	プログラミング・画像処理の復習	データ処理演習
15	最終課題	最終課題の振り返り
16	まとめ	講義全体の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

講義にてプリントを配布する。

学びの手立て

履修の心構え
・演習により講義を進めるため、毎回の課題にしっかり取り組むこと。

学びを深めるために
・情報リテラシー演習で取り扱ったアプリケーションソフトの操作に慣れる。
・情報関連の資料はWeb上で取得できることも多いため、インターネットによる情報収集を活用する。

評価

平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）90%
期末試験10%
各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目として、「情報処理概論」「統計情報処理I・II」があげられる。

受講終了後においては、多くのデータを扱う場合や、繰り返しのある作業などについて効率化できないか検討したり調査してみると良いと思います。

※ポリシーとの関連性　各専門分野において必要となる「情報を分析する手法」について学習する。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 プログラミング演習	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月１	2
担当者 根路銘　もえ子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

必要な情報を的確に収集し、それを活用する能力を身につける。本講義では、情報リテラシー演習で学んだ基礎知識に続き、データ分析に必要な表計算ソフトウェアのプログラミングについて学習する。また、収集したデータの見せ方や画像処理の方法、情報提供の場としてWebページの制作やJavaScriptに関して学習する。

メッセージ

プログラミングに関して学習することがはじめての方が多いと思いますが、焦らず取り組めばできることが広がる講義だと思います。大量のデータの処理やその自動化の方法、分析の方法は今後も求められる能力です。質問や講義への取り組み含め、積極的な参加を期待します。皆さんの先輩もSAとして、講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談してください。

到達目標

・表計算ソフトの習得とビジネスデータ加工ができる。
・プログラミングやマクロの機能を活用して作業の効率化ができる。
・画像データ加工処理操作の習得。
・情報の種類やニーズに合わせた適切な情報公開ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義ガイダンス・表計算ソフトウェアの復習	表計算ソフトの復習
2	表計算ソフトの応用（1）：マクロの基本	マクロの記録と実行
3	表計算ソフトの応用（2）：マクロの基本・データ管理	マクロの記録と実行・データ管理
4	表計算ソフトの応用（3）：VBAプログラミングの基本	繰り返し処理
5	表計算ソフトの応用（4）：VBAプログラミングの基本	デバッグ処理
6	表計算ソフトの応用（5）：VBAプログラミングの基本	データ処理演習
7	表計算ソフトの応用（6）：VBAプログラミングの応用	条件処理
8	表計算ソフトの応用（7）：VBAプログラミングの応用（データ処理）	データ処理演習
9	HTMLの基本（1）：基本ルールの学習、タイトル・文字・リンク等	Webページ制作
10	HTMLの基本（2）：画像の貼り付け・レイアウト・表組・背景等	Webページ制作
11	JavaScript：JavaScriptによる条件表示等	Webページ制作
12	画像処理（1）	画像データ処理
13	画像処理（2）	画像制作
14	プログラミング・画像処理の復習	データ処理演習
15	最終課題	最終課題の振り返り
16	まとめ	講義全体の振り返り

テキスト・参考文献・資料など

講義にてプリントを配布する。

学びの手立て

履修の心構え
・演習により講義を進めるため、毎回の課題にしっかり取り組むこと。

学びを深めるために
・情報リテラシー演習で取り扱ったアプリケーションソフトの操作に慣れる。
・情報関連の資料はWeb上で取得できることも多いため、インターネットによる情報収集を活用する。

評価

平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）90%
最終課題10%
各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目として、「情報処理概論」「統計情報処理I・II」があげられる。

受講終了後においては、多くのデータを扱う場合や、繰り返しのある作業などについて効率化できないか検討したり調査してみると良いと思います。

※ポリシーとの関連性　専門職業人として活動するのに役立つ資格科目の提供。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	簿記原理Ⅰ	前期	木１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-町田　真子	１年	対面講義の場合には授業開始前、リモート講義の場合にはメールにて受け付けます。	

学びの準備

ねらい

簿記や会計の初心者を対象に、企業になくてはならない財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の内容を理解する為の入口として必要な技術と知識の習得をねらいとする。

メッセージ

簿記検定は、就職に有利な資格第１位（リクルートキャリア調べ）という記事があります（http://www.kentei.ne.jp/bookkeeping/usage）。本講義を機会に簿記の基礎知識を身に着けながら資格学習にも取り組んでみてはいかがでしょうか？実務でどのように資格が活かされるかもお伝えしたいと思います。

到達目標

前期・後期を通して、日商簿記検定3級レベルの基本的な技術と知識を身につけ問題を解くことができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション（簿記の学習方法と授業計画）	シラバス、配布資料をよく読む
2	簿記の基礎	配布資料やテキストを読む
3	商品売買・現金	配布資料やテキストを読む
4	現金・普通預金、定期預金、当座預金、当座借越	配布資料やテキストを読む
5	小口現金	配布資料やテキストを読む
6	手形と電子記録債権（債務）	配布資料やテキストを読む
7	貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金	配布資料やテキストを読む
8	その他の債権債務	配布資料やテキストを読む
9	中間試験	試験範囲の復習
10	その他の費用	配布資料やテキストを読む
11	貸倒れと貸倒引当金	配布資料やテキストを読む
12	有形固定資産と減価償却	配布資料やテキストを読む
13	株の発行、剰余金の配当と処分	配布資料やテキストを読む
14	法人税と消費税	配布資料やテキストを読む
15	費用・収益の前払い・前受けと未払い、訂正仕訳	配布資料やテキストを読む
16	期末試験	試験範囲の復習

テキスト・参考文献・資料など

テキスト:「スッキリわかるシリーズ スッキリわかる 日商簿記3級 第12版」 滝澤ななみ （著）
サブテキスト：「スッキリとける　日商簿記3級　過去＋予想問題集　2020年度」　滝澤ななみ（監修）

学びの手立て

履修の心構え：
遅刻や無断欠席をしないこと。やむを得ない事情で欠席する場合は事前に「欠席届」を提出すること。

学びを深めるために：
簿記３級合格を目標に講義中の演習問題を復習することと併せ、過去問や問題集を繰り返し解く。

評価

平常点３０％、中間試験３５％、期末試験３５％

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：「簿記原理Ⅱ」「環境経営」「環境会計」

※ポリシーとの関連性　専門職業人として活動するのに役立つ資格科目の提供。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 簿記原理Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木１	2
担当者 -上間　功	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	授業の前後に直接教室にて受け付けます。	

学びの準備

ねらい

簿記や会計の初心者を対象に、企業になくてはならない財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の内容を理解する為の入口として必要な技術と知識の習得をねらいとする。

メッセージ

簿記原理Ｉで学んだ個別論点を深め簿記の基礎を理解するとともに、実務経験を踏まえた内容を加えることで「活きる知識」を習得することを目標としています。「簿記って聞いたことはあるけど難しそう」というような少しでも興味がある方！一緒に簿記の楽しさを学んでみませんか？

到達目標

前期・後期を通して、日商簿記検定3級レベルの基本的な技術と知識を身につけ問題を解くことができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション（簿記の学習方法と授業計画）	シラバス、配布資料をよく読む
2	帳簿への記入１	個別取引を各種帳簿へ転記する
3	帳簿への記入２	同上
4	試算表１	各種帳簿を基に試算表を作成する
5	試算表２	同上
6	試算表３	同上
7	伝票と仕訳日計表１	伝票の起票の仕方を学ぶ
8	伝票と仕訳日計表２	伝票を基に仕訳を起票する
9	中間試験	試験対策をおこなう
10	精算表と財務諸表１	決算整理の手続きを学ぶ
11	精算表と財務諸表２	同上
12	精算表と財務諸表３	財務諸表作成の手続きを学ぶ
13	帳簿の締め切り１	帳簿の締め切り方を学ぶ
14	帳簿の締め切り２	繰越試算表作成の手続きを学ぶ
15	総合問題演習	問題演習の復習をする
16	期末試験	試験範囲の復習

テキスト・参考文献・資料など

テキスト:「スッキリわかるシリーズ スッキリわかる 日商簿記3級 第10版」 滝澤ななみ （著）
「スッキリとける　日商簿記3級　過去＋予想問題集　2019年度」　滝澤ななみ（監修）

学びの手立て

履修の心構え：
遅刻や無断欠席をしないこと。やむを得ない事情で欠席する場合は事前に「欠席届」を提出すること。

学びを深めるために：
簿記３級合格を目標に講義中の演習問題を復習することと併せ、過去問や問題集を繰り返し解く。

評価

平常点３０％、中間試験３５％、期末試験３５％

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：「環境経営」「環境会計」

※ポリシーとの関連性　マクロ経済学を通して地域の経済の仕組みを理解する.

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 マクロ経済学Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火４	2
担当者 渡久地　朝央	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

マクロ経済学は国単位での経済活動について論じる経済学の基礎科目の1つです．財政学や公共経済学，金融論など様々な分野に共通する基礎理論でもあり，現実の経済を理解する上でも必要な科目になります．授業ではマクロ経済学の基礎的な考えや分析方法をできるだけ簡易に解説していきます．

メッセージ

マクロ経済学を理解して，経済学に興味を持ってください．
授業は公務員専門試験の範囲と内容に準じます．
今期、状況に応じて対面またはteams及びyoutubeによるオンデマンド形式で授業を行う。

到達目標

・マクロ経済学初級と中級レベルまで理解する．

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	マクロ経済学の考え方（対）	授業ノートを参照
2	経済指標の見方－GDPとGDE（対）	授業内容を復習する
3	経済指標の見方－物価指数（対）	授業内容を復習する
4	国民所得の考え方－45度線モデル（対）	授業内容を復習する
5	消費と貯蓄－消費関数（対）	授業内容を復習する
6	消費と貯蓄－貯蓄関数（対）	授業内容を復習する
7	投資行動と投資関数（対）	授業内容を復習する
8	政府支出と政府の役割（対）	授業内容を復習する
9	貨幣市場と貨幣需要（対）	授業内容を復習する
10	貨幣市場と投資（対）	授業内容を復習する
11	貨幣市場と証券市場（対）	授業内容を復習する
12	IS-LM分析の基礎（対）	配布資料を参照
13	IS-LM分析と財政政策（対）	授業内容を復習する
14	IS-LM分析と金融政策（対）	授業内容を復習する
15	IS-LM分析の応用（対）	授業内容を復習する
16	試験（対）	試験内容を確認する

テキスト・参考文献・資料など

マンキュー『マクロ経済学Ⅰ』
辻正次，田岡文夫，吉本佳生『演習マクロ経済学』
伊藤元重『マクロ経済学』

学びの手立て

・必要なときに授業内容を振り返れるよう，授業ノートを作ることが望ましい．
・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい．

評価

・中間テスト（4割）と期末テスト（4割）の2回のテストを持って評価する．
・テスト欠席者はレポート（8割）提出で評価を行う．
・授業参加度は2割とする．

学びの継続

次のステージ・関連科目

・マクロ経済から経済学の基礎理論を学び，「財政学」，「公共経済学」や「金融論」の理解に役立て，経済動向についても考えて欲しい．

※ポリシーとの関連性　マクロ経済学を通して地域の経済の仕組みを理解する.

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	マクロ経済学Ⅱ	後期	火４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地　朝央	２年	t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

マクロ経済学は国単位での経済活動について論じる経済学の基礎科目の1つです．財政学や公共経済学，金融論など様々な分野に共通する基礎理論でもあり，現実の経済を理解する上でも必要な科目になります.
本授業はマクロ経済学Ｉの続きとなります.

メッセージ

マクロ経済学を理解して，経済学に興味を持ってください.
授業は公務員専門試験の範囲と内容に準じます.
今期、teams及びYouTubeによるオンデマンド形式で授業を行う。

到達目標

・マクロ経済学初級と中級レベルまで理解する.

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	物価の考え方－物価の変化（特）	授業ノートを参照
2	物価の考え方－失業率（特）	授業内容を復習する
3	AD-ASモデルの基礎（特）	配布資料を参照
4	AD-ASモデルの事例（特）	授業内容を復習する
5	インフレと失業（特）	授業内容を復習する
6	フィリップス曲線の考え方（特）	授業内容を復習する
7	国際マクロと為替－為替の基礎知識（特）	授業内容を復習する
8	国際マクロと為替－ワルラスの法則（特）	授業内容を復習する
9	マンデル・フレミングモデルの基礎（特）	配布資料を参照
10	マンデル・フレミングモデルの事例（特）	授業内容を復習する
11	ポリシー・ミックス（特）	授業内容を復習する
12	二国モデルと政策協調（特）	授業内容を復習する
13	マクロ・ダイナミクスーコブ・ダグラスモデル（特）	配布資料を参照
14	マクロ・ダイナミクスーソローモデル（特）	授業内容を復習する
15	経済成長理論（特）	授業内容を復習する
16	試験（特）	試験内容を確認する

テキスト・参考文献・資料など

マンキュー『マクロ経済学Ｉ』
辻正次，田岡文夫，吉本佳生『演習マクロ経済学』
伊藤元重『マクロ経済学』

学びの手立て

・必要なときに授業内容を振り返れるよう，授業ノートを作ることが望ましい.
・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい.

評価

・中間テスト（4割）と期末テスト（4割）の2回のテストを持って評価する.
・テスト欠席者はレポート（8割）提出で評価を行う.
・授業参加度は2割とする.

学びの継続

次のステージ・関連科目

授業ノートを参照

※ポリシーとの関連性　本講義では、我々が生きる社会の経済的な問題について考察する際の理論的な基礎となるミクロ経済学を学ぶことを目標とする。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 ミクロ経済学Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水２	2
担当者 -藤原　昌樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に教室で受付け、もしくはメール（ptt746@okiu.ac.jp）にて受付けます。	

学びの準備

ねらい

人々は経済活動なしには生活できない。経済活動の舞台となる市場のメカニズムを理解するためのツールがミクロ経済学である。
ミクロ経済学の基礎的な理論を理解することを目的とする。

メッセージ

レジュメを元に講義を行ないます。講義の予習・復習にレジュメを活用するようにしてください。また、講義に関連する書籍や論文等を随時紹介するので、これらの書籍や論文等にも目を通すことを推奨します。

到達目標

ミクロ経済学の基礎的な理論を理解することを目的とする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ミクロ経済学と経済生活	講義のレジュメを事前に読むこと
2	市場とは何か？　資源とは何か？　資源の希少性とは？	講義のレジュメを事前に読むこと
3	財とは何か？	講義のレジュメを事前に読むこと
4	価格とは何か？	講義のレジュメを事前に読むこと
5	時間と財の関係	講義のレジュメを事前に読むこと
6	リスクと財の関係	講義のレジュメを事前に読むこと
7	オークションとその仕組み	講義のレジュメを事前に読むこと
8	市場の失敗と市場の構築	講義のレジュメを事前に読むこと
9	需要の価格弾力性	講義のレジュメを事前に読むこと
10	消費者余剰	講義のレジュメを事前に読むこと
11	複数財の選択と無差別曲線	講義のレジュメを事前に読むこと
12	消費者の最適選択	講義のレジュメを事前に読むこと
13	所得の変化と需要の変化	講義のレジュメを事前に読むこと
14	代替効果と所得効果	講義のレジュメを事前に読むこと
15	貯蓄の決定	講義のレジュメを事前に読むこと
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

講義はレジュメを使用して行うので、特にテキストは指定しない。
ミクロ経済学のテキストは多数存在するので、講義内にてテキストを推薦する。

学びの手立て

講義で配布するレジュメを予習・復習に活用すること。
講義で学ぶ内容について、自宅学習用課題（全10回程度）を課すことを予定している。
課題に取り組むことにより、より理解を深めることができるものと期待する。
本講義ではMoodleを用いて資料及び課題の配布、提出物の回収を行うこととするので、受講者は必ずMoodleに登録することとする。

評価

学期末試験及び自宅学習用課題（全10回程度）の提出状況とその得点をもとに成績評価を行なうこととする。
但し、諸般の事情により学期末試験を実施できない場合は、自宅学習用課題の提出状況及びその得点のみをもとに成績評価を行なうこととする。
※　学期末試験を実施する場合（学期末試験40%　自宅学習用課題60%）
　　学期末試験を実施しない場合（自宅学習用課題100%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

ミクロ経済学Ⅰでは消費理論を中心に解説し、ミクロ経済学Ⅱでは供給理論を中心に取り上げる。

※ポリシーとの関連性　本講義では、我々が生きる社会の経済的な問題について考察する際の理論的な基礎となるミクロ経済学を学ぶことを目標とする。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 ミクロ経済学Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水２	2
担当者 -藤原　昌樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に教室で受付け、もしくはメール（ptt746@okiu.ac.jp）にて受付けます。	

学びの準備

ねらい

人々は経済活動なしには生活できない。経済活動の舞台となる市場のメカニズムを理解するためのツールがミクロ経済学である。
ミクロ経済学の基礎的な理論を理解することも目的とする。

メッセージ

レジュメを元に講義を行ないます。講義の予習・復習にレジュメを活用するようにしてください。また、講義に関連する書籍や論文等を随時紹介するので、これらの書籍や論文等にも目を通すことを推奨します。

到達目標

ミクロ経済学の基礎的な理論を理解することを目的とする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義の概要及び講義の進め方等に関するガイダンス	
2	消費の理論の復習	講義のレジュメを事前に読むこと
3	消費の理論の復習	講義のレジュメを事前に読むこと
4	消費の理論の復習	講義のレジュメを事前に読むこと
5	企業の行動と供給曲線	講義のレジュメを事前に読むこと
6	供給の価格弾力性	講義のレジュメを事前に読むこと
7	企業の販売意欲と生産者余剰	講義のレジュメを事前に読むこと
8	生産とは何か？	講義のレジュメを事前に読むこと
9	費用最小化	講義のレジュメを事前に読むこと
10	短期と長期	講義のレジュメを事前に読むこと
11	限界費用と限界費用曲線	講義のレジュメを事前に読むこと
12	平均費用と平均費用曲線	講義のレジュメを事前に読むこと
13	短期供給曲線と長期供給曲線	講義のレジュメを事前に読むこと
14	市場均衡とその望ましさ	講義のレジュメを事前に読むこと
15	外部効果の問題点と解決方法	講義のレジュメを事前に読むこと
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

講義はレジュメを使用して行うので、特にテキストは指定しない。
ミクロ経済学のテキストは多数存在するので、講義内にてテキストを推薦する。

学びの手立て

講義で配布するレジュメを予習・復習に活用すること。
講義で学ぶ内容について、自宅学習用課題（全10回程度）を課すことを予定している。
課題に取り組むことにより、より理解を深めることができるものと期待する。
本講義ではMoodleを用いて資料及び課題の配布、提出物の回収を行うこととするので、受講者は必ずMoodleに登録することとする。

評価

学期末試験及び自宅学習用課題（全10回程度）の提出状況とその得点をもとに成績評価を行なうこととする。
但し、諸般の事情により学期末試験を実施できない場合は、自宅学習用課題の提出状況及びその得点のみをもとに成績評価を行なうこととする。
※　学期末試験を実施する場合（学期末試験40%　自宅学習用課題60%）
　　学期末試験を実施しない場合（自宅学習用課題100%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

ミクロ経済学Ⅰでは消費理論を中心に解説し、ミクロ経済学Ⅱでは供給理論を中心に取り上げる。

※ポリシーとの関連性　地域経済・沖縄経済に関する基本情報の収集、分析、解析手法を琉球・沖縄経済史を通して学びます。

[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 琉球・沖縄経済史Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木３	2
担当者 前泊　博盛	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	※遠隔講義。オンラインライブ配信とオンデマンド配信で受講。hmaedomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

琉球王国時代の経済から薩摩の琉球入り、琉球処分による琉球王国の廃止と明治政府下の沖縄経済に関する分析を行います。『沖縄県史（近代編）』などを参考文献として、基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておくと、講義・学習の理解が一層深まります。

メッセージ

※遠隔講義。オンラインライブ配信とオンデマンド配信で受講。講義受講後にGoogleフォームに回答返信で出席確認します。必ず返信してください。琉球王国時代の経済の特徴、薩摩支配による経済の変化、琉球処分後の経済振興策、米軍統治下の基地経済、復帰後の沖縄振興策を検証することで、沖縄経済の課題と展望を概観します。遠隔講義対応のパソコン、Wi-Fi環境の整備を。

到達目標

１：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。
２：基本データの分析・解析手法を習得します。
３：課題の抽出方法を習得します。
４：課題解決法を調査・研究する力を習得します。
５：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（特）琉球経済史の概要（ガイタンス）	琉球史のまとめ
2	（特）琉球王国経済の特徴（後進性、零細性、従属性）	琉球王国の特徴
3	（特）近世沖縄の経済構造（産業、労働、金融、交易、生活を整理）	琉球王国経済のしくみを学ぶ
4	（特）首里王府の経済・財政構造（琉球王国の経済を分析）	首里王府の税収、公共事業は？
5	（特）「薩摩の琉球侵攻」による王府経済の変貌（薩摩が琉球経済に与えた影響）	大交易時代の貿易規模は？
6	（特）「大交易時代」と琉球経済（進貢貿易と東南アジア交易の中身を検証）	琉球処分は何をもたらしたか？
7	（特）「琉球処分」による日本統治移行と明治期の沖縄経済	明治政府の中の「沖縄」の位置
8	（特）明治政府の沖縄振興政策　※ゲスト講師による「グスク時代の沖縄経済」	明治政府の沖縄「振興策」とは？
9	（特）旧慣制度下の農村経済の構造	旧慣温存策はなぜ必要だったか？
10	（特）商品経済の進展と「資本主義」生産様式の形成	資本主義とは？
11	（特）沖縄経済の近代化　（経済の近代化と現代化）	経済の「近代化」とは何か。
12	（特）農林水産業の近代化　（農業生産性の向上はなぜ遅れたか）	農林水産業の「近代化」とは？
13	（特）第一次世界大戦と沖縄経済　（戦時経済の影響）	戦争経済は沖縄に何を与えたか？
14	（特）昭和恐慌と「ソテツ地獄」（ソテツ地獄は本当にあったのか）	ソテツ地獄とは？
15	（特）沖縄振興計画と戦時統制経済	戦時統制経済下の沖縄の特徴は？
16	（特）琉球経済史のまとめ　※ゲスト講師による遠隔講義（沖縄県首脳）	温故知新。琉球に学ぶ沖縄の未来像

テキスト・参考文献・資料など

沖縄県発行『沖縄県史（近代編）』、向井清史著『沖縄近代経済史』（日本経済評論社）ほか

学びの手立て

琉球・沖縄史を整理し、琉球王国時代を経済の視点から再検証する。唐の世から大和の世、大和の世からアメリカ世、アメリカ世から再び大和の世へと変化する琉球・沖縄の歴史の変遷を経済史として再整理する。

評価

変化する時代を経済の視点から読み解き、課題と展望をまとめる。リアクションpaperと温故知新の実践をもとに書かれたReportで評価。評価は平常点（リアクションペーパー）60%、中間リポート20%、期末試験20%.

学びの継続

次のステージ・関連科目

琉球経済史と沖縄経済史を通年で受講するのが望ましい。大学院地域産業研究科「沖縄経済特論」「沖縄経済特殊研究ⅠⅡ」への進学も期待したい。

※ポリシーとの関連性　地域経済・沖縄経済に関する基本情報の収集、分析、解析手法を琉球・沖縄経済史を通して学びます。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	琉球・沖縄経済史Ⅱ	後期	木３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊　博盛	２年	※遠隔講義。オンラインライブ配信とオンデマンド配信で受講。hmaedomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢』、沖縄振興開発金融公庫発行『沖縄経済ハンドブック』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておくと、講義・学習の理解が一層深まります。

メッセージ

※遠隔講義。オンラインライブ配信とオンデマンド配信で受講。講義受講後にGoogleフォームに回答返信で出席確認します。必ず返信してください。遠隔講義に対応できるパソコンとWi-Fi環境を整えて下さい。Ⅱでは戦後沖縄経済の動きを、米軍統治下、本土復帰後、21世紀に分けて検証します。基地依存経済から観光依存、公共工事依存の３K依存から新10経済への動きを分析します。

到達目標

１：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。
２：基本データの分析・解析手法を習得します。
３：課題の抽出方法を習得します。
４：課題解決法を調査・研究する力を習得します。
５：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（特）琉球・沖縄経済史Ⅱの概要（ガイタンス）遠隔講義Teamsへの対応と注意	戦後沖縄経済史の整理
2	（特）戦後沖縄経済の概観＝「琉球」から「沖縄」へ（政治制度の変化と沖縄経済）	琉球王国から沖縄県への変化
3	（特）沖縄戦と沖縄経済（戦争が破壊した経済の検証）	戦争による経済破壊の検証
4	（特）米軍基地建設と地域経済	米軍基地経済の生成過程
5	（特）米軍統治下の沖縄経済（戦後復興と米軍）	米軍統治下の統制経済とは。
6	（特）戦後の「沖縄振興計画」の検証	米国は「沖縄」に何を求めたか。
7	（特）講和条約と基地依存経済（「土地収用令」と「島ぐるみ闘争」）	土地の収奪と産業構造の変化
8	（特）米軍統治下の「通貨政策」（B円からドル経済へ）	通貨政策は経済をどう変えたか。
9	（特）施政権の日本移管（「日本復帰」）と沖縄経済	米軍統治と日本統治の違いは？
10	（特）日本政府による沖縄「復帰プログラム」の検証	「復帰」は経済をどう変えたか。
11	（特）「沖縄振興開発計画」と沖縄経済（復帰後３０年の課題と展望）	開発庁方式の検証と主役なき経済
12	（特）「沖縄振興計画」と沖縄経済（第四次振興計画の狙いと展望）	開発なき振興政策とは？
13	（特）「沖縄２１世紀ビジョン」と沖縄経済（自立経済から自律経済へ）	２１世紀ビジョンは何を目指すか。
14	（特）アジア経済戦略構想の経済効果	アジアの中の沖縄経済の役割は？
15	（特）政府の沖縄振興策の検証（3K依存経済から新１０K経済へ）	３Kと新１０Kの中身を検証
16	（特）戦後沖縄経済史の総括	沖縄経済史のまとめ

テキスト・参考文献・資料など

琉球銀行調査部編『戦後沖縄経済史』（琉球銀行）、松田賀孝著『戦後沖縄社会経済史』（東京大学出版会）、川瀬光義著『基地と財政』（自治体研究社）安里昌利著『未来経済都市沖縄』（日本経済新聞出版）　来間泰男著『沖縄経済の幻想と現実』（日本経済評論社）

学びの手立て

琉球・沖縄史を整理し、琉球王国時代を経済の視点から再検証する。唐の世から大和の世、大和の世からアメリカ世、アメリカ世から再び大和の世へと変化する琉球・沖縄の歴史の変遷を経済史として再整理する。

評価

変化する時代を経済の視点から読み解き、課題と展望をまとめる。リアクションpaperと温故知新の実践をもとに書かれたReportで評価。評価は平常点（リアクションペーパー）60%、中間リポート20%、期末試験20%。遠隔講義の「Googleフォーム返信」で出席確認。

学びの継続

次のステージ・関連科目

琉球沖縄経済史ⅠⅡ（前期は近代、後期は現代経済史）を通年で受講するのが望ましい。大学院地域産業研究科への進学で「沖縄経済特論」「沖縄経済特殊研究ⅠⅡ」の受講につなげたい。